

熊本県文化財調査報告第 296 集

瀬田狐塚遺跡

2014.3

熊本県教育委員会

瀬田狐塚遺跡



2014.3

熊本県教育委員会



1. 瀨田狐塚遺跡 遠景



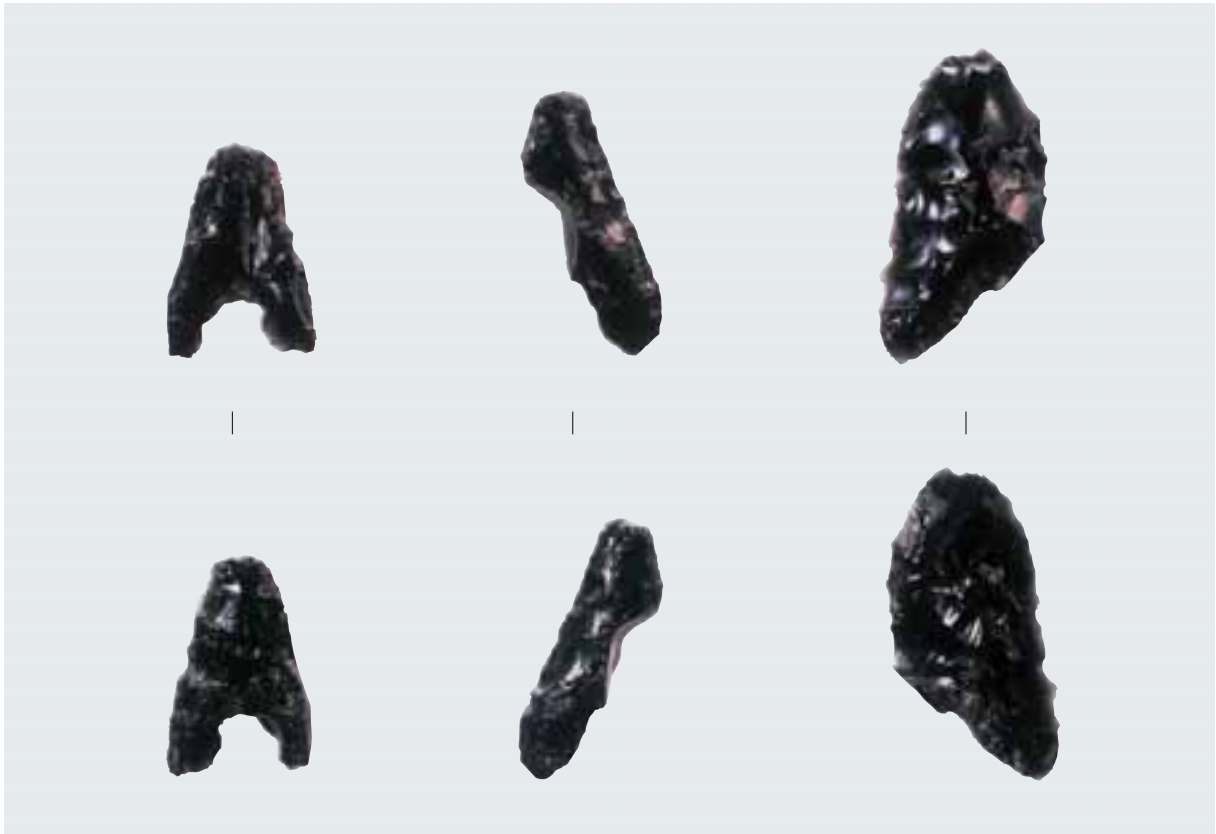
2. 瀬田狐塚遺跡調査区 全景



3. 繩文土器(早期)



4. 繩文土器(無文尖底)



5. トロトロ石器



6. 楔形石器・台形石器・搔器・尖頭状石器



7. 石 鏃

序 文

熊本県教育委員会では、平成 22 年度に国土交通省立野ダム工事事務所による立野ダム建設に係る関連事業に伴い、予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

今回、発掘調査を実施した瀬田狐塚遺跡は、熊本県菊池郡大津町瀬田字狐塚に所在し、阿蘇外輪山西部の立野火口瀬から流れる白川右岸に面した丘陵上に立地しています。この丘陵地は、北側に広がる瀬田裏原野（標高約 630m）から連なり、丘陵地の南端は急崖となり白川に至る地形的特徴を有しています。

調査の結果、縄文時代早期に属する礫群・集石と土坑・炉跡が層位的に時期差をもって検出されました。これら 2 つの時期に伴う土器や石器類から、東九州と中・西北九州との文化的要素が混在する形で認められ、当該期の土器編年及び地域性のあり方を考えるうえで貴重な資料を提出し、大変重要な成果をあげることができました。

本書が学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助としてご活用いただければ幸いです。

最後に、埋蔵文化財発掘調査の円滑な実施にご理解、ご協力をいただきました地元の方々をはじめ、事業主体である国土交通省立野ダム工事事務所に対し心より感謝申し上げます。

平成 26 年 3 月 31 日

熊本県教育長 田 崎 龍 一

例 言

- 1 本書は、熊本県菊池郡大津町瀬田に所在する瀬田狐塚遺跡の調査報告書である。
- 2 調査は立野ダム建設事業に伴う事前発掘調査として、国土交通省から依頼を受けて平成 22 年度に熊本県教育庁文化課が実施した。
- 3 遺構の写真撮影は、調査担当者が行った。
- 4 遺構の実測は調査担当者が行い、一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 5 遺物の整理は、熊本県文化財資料室で行った。
- 6 遺物の実測及び製図は、土器・石器類を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに、石器類のうち磨石・敲石、石皿を株式会社イビソクに委託した。
- 7 遺物分布図の作成は、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 8 遺構の製図は、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 9 遺物の写真撮影は、村田百合子が行った。
- 10 本書の執筆、編集は村崎、水上が担当し、戸田、前田、築出、藤本が補助した。
- 11 本書に掲載した資料は、熊本県文化財資料室で保管している。

凡 例

- 1 本書で使用している方位は、座標軸を基準とした北を示している。
- 2 報告書に掲載した実測図の縮尺は、集石遺構 S=1/20、土坑及び焼成土坑は S=1/40 である。
- 3 土層及び土器類の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」（財団法人日本色彩研究所；2004）に準拠した。
- 4 写真の縮尺は任意である。
- 5 遺物の実測は一部を除き原則として原寸大で行い、報告書に掲載した実測図の縮尺は挿図ごとにスケールを示した。
- 6 遺構の種別については、一部を除いて発掘調査時に判断し略号を付した。

本文目次

序文	
例言・凡例	
第I章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯及び調査の組織	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の組織	1
第2節 調査の方法と経過	3
1 予備調査 [平成14年度]	3
2 本調査 [平成22年度]	10
3 整理作業 [平成24, 25年度]	15
第II章 遺跡の位置と環境	17
第1節 遺跡の概要	17
1 地理的環境	17
2 歴史的環境	17
第2節 遺跡の層位と包含層	18
第III章 縄文時代早期の調査成果	23
第1節 遺構とその分布	23
1 礫群	23
2 集石	23
3 土坑	31
4 炉穴	36
5 その他の遺構	38
第2節 3a層出土の土器・石器	44
1 土器について	44
2 石器について	44
第3節 3b層出土の土器・石器	52
1 土器について	52
2 石器について	52
第4節 4a層出土の土器・石器	59
1 土器について	59
2 石器について	59
第5節 まとめ	80
第IV章 総括	95
参考文献	
写真図版	
抄録	

挿図目次

第 1 図 周辺位置図 (1/12,500)	第 29 図 3a 層出土遺物実測図 (1/3)
第 2 図 原石山・土捨場及び道路予定地試掘調査	第 30 図 瀬田狐塚遺跡 3a 層石器 (1/400)
第 3 図 第 2 次原石山試掘調査 トレンチ柱状図 - ①	第 31 図 3a 層出土石器実測図 (1/1) - ①
第 4 図 第 2 次原石山試掘調査 トレンチ柱状図 - ②	第 32 図 3a 層出土石器実測図 (1/1) - ②
第 5 図 第 2 次原石山試掘調査 トレンチ柱状図 - ③	第 33 図 3a 層出土石器実測図 (1/4) - ③
第 6 図 第 2 次原石山試掘調査 トレンチ柱状図 - ④	第 34 図 瀬田狐塚遺跡 3b 層土器 (1/400)
第 7 図 基本土層図	第 35 図 3b 層出土遺物実測図 (1/3)
第 8 図 瀬田狐塚遺跡周辺分布図 (1/25,000)	第 36 図 瀬田狐塚遺跡 3b 層石器 (1/400)
第 9 図 瀬田狐塚遺跡遺構配置図及び集石分布図 (1/200)	第 37 図 3b 層出土石器実測図 - ①
第 10 図 SY01・02・03・05・06 実測図 (1/20)	第 38 図 3b 層出土石器実測図 - ②
第 11 図 SY04・08・11・13 実測図 (1/20)	第 39 図 3b 層出土石器実測図 (1/1・1/4) - ③
第 12 図 SY12・14・15 実測図 (1/20)	第 40 図 4a 層土器・石器分布図 (1/300)
第 13 図 SY16・17・18 実測図 (1/20)	第 41 図 瀬田狐塚遺跡 4a 層土器 (1/400)
第 14 図 SY19・20・21・22 実測図 (1/20)	第 42 図 4a 層出土遺物実測図 (1/3) - ①
第 15 図 SK01・02・03・04・SP04・05 実測図 (1/40)	第 43 図 4a 層出土遺物実測図 (1/3) - ②
第 16 図 SK05・06 実測図 (1/40)	第 44 図 4a 層出土遺物実測図 (1/3・1/4) - ③
第 17 図 SK07・08・09 実測図 (1/40)	第 45 図 4a 層出土遺物実測図 (1/3・1/4) - ④
第 18 図 SK10・13・16 実測図 (1/40)	第 46 図 瀬田狐塚遺跡 4a 層石器 (1/400)
第 19 図 SK12・14・15 実測図 (1/40)	第 47 図 4a 層出土石器実測図 (1/1) - ①
第 20 図 SK11・17・18 実測図 (1/40)	第 48 図 4a 層出土石器実測図 (1/1) - ②
第 21 図 SY04・16 出土石器実測図 (1/4)	第 49 図 4a 層出土石器実測図 (1/1) - ③
第 22 図 SY16・20・21 出土石器実測図 (1/4)	第 50 図 4a 層出土石器実測図 (1/1) - ④
第 23 図 SK01・02・03・05・SP02 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	第 51 図 4a 層出土石器実測図 (1/1) - ⑤
第 24 図 SK02・05・06・08・10・12 出土石器実測図 (1/1)	第 52 図 4a 層出土石器実測図 (1/4) - ⑥
第 25 図 SK01・05・08・10 出土石器実測図 (1/4・1/8)	第 53 図 4a 層出土石器実測図 (1/4) - ⑦
第 26 図 瀬田狐塚遺跡 遺物全点上げ分布図 (1/400)	第 54 図 4a 層出土石器実測図 (1/4) - ⑧
第 27 図 3a・3b 層土器・石器分布図 (1/300)	第 55 図 4a 層出土石器実測図 (1/4) - ⑨
第 28 図 瀬田狐塚遺跡 3a 層土器 (1/400)	第 56 図 4a 層出土石器実測図 (1/4) - ⑩
	第 57 図 4a 層出土石器実測図 (1/4) - ⑪
	第 58 図 調査区内出土遺物実測図 (1/3)
	第 59 図 調査区内出土石器実測図 (1/1・1/4)
	第 60 図 縄文土器文様の割合
	第 61 図 押型文土器の文様の割合

表目次

表 1 立野ダム建設関連事業原石山工事に係る試掘・確認調査結果トレンチ一覧表	表 2 周辺遺跡地名表
	表 3 石器集計表

表 4 土器観察表 - ①
 表 5 土器観察表 - ②
 表 6 土器観察表 - ③
 表 7 石器観察表 - ①
 表 8 石器観察表 - ②
 表 9 石器観察表 - ③

表 10 石器観察表 - ④
 表 11 石器観察表 - ⑤
 表 12 石器観察表 - ⑥
 表 13 石器観察表 - ⑦
 表 14 瀬田狐塚遺跡縄文土器文様分類表

図版目次

1. 瀬田狐塚遺跡遠景	SY17 炭化物出土状況 東より
2. 瀬田狐塚遺跡調査区全景	SY17 検出状況 北より
3. 縄文時代早期土器	SY17・18 土層断面 北東より
4. 縄文時代早期土器（無文尖底）	図版 6 SY18 検出状況 北東より
5. トロトロ石器	SY19 検出状況 西より
6. 楔形石器・台形石器・搔器・尖頭状石器	SY20 土層断面 東より
7. 石鏃	SY20 完掘状況 西より
図版 1 南区 礫群出土状況 北西より	SY21 土層断面 北より
南区 礫群出土状況 西より	SY21 出土状況 東より
図版 2 北区 3a層遺物出土状況 北より	SY22 土層断面 北より
北区 3a層遺物出土状況 南より	SK01 完掘状況 東より
図版 3 南区 礫群出土状況 北西より	図版 7 SK01 半裁状況 北より
南区 A-8・B-8グリッド 遺物出土 東より	SK02 杭跡検出状況 北東より
南区 B、C-10,11グリッド 礫群出土状況	SK02 完掘状況 東より
北東より	SK03 土層断面 北西より
北区 3a層遺物出土状況 南より	SK03 杭跡検出状況 北東より
南区 遺物出土状況 北より	SK04 土層断面 北西より
北区 3a層遺物出土状況 北より	SK05 土層断面 東より
SY01 土層断面 北より	SK05 土層断面 北より
図版 4 SY02 土層断面 東より	図版 8 SK05 焼土範囲 東より
SY03 土層断面 北東より	SK05 燃焼部 東より
SY05 土層断面 南より	SK05 炭化物出土状況 西より
SY06・07・11 検出状況 北東より	SK05 完掘状況 東より
SY08 土層断面 東より	SK06 燃焼部出土状況 東より
SY09・10 検出状況 東より	SK06 完掘状況 東より
SY12 板石外した状況	SK07 石器出土状況 北より
SY12 板石出土状況 南東より	SK07 焼土出土状況 南より
図版 5 SY12 土層断面 北より	図版 9 SK07 完掘状況 東より
SY13 土層断面 北西より	SK07・08 土層断面 北より
SY14 土層断面 南西より	SK08 土層断面 南東より
SY15 土層断面 北東より	SK08 板石出土状況 北より
SY16 出土状況 東より	SK08 完掘状況 北より

- SK09 土層断面 南より
SK09 焼土範囲 南東より
- 図版 10 SK10 燃焼部出土状況 北西より
SK10 土層断面 北より
SK11 土層断面 南より
SK11 焼土貫入状況 北より
SK11 焼土出土状況 西より
SK11 完掘状況 北東より
- 図版 11 SK12 土層断面 南西より
SK12 焼土出土状況 西より
SK12 完掘状況 西より
SK13 土層断面 東より
SK13 完掘状況 南より
SK13・16 土層断面 北より
SK10・13・16 完掘状況 北より
- 図版 12 SK14 土層断面 北より
SK14 完掘状況 北より
SK15 土層断面 西より
SK15 完掘状況 東より
SK17 完掘状況 西より
SK18 焼土範囲 西より
SK18 完掘状況 西より
SK22 出土状況 南西より
- 図版 13 縄文時代早期土器 SK05(No.6) 4a層(No.88,89)
- 図版 14 縄文時代早期土器 SK01(No.1,2) SK02(No.3,4) SK03(No.7) SK05(No.5) SPO2(No.8,9)
- 図版 15 縄文時代早期土器 (3a層)
- 図版 16 縄文時代早期土器 (3b層)
- 図版 17 縄文時代早期土器 (4a層)
- 図版 18 縄文時代早期土器 (4a層)
- 図版 19 縄文時代早期土器 (4a層)
調査区内出土遺物
- 図版 20 石鏃
- 図版 21 二次加工ある剥片
- 図版 22 使用痕ある剥片・剥片
- 図版 23 楔形石器・台形石器・搔器・尖頭状石器
SK02(No.15) SK05(No.16,20) SK06(No.19)
SK08(No.21) SK10(No.18) SK12(No.17)
石核
- 図版 24 SK01(No.22) SK05(No.23,24,25) SK08
(No.27) SK10(No.26) SY04(No.1) SY16(No.
2,3,4,5,6,7) SY20(No.8,9) SY21(No.10,11,
12,13,14)
石器(3a・3b層)
調査区内出土石器
- 図版 25 石器(4a層)

第I章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯及び調査の組織

1 調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査は、国土交通省立野ダム工事事務所による立野ダム建設に伴う工事用道路建設関連事業である。ダム建設事業には、本体工事と合わせて原石山、土捨場、工事用道路等の工事計画が示された。着工に先立って、平成9年度から事業予定地内において踏査を行い、埋蔵文化財の存在する可能性が高い部分については試掘・確認調査を実施した。当該地区の試掘調査は平成14年12月～平成15年2月にかけて延べ10日間にわたって実施した。その結果、後期旧石器時代から中世にかけての遺構や遺物が確認され、埋蔵文化財発掘調査が必要な範囲について国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所長宛通知（平成15年3月13日付け教文第3044号）し、協議を行ったうえで工事の進捗に合わせて発掘調査を実施することとした。平成13年度に河陽F遺跡を、平成15年度～平成18年度に瀬田池ノ原遺跡、平成22年度に瀬田狐塚遺跡において発掘調査を実施した。

2 調査の組織

【平成14年度・予備調査】

発掘調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 成瀬烈大（文化課長）、島津義昭（教育審議員兼課長補佐）
 調査総括 高木正文（主幹兼文化財調査第1係長）
 調査事務 小田信也（教育審議員兼課長補佐）、中村幸宏（主幹兼総務係長）、天野寿久（主任主事）
 杉村輝彦（主事）
 調査担当 坂田和弘（参事）、岡本真也（参事）、角田賢治（文化財保護主事）、阿南麻衣（嘱託）

【平成22年度・本調査】

発掘調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 小田信也（文化課長）、木崎康弘（課長補佐）
 調査総括 村崎孝宏（文化財調査第1係長）
 調査事務 宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）、元島茂（課長補佐兼総務係担当）、山田京子（参事）、
 松島英樹（主任主事）
 調査担当 水上正孝（文化財保護主事）、横矢晋二郎、木下勇（嘱託）

【平成24年度・整理作業】

発掘調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 小田信也（文化課長）、西住欣一郎（課長補佐）
 調査総括 村崎孝宏（文化財調査第1係長）
 調査事務 中津幸三（課長補佐兼総務・助成班担当）、松尾康延（参事）、稲本尚子（参事）
 天草英子（主任主事）
 整理担当 村崎孝宏（文化財調査第1係長）、水上正孝（文化財保護主事）
 戸田紀美子、前田佳代子、築出直美（嘱託）

【平成25年度・調査報告書作成】

発掘調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 小田信也（文化課長）、西住欣一郎（課長補佐）
 調査総括 村崎孝宏（主幹兼文化財調査第1係長）



第1図 周辺位置図 (1:12,500)

調査事務	広石啓哉（主幹兼総務・文化係長）、松尾康延（参事）、有馬綾子（参事） 天草英子（主任主事）
整理担当	村崎孝宏（主幹兼文化財調査第1係長）、水上正孝（文化財保護主事） 戸田紀美子、前田佳代子（嘱託）

第2節 調査の方法と経過

1 予備調査 [平成14年度]

(1) 立野ダム関連事業土捨場及び道路に係る調査

立野ダム建設関連事業原石山工事に係る試掘・確認調査は、平成12年度、14年度、15年度、16年度、18年度に117箇所のトレンチにより埋蔵文化財の有無について確認を行った。土捨場及び工事用道路建設予定地については、平成14年11月20日付け国九整立調設第25号で予備調査の依頼を受け、平成14年12月19日、25日、平成15年1月8日、15日、22日、30日、2月6日、12日、19日、25日の10日間で29箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行いその後調査担当者がトレンチに入り遺構・遺物の有無を確認し、結果について平成15年3月13日付け教文第3044号で国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所長宛通知した。

(2) 調査結果

遺物が出土したトレンチは5～9、11、12、14、17、19、20、25、26、28トレンチであるが、5～7及び19、20トレンチは攪乱層や流れ込みの遺物である。一方、遺構が確認されたトレンチは14、17、26トレンチである。道路建設予定地（瀬田狐塚遺跡）約300㎡で縄文時代早期が、土捨場予定地約1500㎡で縄文時代後～晩期の遺構・遺物が確認された。計画どおり工事を実施する場合は本調査が必要である。

(3) 基本土層と埋蔵文化財の確認状況

調査地の基本土層は以下のとおりであるが、場所により異なる層が確認された場合はトレンチ一覧表に記載している。なお、今回、発掘調査を実施した瀬田狐塚遺跡はNo.25～28トレンチが該当する。

- ① 表土（耕作土）腐葉土を含む
- ①' 攪乱土
- ② 黒ボク土（きめが細かくフカフカした黒褐色土）
- ③ アカホヤ火山灰（火山ガラスを含む暗褐色土）
- ④ 暗褐色土（アカホヤ火山灰と黒ニガ層との漸移層で硬くしまる）
- ⑤ 黒ニガ層（硬くしまる黒色土）
- ⑥ ローム層①（軟らかく粘性のあるローム）
- ⑦ ローム層②（かなり硬くしまるローム）
- ⑧ 暗色帯①（きめが細かい暗褐色土で火山ガラスを少し含む）
- ⑨ 暗褐色土（火山ガラスを多量に含む。A T（始良丹沢火山灰））
- ⑩ 暗色帯②（硬くしまる黒褐色土）
- ⑪ 赤褐色土（パミスを多く含む。A s o - K（阿蘇草千里ヶ浜パミス））
- ⑫ 暗色帯③（やや硬くしまる暗褐色土）
- ⑬ ローム層（柔らかい粘質土）

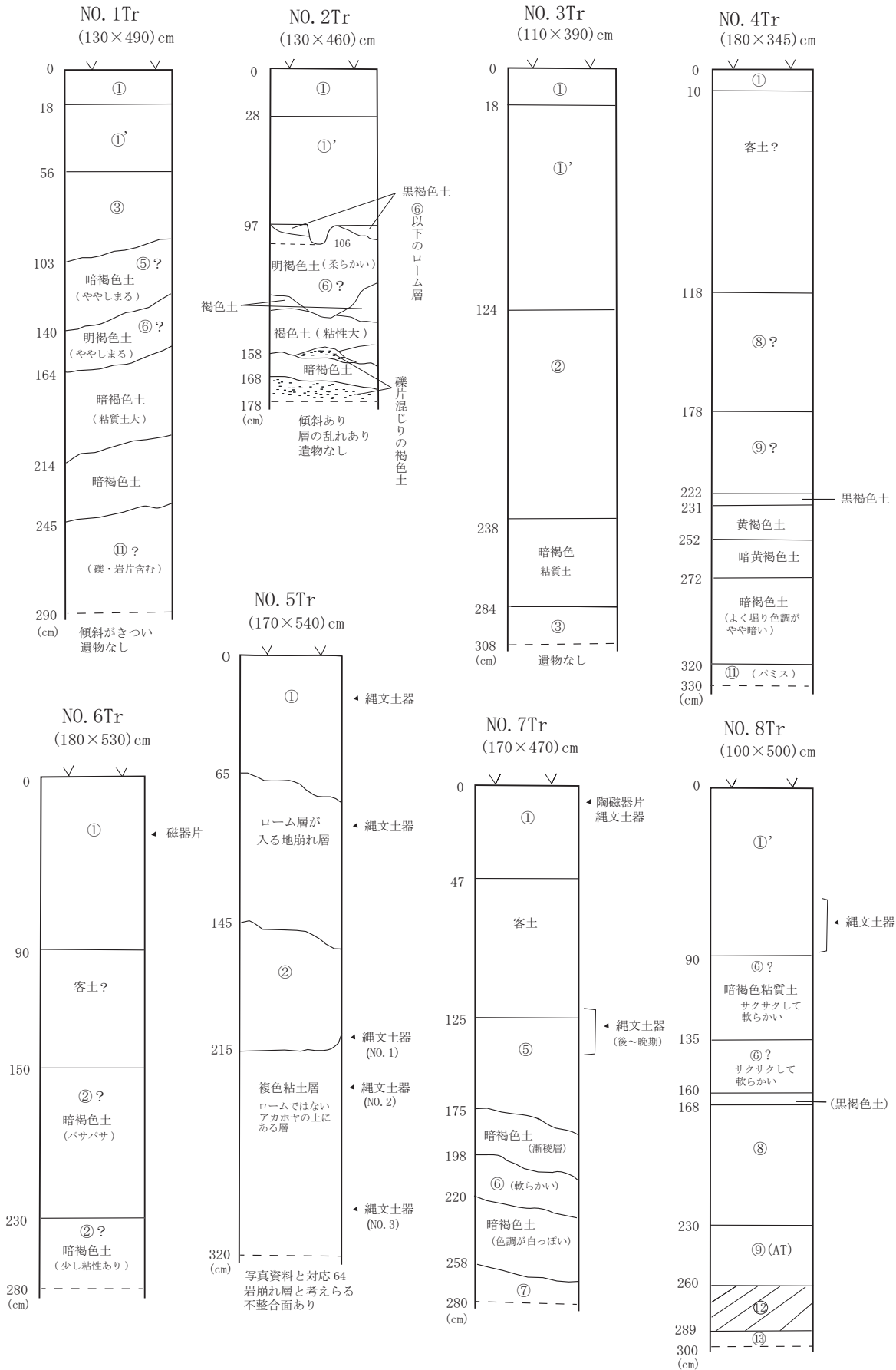


第2図 原石山・土捨場及び道路予定地試掘調査

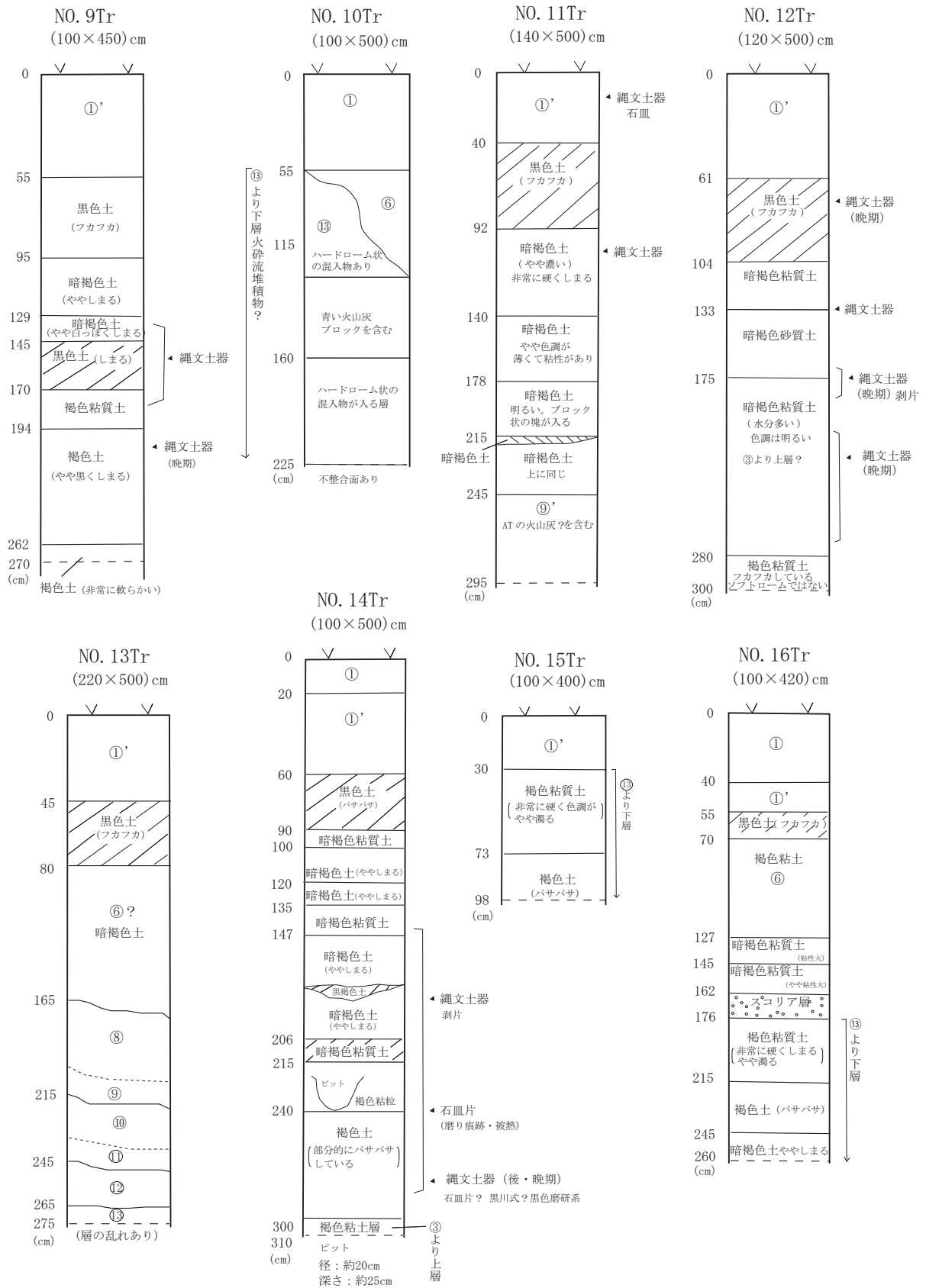
表1 立野ダム建設関連事業原石山工事に係る試掘・確認調査結果トレンチ一覧表

トレンチ	規模 (幅×長さ×深度) 単位：cm	遺物・遺構 の有無	遺物・遺構の確認面 までの深さ (cm)	遺物・遺構の内容		遺跡名
				遺物	遺構	
1	130 × 490 × 290	×				
2	130 × 460 × 178	×				
3	110 × 390 × 308	×				
4	170 × 430 × 390	×				
5	170 × 540 × 320	○	60, 100, 208, 232, 290	縄文土器 (晩期)		
6	180 × 530 × 280	○				
7	170 × 470 × 280	○				
8	100 × 500 × 300	○				
9	100 × 450 × 270	○				
10	170 × 500 × 225	×				
11	140 × 500 × 295	○				
12	120 × 500 × 300	○				
13	220 × 500 × 275	×				
14	100 × 500 × 310	○	145 ~ 280 220	縄文土器 (晩期) 石皿、剥片	pit 1	
15	100 × 400 × 98	×				
16	100 × 420 × 260	×				
17	100 × 550 × 260	○	190 ~ 260 90, 180	縄文土器 剥片	pit 2	
18	100 × 500 × 260	×				
19	100 × 500 × 260	○	140 ~ 170	縄文土器 (晩期)		
20	100 × 600 × 390	○	100(攪乱)	縄文土器		
21	100 × 410 × 250	×				
22	100 × 370 × 260	×				
23	100 × 470 × 335	×				
24	100 × 500 × 315	×				
25	100 × 230 × 40	○	13 ~ 130	縄文土器 (押型文、 条痕文、無 紋)、石鏃 など		瀬田狐塚
26	100 × 260 × 245	○	30		集石 1	
27	100 × 270 × 230	×				
28	100 × 270 × 230	○	20	縄文土器 (晩期)		
29	100 × 350 × 440	×				

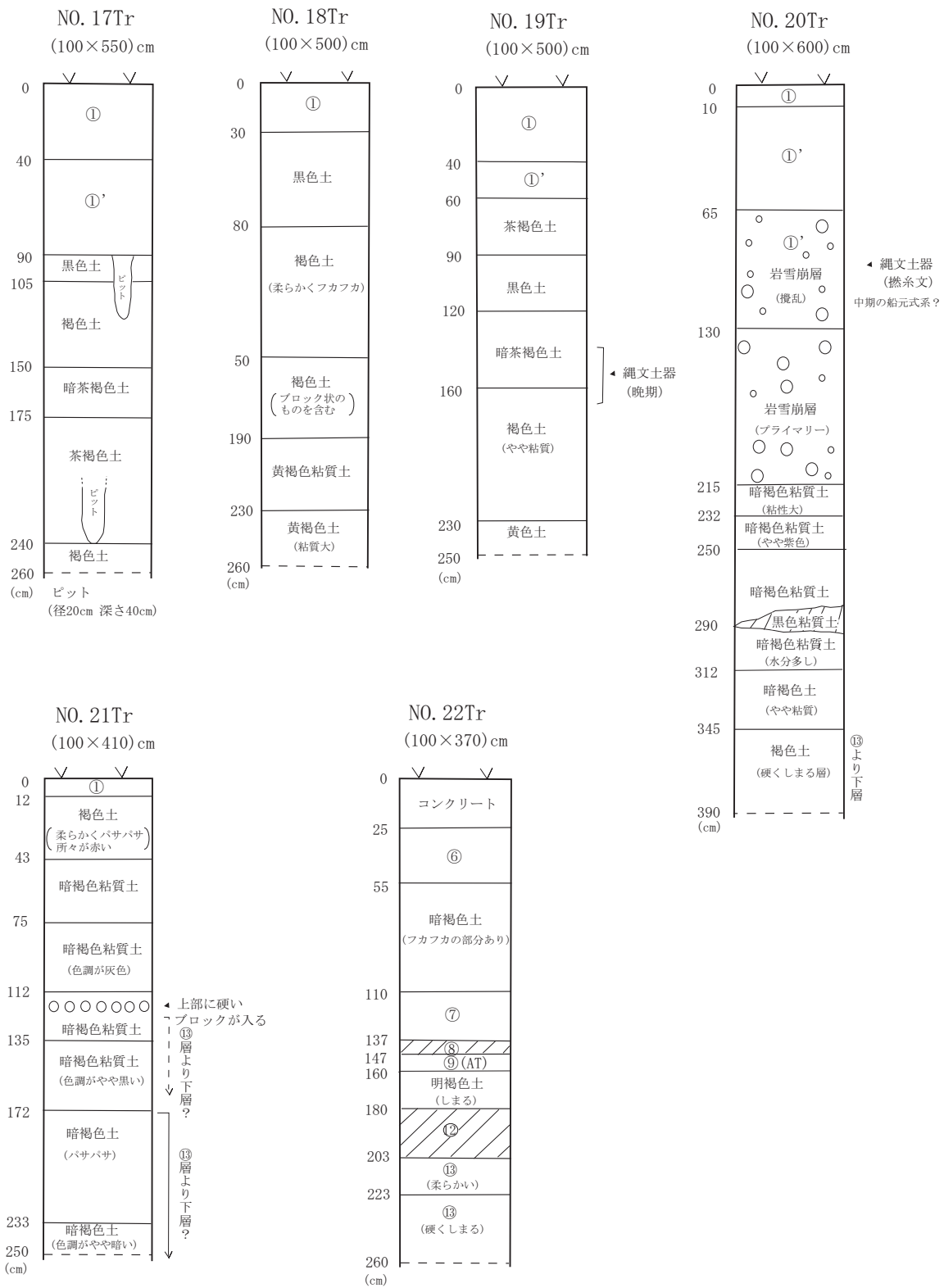
第3図 第2次原石山試掘調査トレンチ柱状図-①



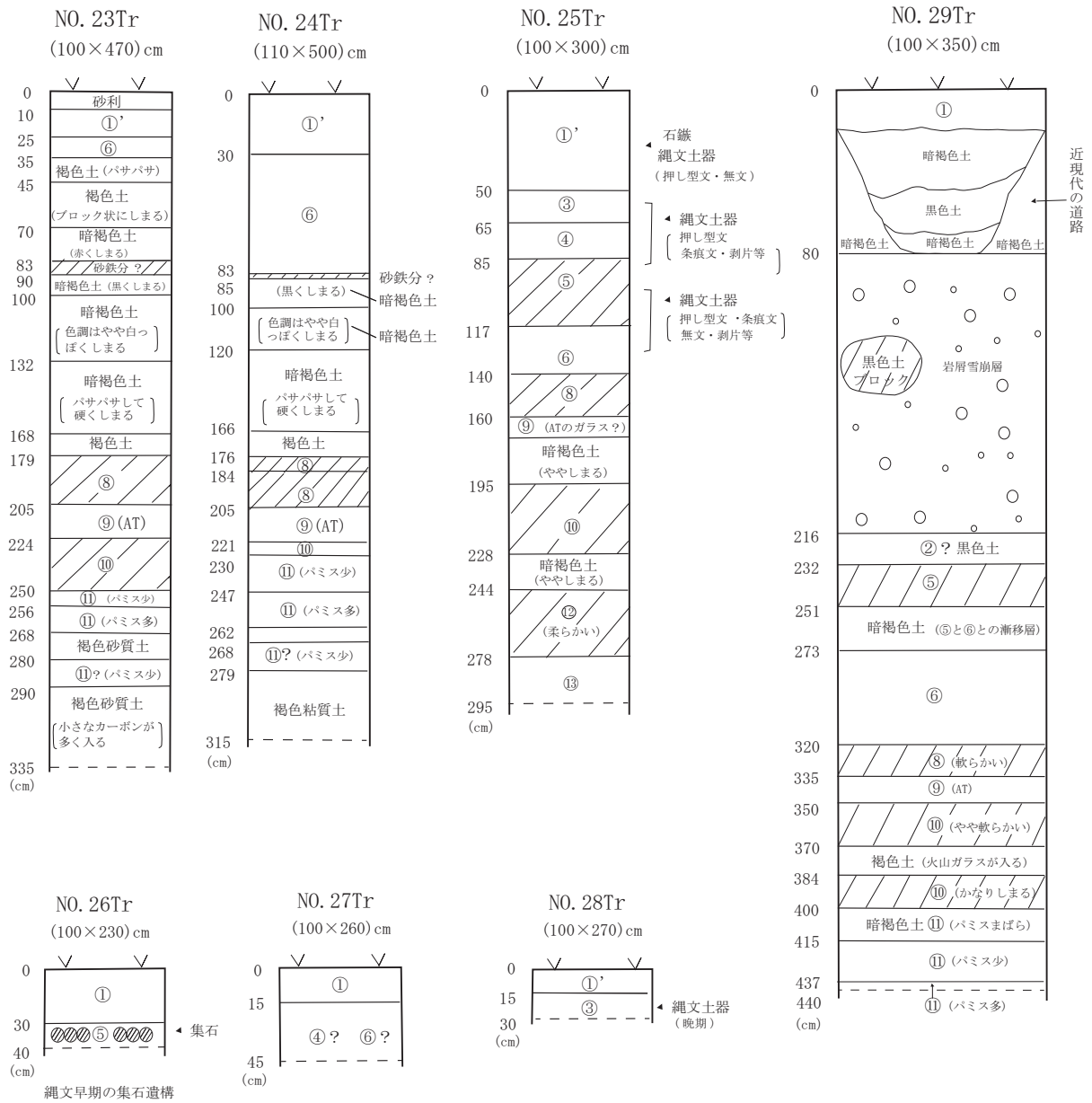
第4図 第2次原石山試掘調査トレンチ柱状図-②



第5図 第2次原石山試掘調査トレンチ柱状図-③



第6図 第2次原石山試掘調査トレンチ柱状図-④



2 本調査 [平成22年度]

(1) 調査の方法

重機による表土除去を行い、その清掃後、引き続いて記録保存のための実測図作成に必要な基準作りとして、光波測距機を使用してメッシュ杭設置及び4級基準点測量を行った。平面直角座標第Ⅱ系における座標値を用い一辺10mの区画を設定し、西→東へA～F、北→南へ1～14とした。このようにして設定した区画を基本として、傾斜がきついA,B-1～6グリッドを北区、傾斜の屈曲点(A,B-7グリッド)以南を南区として調査を実施した。

調査は、遺構の検出と遺物の検出を中心に実施した。遺構は、平面形の確認を行った後に、土層観察のためベルトを残し掘り下げた。その観察後、ベルトを取り除いて全体像を確認する。その間に作成される資料には、1/10もしくは1/20に縮尺して作る平面図、土層断面図、断面図などがある。遺物の検出は、上記した遺構調査の完了後に実施した。検出した遺物の取り上げは、光波測距機によりx, y, zの座標を測定・記録を行った。

なお、検出された遺構については、以下のとおり略号を用いて調査を行った。

土坑 = S K 集石 = S Y 柱穴 = S P その他不明遺構 = S X

(2) 調査の記録

調査の経過については、以下に示したとおりである。

11.29 発掘調査の準備を始める。プレハブ設置。

11.30 備品搬入。

12.1 敷地内の除草作業。

12.6 調査区内の除草及び清掃作業を実施、調査準備を進める。調査区東側のラインに沿ってトレンチを入れながら土層堆積を確認。トレンチ中央部ではGLより10～20cmほど下から、アカホヤ火山灰層（2次堆積）を確認。

12.7 調査区東側のトレンチを南北に抜けていく。北側（斜面部）ではアカホヤ火山灰層が確認されるが、中央部～南側にかけてはアカホヤ火山灰が残存しない箇所も認められた。さらに下層には黒ボク層が認められる。

12.8 東側トレンチでアカホヤ火山灰の残存している部分を深堀し、土層堆積状況を確認。アカホヤ火山灰層の下部は漸移層があり、その下に黒ニガ層がある。南側ではアカホヤ火山灰層が途中から確認できないところがある。アカホヤ火山灰層（2次堆積）から縄文時代早期の円筒形条痕文土器が検出された。

12.9 北区の斜面部をアカホヤ火山灰層まで掘削を進める。土坑らしき遺構が確認された。しかし、埋土の状態から比較的新しい遺構であろう。

12.10 北区の斜面部をアカホヤ火山灰層まで掘削を進める。南区の南側トレンチをアカホヤ火山灰層まで掘り下げる。

12.14 北区で遺構検出を行う。土坑状に見えるものの多くは樹痕である。遺構の可能性のあるものについては、明日以降、トレンチを入れて確認を行う。

12.15 北区で遺構検出を進める。確認のため小トレンチを設定し、あるいは半裁し土層堆積の状況を確認した。その結果、土坑状に見えるものの多くは樹痕であった。

12.16 南区をアカホヤ火山灰層上面まで表土剥ぎを行う。確認された遺物は、縄文時代早期の押型文土器、前期の条痕文土器などである。

12.17 南区を清掃し、遺構確認を行う。その後、アカホヤ火山灰層を5cm掘り下げる。トレンチNo.25

を確認。メッシュ杭を設置。

12.21 測量座標データを受け取る。掘削作業を開始。

12.22 3a層（アカホヤ火山灰層）の掘り下げを行う。山形押型文や石鏃、剥片が出土。遺構は、現在のところ確認できない。土層堆積を確認するため、トレンチNo.25の覆土を除去する。北壁と南壁で土層堆積に違いがみられる。

1.6 南区3a層の掘削を継続する。黒曜石の剥片・碎片が多く、安山岩製の石鏃も数点出土した。押型文土器も出土しているが、まとまってはいない。

1.7 南区3a層の掘削を継続。遺物の原位置を確認しながら掘り進める。10-Bグリッド周辺で、黒曜石の剥片・碎片がまとまって出土した。

1.11 南区3a層の掘削を継続。黒曜石の剥片・碎片と山形押型文を検出。掘り下げの際、中央に黒い砂質土があり溝が残存している可能性が考えられた。そこで、溝の広がりとアカホヤ火山灰層を確認するためにトレンチを設定し、掘削する。

1.12 南区を南側より清掃をかけアカホヤ火山灰層（3a層）の残存範囲をはっきりさせる。先日の日誌のようなアカホヤ火山灰層の残存状況であった。3a層より下の土の状況は北側では黒色粘質土である。南側は、暗褐色粘質土の中に橙色チップが混じるような土である。その後、南側より3a層の掘削を始めていくと古代の黒色土器や縄文時代後晩期の土器が出土した。3a層から遺構の検出を行い、柱穴を検出、半裁を行う。1基から土器が出土した。古代の溝は、以前より現代の攪乱と考えていたが、土師器が出土し古代の溝とした。

1.13 3a層の掘削と遺物検出を行う。南区の中央辺りの3a～4a層の層界に黒曜石の石核、剥片・碎片が集中していた。北側も同じような状況で、石器製作址の可能性もあるかもしれない。SD-1は、写真、図面ともに完了、遺物は先日の数点以外出土していない。

1.14 13-Dグリッド周辺に、3a層が厚く堆積しているの、その掘削を進める。4a層との層界にやはり遺物が多く残っているようで、黒曜石の碎片が集中しているところもある。南区中央にも同じような場所があり、石器製作の作業場であったのではと考えられる。3a層から黒色磨研土器の破片が、数点出土していることから、縄文時代後晩期の遺構がある可能性が考えられる。

1.17 北区の3a層を掘削していく。元地形も北北西⇒南南東に向かって傾斜しているようである。傾斜が緩やかになるところに、少し黒曜石が出土する場所がある。4a層上面まで掘削するが遺物は少ない。

1.18 南区の礫の集中は集石であるようだ。遺構の掘り形や、他の礫群がないか等、早めに確認が必要である。また、3a層出土の遺物は、アカホヤ火山灰層が土壌化した土層に多い。写真撮影を行い、位置を記録し取り上げを行った。

1.19 先日の続きとして南区の北半分の遺物出土状況の写真撮影のため、清掃作業を行った。また、遺物の取り上げを実施。

1.20 南区3a層の遺物取り上げを実施。黒曜石、安山岩、チャートの石核と、碎片が集中しているところが数ヶ所あった。縄文時代後晩期にも生活の痕跡が認められる。多くは上方からの流れ込みの可能性も考えられる。

1.21 北区は黒色層との境まで、アカホヤ火山灰層を掘削していく。傾斜が緩くなっている地点の4a層で、石や縄文土器（楯ノ原式土器）が少し出土する。

南区は、3a層出土の遺物の取り上げを終了。

1.25 北区の3a層の掘削が完了。遺物出土状況の写真を撮影し、遺物取り上げの準備を行う。

1.26 南区の南端より3b層の掘削を行う。石器が数多く出土するも製品はなかった。遺構も特になさそ

うである。3b層は、土が固くしまり粘性はない。アカホヤ火山灰層との違いは、下に少し茶色（チョコレート色）の土が確認される。出土する土器は、山形押型文が多い。南区中央付近では黒褐色土が出土しており、礫も多く出ている。ここは、アカホヤ火山灰層が薄く混じったそうであるので、後世からの削平によるものと考えられる。

1.27 礫については、攪乱や遺構埋土に含まれる等、明らかに原位置を保っていないもの以外、図面に記録する。また、黒曜石の大半が西北九州系である。また、検出される土器群には、押型文と貝殻系円筒形条痕文が認められ、器形的にも共通するものがみられる。文化の流入の様態を考えるうえで示唆的である。

1.28 南区トレンチNo.25より北側を掘り下げていくと、調査区の中で段になっているところの境に沿うように集石が検出される。段上の礫についても3～5cm程掘り下げていったが、下からは集石が認められるところはなかった。

1.31 10-C、11-Cグリッドを、3b層まで掘り下げを行う。以前から礫の出土していた付近では、多少礫や楕円押型文、貝殻系条痕文土器が出土する。また、石鏃も出土。黒曜石、チャートなどの剥片が大量に出土する。大きめの礫も出土するため、製作作業場の可能性あり。

2.1 南区10-B,Cグリッドを中心に、3a層の掘削を行った。また、4a層を5cm程下げたところで、礫や石器類、土器片が多く出土するため、併せて掘削を行う。調査区の西よりに礫が集中している箇所を検出。破碎礫が多く出土し、石皿として認定できそうなものも出土している。8,9-A,B,Cグリッドの3b層の掘り下げを進める。多くの礫や石器類が出土。掘削範囲を拡げ、集石などの遺構検出を行う。

2.2 7-Aグリッドで検出された黄～赤褐色土は、南区北端に東西方向に設定したトレンチにより、5層であることが判明。8-Aグリッドに5層への掘りこみであるSK01、柱穴を検出。SK01を半裁し、埋土中から縄文土器が出土した。柱穴と考えられるものは、ややグレーの砂が入った土であり、1基は半裁したが底部が不定形であり樹根によるものと思われる。ただ、8-Bグリッドの5層に黒色土の広がり認められた。

2.3 南側から清掃を行い、遺構、遺物の検出状況を撮影。石器類は白色、土器類は黄色の旗を立てて識別する。一見、8-A,Bグリッドの西側は遺物の出土が見られない。これは、5層が西側では高く、東側で低くなっているためであり、西側部分は削平されてなくなった可能性がある。8-Aグリッドから検出したSK1からは、同一個体と思われる縄文時代後晩期の土器が出土しているため、時期が特定できそうである。

2.4 北区3b層～4a層上面の掘り下げを行う。3b層では黒曜石の剥片・碎片が数点出土したが、4a層に入ると遺物などはほとんど出土しない。

南区の遺物取り上げを行う。13-D,E、14-E,Fグリッドでは3a層が厚く、取り上げた遺物の大半が3a層である。11-B-D、12-C-Eグリッドでは、下層の遺物が多い。そのため、3b層として取り上げる。

2.7 3b層～4a層の遺物取り上げを行う。北区の3b層～4a層の掘り下げを行うが、遺物は出土しない。南区では4a層で残っている礫を出していく。3～5cm程下から隠れていた石が出土する。点上げと平行して少し掘り下げて礫の集中部分を検討、その機能用途などを考えていく必要がある。北区では、6-A,B区で土器と石器が数点出土した。遺構検出を行ったが確認できなかった。

2.9 南区の3b層～4a層の掘り下げを行う。礫の広がりについては、現段階で写真撮影を行い、平面図を作成することとした。また、遺構の配置を把握するため全体の作業図（1/100～1/50）を作成する。

2.10 南区の9～11グリッドについて、4a層まで掘り下げる。10-Cグリッドの4a層で黒曜石碎片が大量に出土した。調査区全体の1/100（略図）を作成する。試掘坑の北側断面図を作成した。

2.15 南区の4a層掘削と礫群の検出作業を継続。また、集石遺構の可能性のある箇所については、遺構番号を付して検出状況の写真撮影を行った。

2.16 南区の全景写真と礫のまとまりごとに写真を撮影した。9,10グリッドの黒色土は、遺構の可能性

があるため精査が必要である。また、北区については一部掘り下げを行い、早急に遺構・遺物の有無を確認する必要がある。

2.18 14-E,F グリッドを掘り下げる。オレンジチップの混じりから、4a層まで達していると思われるが、礫などがまだ出土する状況である。土がはっきりしない。25Tr では、南側壁が北側壁と違う。北側壁に残っている黄褐色粘質土、黒色土が南側壁では4a層クロニガ層に切られ存在しない。このことからAh降灰以前に掘りこまれたものと推察される。SK02は、9-Bグリッドに残存。埋土がAh火山灰土であることや、底面に小穴があることから落とし穴の可能性はある。

2.21 9-C東壁、11-C東壁にトレンチを設定し、黒色土の広がりを確認することとした。9-C東壁Trでは黒色土が厚いが、11-C東壁Trでは浅い。特に黒色土の立ち上がりは確認できないため、遺構である可能性はないと判断した。SY12は9-Bグリッドで検出。小規模の土坑に板石が蓋状に載った状態を確認した。墓の可能性が考えられる。礫群の中に、磨石や叩き石等が含まれているようである。

2.22 明日の空撮に向けて北区を清掃、シート類を片付ける。委託により礫群の実測作業を開始した。SK02をほぼ完掘、底面に小穴がないか確認を行う必要がある。

2.23 午前中空撮のため南区の清掃を行い、正午頃空撮を行う。午後から遺物の取り上げと、13,14-E,Fグリッドを掘り下げる。14-Eグリッドでは、SY16下からも礫、土器が出土する。13-Eグリッドは、10cm程下げたが、礫は出土しなかった。

2.24 12-D,Eグリッド東壁トレンチの焼土については、壁で確認する限り掘りこみラインを確認できないことから、連結土坑の可能性が考えられる。トレンチ付近の礫をはずして土坑があるかどうか確認を行っていく。また、西側壁12～13-D～Fグリッドの間に、焼土がかたまって検出される。これも連結土坑の可能性はある。周辺の礫をはずして5cm程下げて確認することにした。

14グリッドの25Trにおいてロームがクロニガに切られていることについては、遺構の可能性があるのでトレンチを奥に入れてロームが出るか確認することにした。

2.25 調査区東側(11-D)にトレンチを設定する。1.2m程下げてやっとロームを検出する。12-Dトレンチでは浅い位置でロームが検出されるため、12-Dグリッドあたりで高まり、13-Dでまた低くなる。起伏があるようである。

3.1 南区東側トレンチの掘削を行う。SK02の掘削。実測が終わった礫群の中で石器や熱を受けて赤化しているものを観察表に記入し、石器については取り上げ作業を行った。

3.2 南区東側トレンチの掘削を行う。実測が終わった礫群の中で石器や熱を受けて赤化しているものを観察表に記入し、石器については取り上げ作業を行った。

3.4 南区でSKの掘削を行う。石器の取り上げを行う。

3.7 SY01,02,13,14,17,18の礫をはずし掘りこみを探すが、SY17以外は掘りこみがはっきりしない。しまりなど土質の違いでラインは引いているが、確実なものではないためトレンチなどを入れて掘りこみを確認する。SY12は斜めの礫をはずし、トレンチを入れ掘りこみを探す。I層は、板石(斜めにささった)を支えるようにロームが盛り上がっているが、特に掘りこみがあるようには感じられない。墓の可能性は薄いと思う。

3.8 9-B、9-C、10-B、10-Cの4a層掘り下げを行っていったところ、4a層上面の等高線(20m間隔)を入れていく。SYについてはトレンチを入れたが、掘りこみを確認できなかった。SYを構成する礫の中には、磨石・叩き石・台石などが多数含まれており、遺構が構築される際転用されたものと考えられる。

3.9 北区…4a層を掘り下げていくが、ロームの位置の確認のため北区東側壁にトレンチを設定し確認する。GL100cm程のところからロームを検出。5-Bのところ掘りこみがあるようである。また、3-B区の一

部をロームまで落とすと遺物はなかったが、pitのようなものがあった。

南区…集石の掘りこみを探すが、特に掘りこみは見あたらない。

3.10 SY04,11,12,16 にトレンチを入れ土層を確認した。

SY04…上部が黄褐色土と黒褐色土の混じり、下部には 4a 層黒褐色土の上に石が置いてある。上部の土の状況から、3a 層の集石か 4a 層の集石の間に 3a 層土が入ってきたと思われる。

SY11…礫のすぐ下から炭化物と白い粉のようなものが検出される。下に埋まっている土も被熱している石も多いようである。

SY12…掘りかたの土ははっきりしないが、板石の下の土が少し柔らかい。

SY16…掘りかたは見つからないが、礫の下の土は黄褐色土が少し混じり、やや黒味が薄い。その下の土は粘性がある。

3.11 南区 13-D,E グリッドにあった焼土の集中部にトレンチを設定して確認した。4a 層から数cm下げたところで焼土の塊を検出。焼土坑と考えられる。

3.14 8-B グリッド、SY12 の西側トレンチによる土層より西側に土坑がある可能性が予想された。2～5 cm、面で掘り下げ検出をしたところ、SY12 の西側に 2 つの土坑 (SK07,08) を検出した。調査区西側壁際の土坑にトレンチを入れたところ、焼けている石と焼土 (北側に集中) を検出。SY12 を含めた 3 つの土坑と合わせて連結土坑の可能性が考えられる。

・SY 直下の土について

SY01…上部は黒褐色粘質土、下部は少し明るく、しまりは緩くなる。掘りこみは確認できない。炭化物、焼土などは見あたらない。

SY02…上部の土は黒褐色粘質土、下部は若干明るめになる。樹根がありそのせいかもしれない。直下の土から黒曜石の剥片・碎片が出土。焼土、炭化物は少量認められるが、火を使ったとは考えにくい。

SY03…周りの土は固く、中心部は若干柔らかいが掘りこみは見えない。石の下の土から縄文土器が出土。

SY05…直下の土は黒褐色でしまりがよい。焼土、炭化物などは見あたらない。北側から石鏃が出土。

SY08…掘りこみあり。埋土に焼土、炭化物は見あたらない。(10YR2/3 黒褐色土 しまり:強、粘性:弱)

SY13…やや褐色の土が上部にあり、焼土チップが少量混じる。炭化物は端の方に僅かにあるがはっきりと分らない。

SY14…土を掘りこんだものではなく、地上に置いたもの。直下の土も黒褐色土で変化はなし。

SY15…直下の土は黒々とした土。3a 層土の混じりもない。

SY17…石の下の土は 3a 層土 (黄褐色土の混じり) が入ってくる。石の下を掘っていくと、ごく微量の炭化物が出土する。

SY19…黒褐色。石の下は少し明るい色の土である。

SY20…中央部に樹根。縁が少し硬いが掘りこみはないように思う。

3.15 8-B グリッド、SY12 の西側で確認した 2 つの土坑 SK07,08 の切り合いを確認するためトレンチを設定した。その結果、SK07 が SK08 を切っていることを確認した。SK08 は SY12 より深く、焼土は確認されない。

SY17…集石の底部に炭化物があり、サンプルとして取り上げた。(光波:杭 31 に設置、北側の杭 28 で 0 セット。X = 10.902 m、Y = - 5.855 m、H = 189.949 m)

3.16 黒褐色土を面下げて土層確認しようとしたが、12～13-D グリッドだけでも 20～30cm 下から複数の焼土を含む土坑が検出された。検出面を広げていくとさらに増える可能性が高い。

SK07…埋土層の底部近くに焼土粒が集中。焼成部は確認できなかった。中央部が一段下がる。

SK08…大きな板状の礫が2つ出土。隣接するSY12とは別物のようである。SY12より深い。

3.17 SK06,09,10は炉穴。4a層から20～30cm下から検出。

SK10…南側壁をだすためトレンチを入れた。燃焼部のような焼土の塊が広がった。連結土坑の可能性が考えられる。

SK11…11-Dグリッドトレンチに焼土がかかり、土が黒かったため半裁した。焼土の塊を検出。

3.18 SK09を完掘。SK10は南側の壁を確認するためトレンチを設定し確認作業を進めた。

3.22 SK10,13の切り合い関係を確認。SK10の南側にもう一つ遺構があると考えられるため、南側にもトレンチを入れて確認。焼土の堆積が大きく3a層に区分できる土坑を確認。SK10よりも上層から掘りこまれているように見える。

3.23 調査区東側の土層確認作業を行う。南区は完了。

SK10,13…SK13の方が新しい土坑と判断。掘りこみはSK10よりも上層からである。また、何度かの時期にかけて使われた痕跡あり。焼土などを掻きだし、繰り返し使用したと考えられる。SK10の焼成部は、SK13の初期のものより下層に確認。よく焼きしまっている。

3.24 調査区東側の土層確認の続きを行う。

SK08…板石平面図作成。土層断面図の追加と掘削が残る。また、断面見通しは時間がないため作成していない。隣接するSY12との切り合い関係は不明。おそらくSK08が切っていると考えられる。

3.25 SK08の断面図作成、写真撮影を行い完掘した。SK10,13,16の図面作成。

3.28 SK10は燃焼部の範囲について平面図作成と写真を撮影する。SK17,18はトレンチ下に残った部分を掘削し、平面図作成と写真撮影を行った。

3 整理作業 [平成24,25年度]

整理作業は、平成24～平成25年度まで熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町沈目）で実施し、水洗、註記、接合、復元、実測、製図の各作業を経て、その成果が報告書に編集される。

これらの作業を水洗から復元までの作業を主に担当する一次整理と実測・製図を主に担当する二次整理とに分け、戸田紀美子、築出直美、前田佳代子を中心となって実施した。出土品のうち土器類については、熊本県文化財資料室において水洗し註記した後、接合作業を行った。石器類については水洗の後、観察により器種分類を行った。その後、土器類・石器類の中から実測及び製図作業（二次整理）を実施する資料を選定した。作業量が二次整理担当者の処理能力を上回るため、実測及び製図作業の一部について外部に委託している。実測作業は石器類などから実施し、その後復元作業が終了した土器類の実測を行った。実測は、遺物の種類を問わず、すべて縮尺1/1で実施し、実測用紙は1mm方眼紙を用いた。製図作業は、電子トレース方式で実施した。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の概要

1 地理的環境

瀬田狐塚遺跡が所在する阿蘇外輪山は、九州のほぼ中央、熊本県の北東部に位置し、世界的に著名な阿蘇カルデラを有する。このカルデラは東西約18km、南北約25km、周囲約128kmにも及ぶ楕円形の地形を呈し、阿蘇火山の活動によって形成されたことが知られている。

今回、発掘調査を実施した瀬田狐塚遺跡は、熊本県菊池郡大津町瀬田字狐塚に所在し、阿蘇外輪山西部の立野火口瀬から流れる白川右岸に面した丘陵上に立地する。この丘陵地は、北側に広がる瀬田裏原野（標高約630m）から連なり、丘陵地の南端は急崖となり白川に至る。

2 歴史的環境

(1) 旧石器時代

[A T下位の石器群]

熊本県における始良 Tn 火山灰 (AT) 下位の遺跡として最古段階に位置づけられる。遺跡としては、暗色帯下位の黄褐色粘質土層上位から検出された類ナイフ状石器、削器を主体とする沈目遺跡 (木崎 2002) や台形様石器、スクレイパー、ピック、石錐、刃部磨製石斧を主体とした石器群が出土した石の本遺跡 8 区 VI b 層石器群 (池田 1999)、台形様石器を主体とする曲野遺跡 (江本 1984)、瀬田池ノ原遺跡第 1 文化 (稲葉 2010) がある。次に、暗色帯下部から検出された石器群では、台形様石器を主体とする耳切遺跡 A 地点第 I 石器文化、同 C 地点第 I 石器文化、同 D 地点第 I 石器文化 (村崎編 1999)、河原第 14 遺跡第 I 文化 (芝 2007)、ペン先形ナイフ形石器・スクレイパー・刃部磨製石斧を出土した石の本遺跡 54 区 VI a 層石器群、同 55 区第 1 石器群 (廣田 2001) がある。さらに上層の草千里パミス上位から検出された瀬田池ノ原遺跡第 2 文化では柳葉形二側縁加工ナイフ形石器が出土しており、同様の石器組成がみられる石器群では下城遺跡 2 文化や耳切遺跡 A 地点第 II 石器文化、クノ原遺跡などがあげられる。A T 直下の暗色帯から検出された瀬田池ノ原遺跡第 3 文化、では小型の二側縁加工ナイフ形石器や切出型ナイフ形石器が検出されている。同様の石器群としては、狸谷遺跡 1 石器文化、久保遺跡 1 石器文化があげられる。ここまでの A T 下位の石器群である。

[A T上位の石器群]

A T 火山灰を包含する土層から上位の暗色帯にかけて検出された瀬田池ノ原遺跡第 4 文化では、二側縁加工ナイフ形石器が認められる。A T 上位の石器群については、瀬田池ノ原遺跡や耳切遺跡、石の本遺跡 54 区、同 55 区、河原第 14 遺跡などでは堆積が厚く複数の文化層に区分できる事例が増えているが、大半は石器群の様相から時期変遷を類推する状況である。次に、A T 直上の暗色帯の上層から横長剥片素材の二側縁加工ナイフ形石器や原ノ辻型ナイフ形石器、三稜尖頭器が出土している (瀬田池ノ原遺跡第 5 文化)。また、瀬田池ノ原遺跡では、さらに上層のハードローム層から多様な形態のナイフ形石器が検出され (瀬田池ノ原遺跡第 6 文化)、ソフトローム層から細石刃、細石刃核が出土している (瀬田池ノ原遺跡第 7 文化)。

近年、瀬田池ノ原遺跡や耳切遺跡、石の本遺跡 54 区、同 55 区、河原第 14 遺跡のように土層堆積に恵まれ、複数の石器群が重層的に確認される事例が増えており、当該地域の旧石器時代石器群の変遷過程を理解するうえで貴重な資料を提供している。

また、九州横断道延岡線建設事業に伴って発掘調査が実施された山都町北中島西原遺跡でも旧石器時代の石器群が礫群や炭化物等を伴って重層的に検出されており、今後の整理報告に期待がもたれる。

(2) 縄文時代

草創期 当該期に属する遺跡は、集石遺構1基と爪形文土器、石鏃、細石刃が検出された河陽F遺跡（岡本2003）や爪形文土器に細石刃核と細石刃、石鏃の共伴が確認された高畑乙ノ原遺跡（西2007）、早期の遺物群に混じって爪形文土器1点が確認された無田原遺跡（木崎1995）があげられる。

早期 当該期の遺跡では、大型の長方形配石遺構や石組炉（139基）、集石遺構、焼土坑、竪穴住居跡、陥し穴などの遺構とともに、押型文を施文した注口部を持つ壺形土器をはじめ多くの土器群とトロトロ石器や岩偶などを含む多くの石器群が検出された瀬田裏遺跡（緒方1993）、集石遺構、炉穴などの遺構とともに、押型文土器・擦糸文・条痕文土器・塞ノ神式土器などの土器群に伴い多くの石器類が出土した中後迫遺跡（松村1978）、ワクド石遺跡（古森）、無田原遺跡（木崎1995）など多くの遺跡が確認されている。

前・中期 この時期の遺跡数は早期に比べ減少し、出土する遺物量も少ない。前期の曾畑式土器、中期の阿高式土器が出土したワクド石遺跡や瀬田裏遺跡、前期の轟式土器、曾畑式土器が出土した七野尾遺跡、中期の船元式土器がまとめて出土した岡田遺跡（江本1990）などがある。

後・晩期 三万田東原遺跡では、竪穴住居跡とそれに伴う辛川Ⅰ式土器、辛川Ⅱ式土器、太郎迫式土器、三万田式土器、鳥井原式土器、御領式土器、黒川式土器、山ノ寺式土器が出土し、後期前半から晩期後半に至るまでの土器型式が継続している。また、これらとともに70個以上にも及ぶ土偶が検出されている。大鶴遺跡では竪穴住居跡15軒、土坑26基とともに後期後半から晩期前半の土器が大量に出土し、また、十字形石器、Y字形石器、打製石斧、磨製石斧、石鏃などの石器が出土している。ワクド石遺跡では、後期から晩期の土器群とともに多量の石器類や15体の土偶が出土している。

（3）弥生時代

大津町周辺における前期の遺跡としては、甕棺墓や支石墓が検出された水の山遺跡、多くの甕棺墓が検出された無田原遺跡や西弥護免遺跡などがあげられる。中期の遺跡では、27基の竪穴住居跡とそれに伴う祭祀土器を含め多くの土器・石器などが出土し、さらに土壙墓・甕棺墓・支石墓などが検出された矢護川日向遺跡（佐藤1980）がある。後期の遺跡には、集落のほぼ全域が調査対象となり竪穴住居跡218基、2ヶ所の土壙墓群で194基の土壙墓、竪穴住居跡群を取り囲む環溝4基が検出され、高坏・壺・甕・鉢・槍鉋・刀子・鎌・斧・手斧・鏃などが出土した西弥護免遺跡（大津町史編纂委員会1988）、竪穴住居跡5基が検出され、ジョッキ形土器を含む多くの土器と石剣の先端部片・磨製石鏃・石包丁・打製石斧・管玉・紡錘車・鉄器などが出土した矢護川日向遺跡（佐藤1980）、高坏・壺・ジョッキ形土器・器台・重弧文土器などが出土した宝満鶴遺跡（大津町史編纂委員会1988）などがある。

（4）古墳時代

大津町における古墳の規模は小さく数も少ない。矢護川流域の中原古墳と古城の円墳がある。その外、石室が検出された瀬田裏古墳群、箱式石棺を伴う大林古墳、直刀や鉄鏃・轡・金環などが出土した西大山内横穴墓群、後迫横穴墓群などがある。当該期の集落遺跡としては、瀬田裏遺跡・ワクド石遺跡・真木遺跡・ナギナタ遺跡・水ノ山遺跡・高尾野遺跡・瀬田雨留尾遺跡・西弥護免遺跡・西獄遺跡・大津高校グラウンド遺跡などがある（大津町史編纂委員会1988）。

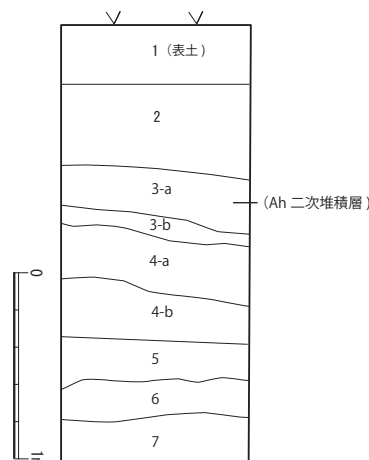
k

第2節 遺跡の層位と包含層

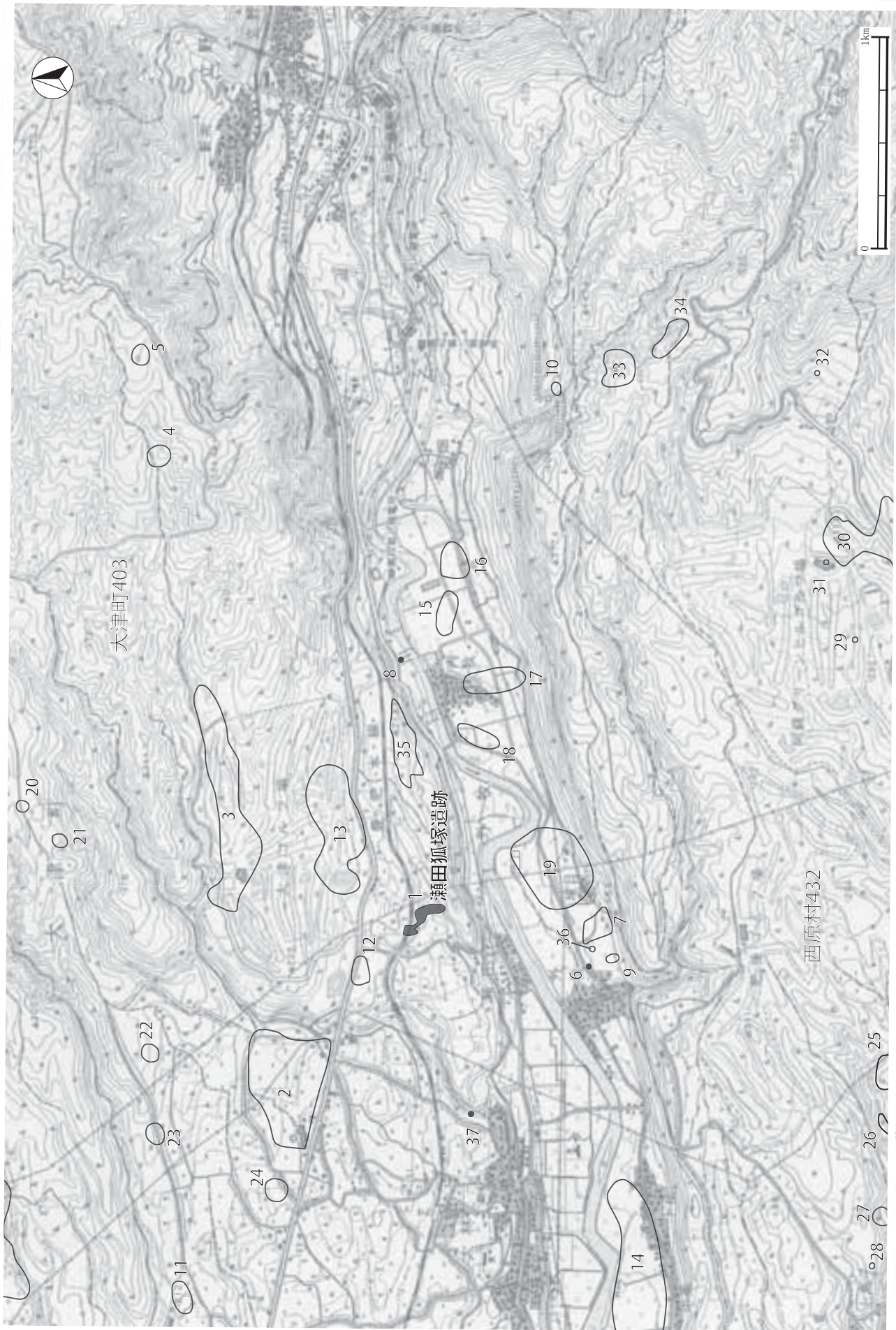
本遺跡の基本土層は、第7図に示したとおりである。土層観察用の断面は、調査区東側壁と試掘トレンチNo.25北壁を用い、色調及び土質の違いによって1～7層に分層した。ただし、発掘調査時の観察では、2層の黒ボク層は調査区全面に存在せず、表土（耕作土）層下に3層が存在する範囲が認められた。そのため、黒ボク層以下、それぞれを1～6層とし遺構検出、遺物の取り上げ等を行っていたが、本報告では表土（耕作土）層を1層として1～7層に分層した。なお、3,4層については、a,bの2垂層に細分された。土色

は「新版標準土色帳」（日本色研事業株式会社発行、1986）によった。また、各層の層厚については堆積が良好で5層が観察される調査区南側の東壁及び試掘トレンチNo.25北壁を計測した。

- 1層：表土層（黒色：10YR2/1） 林床であったことから地表部は腐葉土化し粘性、しまりに弱い。層厚は10～15cmを測る。
- 2層：黒色土層（10YR7/1） きめが細かくフカフカしている。やや粘性があり、しまりは弱い。層厚は5～20cmを測る。黒ボク層である。調査区の全面には存在せず、北側から南側への地形の屈曲部周辺では認められない。
- 3層：暗褐色～黒褐色土層 色調によって3a層（暗褐色：7.5YR3/3）と3b層（黒褐色：10YR2/2）に細分される。a層は、アカホヤ火山灰を含むが色調については暗く濁りが強い。二次堆積層と考えられ粘性があり、ややしまる。b層はa層に比べ色調が暗く、粘性がありしまりが強い。4層との漸移層である。両層とも縄文時代早期の遺物が出土するが、a層では上層の遺物とともに検出されるが、b層では早期の遺物のみで構成される。層厚はa層が10～15cm、b層が20～25cmで合計30～40cmを測る。本来、a層とb層については、明確に区分するべきであったが、調査の中で亜層として取り扱い、遺物の取り上げや遺構の検出を行っていたことから、報告にあたってそのままの層区分とした。
- 4層：黒褐色土層 色調によって4a層（黒褐色：10YR2/3）と4b層（黒色：7.5YR2/2）に細分される。色調は上層がやや明るい。a層は、粘性及びしまりともやや強い。b層はやや粘性が強く、しまりは強い。a層には、調査区南側一带に分布する受熱により赤化した礫が混入し、b層では同層から掘り込まれた炉穴が検出されている。層厚はa層、b層の合計で、40～80cmを測る。
- 5層：黒褐色土層（7.5YR2/2） やや粘性がありしまりは弱い。ローム層で柔らかい。層厚は、20～31cmを測る。
- 6層：黒褐色土層（10YR3/2） やや粘性が強く、しまりは強い。5層に比べて色調はやや暗く、きめが細かく、火山ガラスを少量含む。層厚は、18～24cmを測る。
- 7層：暗褐色土層（7.5YR4/4） やや粘性があり、しまりは弱い。全体的にザラザラし、多量の火山ガラス（白色粒子）を含む。始良丹沢火山灰（以下AT）である。層厚は、17～22cmを測る。



第7図 基本土層図



第8図 瀬田狐塚遺跡周辺分布図 (1:25,000)

表2 周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	瀬田狐塚遺跡	瀬田	旧石器～中世	
2	瀬田雨留尾	瀬田	縄文～古墳	寺跡・(屋敷跡)
3	瀬田裏	瀬田 長袖ほか	縄文・古墳	
4	瀬田裏古墳群	瀬田 瀬田裏	古墳	3～4基(石室のみ) 封土なし
5	瀬田裏E地点	瀬田 瀬田裏	縄文	
6	外牧代官所跡	外牧	中世	(荒戸城)
7	南郷往還跡	外牧	近世	石畳道 幅約2m 長25m
8	上井出取入口	外牧 大鶴	近世	
9	葉山城跡	外牧 霞鶴	中世	
10	岩戸神社岩かけ	外牧 畑鶴	縄文	岩陰遺跡
11	吹田D	吹田	縄文	土器片、石鏃など
12	瀬田裏A	瀬田	縄文	土器片、石鏃など
13	瀬田裏B	瀬田	縄文	土器片、石鏃など
14	錦野	錦野 上掲	縄文～古墳	県調査
15	大鶴A	外牧 大鶴	縄文	県調査
16	大鶴B	外牧 大鶴	縄文	県調査
17	前畑	外牧 前畑	縄文	内牧遺跡
18	内牧B	外牧	縄文	土器片、石鏃など
19	外牧	外牧	縄文・弥生	県調査
20	瀬田裏G	瀬田	縄文・古代	土器片、石鏃など
21	瀬田裏F	瀬田	縄文・古代	土器
22	瀬田裏D	瀬田	縄文・古代	土器片、石鏃など
23	瀬田裏C	瀬田	縄文	土器片、石鏃など
24	吹田E	吹田	縄文	土器片、石鏃など
25	葛目遺跡	鳥子 葛目谷		
26	葛目横穴	鳥子 葛目谷	古墳	
27	鳥子城跡	鳥子 陣ノ上	中世	中世城跡
28	鳥子陣ノ上	鳥子 陣ノ上	縄文	
29	桑鶴古屋敷	小森 桑鶴	縄文～古墳	縄文・弥生・古墳期土器 出土
30	桑鶴扇坂の口 (桑鶴古池さん)	小森 桑鶴	縄文・弥生	縄文・弥生土器
31	桑鶴	小森 桑鶴	弥生	弥生土器・土師器・ 須恵器
32	丸林	小森 桑鶴	縄文～古代	
33	鳥子城	鳥子 上鳥子	縄文～古代	
34	扇ノ坂A	桑鶴	旧石器～縄文	土器片・剥片・石核採集
35	瀬田池ノ原遺跡	瀬田 池ノ原	旧石器～古代	
36	外牧霞鶴	外牧 霞鶴	縄文	縄文時代早期の石器・土器
37	大林古墳	大林	古墳	墳丘・石棺残存、石室内 に赤色顔料の装飾痕、鍛 鉄直刀出

第三章 縄文時代早期の調査成果

第1節 遺構とその分布

1) 礫群 (第9図)

礫の広がりには南区において、3a層を剥いだ段階で認められた。南区北側の土坑群以南で礫の散布が認められ、南にいくほど密度が濃くなる。そのピークは、C-10,11及びD-11～13グリッドである。等高線に沿った分布の様相を示し南区全域において認められるが、細かくは空白域が存在することからいくつかのまとまりとして認識できそうである(第9図)。

また、C-10～12グリッドで検出された南北に走る溝を境に東側で一旦希薄になる。この状況は、後世において溝を掘削したことで起こった現象とは考えにくいことから、検出された礫のまとまりや分布のあり方には一定の意味があるものと理解できよう。しかし、残念ながら個別の礫の赤化といった受熱の有無について、炭化物や焼土の存在と併せた細かな観察所見が記録されていないことから、全体を俯瞰しての見せかけの分布状況の把握にとどめた。そのため、ここでは調査時の所見に従って、礫群の中に認められたやや大型で扁平な礫を中心に、より密集した状態で検出される22箇所を集石として取り扱い報告を行った。それぞれ個別の遺構についての説明は、Ⅲ-1-2)で述べることにする。これらの遺構の中で、SY01～06,11,13～15,17～20については掘り込みが認められないが、SY02,13,17,18については礫の周囲から焼土と炭化物が検出されている。このことから、一概には言えないが土坑を伴うSY08,12,21,22以外については、礫群として取り扱うことが妥当であった可能性もある。

2) 集石

SY01 (第10図)

B-10グリッドで3b層において確認された。10～20cm大の礫12個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY02 (第10図)

B-10グリッドで3b層において確認された。10～20cm大の礫13個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物と焼土は少量認められるが、火を使ったとは考えにくい。

SY03 (第10図)

C-10グリッドで3b層において確認された。10cm大の礫23個と30～40大の礫1個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY04 (第11図)

C-11グリッドで3b層において確認された。5～20cm大の礫34個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY05 (第10図)

C-11グリッドで3b層において確認された。10～20cm大の礫12個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY06 (第10図)

D-11グリッドで3b層において確認された。10～20cm大の扁平な礫20個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY08 (第11図)

D-12グリッドで3b層において確認された。10cm前後の礫65個で構成される。短軸約90cm、長軸約116cm、深さ約10cmの掘り込みが確認される。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY11 (第 11 図)

D-11 グリッドで 3b 層において確認された。10～20cm大の礫 31 個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY12 (第 12 図)

B-8, 9 グリッドで検出した。小規模の土坑に板石が蓋状にのる。掘りかたの土ははっきりしないが、板石の下の土が少し柔らかい。SY12 の西側で 2 つの土坑 (SK07, 08) を検出した。調査区西側壁際の土坑にトレンチを入れたところ、焼けている石と焼土 (北側に集中) を検出。SY12 を含めた 3 つの土坑と合わせて連結土坑である可能性が考えられる。SK07 が SK08 を切っていることを確認した。SK08 は SY12 より深く、焼土は確認されない。

SY13 (第 11 図)

B-9 グリッドで 3b 層において確認された。10～20cm大の扁平な礫 18 個で構成され、掘り込みは確認できない。やや褐色の土が上部にあり、焼土チップが少量混じる。炭化物は端の方に僅かに認められる。

SY14 (第 12 図)

B-9 グリッドで 3b 層において確認された。10～20cm大の扁平な礫 12 個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY15 (第 12 図)

C-10 グリッドで 3b 層において確認された。10～20cm大の扁平な礫 12 個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY16 (第 13 図)

E-14 グリッドで 3b 層において確認された。10～20cm大の礫 100 個以上で構成される。直径約 125cm、深さ約 40cm の掘り込みが確認される。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY17,18 (第 13 図)

B-9 グリッドで 3b 層において確認された。10～20cm大の扁平な礫 50 個で構成され、掘り込みは確認できない。微量の炭化物、焼土などが確認された。

SY19 (第 14 図)

C-9 グリッドで 3b 層において確認された。10～20cm大の扁平な礫 11 個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY20 (第 14 図)

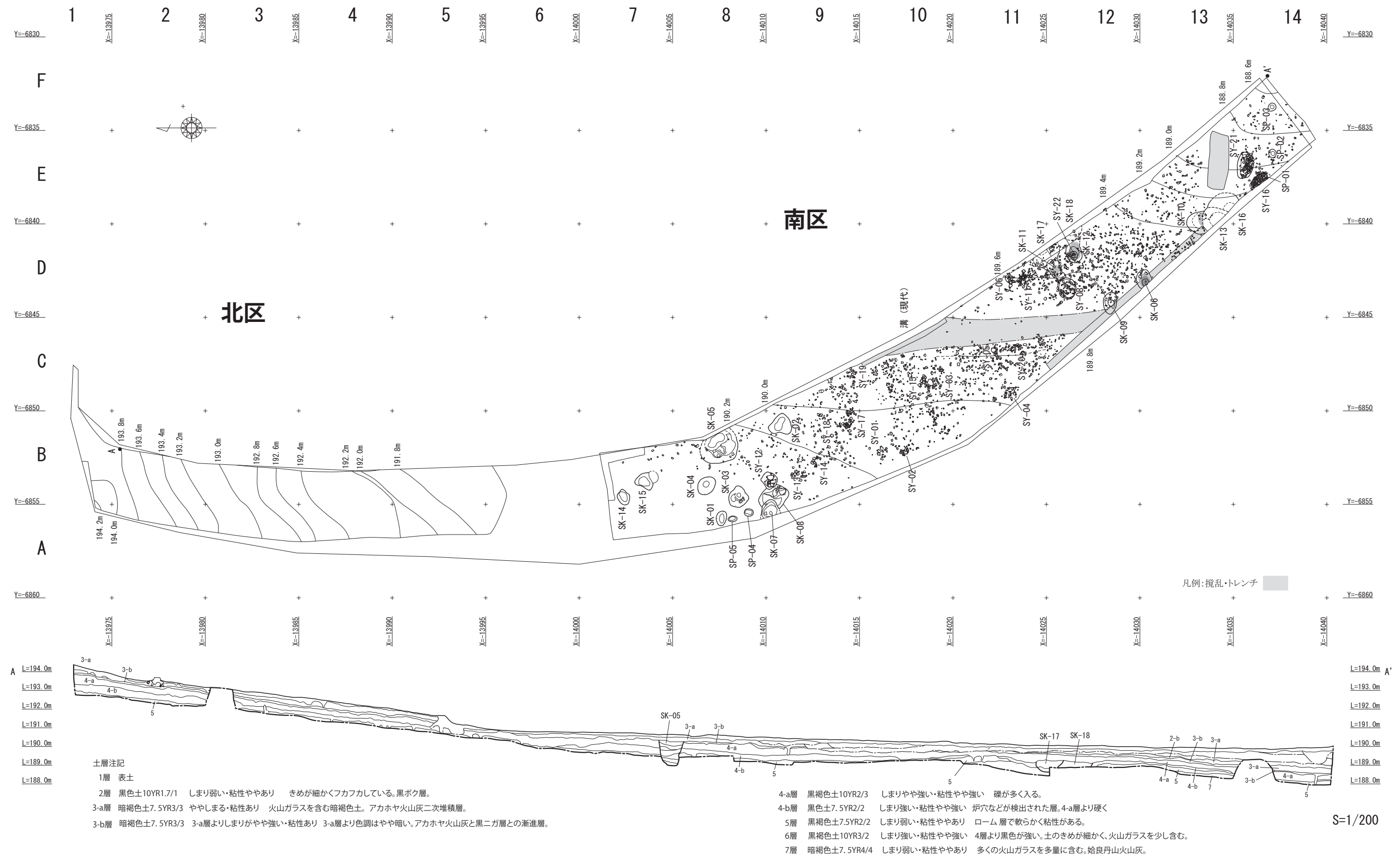
C-11 グリッドで 3b 層において確認された。10～20cm大の扁平な礫 21 個で構成され、掘り込みは確認できない。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY21 (第 14 図)

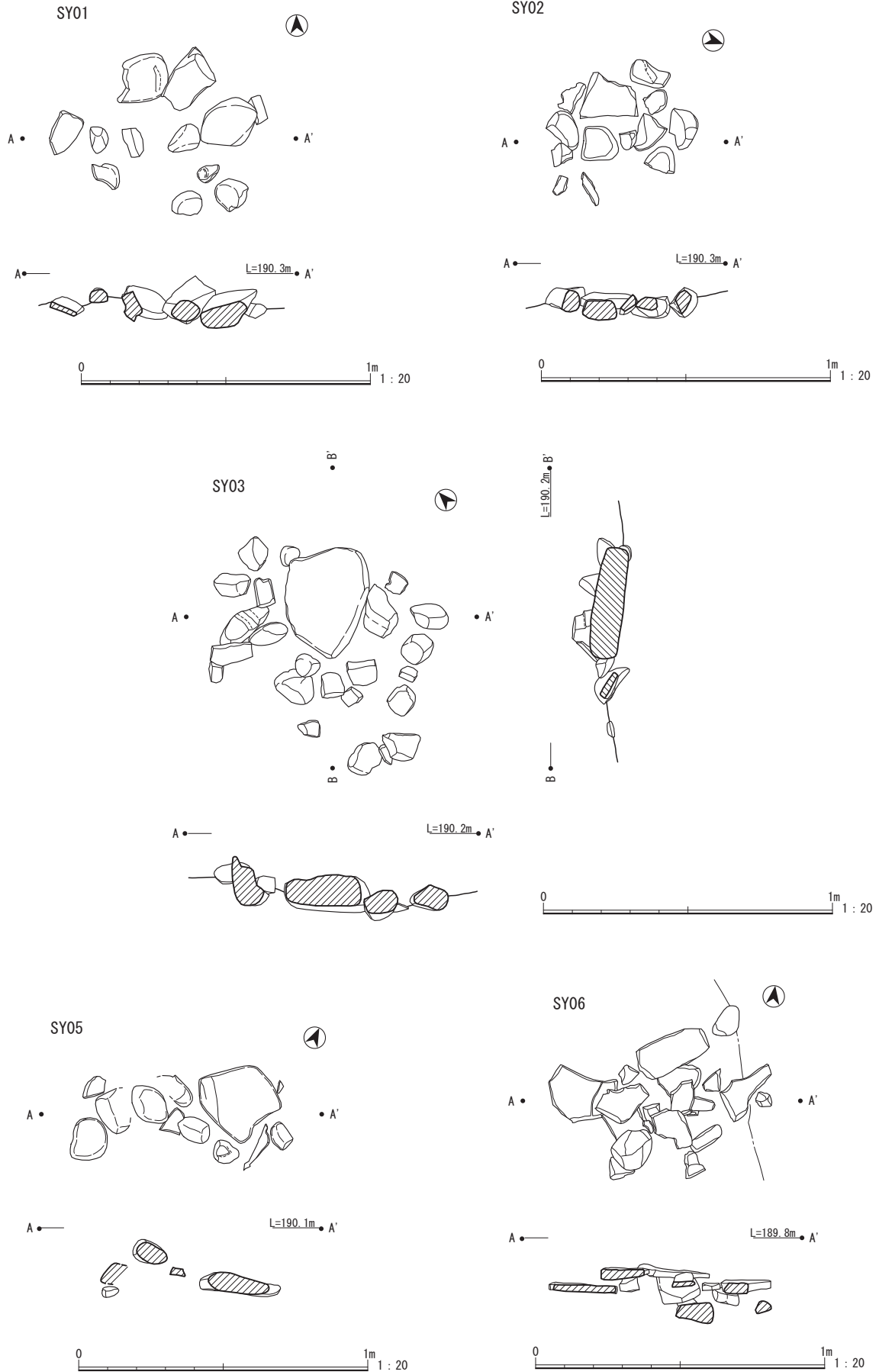
E-14 グリッドで 3b 層において確認された。10cm前後の礫 82 個で構成される。短軸約 92cm、長軸約 140cm、深さ約 20cm の掘り込みが確認される。炭化物、焼土などは確認できなかった。

SY22 (第 14 図)

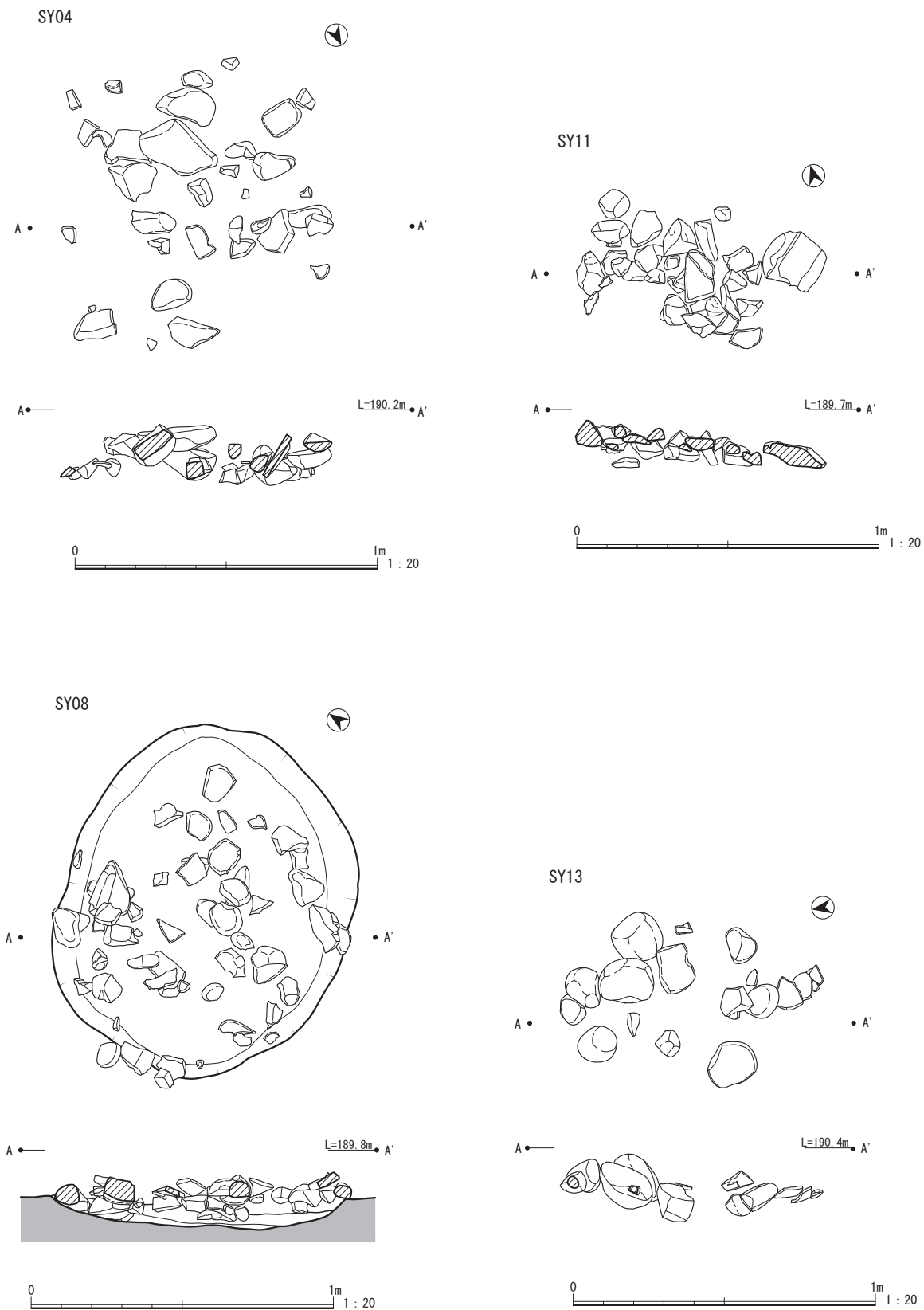
D-12 グリッドで 3b 層において確認された。10cm前後の礫 65 個で構成される。直径約 48cm、深さ約 12cm の掘り込みが確認される。炭化物、焼土などは確認できなかった。



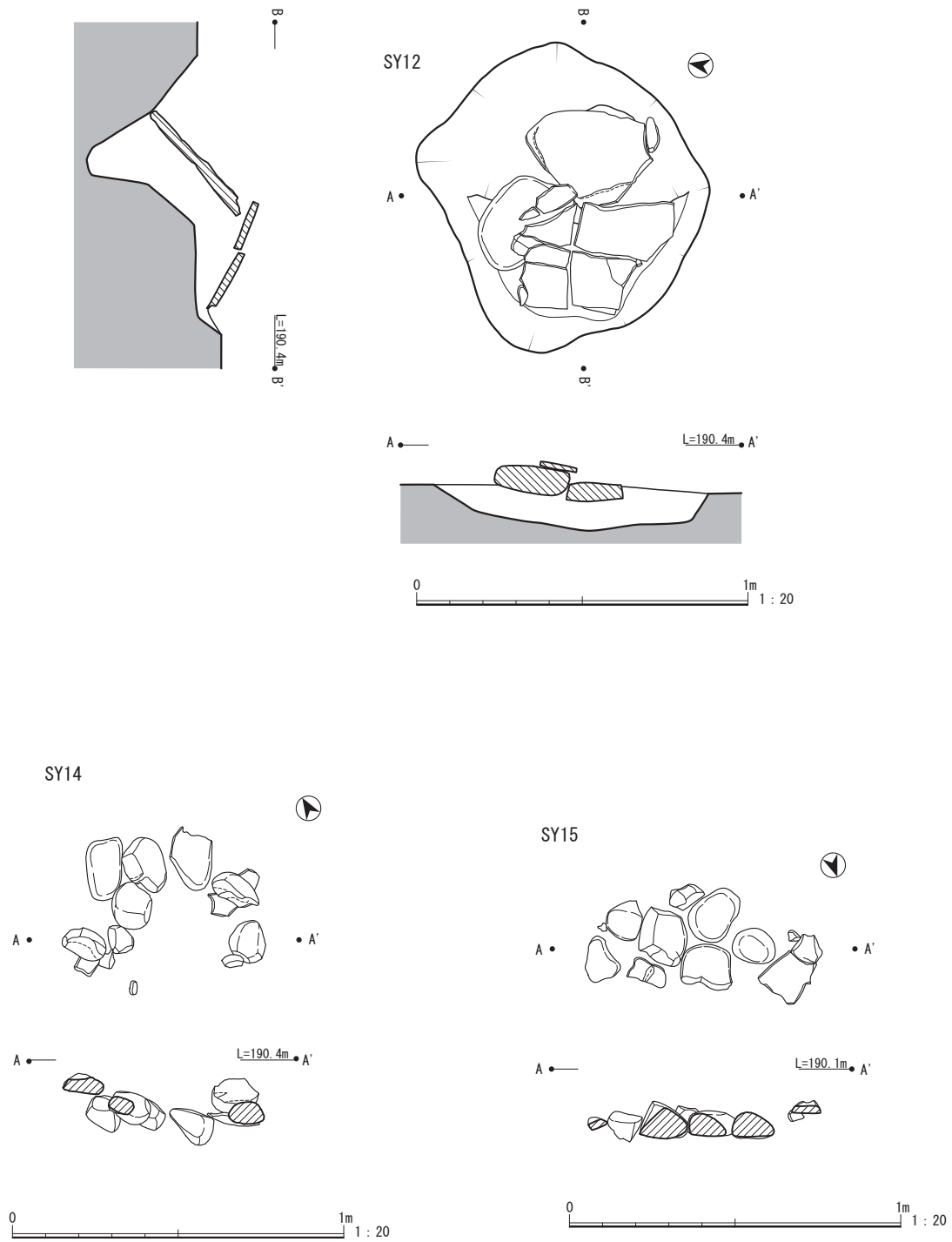
第9図 瀬田狐塚遺跡 遺構配置図及び集石分布図 (1/200)



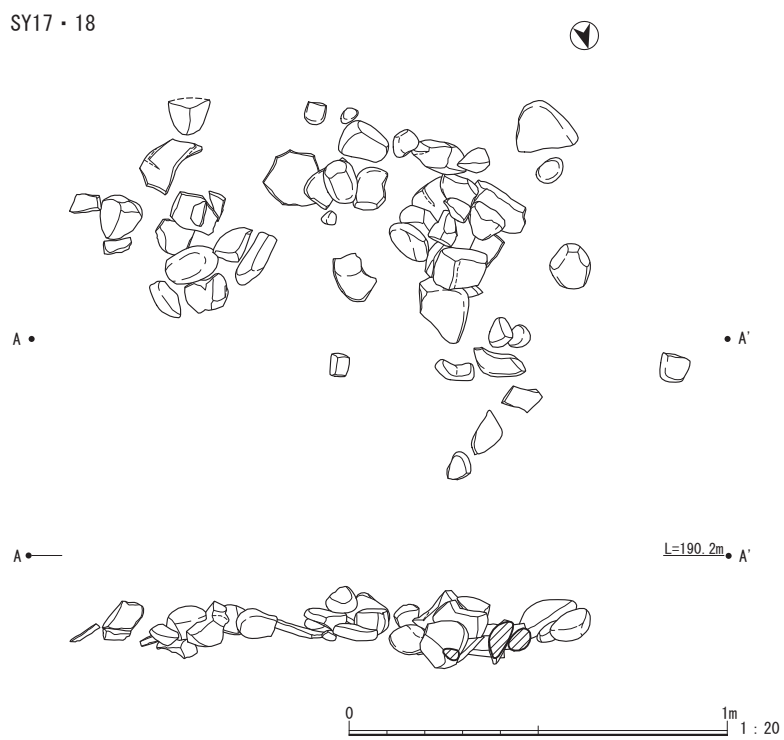
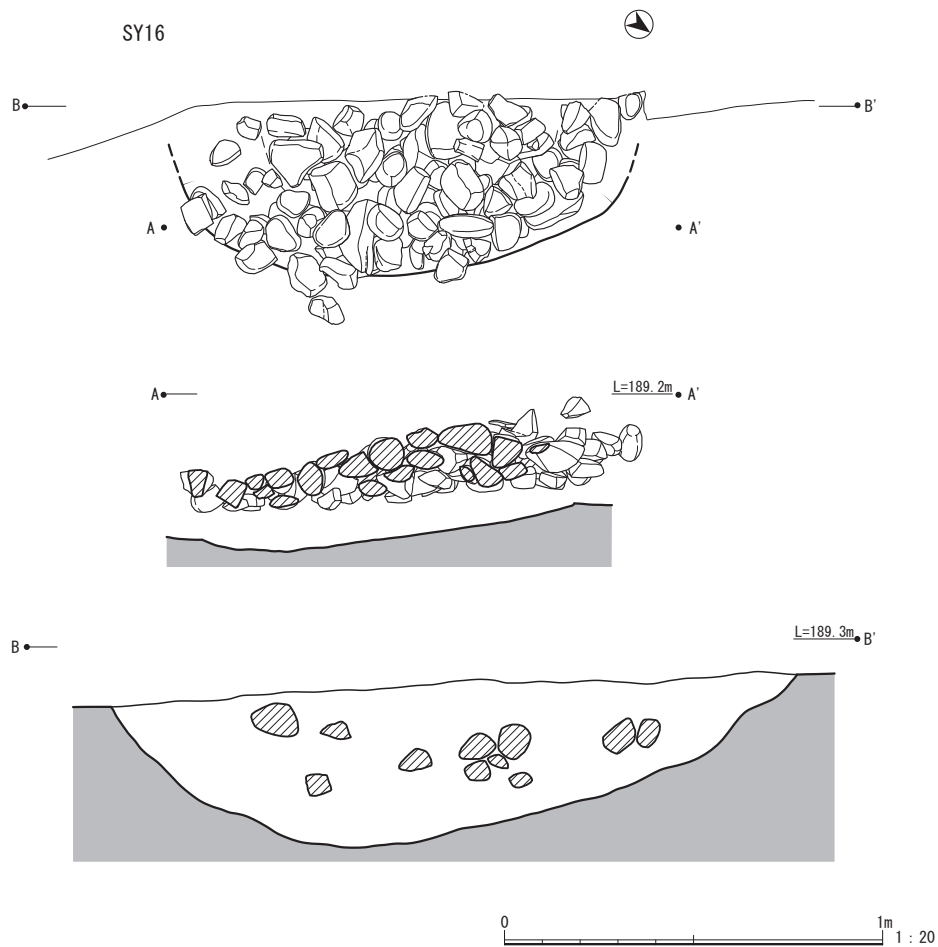
第10図 SY01・02・03・05・06 実測図



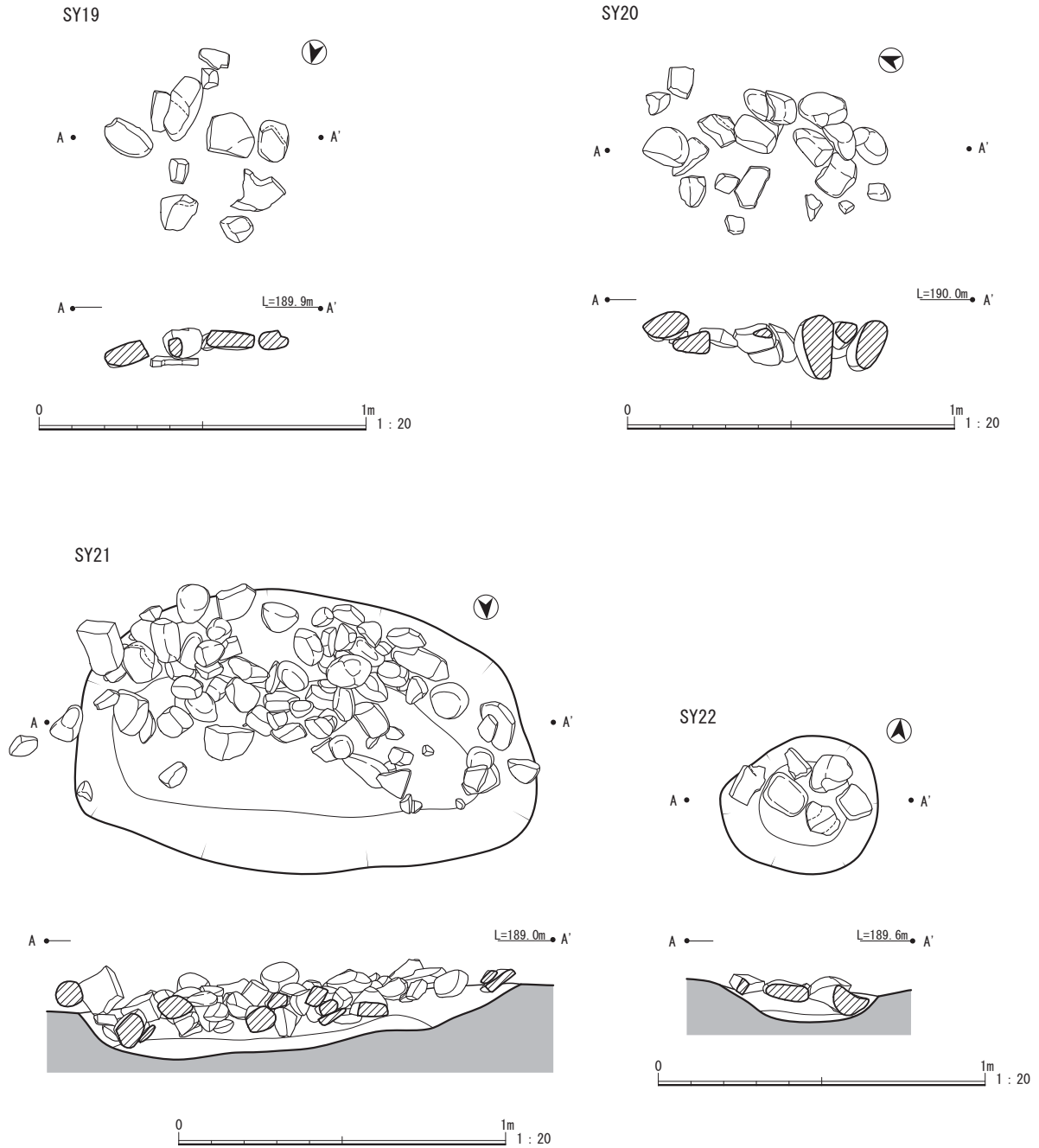
第11図 SY04・08・11・13実測図



第12図 SY12・14・15実測図



第13図 SY16・17・18実測図



第14図 SY19・20・21・22 実測図

3) 土坑

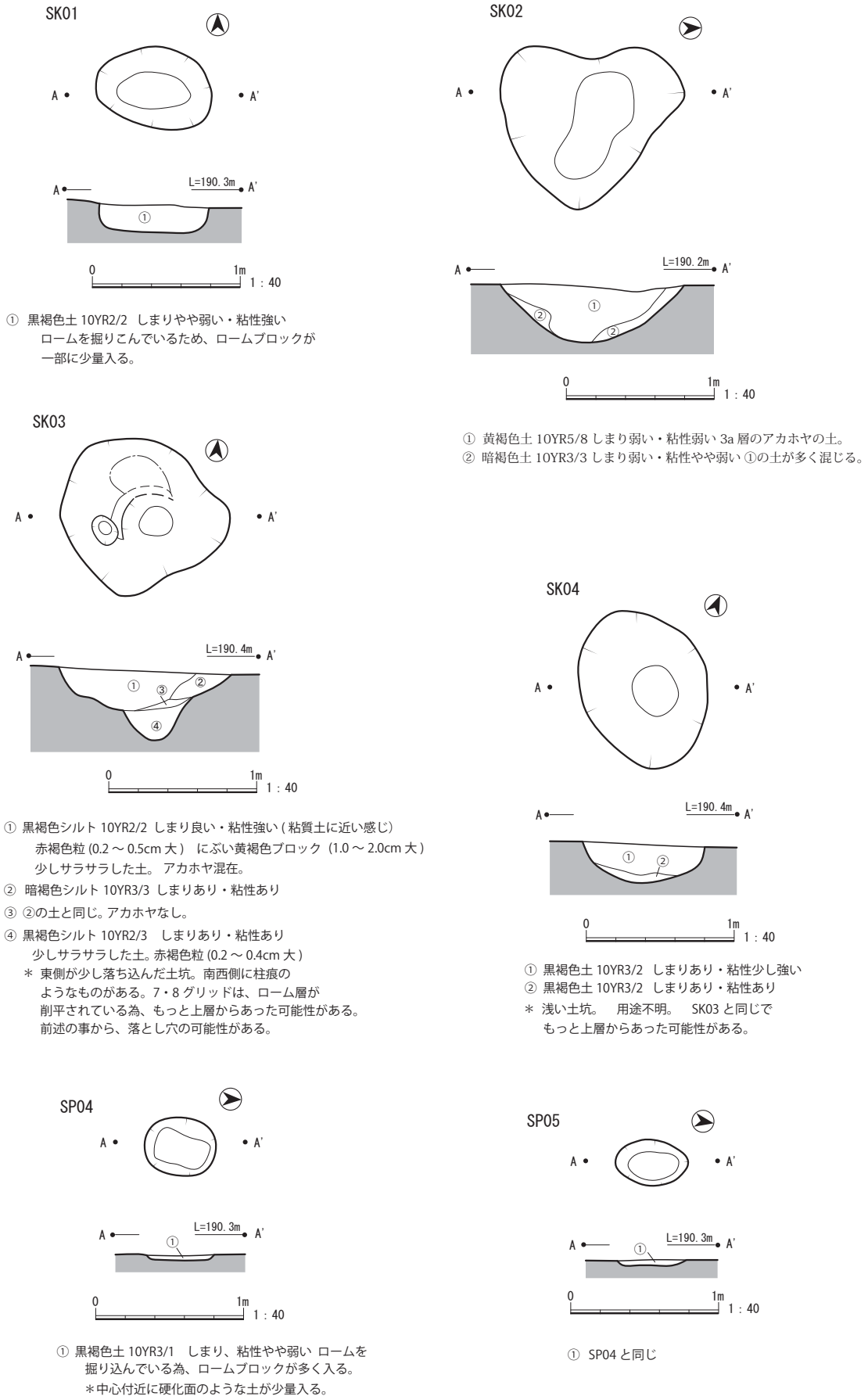
SK01 (第15図)

A- 8グリッドで検出された。長軸約80cm、短軸約60cm、深さ約20cmを測る楕円形の土坑である。4a層で確認した。炭化物、焼土は確認されなかった。埋土中から縄文土器が検出された。

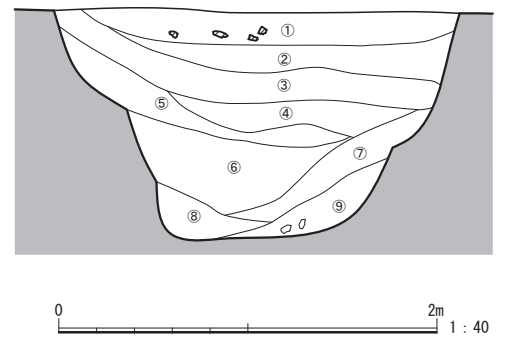
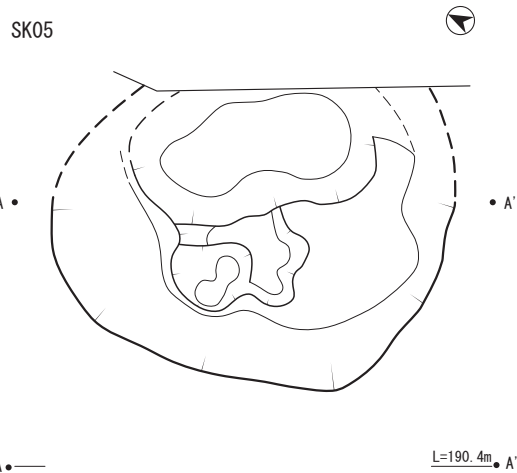
SK02 (第15図)

B- 9グリッドで検出された。直径約121cm、深さ約40cmを測る不整形の土坑である。4b層で確認した。埋土がA h火山灰二次堆積土(3a層)であることや、底面に小穴があることから落とし穴の可能性はある。

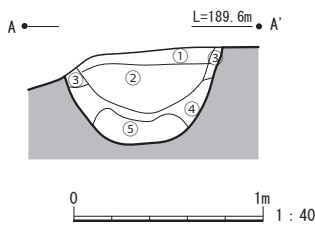
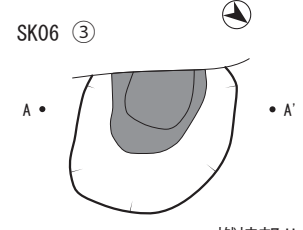
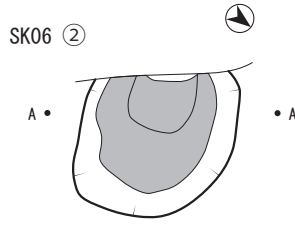
SK03 (第15図)



第 15 図 SK01・02・03・04・SP04・05 実測図



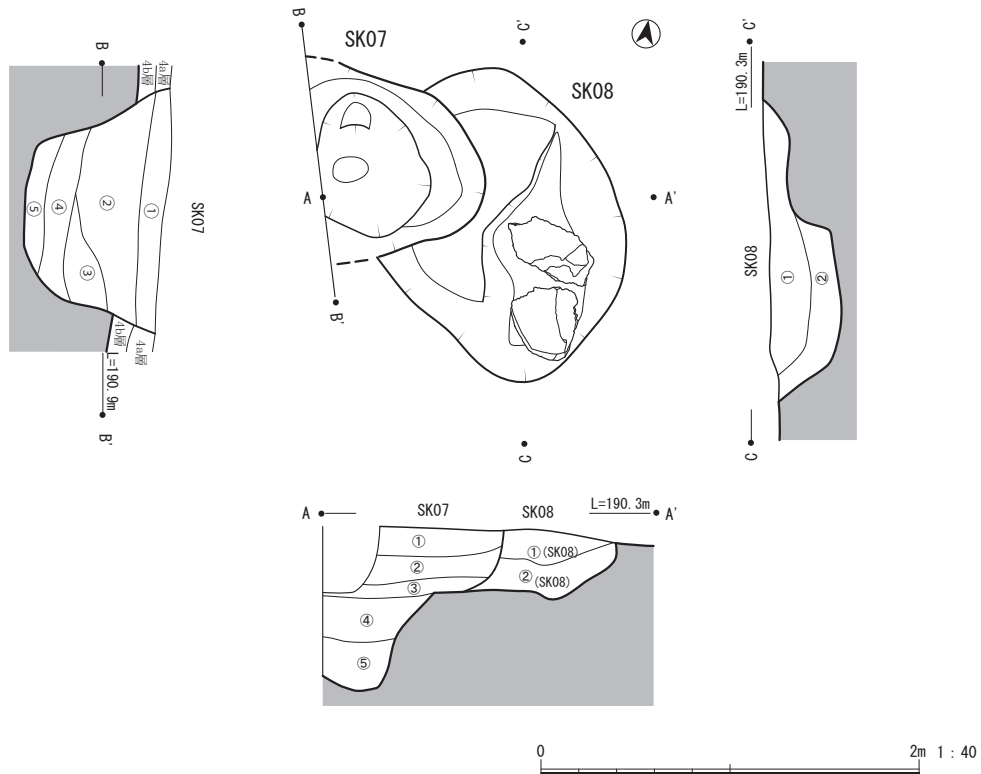
- ① 暗褐色シルト 10YR3/3 しまりあり・粘性あり
焼土粒 (0.5cm 大)。全体に散らばっている。
炭化物ブロック (10cm 大) 炭粒 (0.1 ~ 0.5cm 大)
 - ② 暗褐色シルト 10YR3/4 しまりあり・粘性少し強い
 - ③ 2の土 しまり良い・粘性強い
* 人為的に入れられた土。この上の面で火を使っていた可能性あり。
 - ④ 暗褐色シルト 10YR3/3 しまりあり・粘性あり
にぶい黄褐色土 10YR4/3 粘性強く硬くしまる。
(3.0 ~ 4.0cm 大) 少し含む。
* 上からの流れ込みの土。
 - ⑤ 暗褐色シルト 110YR3/4 しまり少し弱い・粘性少しあり
潰すとサラサラした土。* 上からの流れ込みの土。
 - ⑥ 黒褐色シルト 110YR3/2 しまり少し弱い・粘性あり
潰すとサラサラした土。* 上からの流れ込みの土。
 - ⑦ 黒褐色シルト 110YR2/3 しまり良い・粘性少し強い
 - ⑧ 暗褐色シルト 110YR3/3 しまりあり・粘性あり
潰すとサラサラした土。
 - ⑨ 暗褐色シルト 110YR3/3 しまりあり・粘性あり
底部ににぶい黄褐色土 10YR4/3 (5.0 ~ 7.0 cm 大) あり。
- * SK05の埋土の上層にアカホヤ層がある為、ほぼ現状を留めている。
深さ約1.3mの落とし穴と考えられる。土坑の北西側に杭跡と思われる穴を検出したが、樹根により攪乱されていた。



- ① 暗褐色土 10YR3/4 しまりやや弱い・粘性強い
焼土粒 (0.3 ~ 1.0cm) が多く入る。
- ② 赤褐色土 5Y R4/8 ほぼ焼土で、中に炭化物が入る。燃焼部 I
- ③ 暗褐色土 10YR4/4 しまりやや強い・粘性強い
焼土粒 (0.1 ~ 0.3cm) が少量入る。
- ④ 黒褐色土 10YR2/3 しまりやや弱い・粘性強い
焼土粒 (0.1 ~ 1.0cm) が多く入る。
- ⑤ 明赤褐色土 2.5YR5/8 ガチガチの焼土ブロックが大量に入る。
一部黒褐の土も混る。燃焼部 II

* 燃焼部が二つある炉穴。燃焼部 II を一度埋めた後、もう一度②まで掘り、炉として利用し、燃焼部 I が出来たと考えられる。
* 断面では確認出来なかったが、②の壁と③・④・⑤の壁に硬化面のような黒く硬いブロックが多く入っていた。

第16図 SK05・06 実測図



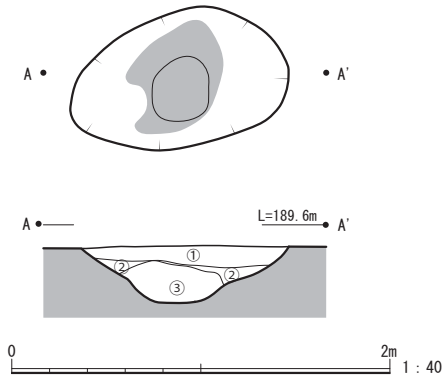
SK07

- ① 黒褐色シルト 10YR2/2 しまりあり・粘性あり にぶい黄褐色ブロック 10YR5/3 (3.0 cm大) 潰すとサラサラした感じの土。
- ② 黒褐色シルト 10YR3/2 しまりあり①よりしまり良い 粘性あり にぶい黄褐色粒 10YR5/3 (0.2～0.5 cm大) 全体に広がる。
焼土粒 (0.2 cm大) 潰すとサラサラした土。
- ③ 黒褐色シルト 10YR3/2 しまりあり・粘性あり 焼土粒 (0.2～0.4 cm大) 土坑北よりに焼土粒 (0.4～1.0cm) が集中している。
炭化物粒 (0.2 cm大)
- ④ 黒褐色シルト 10YR2/3 しまり少し弱い・粘性少しあり 潰すとサラサラした土 (きめが細かい)
- ⑤ ④と同じ土 ソフトロームのブロック (2.0～4.0 cm大) が少し混在している。
- ⑥ 黒褐色シルト 10YR3/2 しまりあり・粘性少し強い アカホヤ少し混在。
- ⑦ ①よりも粘性あり

SK08

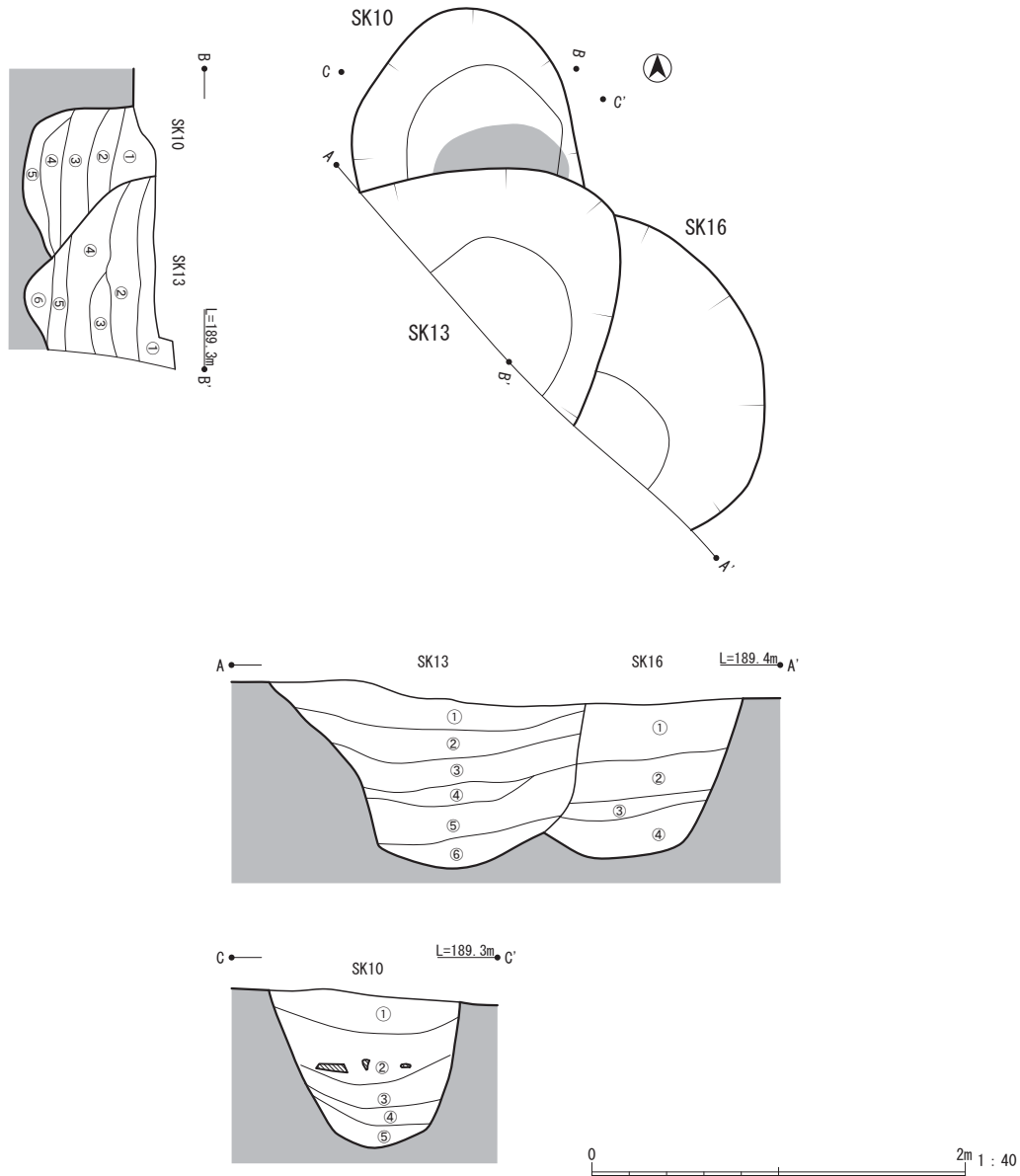
- ① 黒褐色土 10YR2/2 しまりやや強い・粘性やや弱い ロームブロック (1.0～4.0cm) が少量入る。
- ② 黒褐色土 10YR2/2

SK09



- ① 黒褐色土 10YR2/3 しまりやや強い・粘性強い 焼土。炭化物 (0.3～1.0cm) が多く入る。
- ② 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや弱い・粘性強い 焼土。炭化物 (0.3～1.0cm) が少量入る。
- ③ 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや弱い・粘性やや強い 焼土。炭化物 (0.3～1.0cm) が大量に入。 燃焼部。

第 17 図 SK07・08・09 実測図



SK10

- ① 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや強い・粘性強い 焼土粒 (0.3～1.0cm)。炭化物 (0.3～1.0cm) を少量含む。
- ② 黒褐色土 10YR2/3 しまりやや弱い・粘性強い ロームブロック (1.0～2.0cm) を少量含む。礫が複数入る。(被熱なし)
- ③ 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや弱い・粘性強い ロームブロック (1.0～2.0cm)。焼土。炭化物 (0.3～0.5cm) を少量含む。
- ④ 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや弱い・粘性強い 焼土。炭化物 (0.3～2.0cm) を大量に含む。燃焼部か？
- ⑤ 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや弱い・粘性強い 焼土。炭化物 (0.3～2.0cm) を大量に含む。

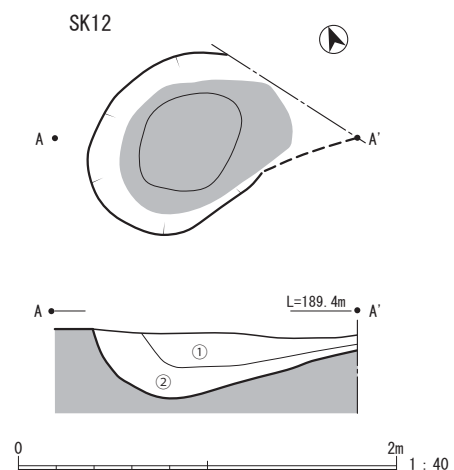
SK13

- ① 黒褐色土 10YR3/2 しまりあり・粘性あり 少しさらさらした土。
- ② 黒褐粘質土 10YR2/2 しまりやや強い・粘性強い 焼土粒 (0.2～0.5cm 大) ローム褐色土ブロック (1.0～4.0cm) 大
- ③ 暗褐色粘質土 10YR3/3 とにぶい黄褐色粘質土 10YR4/3 が混在
しまり強い・粘性強い 焼土粒 (0.2～0.3cm 大) 一部に集中。炭化物 (0.2～0.5cm 大)
- ④ 黒褐粘質土 10YR2/2 しまり強い・粘性強い 焼土粒 (0.2～1.0cm 大)
- ⑤ ③と同じ 褐色土は少ない
- ⑥ 暗褐色粘質土 10YR3/4 しまり強い・粘性強い

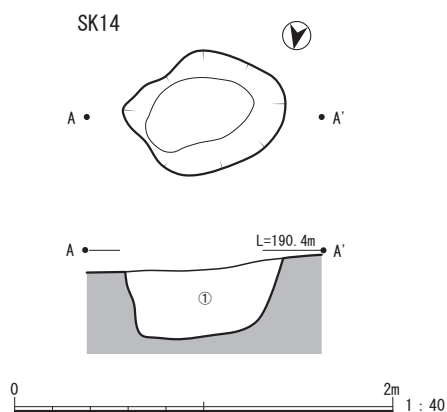
SK16

- ① 暗褐色土 10YR2/3 しまりやや弱い・粘性強い 焼土粒 (0.3～0.1cm) を少量含む。
- ② 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや弱い・粘性強い 焼土粒 (0.3～0.1cm) を少量含む。
- ③ 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや弱い・粘性強い 焼土粒 (0.3～0.1cm) を多く含む。
- ④ 暗褐色土 10YR2/3 しまりやや強い・粘性強い 焼土粒 ロームブロック (0.3～3.0cm) を多く含む。

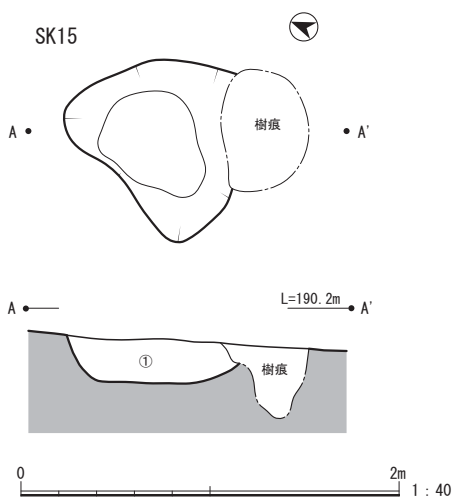
第18図 SK10・13・16 実測図



- ① 黒褐色土 10YR2/3 しまりやや強い・粘性強い
焼土チップ炭化物少し入る。
- ② にぶい赤褐色土 5YR4/4 しまり弱い・粘性弱い
焼土のかたまりが見られるが、
ガチガチでなく、細かい粒状に入っている。
粒がないところは、①の土が入る。



- ① 暗褐色シルト 10YR3/3 しまり少し弱い・粘性少しあり
きめの細かい土（潰すとサラサラな感じ）



- ① 暗褐色土 10YR3/3 しまりやや強い・粘性強い

第19図 SK12・14・15 実測図

A,B- 8 グリッドで検出された。直径約 116cm、深さ約 46cmを測る不整形の土坑である。4b 層で確認した。炭化物、焼土などは確認されなかった。

SK04 (第 15 図)

A-8 グリッドで検出された。長軸約 110cm、短軸約 83cm、深さ約 23cmを測る不整形の土坑である。4b 層で確認した。炭化物、焼土などは確認されなかった。

SK08 (第 17 図)

A,B-8,9 グリッドで検出された。長軸約 165cm、短軸約 122cm、深さ約 40cmを測る不整形の土坑である。大きな板状の礫が 2 つ出土した。東側に隣接して SY12 が検出された。SY12 より深い。断面見通しは時間がないため作成できなかった。

SK14 (第 19 図)

B-7 グリッドで検出された。長軸約 83cm、短軸約 61cm、深さ約 38cmを測る不整形の土坑である。4b 層で確認された。

SK15 (第 19 図)

B-7 グリッドで検出された。長軸約 94cm、短軸約 82cm、深さ約 24cmを測る不整形の土坑である。4b 層で確認された。

4) 炉穴

SK05 (第 16 図)

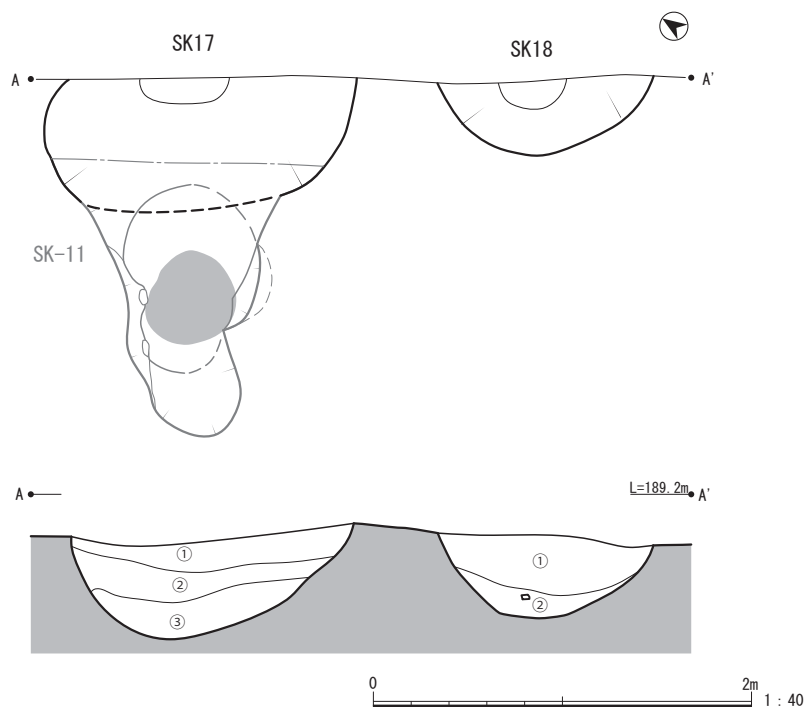
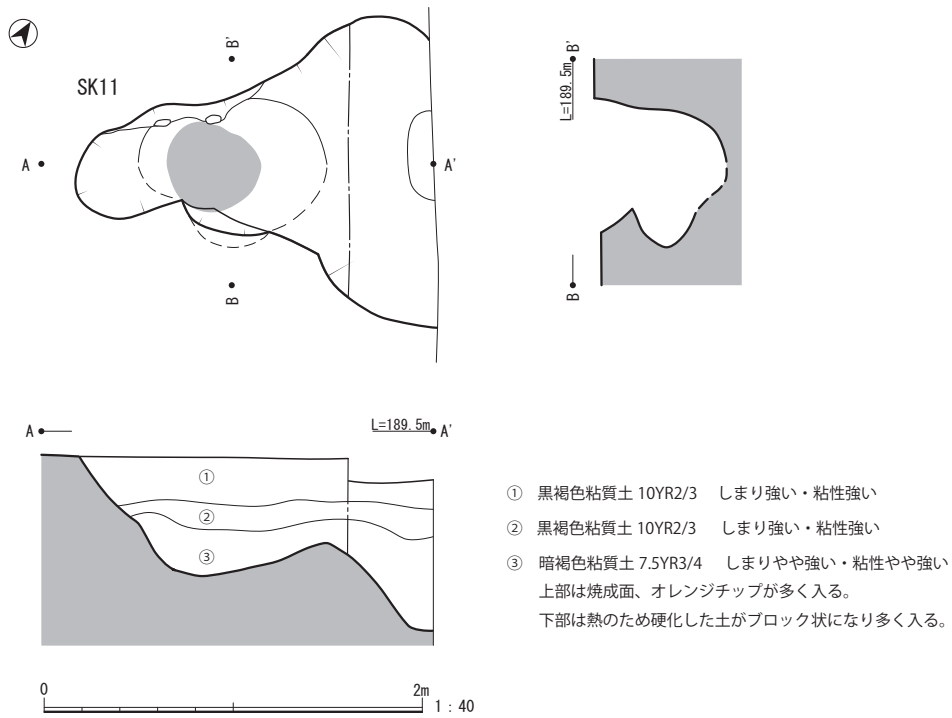
B-8 グリッドで検出された。直径約 218cm、深さ約 120cmを測る不整形の土坑である。上層から焼土粒と炭化物が検出された。4b 層で確認された。

SK06 (第 16 図)

D12,13 グリッドの 4b 層で確認された。長軸は推定約 100cm、短軸約 80cm、深さ約 48cmを測る楕円形を呈する土坑である。4 層上面から 20～30cm下で検出された。床面に明赤褐色をしたガチガチの焼土塊（⑤層）が多量に確認され（燃焼部Ⅱ）、また、中位面（②層）赤褐色を呈する炭化物を含む焼土が検出された（燃焼部Ⅰ）。焼土、炭化物等の堆積状況から清掃、修復等を繰り返し使用されたことが推定される。

SK07 (第 17 図)

A,B-8,9 グリッドで検出された。直径約 100cm、深さ約 83cmを測る不整形の土坑である。土坑の西



SK17

- ① 黒褐色粘質土 10YR2/3 しまり強い・粘性強い 焼土チップが少し入る。
- ② 暗褐色粘質土 10YR3/3 しまり強い・粘性強い 左側に焼土が入り、土色がやや赤みがる。一部ロームが入る
- ③ 暗褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い・粘性強い 左側、焼土と炭化物多く残る。下部は、黒褐色のブロックが入る。

SK18

- ① 暗褐色粘質土 10YR3/3 しまり強い・粘性強い 左側上部に、焼土のちらばりが入る。
- ② 暗褐色粘質土 10YR3/3 しまり強い・粘性強い 左右両すみに、焼土が残る。下部は、黒褐色のブロックが入る。

第20図 SK11・17・18 実測図

側は調査区外に延びる。4a層上面で確認した。埋土層の中位面(②、③層)に焼土粒が集中。焼成部は確認できなかった。中央部が一段下がる。SK08を切っている。4b層で確認された。

SK09 (第17図)

D-12グリッドで検出された。長軸約110cm、短軸約76cm、深さ約30cmを測る楕円形を呈する土坑である。4a層上面から20～30cm下の4b層で検出され、皿上に掘り込まれている。土坑床面(③層)から多量の炭化物、焼土が検出された(燃焼部)。

SK10 (第18図)

D,E-13グリッドで検出された。SK13に切られ、南側半分の形状は不明である。長軸は82cm以上、短軸約120cm、深さ約76cmを測る楕円形を呈する土坑である。4層上面から20～30cm下の4b層で検出した。土坑床面(④、⑤層)に多量の焼土、炭化物が堆積する。

SK11 (第20図)

D-11,12グリッドの4b層で検出された。東側でSK17と隣接する。土坑床面は、受熱により赤化し硬くなっている。中位層(②、③上層)で焼土の塊を検出した。SK17と同一の遺構である可能性が考えられる。

SK12 (第19図)

D-12グリッドの4b層で検出された。長軸約100cm以上、短軸約80cm、深さ約36cmを測る楕円形の土坑である。上層から焼土粒と炭化物が検出された。

SK13 (第18図)

D,E-13グリッドの4b層で検出された。SK10,16を切っている。掘り込み面は、SK10よりも上層からである。また、何度かの時期にかけて使われた痕跡あり。焼土などを掻きだし、繰り返し使用したと考えられる。SK10の焼成部は、SK13の初期のものより下層に確認。よく焼きしまっている。

SK16 (第18図)

E-13,14グリッドで検出された。SK13に切られ南西側は調査区外であり、全体の1/3程度を確認した。4a層上面から20～30cm下の4b層で検出した。埋土中に焼土粒を含む。

SK17 (第20図)

D-11,12グリッドの4b層で検出された。直径約162cm、深さ約50cmを測る不整形の土坑である。東側の1/2は調査区外に位置する。西側でSK11と接するが、切り合い関係にあるのか、同一の土坑であるのかは判然としない。埋土には焼土と炭化物が含まれる。

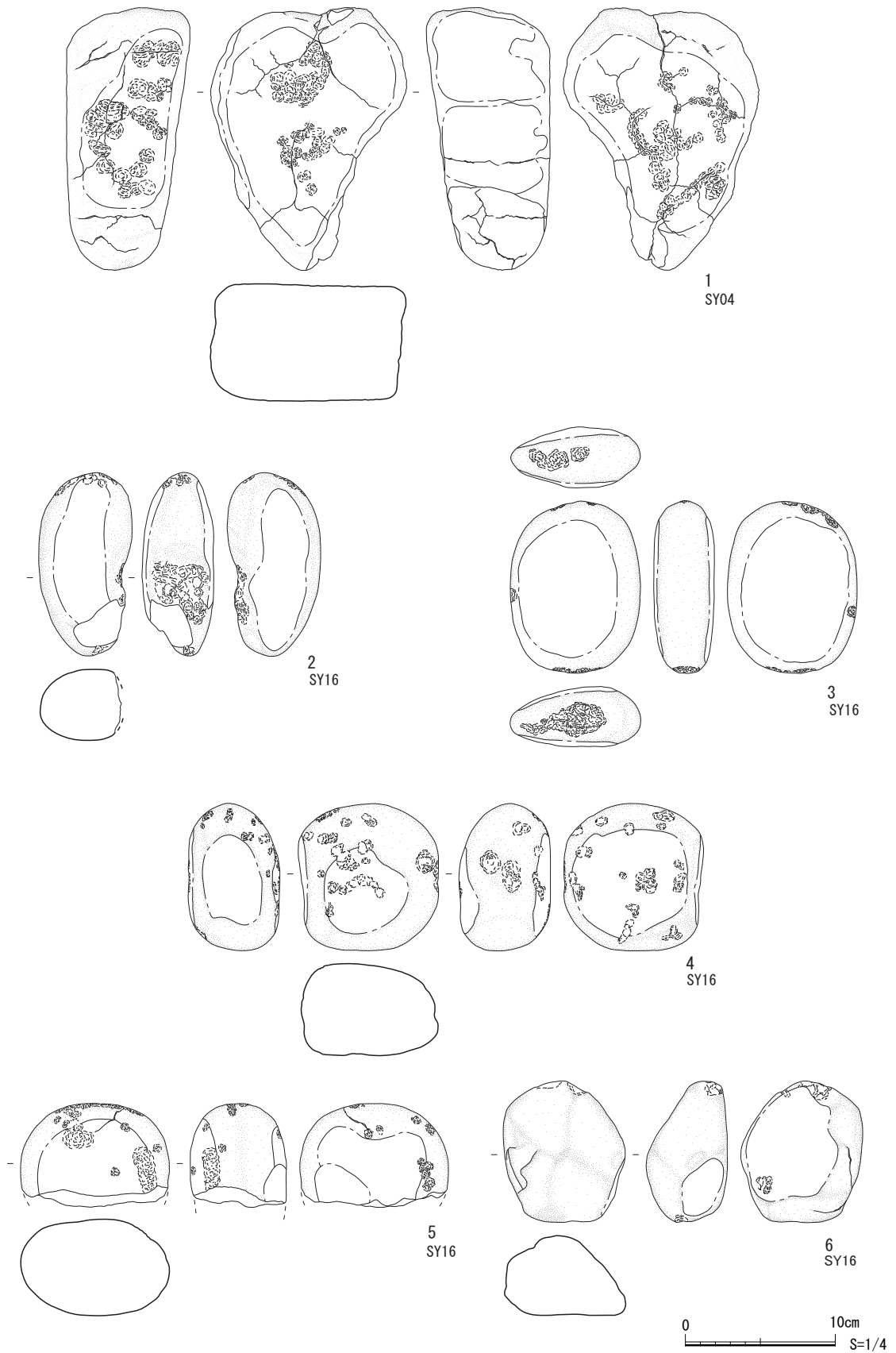
SK18 (第20図)

D-11,12グリッドの4b層で検出された。直径約110cm、深さ約42cmを測る円形の土坑である。東側の2/3は調査区外に位置する。埋土には焼土と炭化物が含まれる。

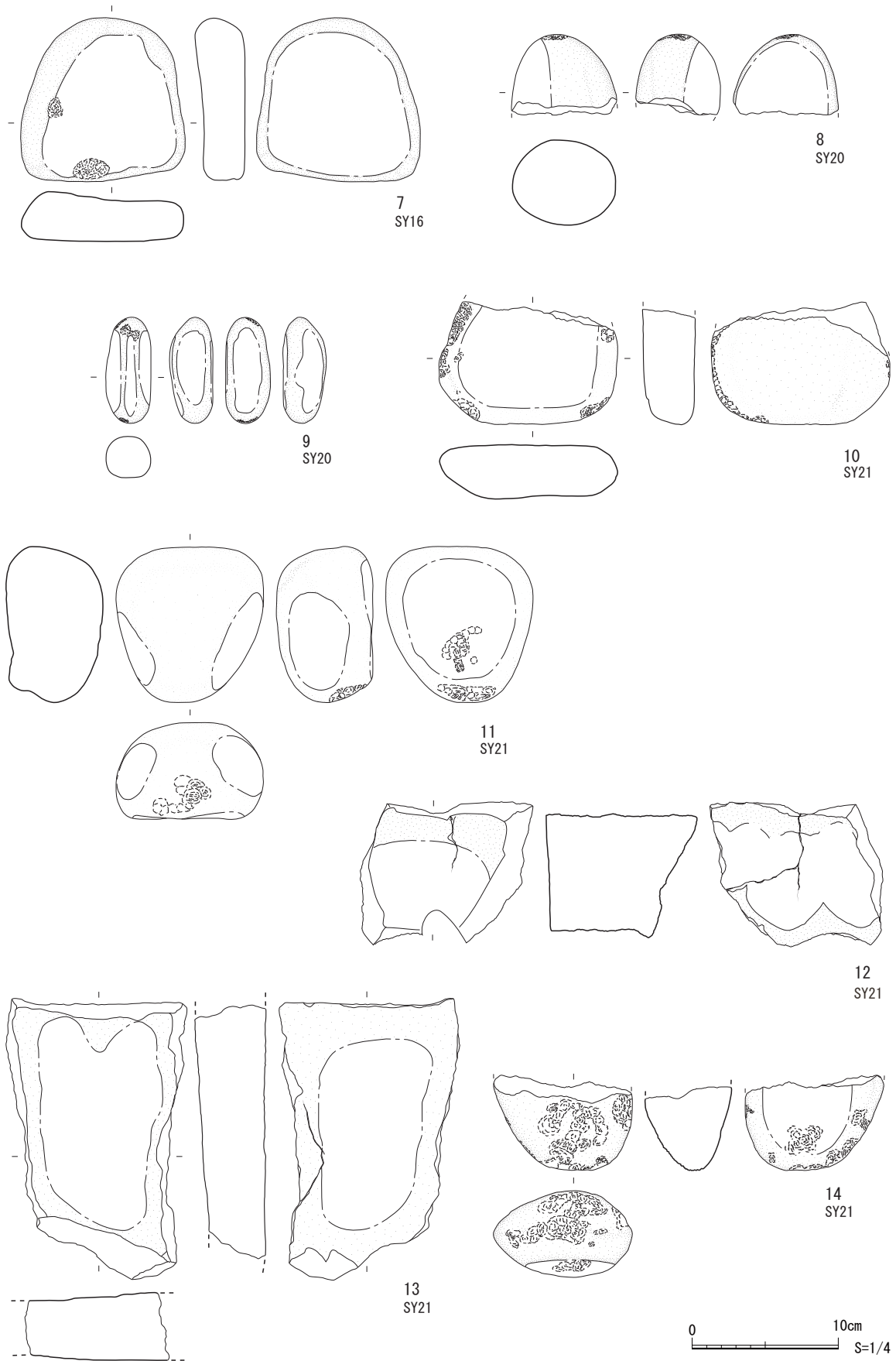
5) その他の遺構

SP04,05 (第15図)

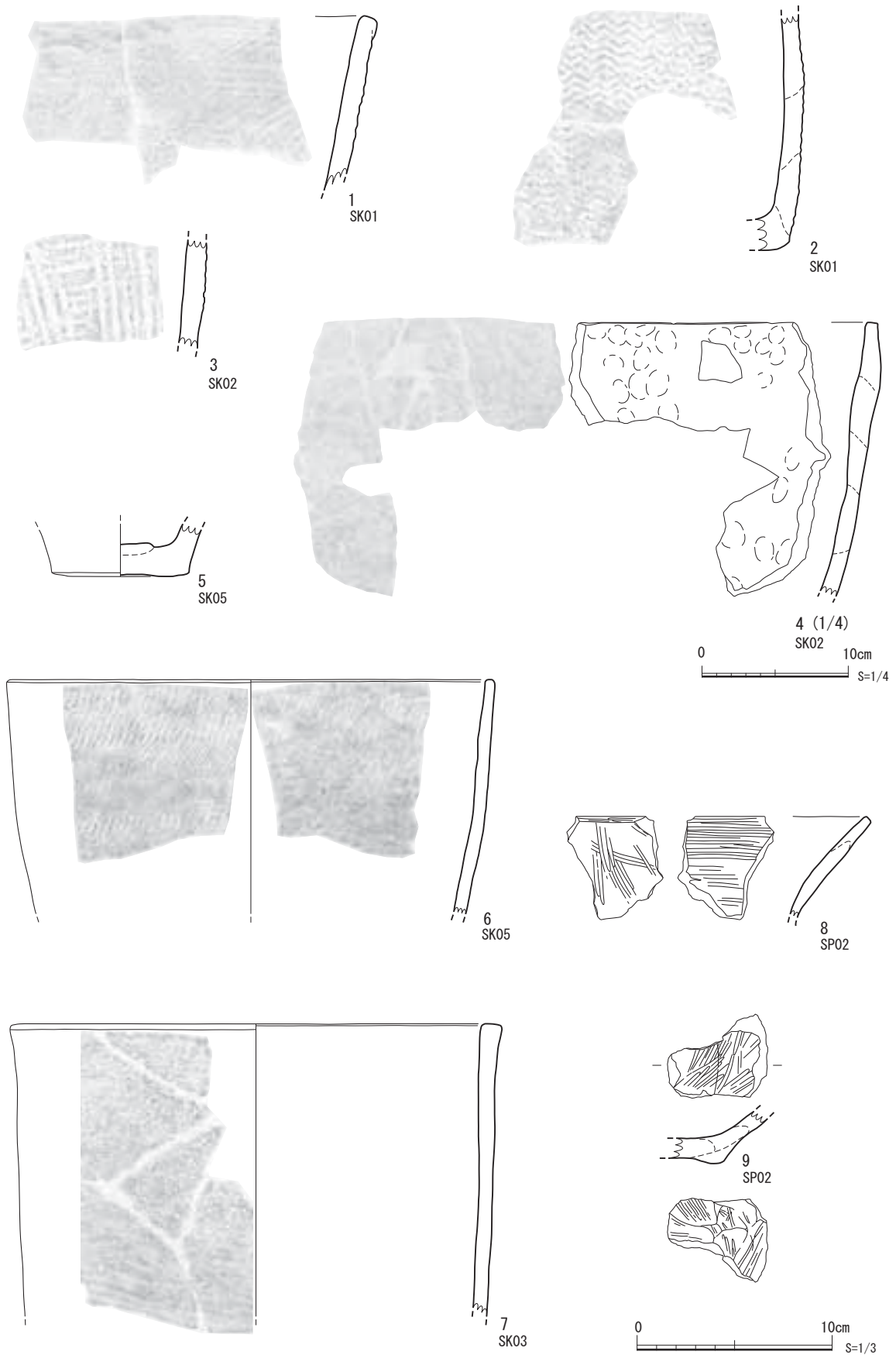
A-8グリッドの4a層上面で確認された。SP04は、直径約50cm、深さ約5cmを測る。SP05は、長軸約50cm、短軸約30cm、深さ約7cmを測る。



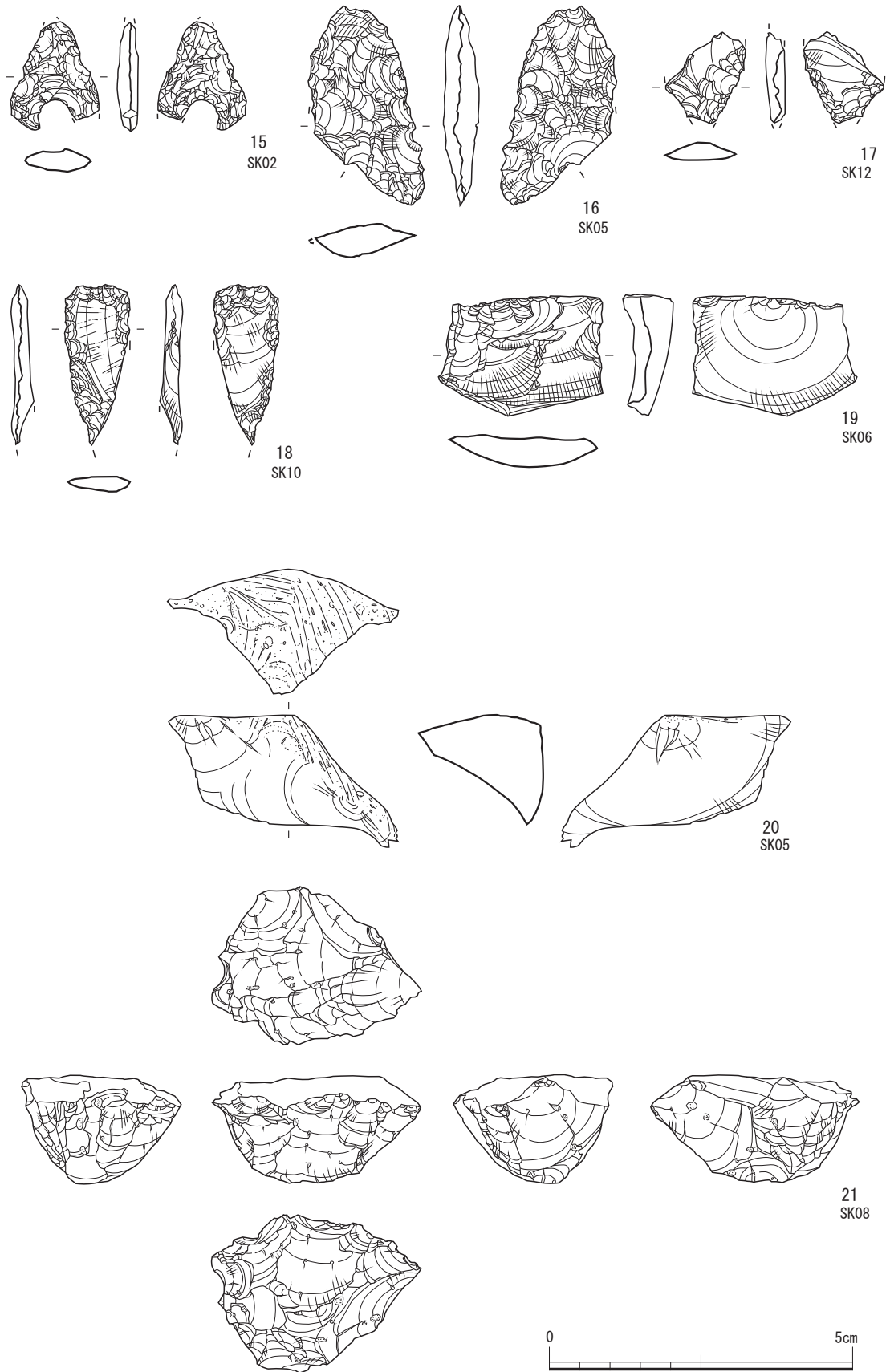
第 21 図 SY04・16 出土石器実測図



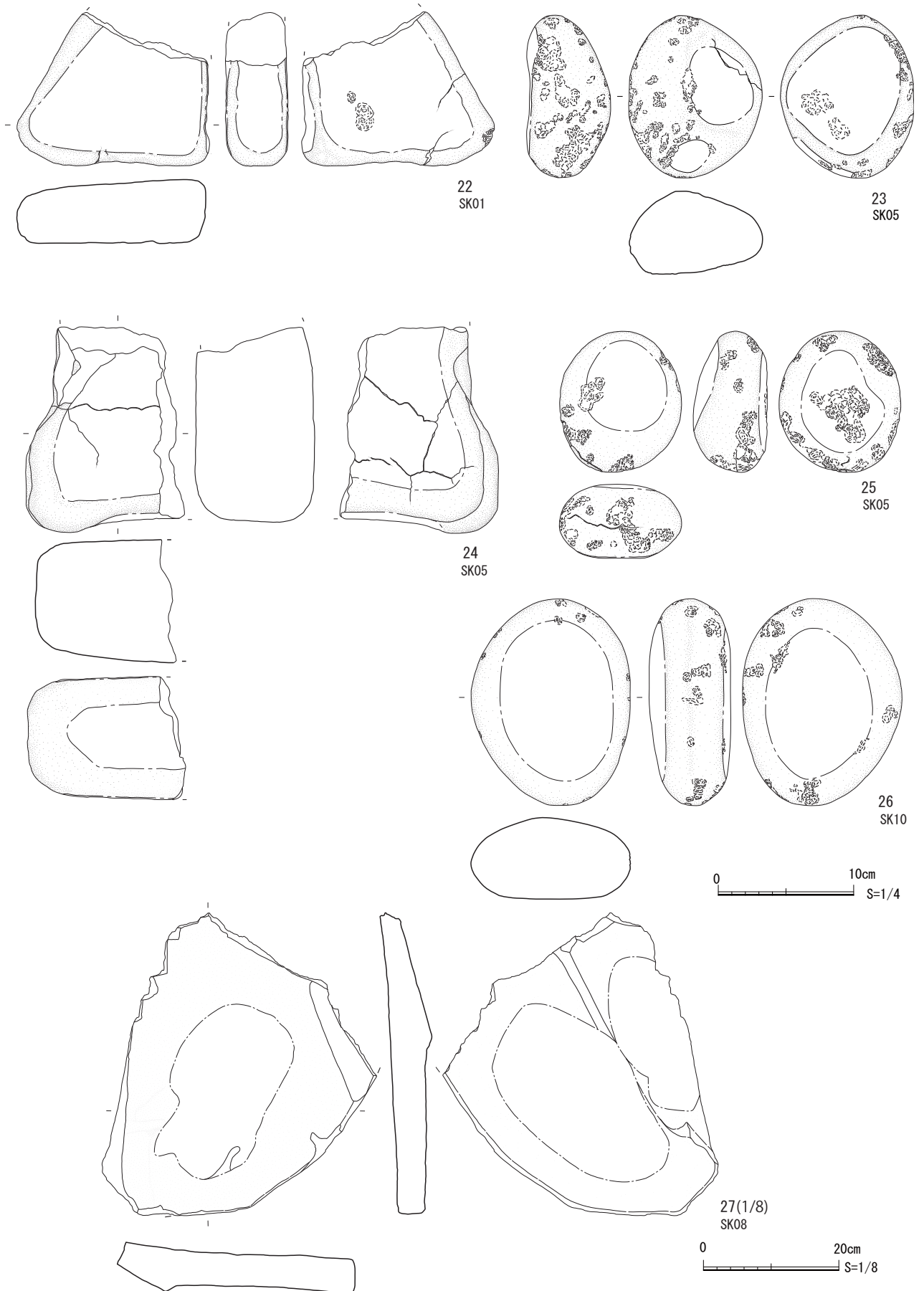
第22図 SY16・20・21 出土石器実測図



第23図 SK01・02・03・05・SP02 出土遺物実測図



第 24 図 SK02・05・06・08・10・12 出土石器実測図



第25図 SK01・05・08・10出土石器実測図

第2節 3a層出土の土器・石器

1) 土器について

当該層位は、アカホヤ火山灰に起因する火山ガラスを含有する。色調は暗褐色土を呈し、やや暗く濁る。黄褐色を呈するプライマリーな火山灰は北区の一部で認められるのみで、遺物が出土した南区では確認されない。アカホヤ火山灰層の二次的堆積状況と考えられる。

出土した土器については、全体形が復元できる資料は認められない。そのため出土資料のうち量的にまとまっている押型文土器について、口縁部の形状や文様の種類と粗密、施文の方向等の観察に基づき特徴の把握を行うことにする。

口縁部の形態による観察では、直口するもの（11, 15）、外傾するもの（10, 12, 14）に分類できる。これらの資料を文様の種類と粗密や施文の方向等から概観すると、直口するものには山形文と格子目文のみで楕円文は認められず、外傾するものには、楕円文・山形文が認められバラエティに富む。また、直口するものには器壁が厚く円筒形をする可能性が指摘できる土器が認められる。

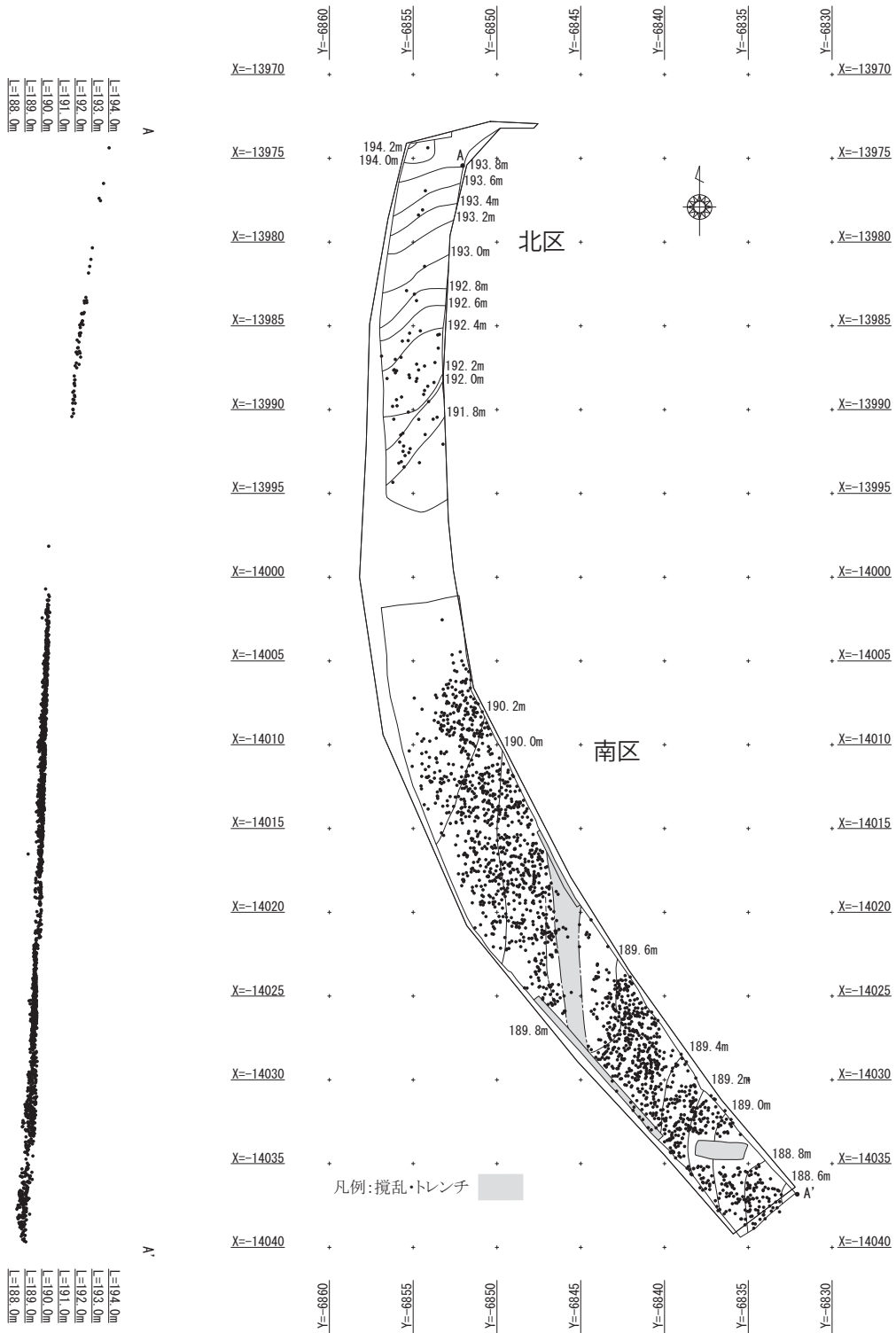
しかし、これらの押型文土器と併せて、20～23のように早期以降の土器群も混在しており、早期の土器群についてはプライマリーな状態ではなく下層からの浮き上がりによる混在であると考えられる。

2) 石器について

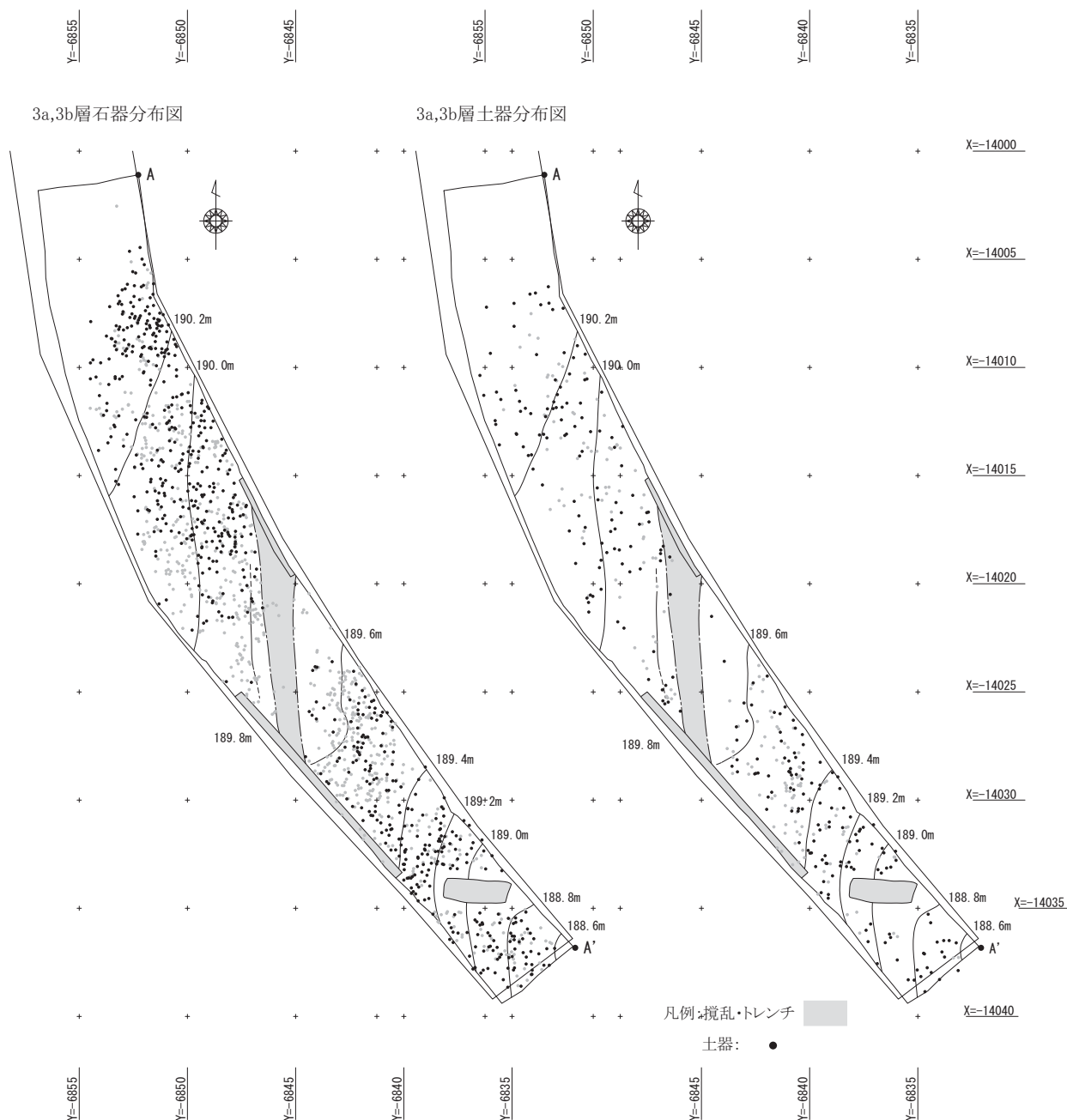
当該層位から出土した石器類は、石鏃・搔器・尖頭状石器・二次加工ある石器・使用痕ある剥片・石核・剥片・碎片・磨石・敲石・石皿・台石である。これらのうち加工痕のある石器類を中心に図示した。

磨石・敲石・石皿・台石を除く剥片石器類の使用石材は、黒曜石・チャート・安山岩である。西北九州産の黒曜石を除けば、在地産石材を多用する傾向が窺える。

石鏃の形態的特徴にはバラエティが認められる。抉入部の作り出しの形状が確認できる資料（28～31、34～37）の中で、深浅の差はあるものの大まかにはU字形をなすもの（30, 31, 34～36）が主体を占める。これらは、早期の“鋏型鏃”と類似した形態的特徴をもつが、概して二次加工は粗い。尖頭状石器とした38, 39は、表裏面とも周縁から大まかな剥離が施され形状を整えている。石鏃の未完成品である可能性が指摘できる。二次加工ある石器とした41は、表裏面とも周縁から大まかな剥離が施され形状を整えている。石器上部を大きく欠失しているが、石鏃もしくは石鏃の未完成品と考えられる。44は、右半分を欠失するが表裏面とも素材剥片の剥離面を大きく残し、周縁に細かなリタッチが施され、抉入の作り出しも認められることから石鏃の可能性が高い。42は周縁に細かなリタッチが施され、長軸下端に左右両側に挟りが施され、石匙の摘み部に類似する。



第26図 瀬田狐塚遺跡 遺物全点上げ分布図 (1/400)



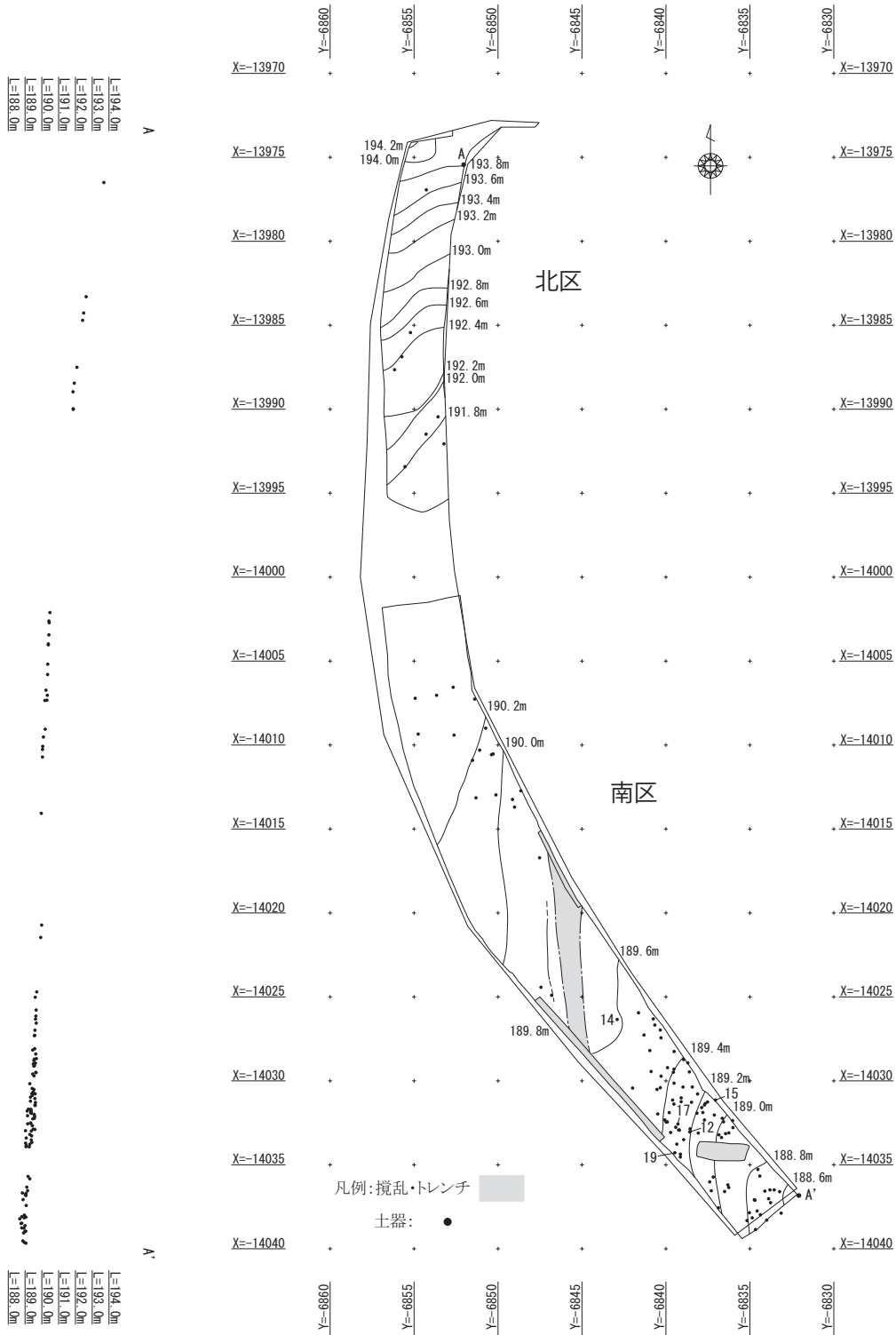
3a,3b層石器垂直分布図



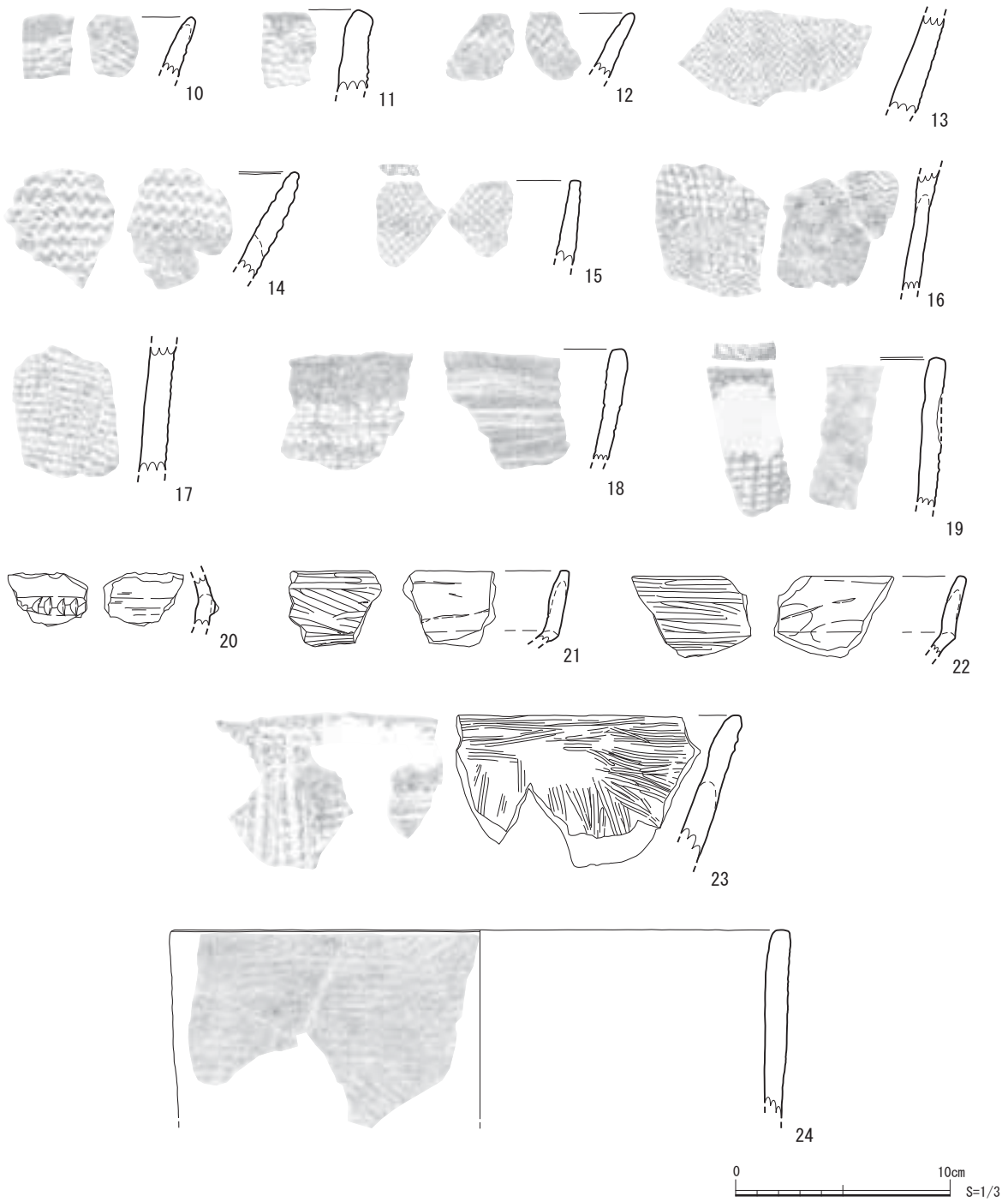
3a,3b層土器垂直分布図



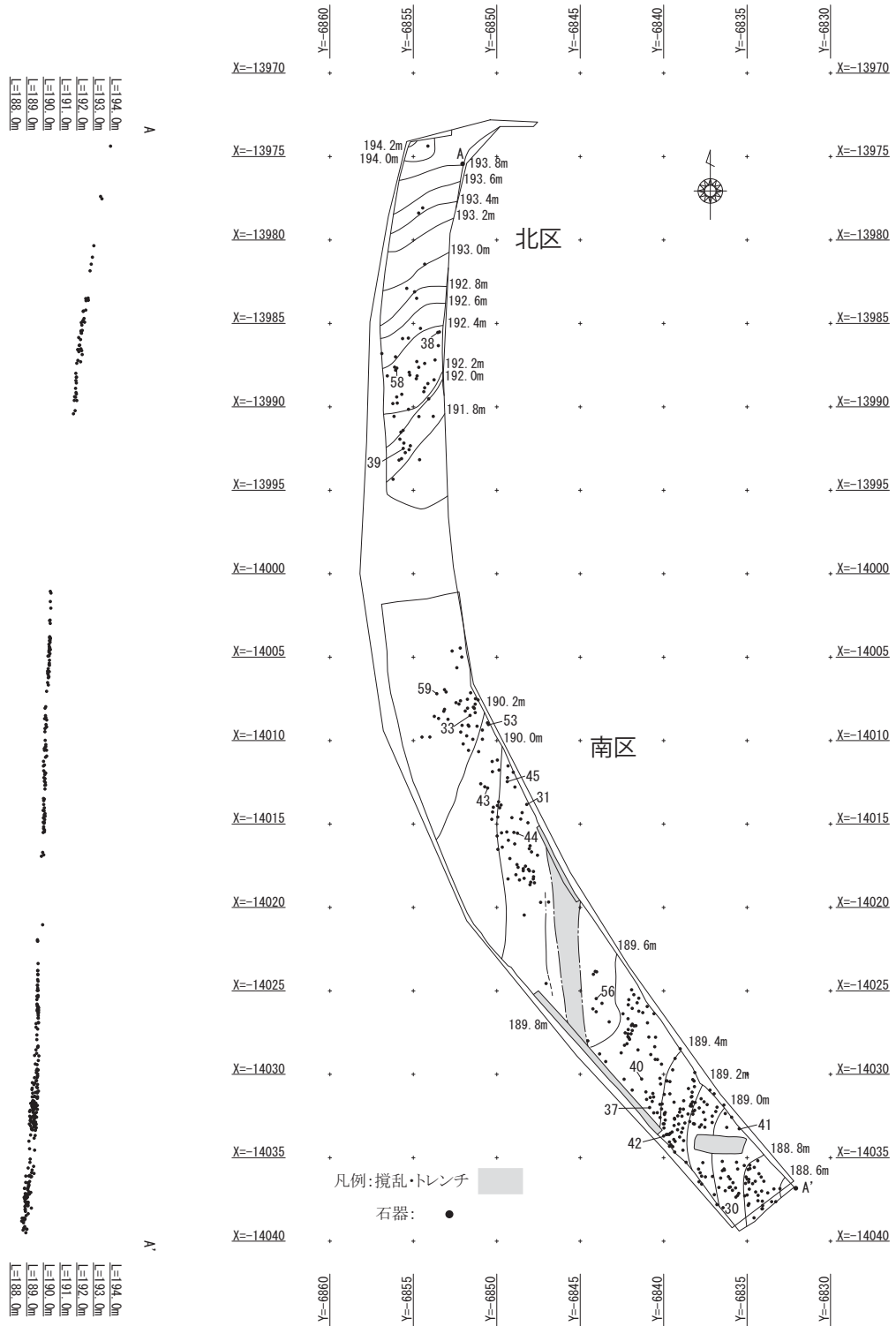
第 27 図 3a・3b層土器・石器分布図 (1/300)



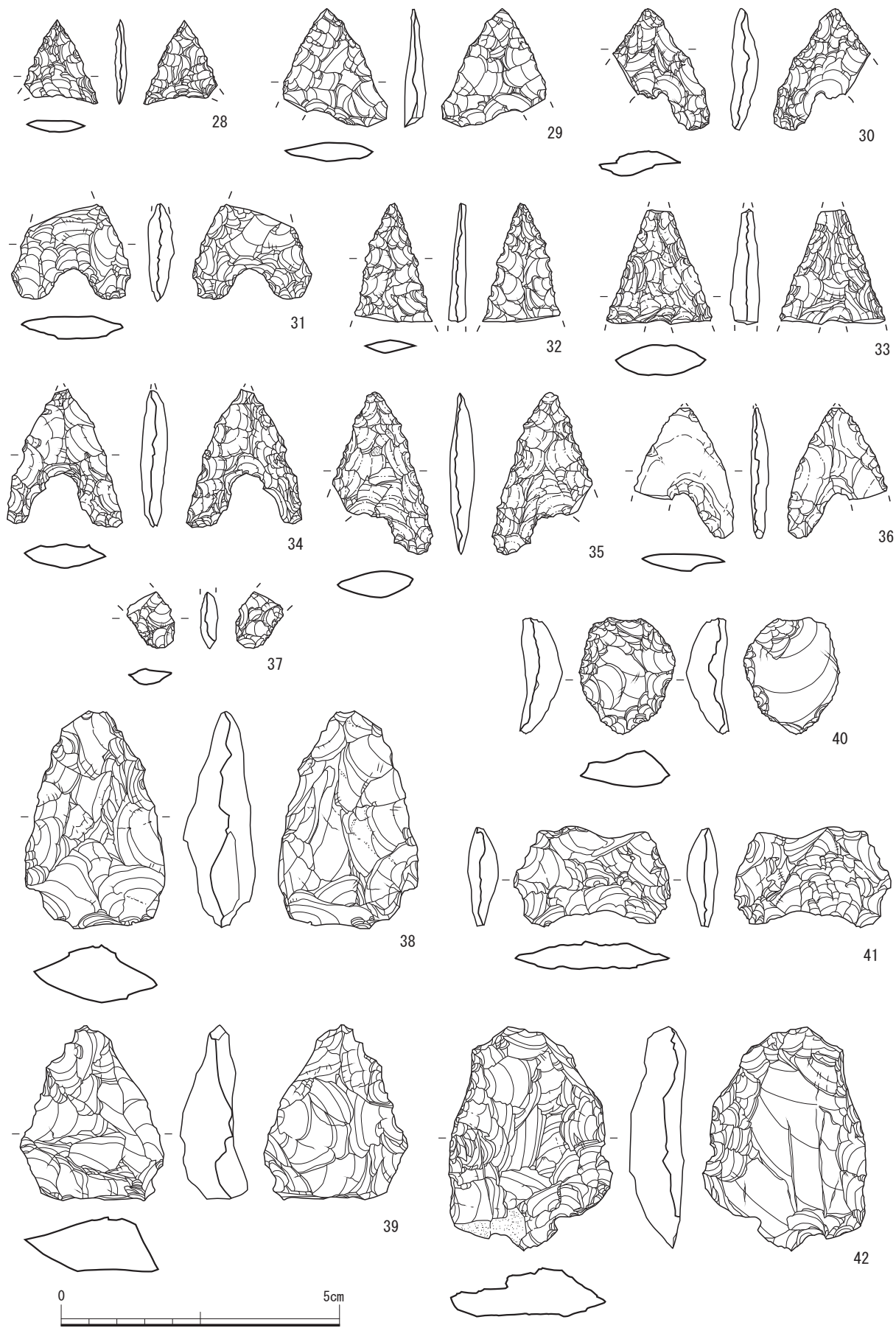
第28図 瀬田狐塚遺跡 3a層土器 (1/400)



第29図 3a層出土遺物実測図



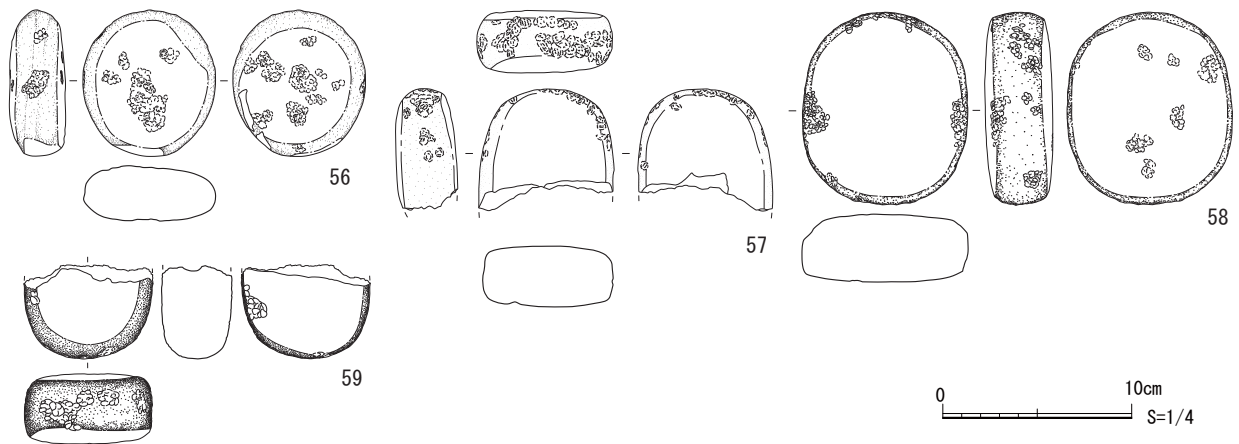
第30図 瀬田狐塚遺跡 3a層石器 (1/400)



第 31 図 3a 層出土石器実測図 - ①



第32図 3a層出土石器実測図-②



第33図 3a層出土石器実測図 - ③

第3節 3b層出土の土器・石器

1) 土器について

当該層位はアカホヤ火山灰二次堆積層の下位に位置し、色調は黒褐色を呈する。当該層位から出土した土器には、全体形が復元できる資料は認められなかった。そこで、出土資料のうち量的にまとまっている押型文土器について、口縁部の形状や文様の種類と粗密、施文の方向等の観察に基づき特徴の把握を行うことにする。

口縁部の形態による観察では、直口するものは認められず、外傾するもの(28)、外反するもの(25, 30, 31)、内傾するもの(32)で構成される。また、外反するものの中には口縁部直下でしゃくれ気味に外反するもの(28)が含まれ、内傾するものと併せて特徴的な形態を示し、両者とも口縁部直下に無文帯をもつ。

これらの資料を文様の種類と粗密や施文の方向等から概観すれば、外反するものには楕円文・山形文が認められ、内傾するものは山形文が施文される。その他の文様では、直口する形態35(撚糸文)やや外反気味の40(貝殻条痕文)が認められる。また、胴部資料では器壁が厚く直線的な形状をなす貝殻文系円筒土器(38, 39)が認められる。これらは縦方向に貝殻条痕を施し、その上から横方向の貝殻条痕を施文する点で共通する。

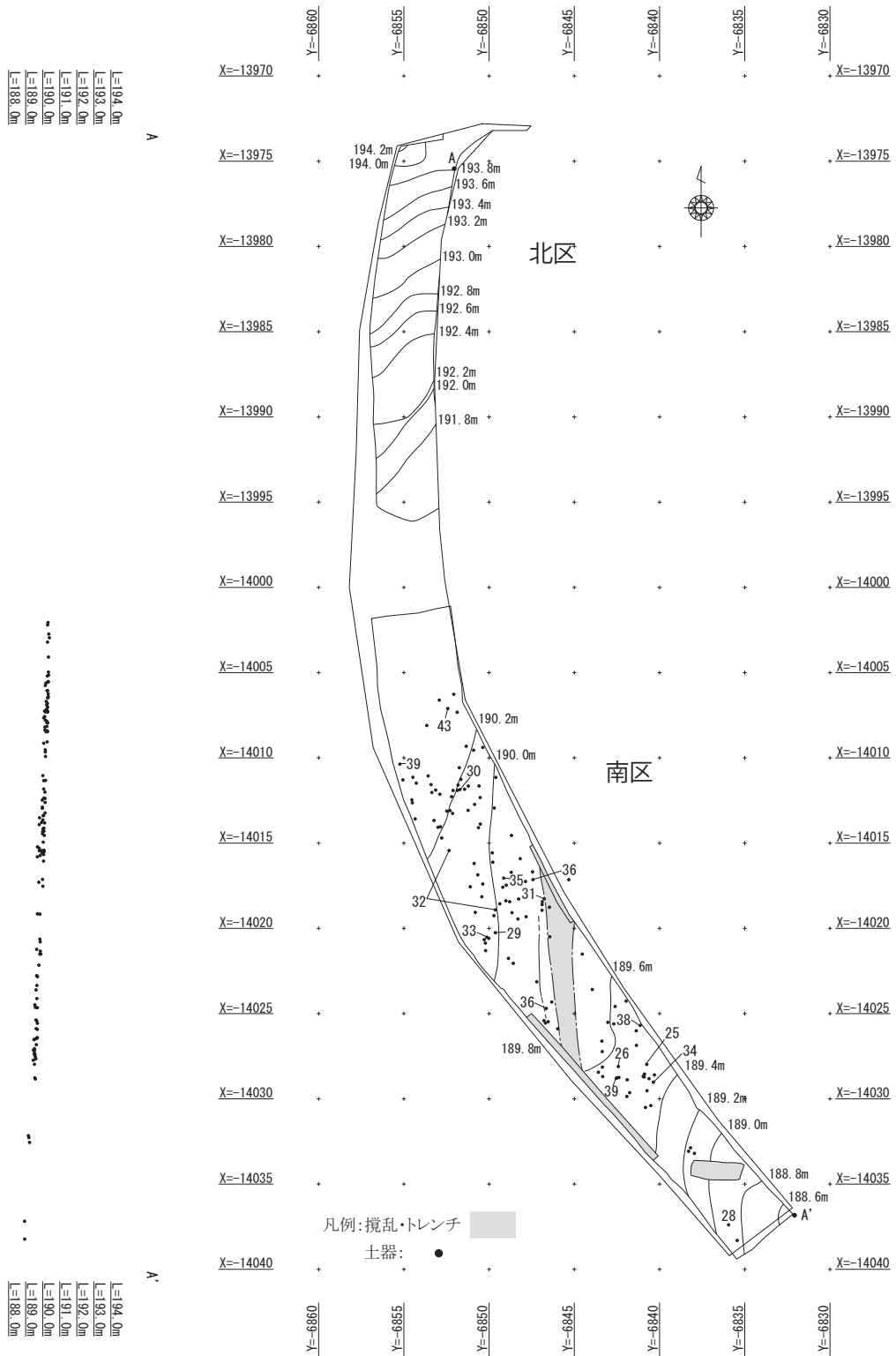
底部資料は、2点図示した。42はやや上げ底気味を呈する。しかし、これらの資料がどの口縁部・胴部資料と対応するか判然としない。

2) 石器について

当該層位から出土した石器類は、石鏃・尖頭状石器・楔形石器・二次加工ある石器・使用痕ある剥片・石核・剥片・碎片・磨石・敲石・石皿・台石である。これらのうち加工痕のある石器類を中心に図示した。

磨石・敲石・石皿・台石を除く剥片石器類の使用石材は、黒曜石・チャートであり、西北九州産の黒曜石を多用する傾向が窺える。

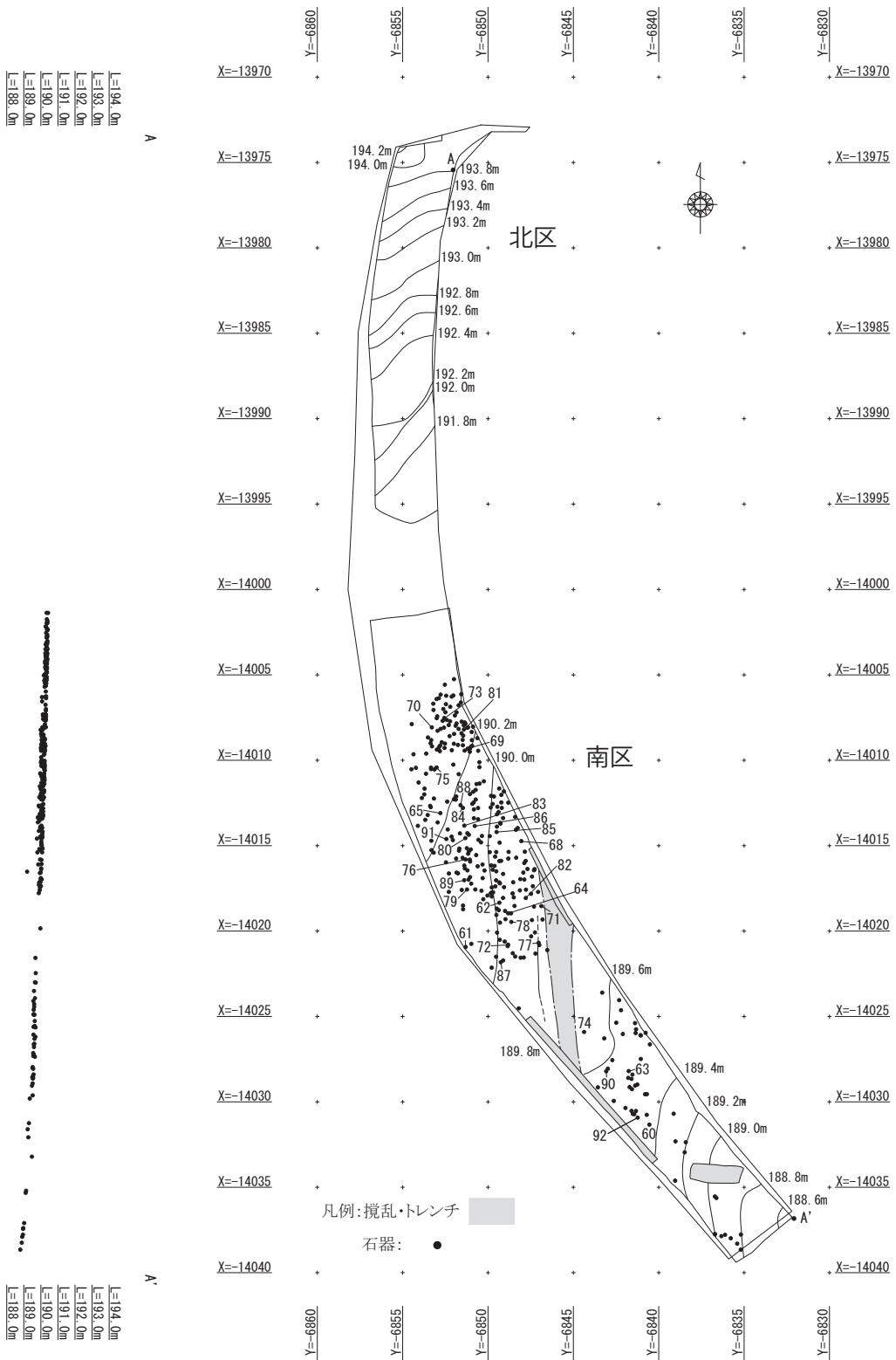
石鏃の形態的特徴にはバラつきが少ない。抉入部の作り出しの形状が確認できる資料(61～69)の中で、深浅の差はあるものの大まかにはU字形をなすもの(62～66, 68)が主体を占める。これらは、早期の“鋏型鏃”に分類できる資料であり、細身で二次加工は細かく丁寧な施される。尖頭状石器とした72, 73は、表裏面とも周縁から大まかな剥離が施され形状を整えている。二次加工ある石器とした78は、表裏面とも素材剥片の剥離面を大きく残し、打瘤部を除去するように抉りが施される。81は、縦長剥片の先端部裏面側に二次加工が施される。当該層位で出土した資料の特徴は、ノの字形をなすものも含めて縦長系剥片が多く、鋏型鏃が組成する点と、石匙などスクレイパー類がみられないことをあげることができよう。



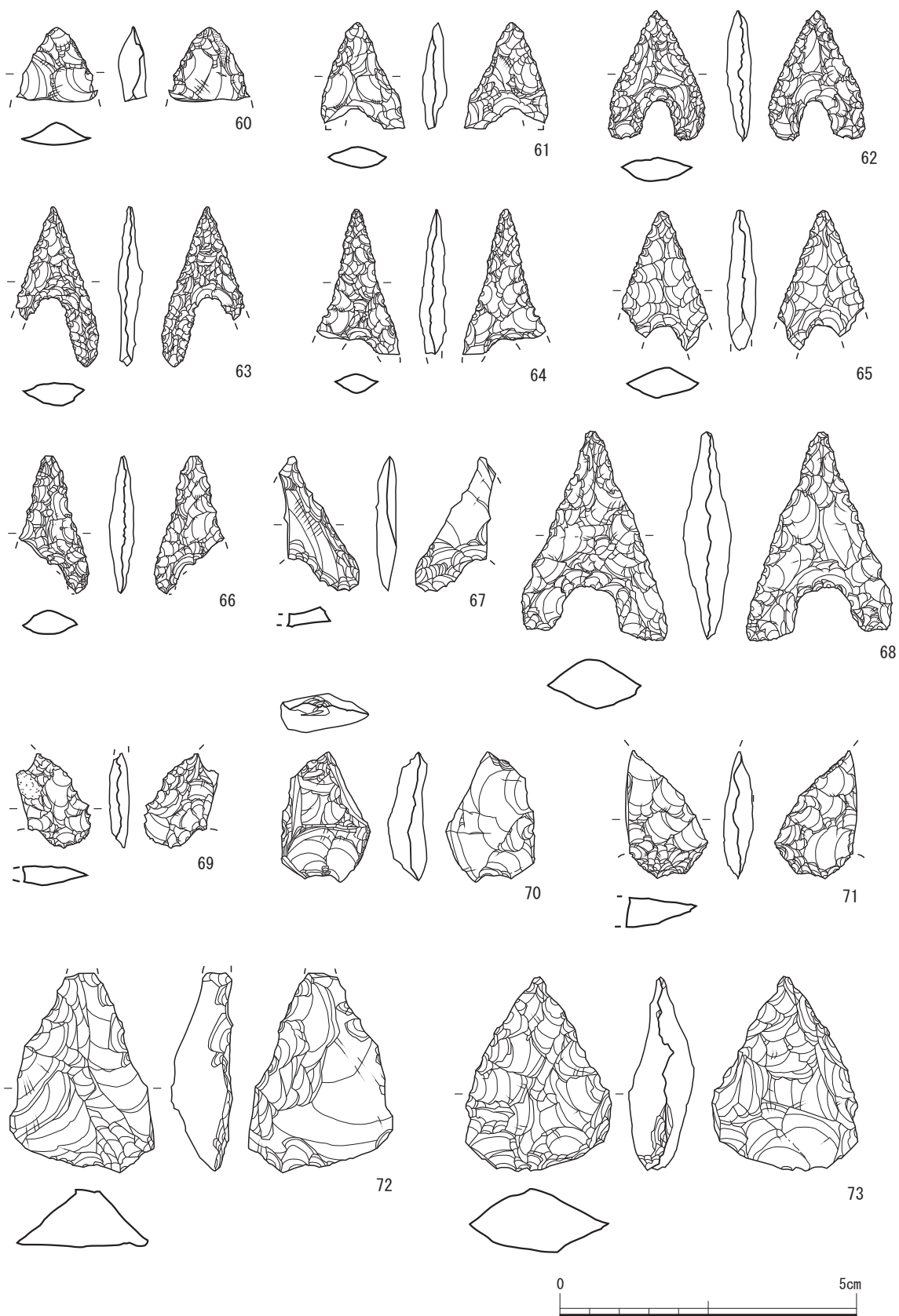
第34図 瀬田狐塚遺跡 3b層土器 (1/400)



第 35 図 3b 層出土遺物実測図



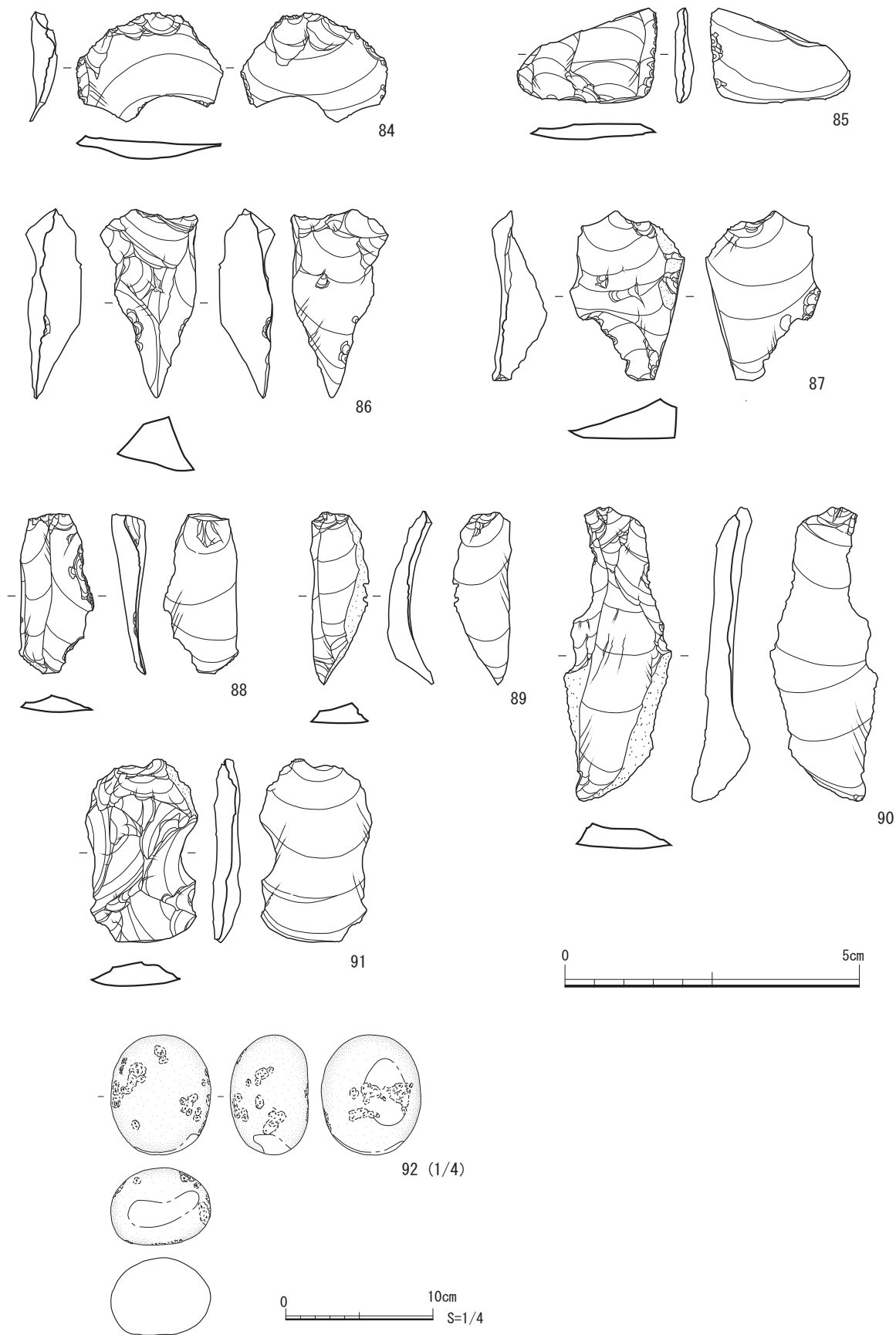
第36図 瀬田狐塚遺跡 3b層石器 (1/400)



第 37 図 3b 層出土石器実測図 - ①



第38図 3b層出土石器実測図 - ②



第39図 3b層出土石器実測図-③

第4節 4a層出土の土器・石器

1) 土器について

4a層は、通称“黒ニガ”と呼称される黒色土である。粘性としまりにより、a,b二つの亜層に区分される。

4a層で出土した土器には、全体形が復元できる資料は認められない。そこで、出土資料のうち量的にまとまっている押型文土器について、口縁部の形状や文様の種類と粗密、施文の方向等の観察に基づき特徴の把握を行うことにする。

口縁部の形態による観察では、直口するもの(45, 46, 50～53, 55, 56, 58)と外傾するもの(44, 47, 48, 57)がある。後者と同様の形態的特徴を有する縄文施文(49)の土器も認められる。

これらの資料を文様の種類と粗密や施文の方向等から概観すれば、直口するものには山形文と格子目文のみで楕円文は認められず、外傾するものは山形文のみである。胴部資料には格子目文(59)、楕円文(54)が認められる。底部資料には、尖底(60, 61)と平底(62)が認められ、前者は楕円文を後者は貝殻条痕文を施文する。

2) 石器について

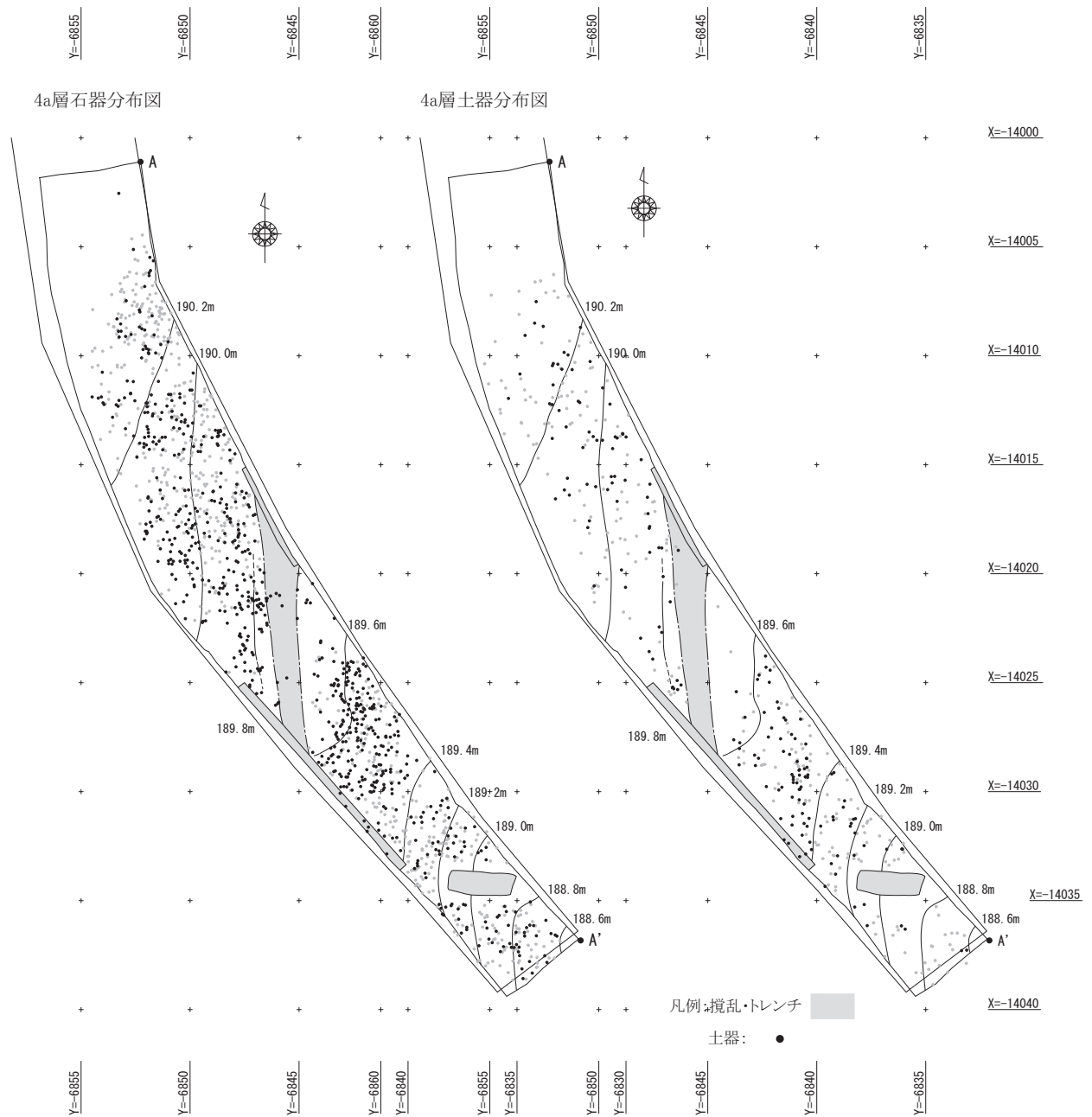
当該層位から出土した石器類は、石鏃・尖頭状石器・楔形石器・二次加工ある石器・使用痕ある剥片・石核・剥片・碎片・磨石・敲石・石皿・台石である。これらのうち加工痕のある石器類を中心に図示した。

磨石・敲石・石皿・台石を除く剥片石器類の使用石材は、黒曜石・チャート・安山岩であり、西北九州産の黒曜石を多用する傾向が窺える。

石鏃の形態的特徴にはバラつきが少ない。抉入部の作り出しの形状が確認できる資料(93, 94, 96～111, 114, 115, 117, 118)の中で、深浅の差はあるものの大まかにはU字形をなすもの(94, 97～111, 114, 115, 117, 118)が主体を占める。これらは、早期の“鋏型鏃”に分類できる資料であり、細身で二次加工は細かく丁寧に施される。116は脚部のみである。他の資料と比較して長い、長脚鏃の可能性も考えられる。尖頭状石器とした120, 121は、表裏面とも周縁から大まかな剥離が施され形状を整えている。二次加工ある石器には器種認定が難しいものを一括して取り扱った。127は、表裏面に素材剥片の剥離面を残す。縦長剥片を素材として、表裏両面とも周縁に細かな調整加工を施す。

当該層位で出土した資料の特徴は、ノの字形をなすものも含めて比較的縦に長い剥片が多く剥出されること、鋏型鏃が組成する点と石匙などスクレイパー類がみられないことや、また、112, 113のように石鏃と類似した形態を呈し、先端部が丸みをもって仕上げられた“トロトロ石器”などの異形石器を組成する点をあげることができよう。

また、これらの石器類に混じって台形石器(122, 123)が出土した。本来の包含層は不明である。



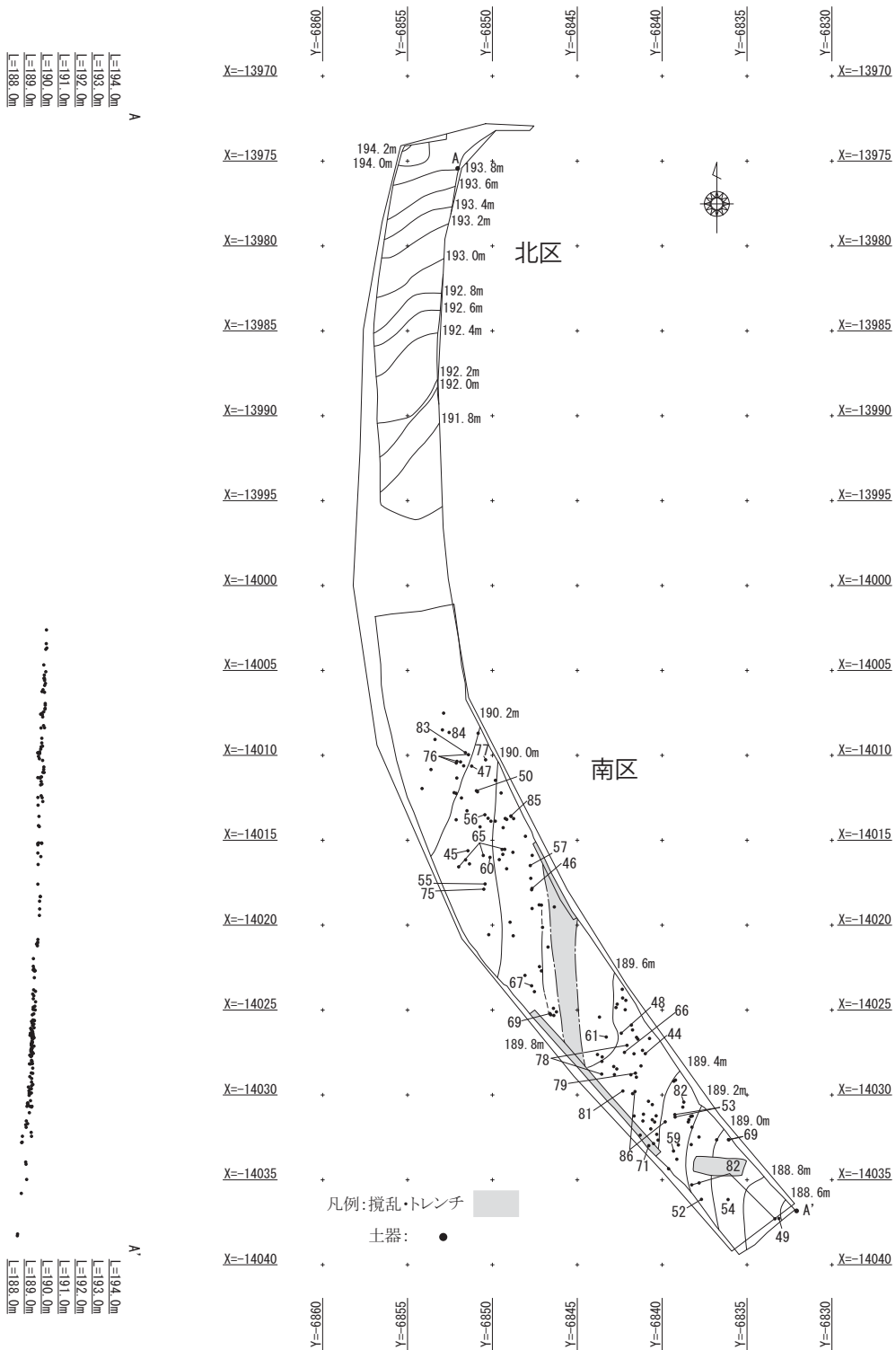
4a層石器垂直分布図



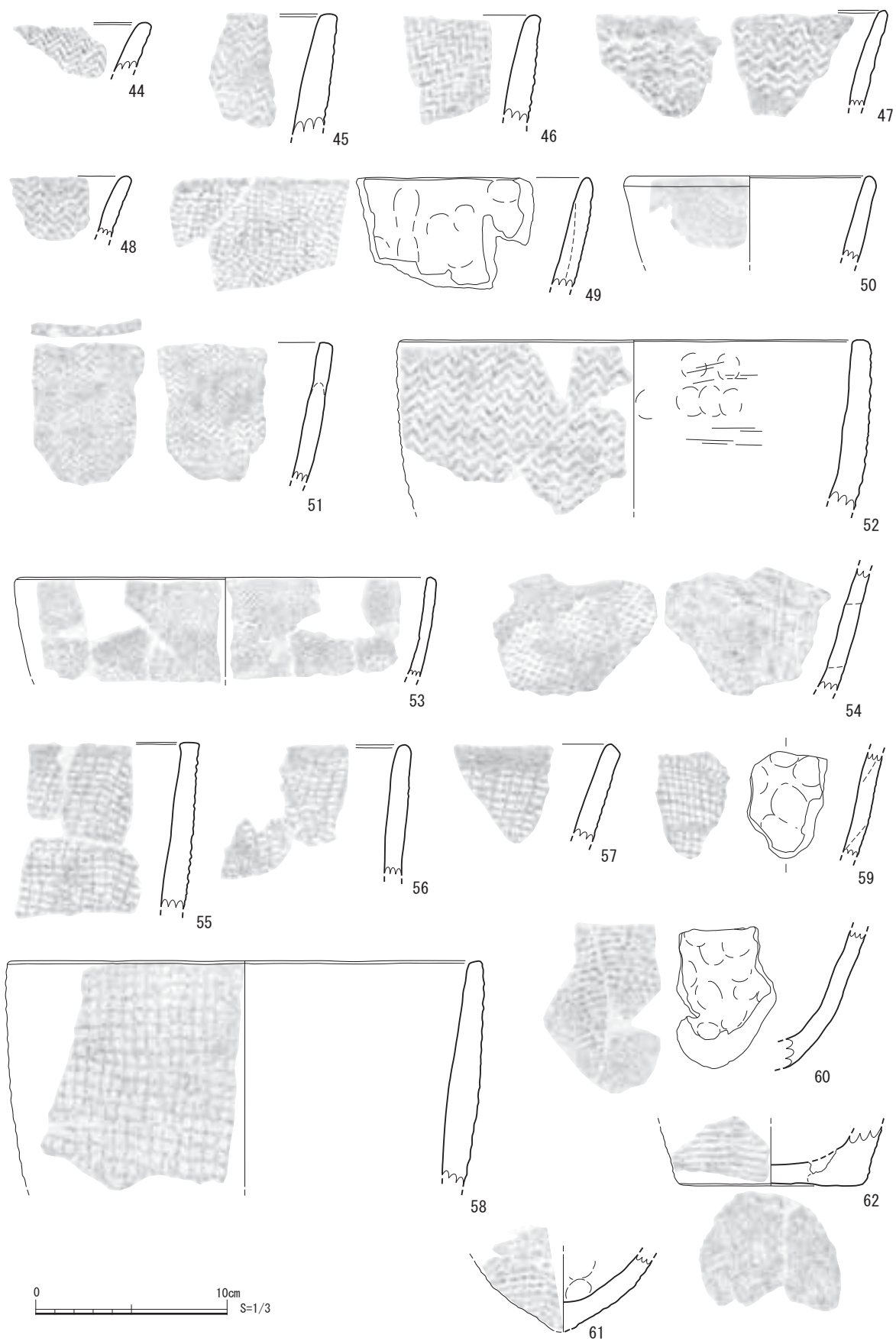
4a層土器垂直分布図



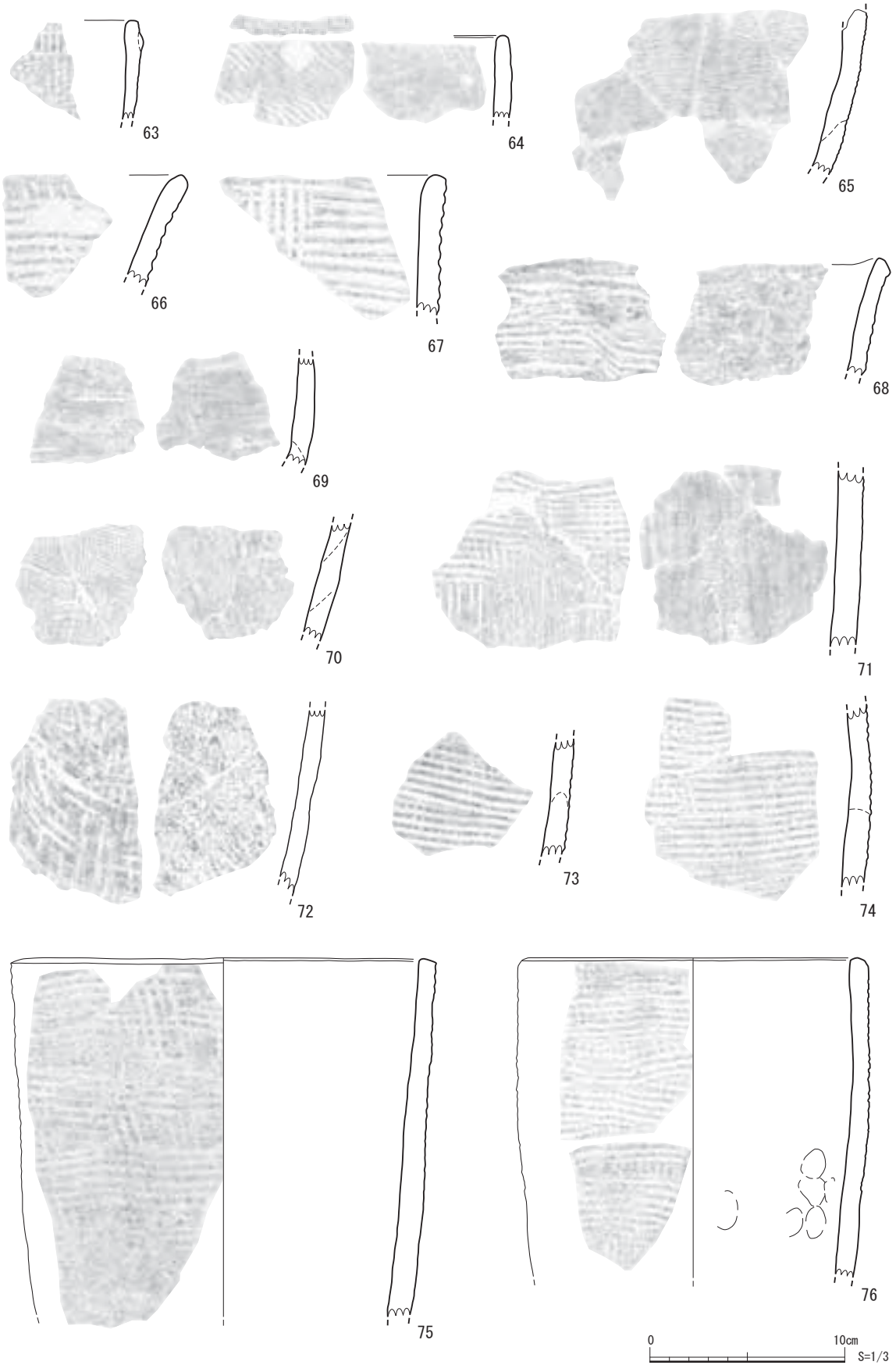
第40図 4a層土器・石器分布図(1/300)



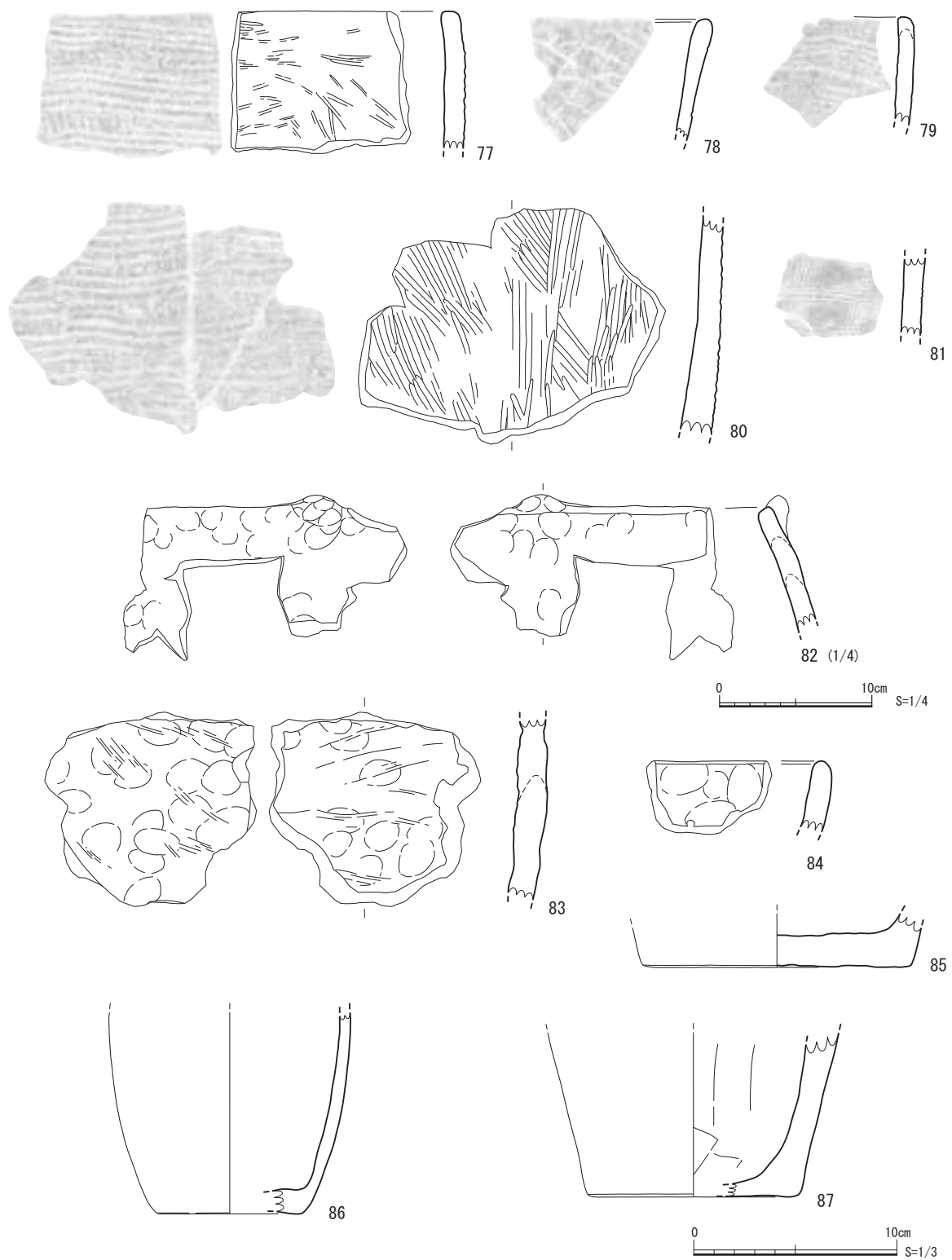
第41図 瀬田狐塚遺跡4a層土器(1/400)



第42図 4a層出土遺物実測図 - ①



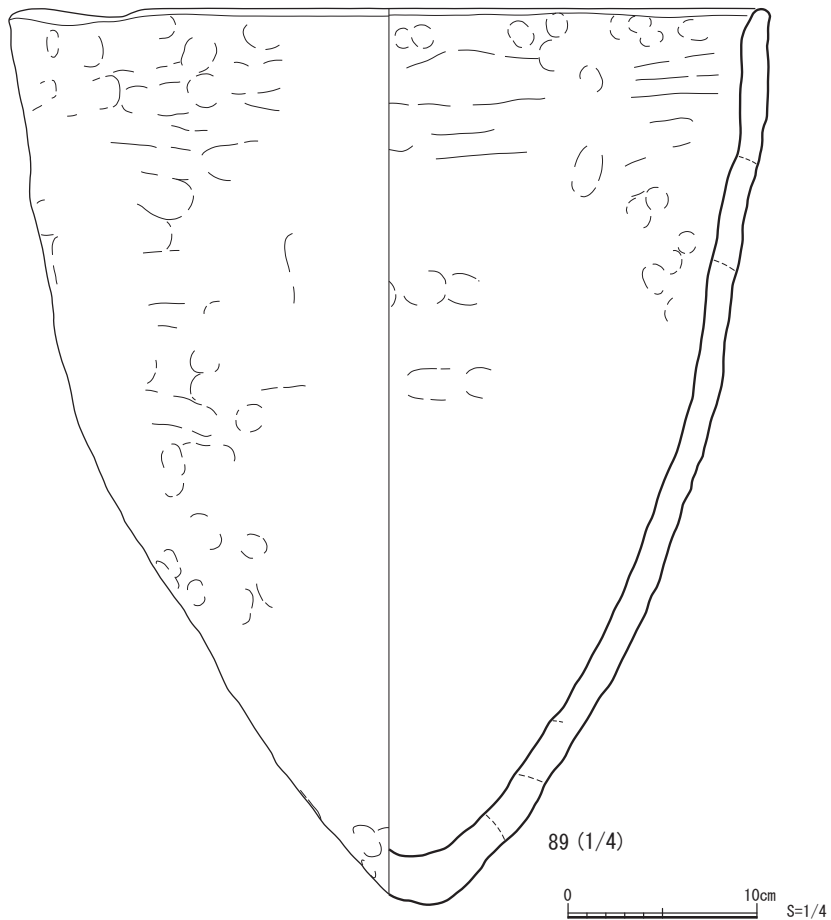
第43図 4a層出土遺物実測図 - ②



第44図 4a層出土遺物実測図 - ③

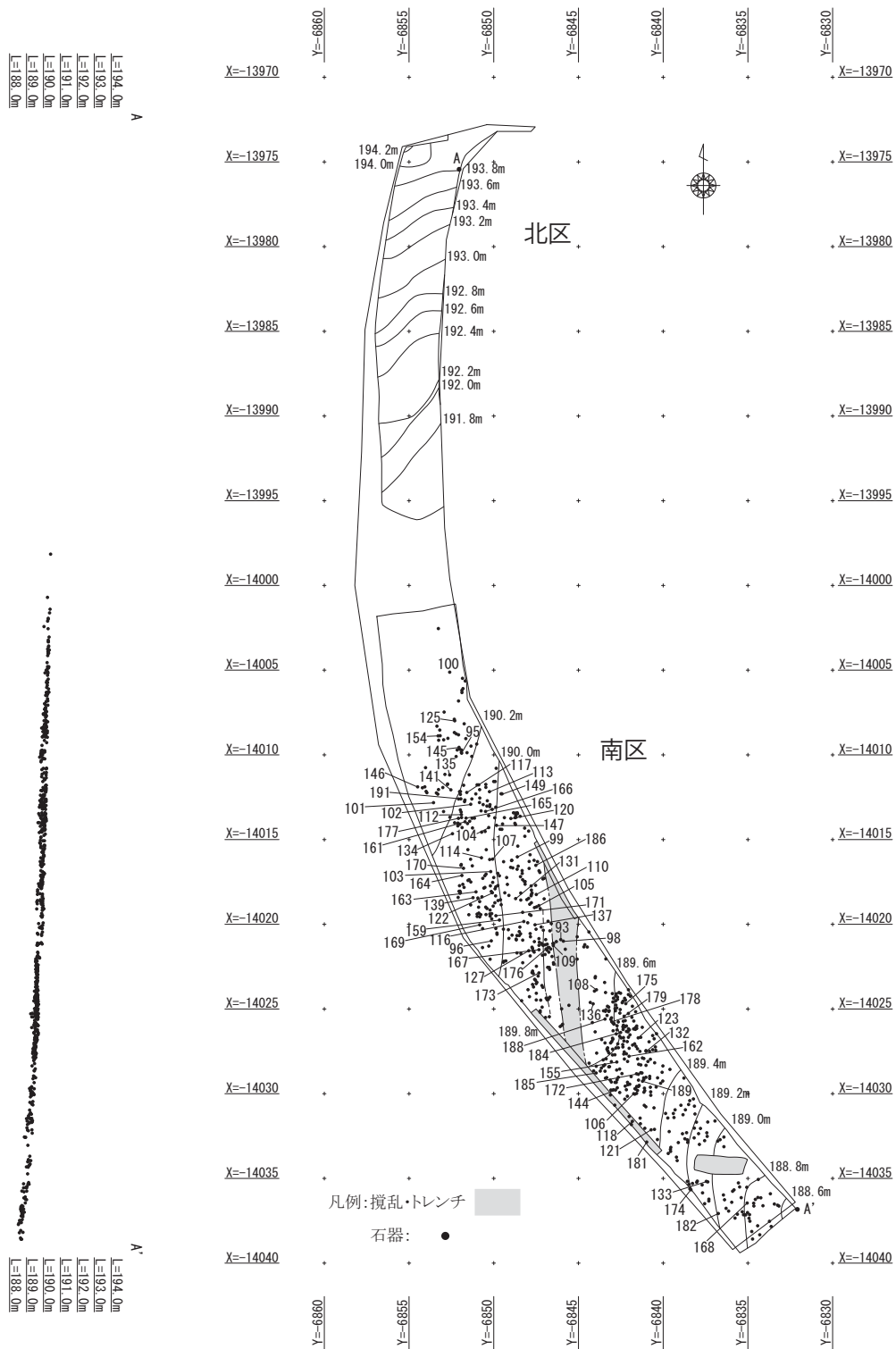


0 10cm S=1/3

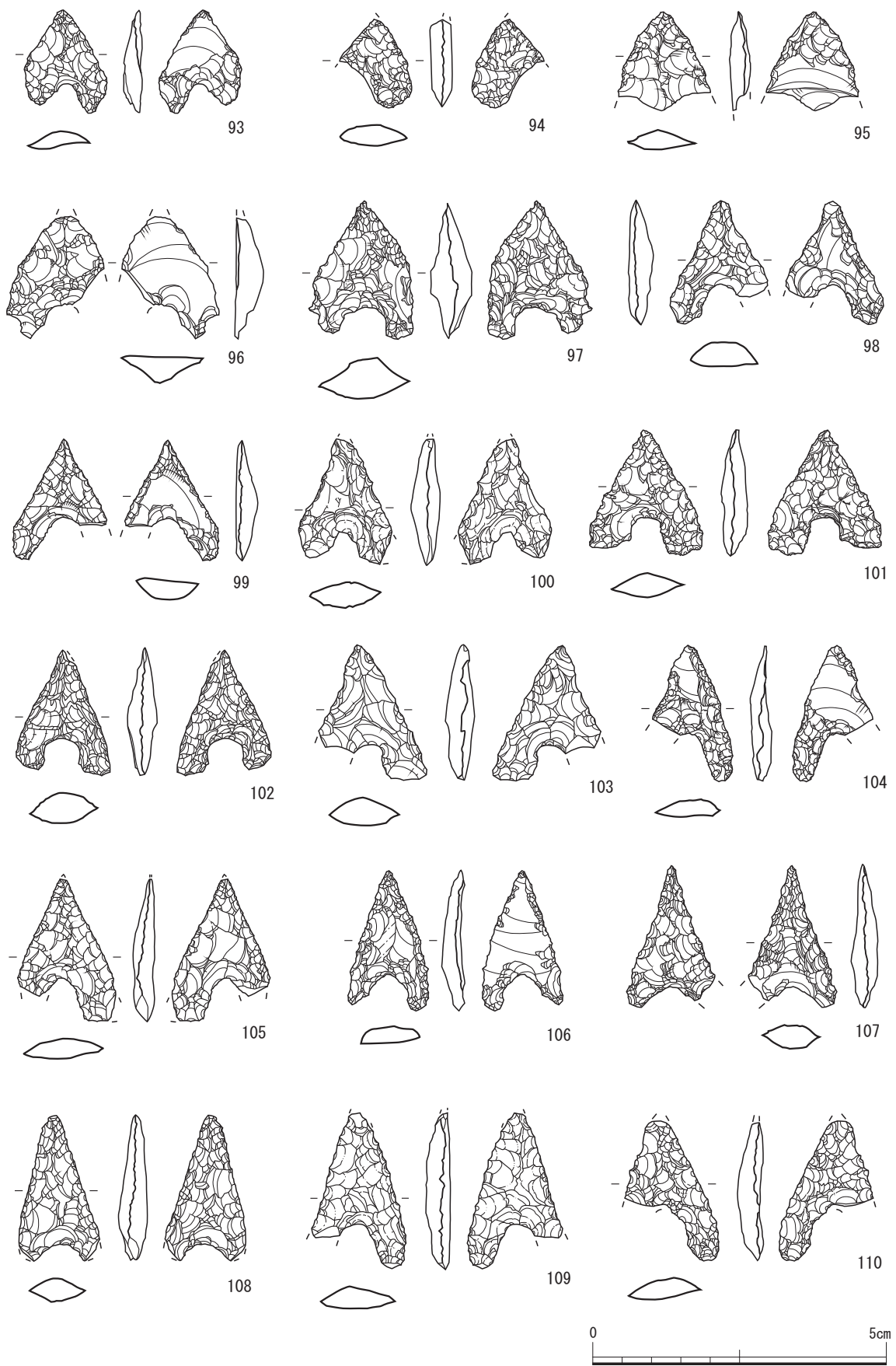


0 10cm S=1/4

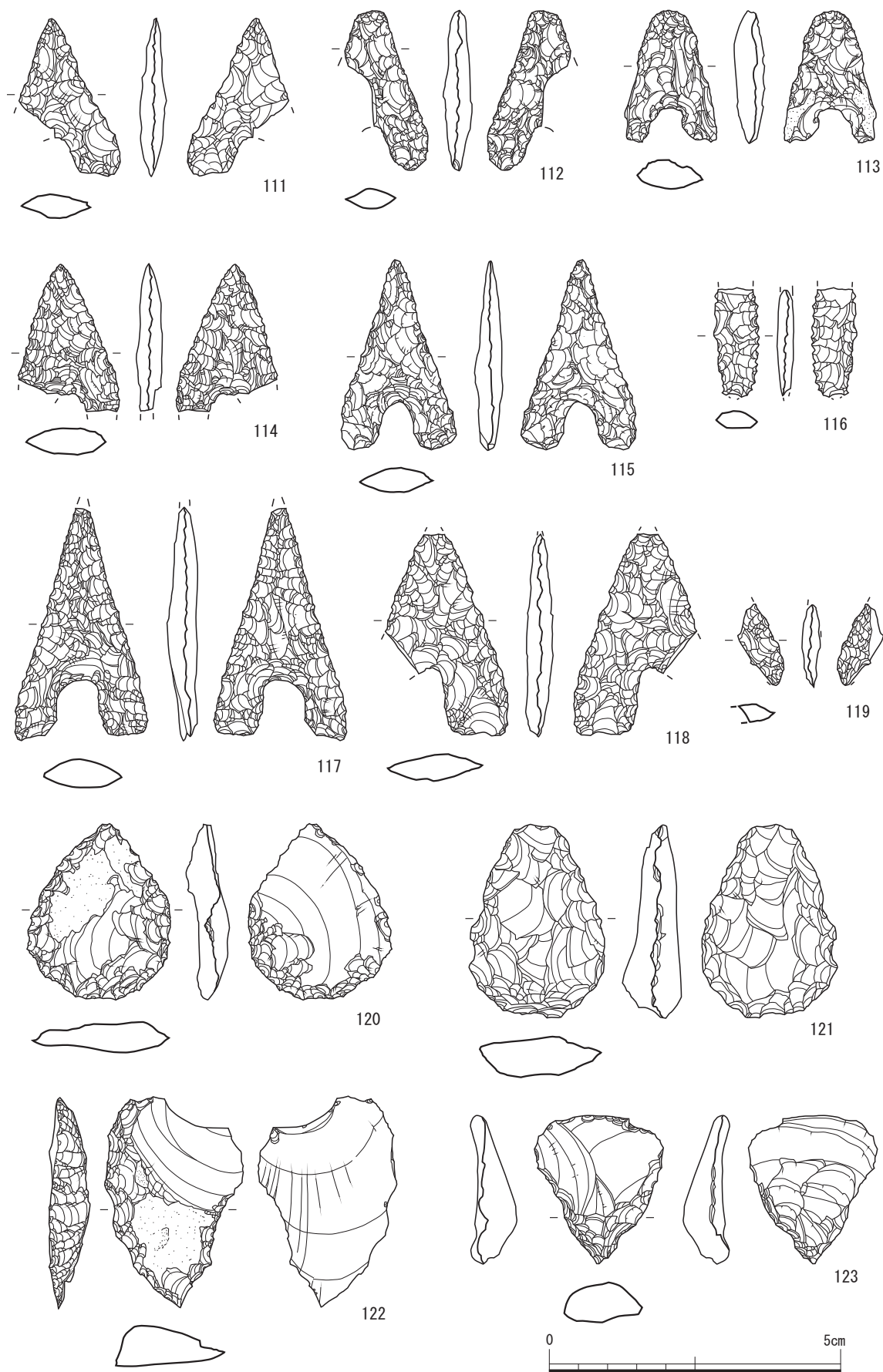
第45図 4a層出土遺物実測図 - ④



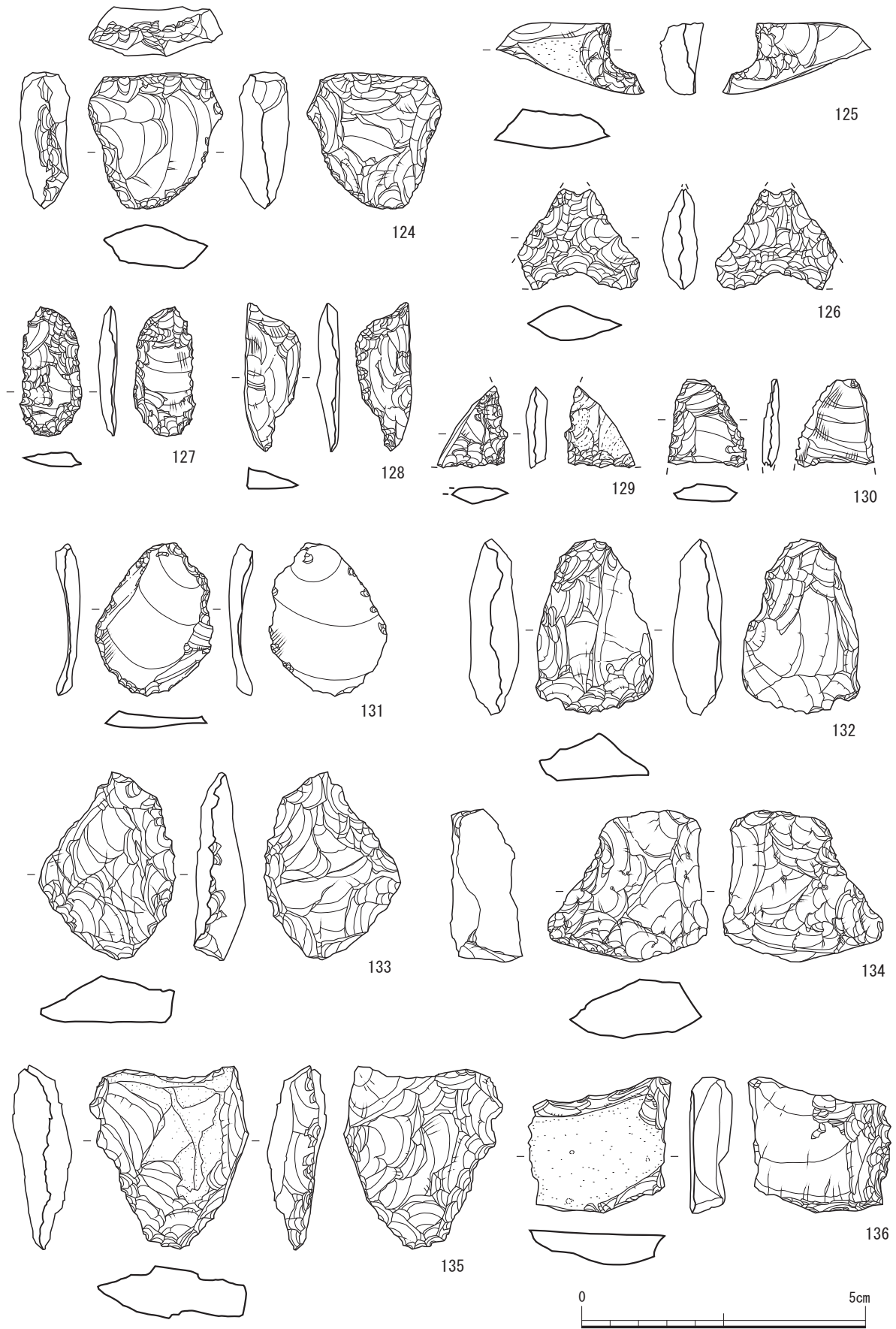
第 46 図 瀬田狐塚遺跡 4a 層石器 (1/400)



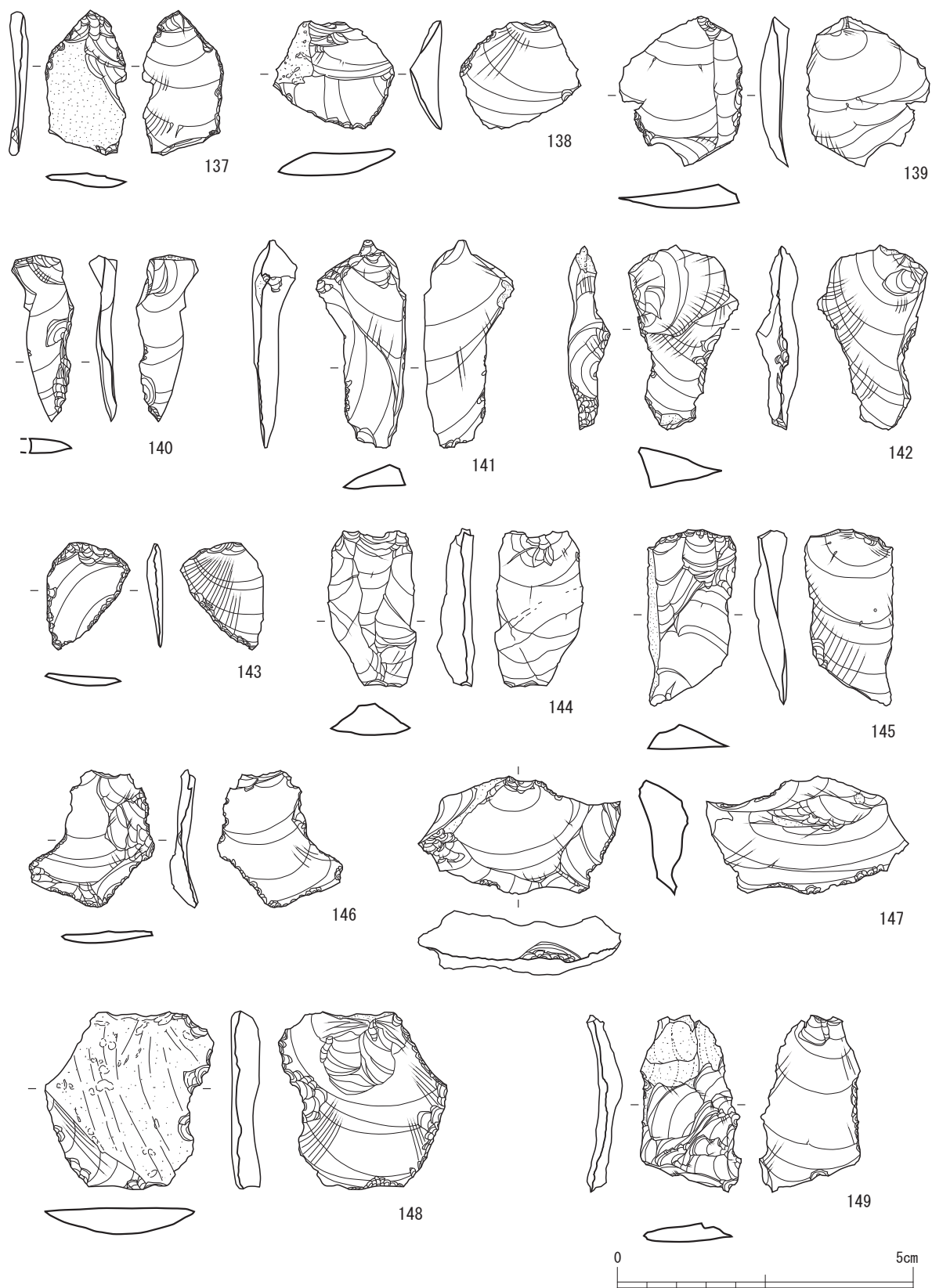
第47図 4a層出土石器実測図 - ①



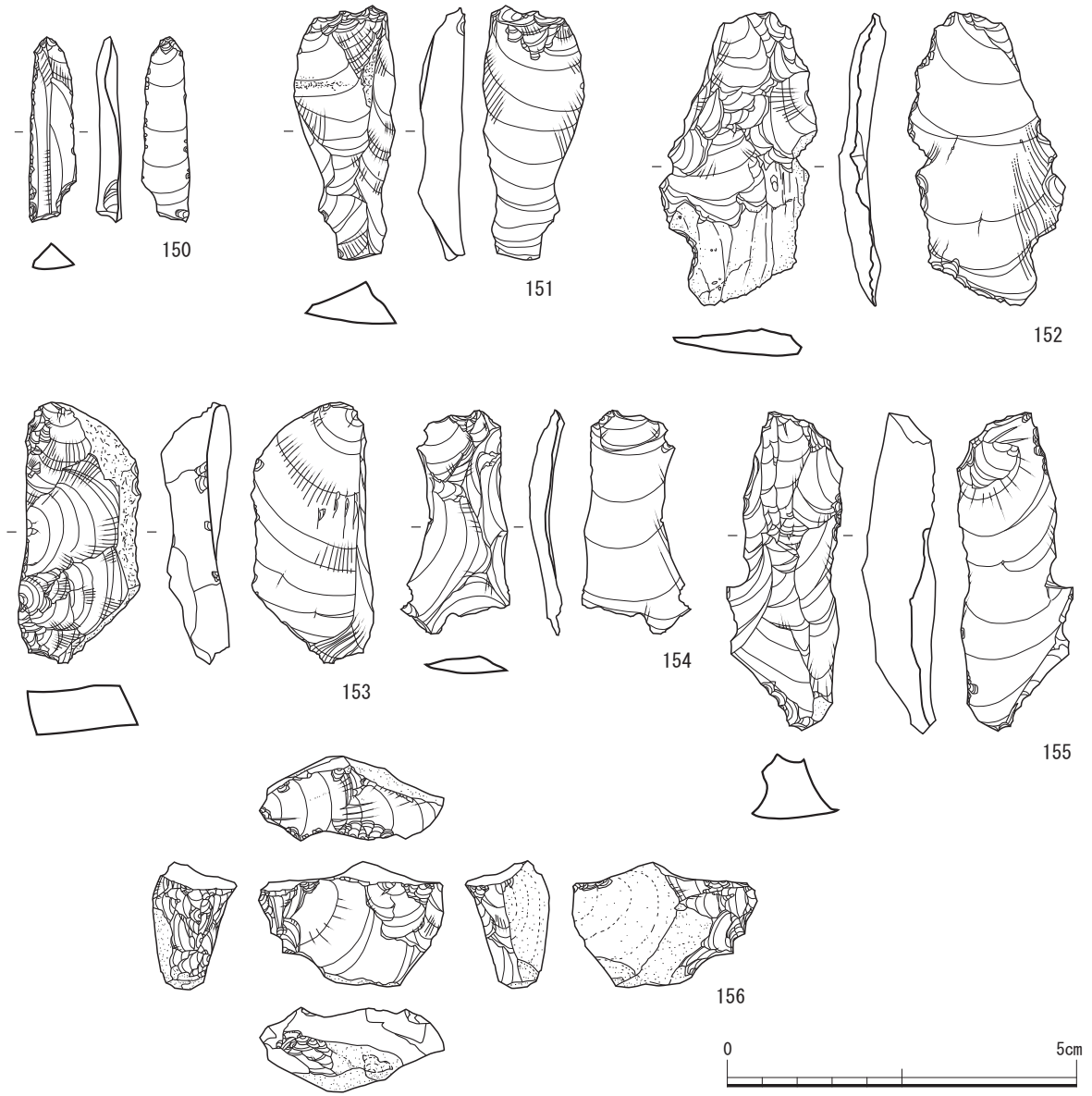
第 48 図 4a 層出土石器実測図 - ②



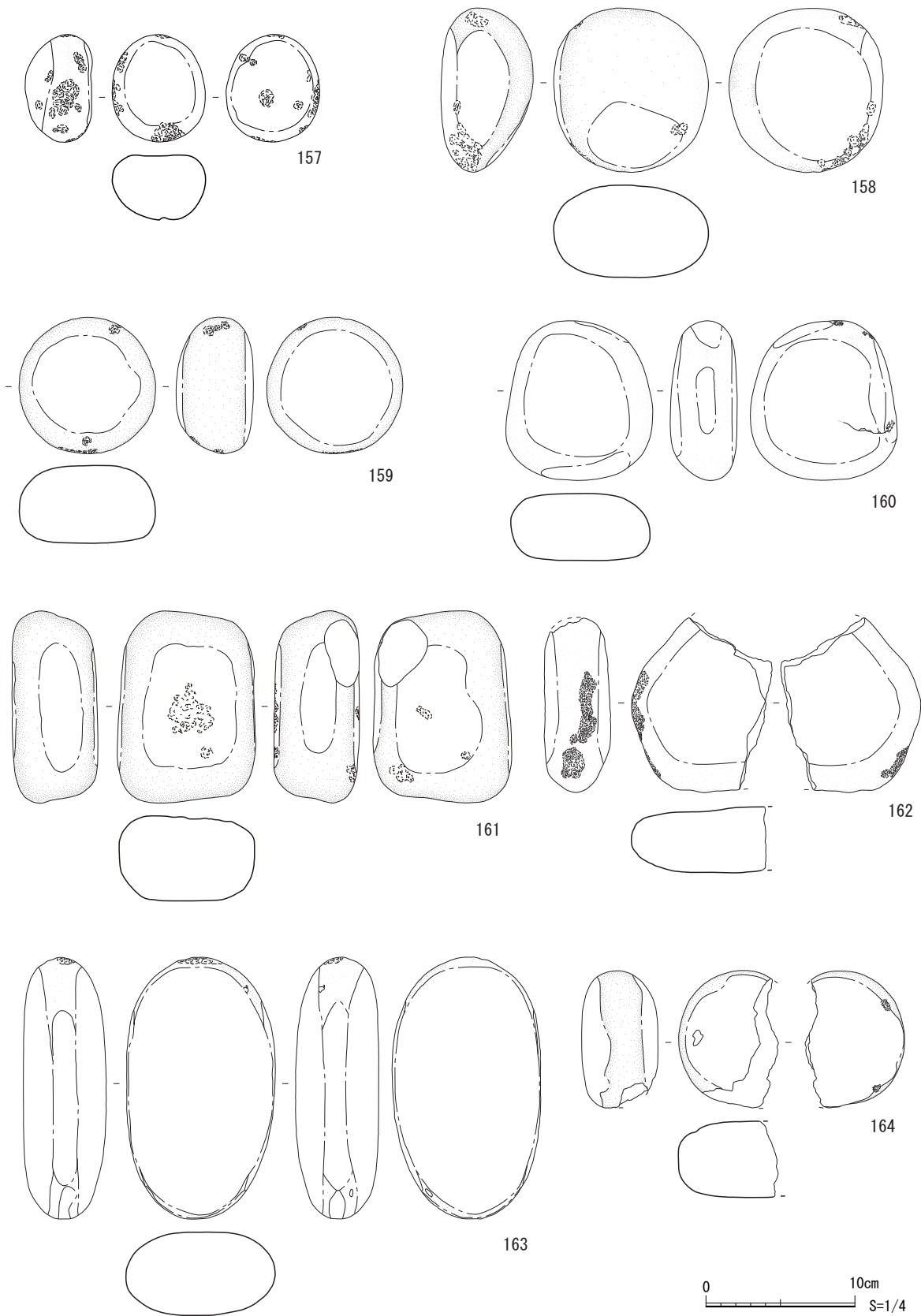
第49図 4a層出土石器実測図 - ③



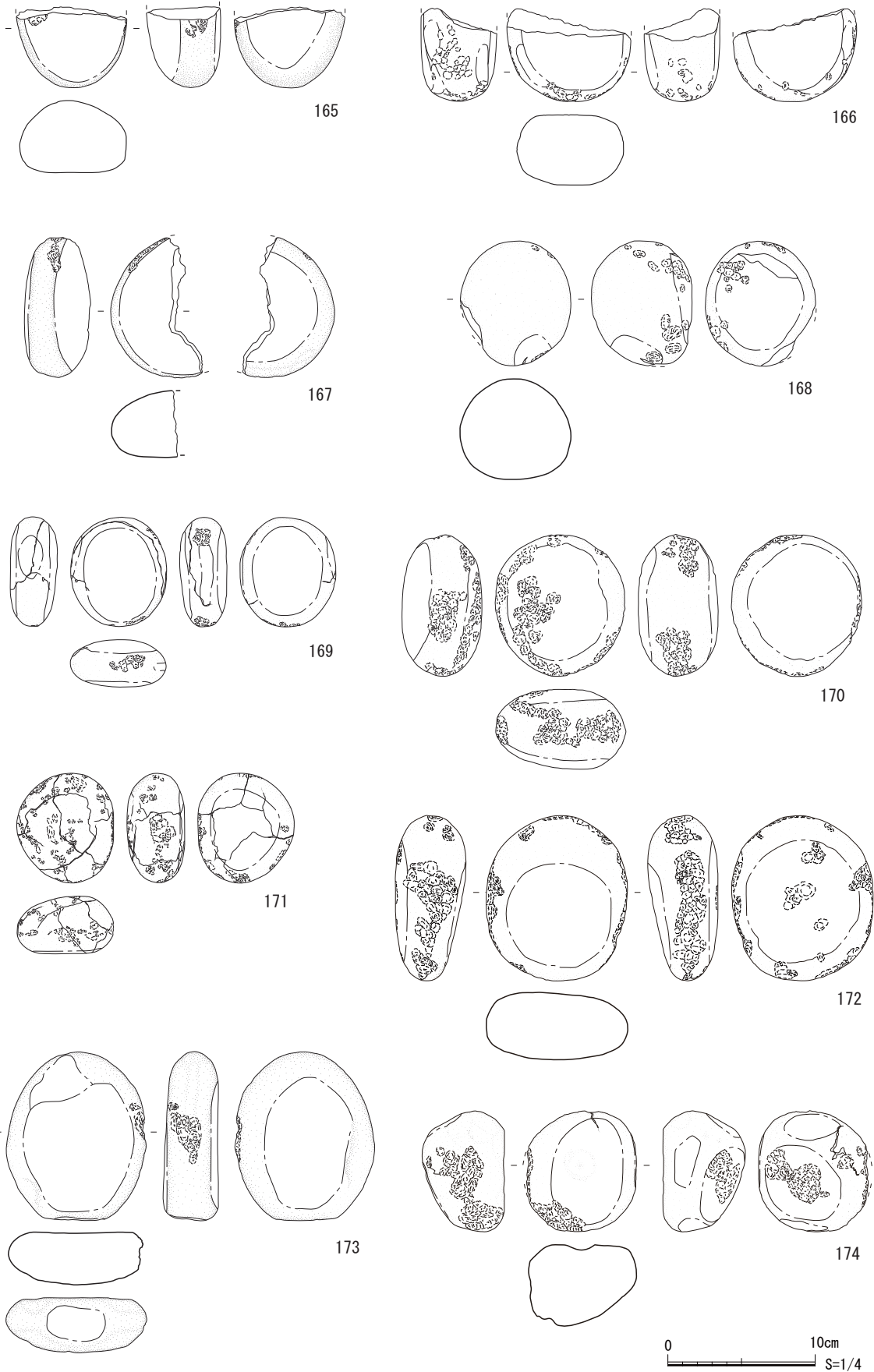
第 50 図 4a 層出土石器実測図 - ④



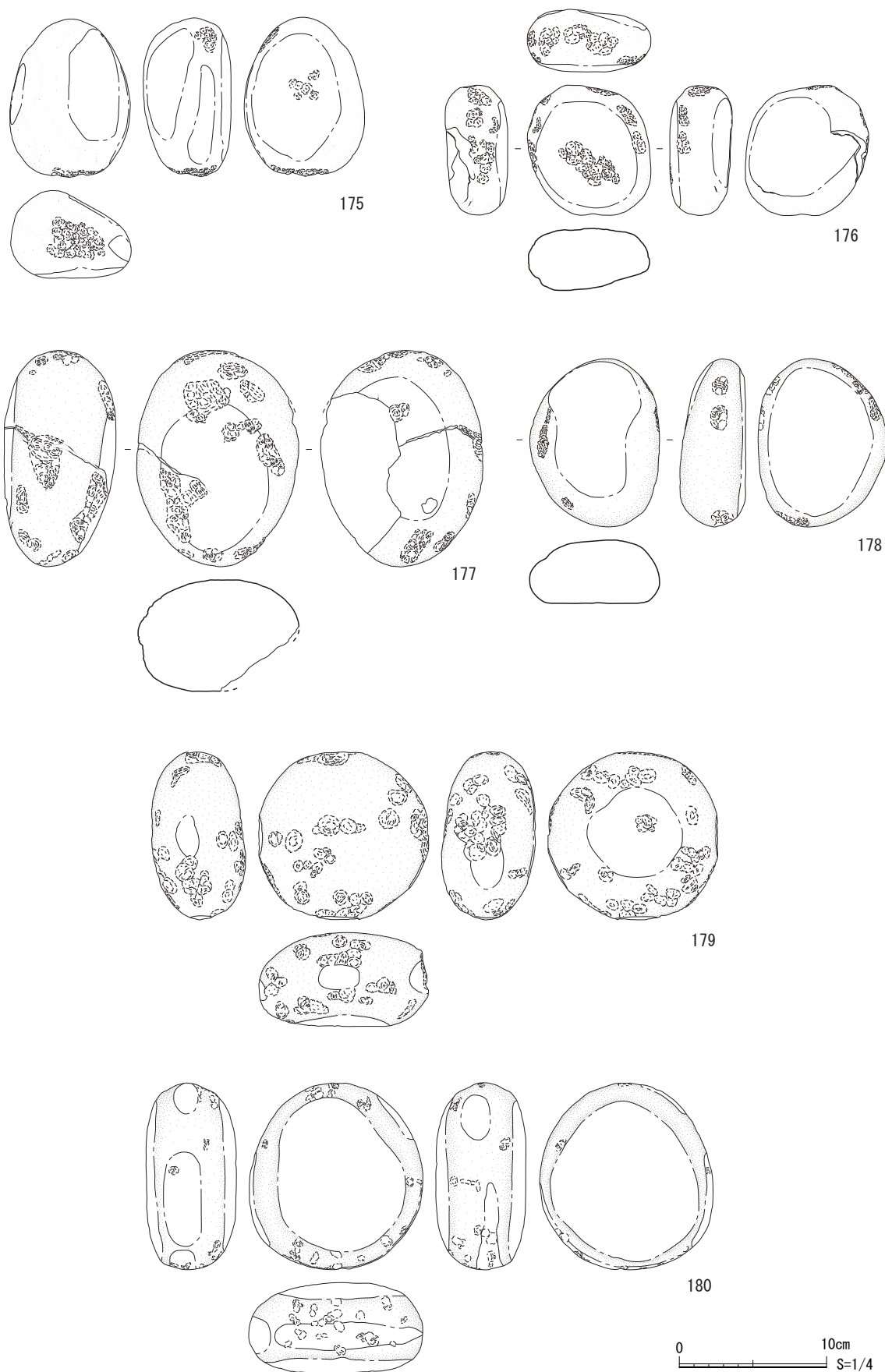
第51図 4a層出土石器実測図 - ⑤



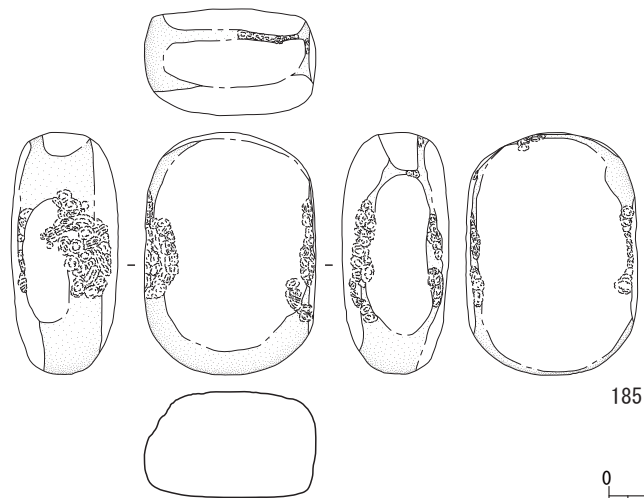
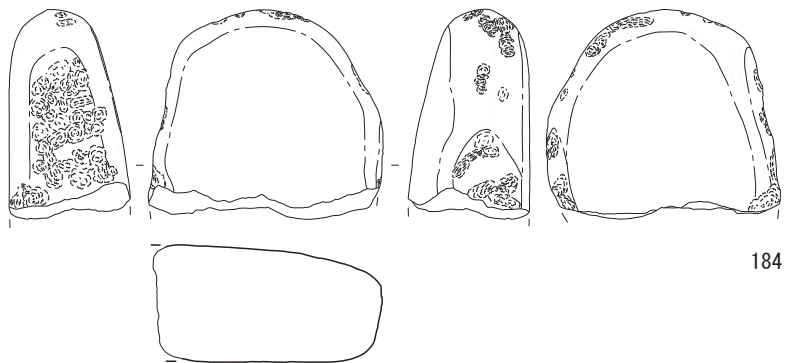
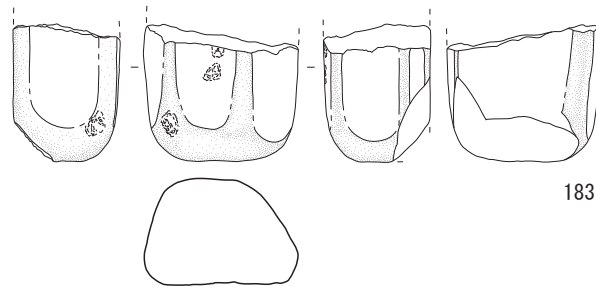
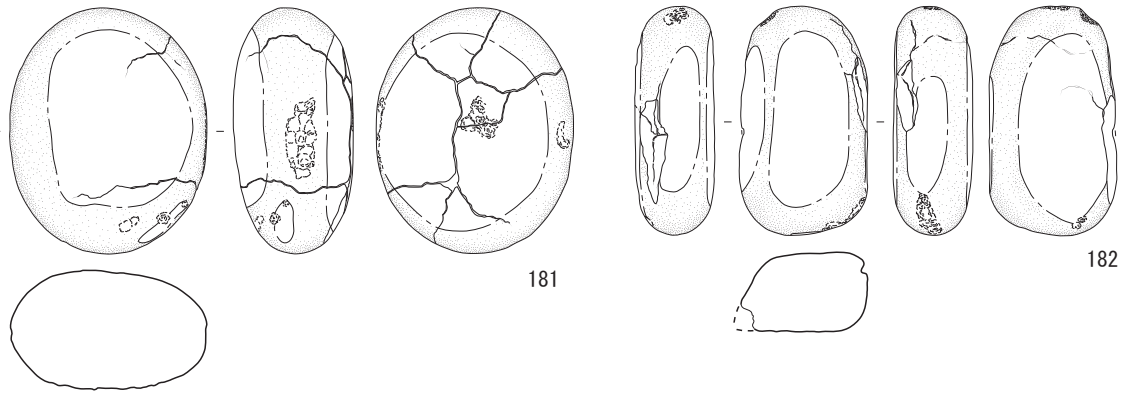
第 52 図 4a 層出土石器実測図 - ⑥



第53図 4a層出土石器実測図 - ⑦

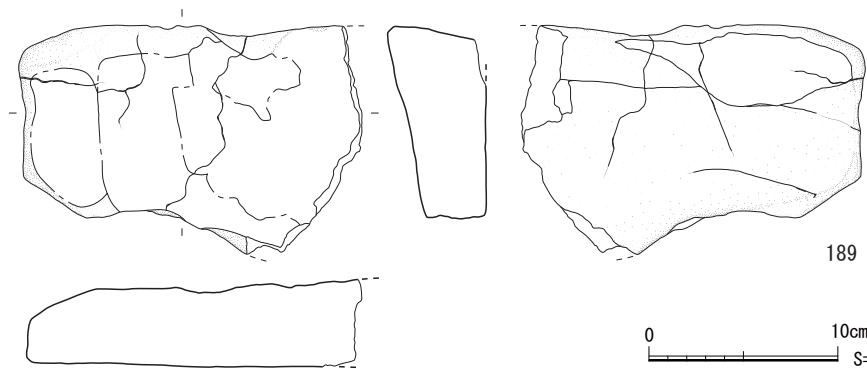
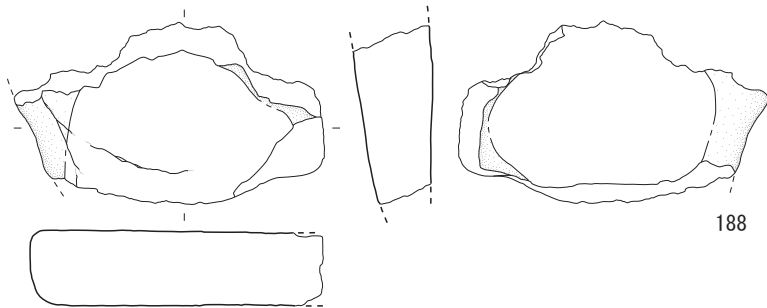
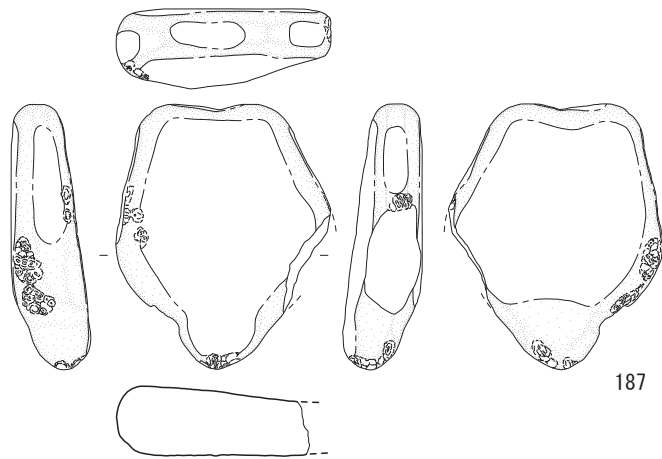
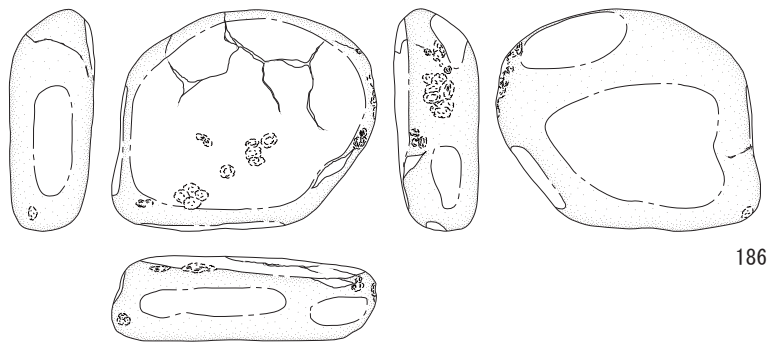


第 54 図 4a 層出土石器実測図 - ⑧

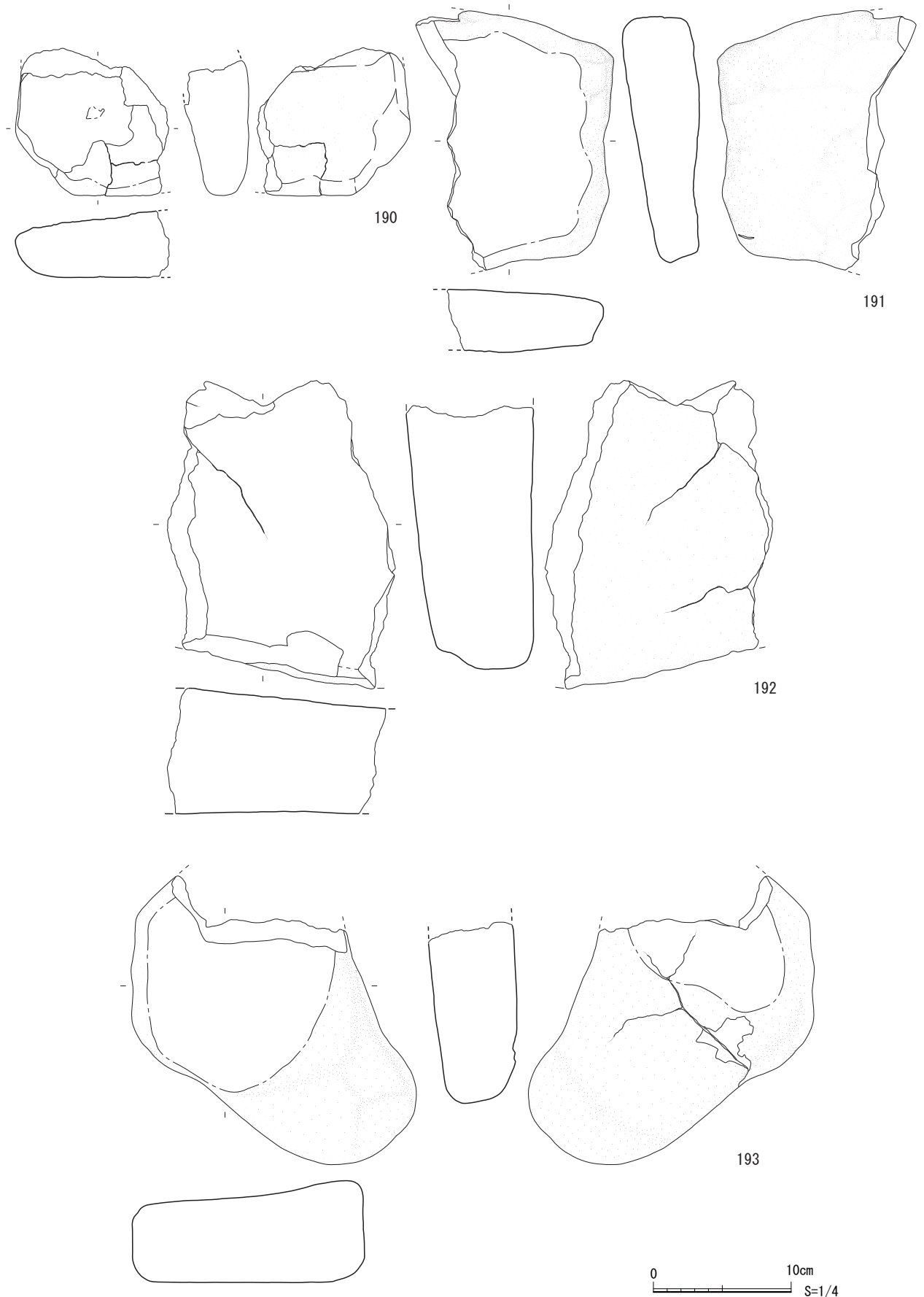


0 10cm
S=1/4

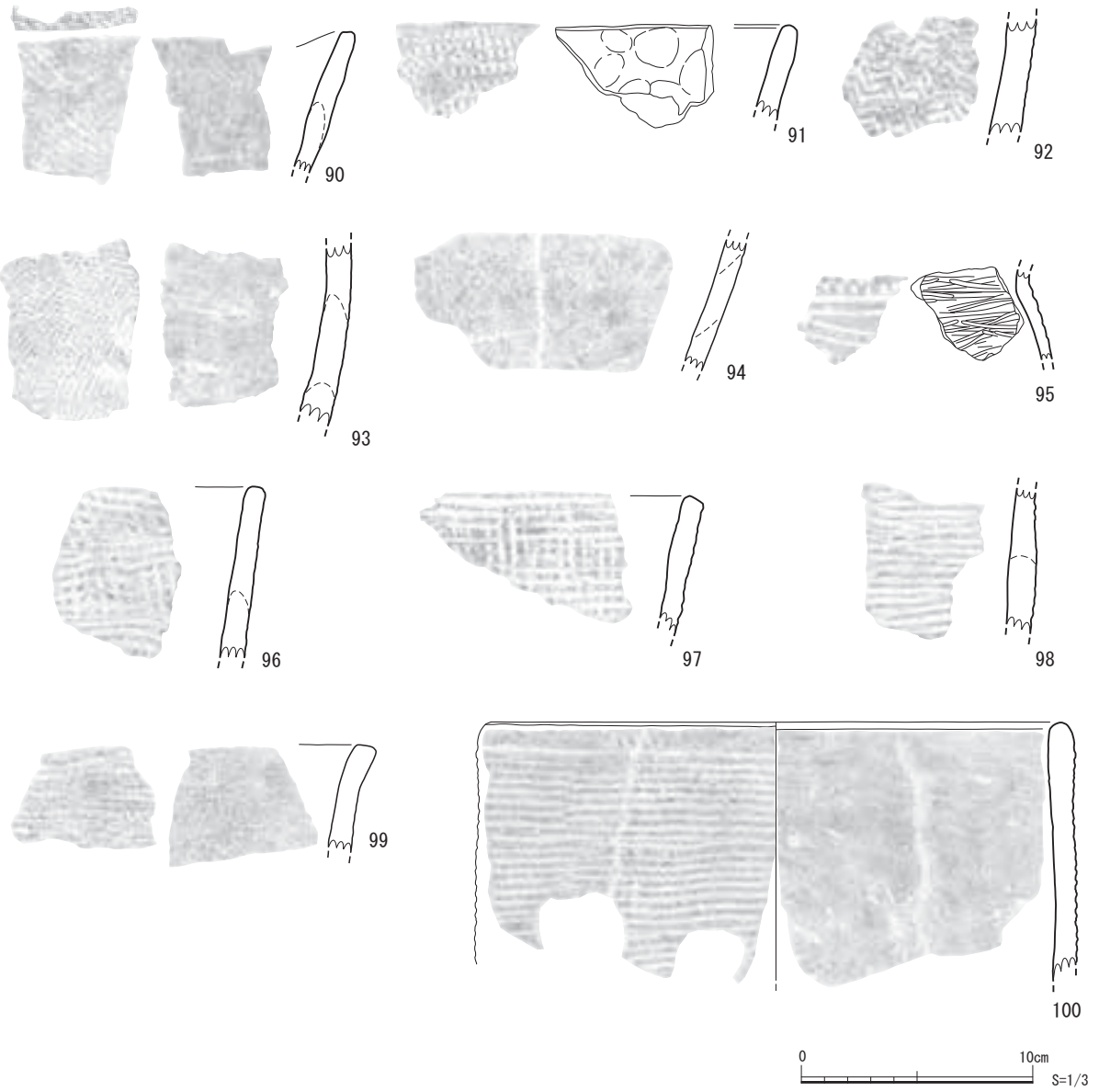
第55図 4a層出土石器実測図 - ⑨



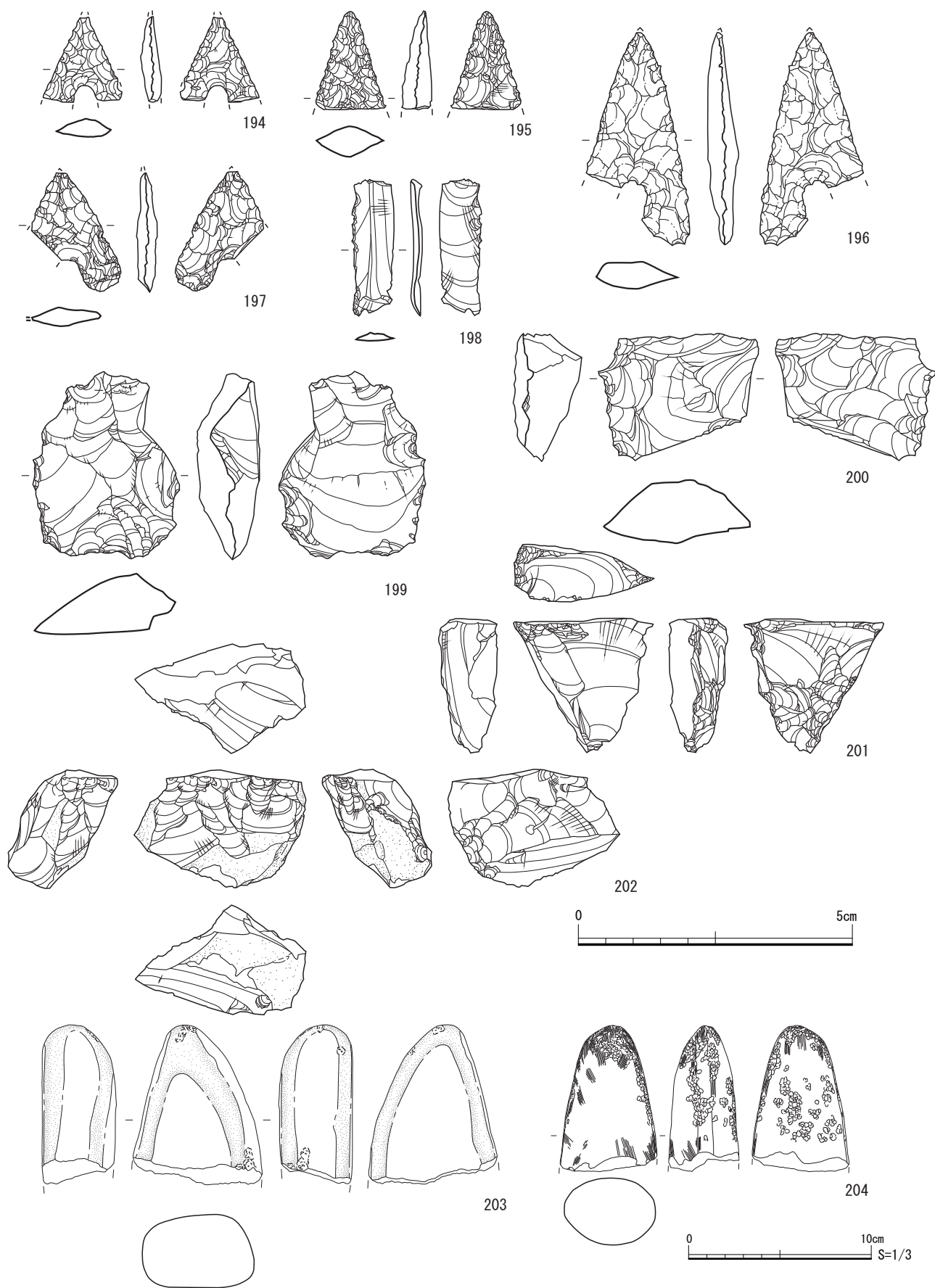
第56図 4a層出土石器実測図 - ⑩



第57図 4a層出土石器実測図 - ①



第 58 図 調査区内出土遺物実測図



第59図 調査区内出土石器実測図

第5節 まとめ

1) 遺構について

当該遺跡で検出された遺構は、礫群及び集石と土坑、炉穴である。両者の時間的關係は、礫群・集石の確認面から20～30cm下位で炉穴等が検出されたことから2時期に区分できるものと考えられる。このような遺構の在り方は、瀬田裏遺跡でも確認されている。炉穴・土坑⇒礫群・集石への変遷として理解される。

礫の広がり、南区において3a層を剥いだ段階で確認された。南区北側の土坑群以南に散布し、南に行くほど密度が濃くなり南端では薄くなる。これらの礫の広がりの中に、空白域が存在することからいくつかのまとまりに区分できる可能性がある。そこで調査時にやや大型で扁平な礫を中心に、より密集した状態で検出された22箇所を集石として取り扱った。集石の中でSY01～06, 11, 13～15, 17～20については掘り込みは認められないが、SY02, 13, 17, 18では周囲から炭化物が検出されている。このことから、一概には言えないが土坑を伴うSY08, 12, 21, 22以外は、礫群として取り扱うことが妥当であった可能性もある。しかし、瀬田裏遺跡において検出された集石についても明確な掘り込みを持つものは少ないことから、当該地域の特徴として捉えることもできよう。

土坑は、南区北側にまとまって検出された。SK01～04, 08, 14, 15の7基で、埋土中から焼土や炭化物は確認されていない。炉穴はD-12、D、E-13グリッドを中心に検出された。SK06, 10～12, 17, 18は、最下層～床面に熱を受けて赤橙色の焼土塊と炭化物が確認された。また、SK11とSK17やSK12とSK18、SK10, 13, 16は近接するか、もしくは切り合った状態で確認されており連結土坑である可能性も指摘できよう。

2) 遺物について

土器群について出土層位や遺構内出土等を考慮して口縁部の形状や文様の種類と粗密、施文の方向等の観察に基づき検討を加えることにする。出土した土器には、全体形が復元できる資料は認められない。そのため、ここでは出土資料のうち量的にまとまっている押型文土器について層位別にその特徴の把握を行う。

3a～4a層まで施文される種類は楕円文・山形文・格子目文でバリエーションに差異はみられない。ただし、口縁部の形態では3a～3b層で外傾あるいは外反するものが多く、直口するものは4a層に多く認められる。これらの資料の内面には、外面と同じ施文原体による文様が施される資料(10, 12, 14, 15, 26, 33, 47, 51, 53)はあるが、施文原体による条痕を施すものは認められない。底部の形態について見ると、尖底をなすものは4a層でのみ確認された(60, 61, 89)。

施文の在り方についてみてみると3a層から出土した16は、同一個体に複数の原体による押捺が認められる。上部に格子目文を施し、下部に山形文を横走施文する。この資料の内面には山形文が施文される。

3b層からは、28のように潰れた粗大な楕円文が施される資料も認められる。同層には壺形を呈する37の資料や、口縁部直下で急激に外反する口縁部形態を呈する33など、土器形態にバラエティが認められる。これに対して4a層の資料の押型文土器の施文は丁寧で細かい。無文土器で瘤状の突起を貼付したものと共伴する。この種の土器は、稲荷山式土器に伴うことが知られており、編年の位置付けを行うにあたって重要な情報であろう。土坑埋土中から検出された土器について概観する。SK01から山形文を横走施文する底部付近の資料が出土している(2)。底部形態は平底で、胴部は直線的に移行する。器壁は厚く、口縁部の形態は不明であるが円筒形を呈するものと推定される。SK02から出土した4についても同様な形態的特徴をもつ。弘法原式に比定できよう。SK03からは、無文の円筒形土器が出土している。SK05で出土した6は、直口する口縁部形態をなし、撚糸文を2段に横走させることで帯状施文をなす。また、内面にも同様に撚糸

文を横走施文する。带状施文は川原田式の特徴的施文手法であり、稲荷山式にも僅かに伴うことが知られる。当該資料は、押型文施文ではなく撚糸文に置換した様態を示すが、編年的位置づけを行うにあたって重要な資料であろう。

当該遺跡で出土した石器群は、石鏃・搔器・尖頭状石器・楔形石器・二次加工ある石器・使用痕ある剥片・石核・剥片・碎片・磨石・敲石・石皿・台石である。組成する器種のうちで石匙、搔・削器等のスクレイパー類が極端に少なく、石鏃と磨石・敲石・石皿・台石が多い点を特徴としてあげられる。

剥片石器類に利用される石材は西北九州産の黒曜石を多用し、その他チャート、安山岩が認められる。

石鏃は、3a～4a層から“鋏型鏃”が出土しており形態的にまとまっている。石鏃の規格と調整加工の在り方については、4a層⇒3b層⇒3a層へと小型化して調整加工も粗雑化する傾向が窺える。

また、4a層から112、113のように石鏃と類似した形態を呈し、先端部が丸みをもって仕上げられた“トロトロ石器”などの異形石器が出土している。2点とも先端部を丸く仕上げているが、113については先端部の調整加工が胴部縁辺部にみられる加工と比べ細かいことから、先端部を欠失した後のリダクションの可能性も指摘できよう。両者の石材は黒曜石である。この種の石器に特徴的な表面トロトロとした質感は認められない。同様の形態的特徴を有するものにSK05で出土した16があげられる。

表3 石器集計表

器種	土層	黒曜石	安山岩	チャート	頁岩	流紋岩	砂岩	凝灰岩	玄武岩	
石 鏃	3a	5	4	1						
楔型石器				1						
尖頭状石器				2						
搔 器		1								
二次加工ある剥片		1		3						
使用痕ある剥片		7		1						
石 核		5		1						
剥片・碎片		524	367	58	1					
磨石・敲石			10							
石皿・台石			1							
合 計			543	382	67	1				
器種	土層	黒曜石	安山岩	チャート	頁岩	流紋岩	砂岩	凝灰岩	玄武岩	
石 鏃	3b	9	1	1						
尖頭状石器				2						
楔型石器				1						
二次加工ある剥片		7		2						
使用痕ある剥片		6								
石 核		1	1	1						
剥片・碎片		293	191	39	10			1		
磨石・敲石			10				1			
合 計			316	203	46	10		1	1	
器種		土層	黒曜石	安山岩	チャート	頁岩	流紋岩	砂岩	凝灰岩	玄武岩
石 鏃	4a	18	3	4						
トロトロ石器		2								
尖頭状石器		1		1						
台形石器		1		1						
楔型石器				1						
二次加工ある剥片		8	1	6						
使用痕ある剥片		13	3							
石 核		7	11	1						
剥片・碎片		741	181	91	1	1		1		
磨石・敲石			247				2	3	1	
石皿・台石			17							
合 計			791	463	105	1	1	2	4	1

表 4 土器観察表

挿図 No.	図版 No.	遺物 番号	遺構 グリッド	出土地点		種別	器種	法量 (cm)				色調	
				層	取上げNo.			口径	底径	最大 胴径	残存高	外面	内面
23	14	1	SK01	①層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(8.9)	明黄褐 10YR6/6	橙 7.5YR6/6
		2	SK01	①層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(12.0)	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/4
		3	SK02	②層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.6)	褐灰 10YR4/1	にぶい赤褐 5YR5/4
		4	SK02	②層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(18.7)	橙 5YR7/6 にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4
		5	SK05	①層		縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	(2.7)	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/4
	13	6	SK05			縄文土器	深鉢	(25.0)	-	-	(12.0)	にぶい黄褐 10YR5/4 暗褐 10YR3/3	にぶい黄橙 10YR6/4 明褐 7.5YR5/6
	14	7	SK03	③層		縄文土器	深鉢	(25.2)	-	-	(14.9)	明黄褐 10YR7/6	橙 7.5YR7/6
		8	SP02			縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.2)	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/4
		9	SP02			縄文土器	深鉢	-	-	-	(2.65)	暗灰黄 2.5Y4/2	暗灰黄 2.5Y4/2
10		10-BG	3a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(2.8)	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	
29	15	11	8-BG	3a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.8)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4
		12	13-EG	3a層	No. 37	縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.0)	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR4/2
		13	11-CG	3a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.6)	にぶい黄橙 10YR6/4	褐灰 10YR4/2
		14	12-DG	3a層	No. 159	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.0)	にぶい赤褐 5YR4/4	明赤褐 2.5YR5/8
		15	13-EG	3a層	No. 50	縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.95)	灰黄褐 10YR4/2	にぶい褐 7.5YR5/4
		16	9-BG	3a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.6)	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR4/2
		17	13-EG	3a層	No. 463	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.8)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4
		18	2-BG	3a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.2)	褐灰 10YR4/1	にぶい黄褐 10YR5/3
		19	13-EG	3a層	No. 468	縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.0)	灰黄褐 10YR4/2	橙 7.5YR6/6
		20	13-EG	3a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(2.35)	暗灰黄 2.5Y5/2	にぶい黄橙 10YR6/4
		21	14-EG	3a層		縄文土器	浅鉢	-	-	-	(3.35)	浅黄 2.5Y7/4	淡黄 2.5Y8/4
		22	14-EG	3a層		縄文土器	浅鉢	-	-	-	(4.75)	浅黄 2.5Y7/4	淡黄 2.5Y8/4
		23	7-BG	3a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.9)	黒褐 7.5YR3/1	褐 7.5YR4/4
		24	8-BG	3a層		縄文土器	深鉢	(29.0)	-	-	(8.8)	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6
35	16	25	12-DG	3b層	No. 524	縄文土器	深鉢	(21.6)	-	-	(4.15)	灰黄褐 10YR4/2	暗灰黄 2.5Y5/2
		26	12-DG	3b層	No. 528	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.2)	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR4/2
		27	11-BG	3b層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.5)	灰黄褐 10YR4/2	暗灰黄 2.5Y4/2
		28	14-EG	3b層	No. 392	縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.35)	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2
		29	11-CG	3b層	No. 596	縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.6)	にぶい赤褐 5YR4/4	にぶい黄褐 10YR5/3
		30	9-BG	3b層	No. 825	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.25)	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR4/2
		31	10-CG	3b層	No. 655	縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.25)	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR4/3
		32	10-CG 10-BG	3b層	No. 645.674	縄文土器	壺	-	-	-	(9.1)	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4
		33	11-BG	3b層	No. 598	縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.7)	灰褐 7.5YR5/2 橙 7.5YR7/6	にぶい褐 7.5YR5/3
		34	8-BG 12-DG	3b層	No. 507	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.4)	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/4

	胎土	調整・文様				残存状況	備考	遺物番号
		外器面	内器面	外底面	内底面			
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	㊦°、平行線文 斜線文	摩耗の為調整不明	-	-	口縁部破片	曾畑式 縄文前期	
	長石・石英・角閃石 砂粒	押型文（山形）	㊦°	㊦°	㊦°	胴部～底部破片		
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	条痕	㊦°	-	-	胴部破片	条痕は縦横2方向 先後関係 縦→横	
	長石・角閃石・赤褐色粒 砂粒	㊦°、押型文（山形）押 型文（山形）後㊦°	㊦°、指頭圧痕	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	摩耗の為調整不明	㊦°	㊦°	㊦°	底部 1/4		
	長石・石英・角閃石 砂粒	㊦°、捺糸文	㊦°、捺糸文	-	-	口縁～胴部中位 1/3		
	長石・石英・角閃石 雲母・赤褐色粒・砂粒	摩耗の為調整不明 条痕	㊦°	-	-	口縁部 1/8		
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	㊦°キ（摩耗）	㊦°キ（摩耗）	-	-	口縁部破片	縄文後期～晩期	
	長石・石英・角閃石 砂粒	㊦°後㊦°キ	㊦°後㊦°キ	㊦°後㊦°キ	㊦°後㊦°キ	底部破片	底部突脚 船元式 縄文中期	
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	㊦°、押型文（楕円）	㊦°、押型文（楕円）	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	押型文（山形）・㊦°キ	㊦°、一部工具㊦°	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・雲母・砂粒	㊦°、押型文（山形）	㊦°、押型文（山形） ㊦°、指頭圧痕	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 雲母	押型文（山形）	㊦°	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	押型文（山形）	押型文（山形）、㊦°	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・砂粒	押型文（格子目）	押型文（格子目）	-	-	口縁部破片	口唇部 押型文（格子目）後刺突文	
	長石・石英・雲母・砂粒	押型文（格子目） 押型文（山形）	押型文（山形）、㊦°	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	押型文（格子目）	㊦°	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	貝殻による連続刺突文 ㊦°	条痕・㊦°	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・雲母 赤色酸化粒・砂粒 角閃石	貝殻腹縁押引文	㊦°、工具㊦°	-	-	口縁部破片	口唇部 刺突文	
	長石・石英・角閃石 砂粒	㊦°	工具㊦°、㊦°	-	-	胴部破片	貼付刻目突帯	
	角閃石・砂粒	㊦°キ	工具㊦°、㊦°	-	-	口縁部破片	縄文後期～晩期	
	長石・石英・角閃石 砂粒	㊦°キ（摩耗）	工具㊦°、㊦° 指頭圧痕	-	-	口縁部破片	縄文後期～晩期	
	長石・石英・角閃石	条痕	一部工具㊦° ㊦°後㊦°キ	-	-	口縁部破片	条痕は縦横2方向 先後関係 横→縦 内外器面被熱 外器面煤付着	
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕	㊦°	-	-	口縁部破片	条痕は横方向？	
	長石・石英・角閃石 砂粒・赤色酸化粒 黒曜石	㊦°、押型文（楕円）	押型文（楕円）	-	-	口縁部破片	口縁部施文不明瞭	
	角閃石・赤褐色粒・砂粒	押型文（楕円）	㊦°	-	-	胴部下位破片		
	長石・石英・角閃石 雲母・角閃石	押型文（楕円）	㊦°	-	-	胴部破片		
	長石・石英・雲母・砂粒	押型文（楕円）、㊦°	㊦°、指頭圧痕	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	押型文（山形）	㊦°	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	押型文（山形）	摩耗の為調整不明	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・雲母・砂粒	㊦°、押型文（山形）	㊦°、工具㊦°	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 赤色酸化粒・黒色粒 砂粒	㊦°、押型文（山形）	押型文（山形）、㊦°	-	-	口縁部～胴部破片		
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	押型文（山形）	工具㊦°後㊦°？	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	㊦° 押型文（山形・格子目）	㊦°	-	-	口縁部 1/8		

表 5 土器観察表

挿図 No.	図版 No.	遺物 番号	遺構 グリッド	出土地点		種別	器種	法量 (cm)				色調		
				層	取上げNo.			口径	底径	最大 胴径	残存高	外面	内面	
35	16	35	10-CG	3b 層	No. 707	縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.6)	橙 7.5YR6/6	暗褐 10YR3/3	
		36	10-CG	3b 層	No. 658	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.7)	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	
		37	11-CG	3b 層	No. 572	縄文土器	深鉢	-	-	-	(8.2)	浅黄褐 7.5YR8/6	灰黄褐 10YR6/2 灰黄褐 10YR5/2	
		38	12-DG	3b 層	No. 553	縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.5)	黒褐 2.5Y3/1	橙 7.5YR6/6	
		39	9-AG 12-DG	3b 層	No. 529. 853	縄文土器	深鉢	-	-	-	(9.9)	褐 7.5YR4/4	橙 7.5YR6/6	
		40	7-BG	3b 層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.8)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/4	
		41	12-CG	3b 層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.5)	明黄褐 10YR6/6	にぶい黄褐 10YR4/3	
		42	12-CG	3b 層		縄文土器	深鉢	-	(10.9)	-	(3.35)	明黄褐 10YR7/6	黒褐 10YR3/2	
		43	8-BG	3a 層 3b 層	No. 261. 917	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	(6.5)	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	
42	17	44	12-DG	4a 層	No. 1116	縄文土器	深鉢	-	-	-	(2.55)	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/4	
		45	10-BG	4a 層	No. 1274	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.3)	褐 7.5YR4/6	褐 10YR4/6	
		46	10-CG	4a 層	No. 1308	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.6)	褐 7.5YR4/6	黒褐 2.5Y3/2	
		47	9-BG	4a 層	No. 963	縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.95)	にぶい黄橙 10YR7/2 にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3 灰黄褐 10YR5/2	
		48	12-DG	4a 層	No. 1109	縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.2)	にぶい黄褐 10YR4/3	黒褐 10YR3/1	
		49	14-FG	4a 層	No. 1237	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.7)	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄橙 10YR6/4	
		50	9-BG	4a 層	No. 1019	縄文土器	鉢	(13.2)	-	-	(4.5)	暗褐 7.5YR3/3	褐 7.5YR4/3	
		51	12-DG	4a 層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.3)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙 10YR7/4	
		52	14-EG	4a 層	No. 1226	縄文土器	深鉢	(24.8)	-	-	(8.8)	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄橙 10YR6/4	
		53	12-CG 12-DG 12-E 13-E	3a 層 4a 層	No. 1214. 1215	縄文土器	深鉢	(22.0)	-	-	(5.2)	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR4/2	
		54	14-EG	4a 層	No. 1225	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.4)	にぶい赤褐 5YR5/4	灰黄褐 10YR4/2	
		55	10-BG	4a 層	No. 1280	縄文土器	深鉢	-	-	-	(8.7)	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR5/4	
		56	9-BG	4a 層	No. 993	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.8)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4 褐灰 7.5YR6/1	
		57	10-CG	4a 層	No. 1302	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.1)	にぶい黄褐 10YR4/3	にぶい黄褐 10YR5/4	
		19	58	9-BG	3b 層 4a 層	No. 784. 815	縄文土器	深鉢	(24.8)	-	-	(11.8)	暗褐 10YR3/3	暗褐 10YR3/3
		17	59	13-EG	4a 層	No. 1200	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.5)	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/3
			60	10-BG	4a 層	No. 1294	縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.2)	明赤褐 5YR5/6	黒褐 10YR3/2
18	61	12-DG	4a 層	No. 1108	縄文土器	鉢	-	-	-	(4.0)	明褐 7.5YR5/6	にぶい黄褐 10YR5/4		
17	62	12-DG	4a 層		縄文土器	深鉢	-	(9.6)	-	(3.1)	橙 7.5YR6/6 灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄褐 10YR5/3		
43	18	63	12-EG	4a 層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.1)	暗褐 10YR3/3	にぶい黄褐 10YR5/4	
		64	SY-3	4a 層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.2)	褐 7.5YR4/4	にぶい褐 7.5YR5/4	
		65	10-BG 10-CG	3b 層 4a 層	No. 715. 1035. 1048. 1277	縄文土器	深鉢	-	-	-	(8.5)	橙 5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	
		66	12-DG	4a 層	No. 1333	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.7)	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/4	
		67	11-CG	4a 層	No. 1080	縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.2)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	

	胎土	調整・文様				残存状況	備考	遺物番号
		外器面	内器面	外底面	内底面			
	長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・捺糸文	ナテ	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 雲母・赤褐色粒・砂粒	条痕後ナテ	工具ナテ	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕後ナテ	ナテ	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	条痕・条痕後ナテ?	ナテ後ナテ	-	-	胴部破片	条痕は横方向	
	石英・角閃石・赤褐色粒 砂粒	条痕	ナテ後ナテ	-	-	胴部破片	条痕は横方向	
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	ナテ・捺糸文	ナテ・指頭圧痕	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	条線文	ナテ指頭圧痕	-	-	胴部破片	条線は斜め方向に交差	
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	貝殻腹縁押引文	ナテ	ナテ	ナテ	底部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・指頭圧痕	ナテ・指頭圧痕	摩耗の為調整不明	-	底部一部～胴部下位 1/3		
	長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・押型文（山形）	ナテ	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	押型文（山形）	ナテ	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・押型文（山形）	ナテ	-	-	口縁部破片		
	角閃石・雲母・砂粒	ナテ・押型文（山形）	押型文（山形）	-	-	口縁部破片		
	雲母・砂粒	押型文（山形）	ナテ	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	押型文（格子目）	ナテ・指頭圧痕	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・押型文（山形）	ナテ	-	-	口縁部 1/4		
	長石・石英・角閃石 砂粒	押型文（山形）	押型文（山形）	-	-	口縁部破片	口唇部 押型文（山形）	
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	ナテ・押型文（山形）	工具ナテ・指頭圧痕	-	-	口縁部～胴部		
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	ナテ・押型文（山形）	押型文（山形）	-	-	口縁部～胴部		
	長石・石英・角閃石 雲母	押型文（楕円）	ナテ後工具ナテ	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	ナテ・押型文（格子目）	ナテ	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	ナテ・押型文（格子目）	ナテ	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・押型文（格子目）	ナテ	-	-	口縁部破片		
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	ナテ・押型文（格子目）	ナテ	-	-	口縁部～胴部		
	長石・石英・角閃石 雲母	押型文（格子目）	ナテ・指頭圧痕	-	-	胴部破片		
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	押型文（楕円）、ナテ	ナテ・指頭圧痕	-	-	胴部下位破片		
	長石・石英・角閃石 砂粒	押型文（楕円）	-	押型文（楕円）	ナテ・指頭圧痕	底部 1/4		
	長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕	ナテ	ナテ	ナテ	底部破片	条痕は横方向 外底部圧痕	
	長石・石英・砂粒	ナテ・刺突文 貝殻腹縁押引文 捺糸文	ナテ	-	-	口縁部破片	半截棒状工具による刺突文	
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	捺糸文	ナテ・捺糸文	-	-	口縁部破片	口唇部 捺糸文	
	長石・雲母・砂粒	捺糸文	ナテ	-	-	胴部破片		
	角閃石・砂粒	ナテ・条痕	ナテ	-	-	口縁部破片	条痕は縦横 2 方向 先後関係 縦→横	
	長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	ナテ・条痕	ナテ	-	-	口縁部破片	条痕は縦横 2 方向 先後関係 横→縦	

表6 土器観察表

挿図 No.	図版 No.	遺物 番号	遺構 グリッド	出土地点		種別	器種	法量 (cm)				色調	
				層	取上げNo.			口径	底径	最大 胴径	残存高	外面	内面
43	18	68	10-CG	4a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.0)	にぶい黄褐 10YR4/3	にぶい褐 7.5YR5/4
		69	11-CG	4a層	No. 1328	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.5)	橙 7.5YR6/6	灰黄褐 10YR4/2
		70	13-EG	4a層	No. 1204. 1379	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.1)	にぶい褐 7.5YR5/4	黒褐 10YR4/2
		71	13-DG	4a層	No. 1192	縄文土器	深鉢	-	-	-	(9.0)	橙 5YR6/6	灰黄褐 10YR4/2
		72	9-BG	4a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(9.5)	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR4/2
		73	10-CG	4a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.05)	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6
	19	74	4-BG 5-BG	4a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(9.4)	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰黄 2.5Y5/2
		75	10-BG 10-CG	3b層 4a層	No. 698. No. 1278	縄文土器	深鉢	(21.8)	-	-	(18.4)	明赤褐 5YR5/6	褐 7.5YR4/6
		76	9-BG	4a層	No. 1244. 1245. 1246. 1247	縄文土器	深鉢	(18.0)	-	-	(16.4)	にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR7/4
	44	18	77	9-BG	4a層	No. 962	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.7)	橙 7.5YR6/6 褐灰 10YR6/1
78			9-CG	4a層	No. 1013	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.0)	灰褐 7.5YR6/2 橙 7.5YR6/6	黄橙 10YR8/6
79			10-BG	4a層		縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.35)	橙 7.5YR6/6 にぶい黄褐 10YR4/3	にぶい黄褐 10YR4/3
80			12-DG	4a層	No. 1173. 1336	縄文土器	深鉢	-	-	-	(10.8)	橙 7.5YR6/6	灰黄褐 10YR4/2
81			12-DG	4a層	No. 1132	縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.8)	暗褐 7.5YR3/3	にぶい黄橙 10YR6/3
82			13-EG 14-E 14-FG	4a層	No. 409. 1213. 1236. 1382	縄文土器	深鉢	-	-	-	(9.05)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4
83			8-BG	4a層	No. 1020	縄文土器	深鉢	-	-	-	(8.9)	橙 7.5YR6/6	黒褐 10YR2/2
84			8-BG	4a層	No. 951	縄文土器	鉢	-	-	-	(3.5)	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6
85			9-BG	4a層	No. 1259	縄文土器	深鉢	-	(13.2)	-	(2.7)	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/4
86		12-DG 13-EG	4a層	No. 1376. 1388	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	(10.0)	にぶい褐 7.5YR5/4	褐 7.5YR4/3	
45	13	87	SY-18	4a層		縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	(8.1)	明赤褐 5YR5/6	にぶい黄褐 10YR4/3
		88	9-BG	4a層	No. 978	縄文土器	深鉢	(17.8)	-	-	(24.2)	にぶい褐 7.5YR5/4 褐 7.5YR3/3	にぶい褐 7.5YR5/4 褐 7.5YR3/3
58	19	89	12-DG	4a層	No. 1124, 1138, 1140, 1141, 1144, 1145, 1146, 1148	縄文土器	深鉢	40.25	-	-	47.4	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/4 橙 5YR6/6
		90	12-DG		調査区	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.1)	にぶい黄褐 10YR4/3	にぶい黄褐 10YR5/3
		91			調査区	縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.1)	褐 7.5YR4/3	橙 5YR6/6
		92			排土	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.0)	褐 7.5YR4/3	にぶい黄褐 10YR4/3
		93			周辺茶畑表採	縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.95)	橙 7.5YR6/6	にぶい黄 2.5Y6/3
		94	9-BG		調査区	縄文土器	深鉢	-	-	-	(5.7)	黒褐 10YR3/2	灰黄褐 10YR4/2
		95			表土	縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.9)	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3
		96	12-DG		調査区	縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.4)	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄褐 10YR5/3
		97	8-BG		調査区	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.05)	明赤褐 5YR5/6	灰黄褐 10YR4/2
		98			排土	縄文土器	深鉢	-	-	-	(6.3)	灰黄褐 10YR4/2	にぶい橙 7.5YR6/4
		99	9-CG		東側トレンチ	縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.6)	にぶい黄褐 10YR5/4	橙 7.5YR6/6
		100		表土下	東側トレンチ	縄文土器	深鉢	(25.8)	-	-	(11.2)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4

胎土	調整・文様				残存状況	備考	遺物番号
	外器面	内器面	外底面	内底面			
長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕・ナテ	条痕後工具ナテ	-	-	口縁部破片	条痕は横方向（外器面）	
長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕後ナテ	工具ナテ	-	-	胴部破片		
長石・石英・角閃石 雲母	条線文・工具ナテ	工具ナテ	-	-	胴部破片	条痕は少し斜目縦横2方向 先後関係 縦→横	
長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	条痕	工具ナテ	-	-	胴部破片	条痕は縦横2方向 先後関係 縦→横	
長石・石英・角閃石 雲母	条痕	工具ナテ	-	-	胴部破片	条痕は不定方向	
長石・石英・角閃石 赤色酸化粒・砂粒	条痕	ナテ	-	-	胴部破片	条痕は横方向	
長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕	ナテ	-	-	胴部破片	条痕は横方向	
長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	ナテ・条痕	ナテ・摩耗の為調整不明	-	-	口縁部～胴部中位 1/3	条痕は縦横2方向 先後関係 横→縦	
長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・条痕 条痕後部分的にナテ	ナテ・指頭圧痕	-	-	口縁部～胴部上半 1/3	条痕は横方向	
角閃石・雲母・赤褐色粒 砂粒	ナテ・条痕	ナテ ナテ後シキ（摩耗）	-	-	口縁部破片	条痕は縦横2方向 先後関係 縦→横	
長石・石英・雲母・砂粒	ナテ 沈線文	ナテ（摩耗）	-	-	口縁部破片	沈線は斜め方向に交差	
長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・条線文	ナテ	-	-	口縁部破片	条線は横方向 内外器面煤付着	
長石・石英・角閃石 砂粒	条痕	ナテ後シキ	-	-	胴部破片	条痕は縦横2方向 先後関係 縦→横	
長石・石英・角閃石 砂粒	条線文	ナテ	-	-	胴部破片	条痕は縦横2方向 先後関係 縦→横	
長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	ナテ・指頭圧痕	ナテ・指頭圧痕	-	-	口縁部破片	口縁直下に瘤状突起 縄文早期？	
長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・指頭圧痕	ナテ・指頭圧痕	-	-	胴部破片	内外器面煤付着	
長石・雲母・赤褐色粒 砂粒	ナテ	ナテ・指頭圧痕	-	-	口縁部破片		
長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ	ナテ・指頭圧痕	ナテ	ナテ・指頭圧痕	底部 1/4		
長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	胴部～底部破片 1/3		
長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	ナテ	ナテ・工具ナテ	ナテ	ナテ・工具ナテ	胴部下位～底部 1/4		
長石・石英・角閃石 赤褐色粒・砂粒	貝殻条痕・ナテ	ナテ・指頭圧痕	-	-	口縁部～胴部下位 1/2	条痕は縦横2方向 先後関係 縦→横	
長石・石英・角閃石 砂粒	ナテ・指頭圧痕	ナテ・指頭圧痕	ナテ・指頭圧痕	ナテ・指頭圧痕	全体の 3/4		
長石・石英・角閃石 砂粒	撚糸文	撚糸文後ナテ	-	-	口縁部破片	波状口縁？ 口唇部 撚糸文	
長石・石英・角閃石・砂 粒	押型文（格子目？）	ナテ・指頭圧痕	-	-	口縁部破片		
長石・角閃石・雲母？ 砂粒	押型文（山形）	ナテ	-	-	胴部破片		
長石・石英・角閃石 砂粒	押型文（山形）	工具ナテ後ナテ	-	-	胴部破片		
長石・石英・角閃石 雲母	沈線文	ナテ	-	-	胴部破片	沈線は斜め方向に交差	
長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	シキ・縄文	シキ	-	-	頭部破片	鐘崎式 縄文後期	
長石・石英・角閃石 砂粒	条痕	丁寧なナテ	-	-	口縁部破片	条痕は横方向	
長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕・ナテ	条痕後ナテ	-	-	口縁部破片	条痕は縦横2方向（外器面） 先後関係 横→縦	
長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕	丁寧なナテ	-	-	胴部破片	条痕は横方向	
長石・石英・角閃石 雲母	条痕	縄文押圧文（摩耗）	-	-	口縁部破片		
長石・石英・角閃石 雲母・砂粒	条痕	工具ナテ	-	-	口縁部～胴部 1/6	条痕は横方向	

表7 石器観察表

挿図 NO	図版 NO	遺物 番号	器種	石材	計測値				層位	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
21		1	石皿	安山岩	17.50	13.1	8.2	2484	SY04	全面に受熱。表面、両側面に磨痕。全縁に敲打痕。
		2	敲打石	安山岩	12.2	6.2	4.8	453	SY16	表裏面に磨痕。上端、右側面に敲打痕。
		3	磨・敲打石	安山岩	11.5	8.7	4.0	607	SY16	表裏面に磨痕。上下端に敲打痕。
		4	敲打石	安山岩	9.8	9.4	6.1	872	SY16	表裏面、側面に磨痕、敲打痕。
		5	磨石	安山岩	(6.9)	(9.9)	(6.4)	574	SY16	表裏面に磨痕。1/2程欠損。
		6	磨石	安山岩	9.4	8.15	5.4	504	SY16	2ヶ所に磨痕。上下端に敲打痕。赤化の箇所有。
22	24	7	石皿	安山岩	11.2	11.2	3.4	689	SY16	2ヶ所に敲打痕。表裏面に磨痕。表面は中央部がややくぼんでいる。
		8	磨石	安山岩	(5.5)	(7.2)	(5.8)	256	SY20	上面に敲打痕。側面に赤化の箇所有。磨痕。1/2程欠損。
		9	敲打石	安山岩	7.2	3.1	2.95	75	SY20	表裏面、両側面に磨痕。上下端に敲打痕。
		10	石皿	安山岩	(8.35)	(12.2)	(3.7)	593	SY21	表面に磨痕。
		11	磨・敲打石	安山岩	10.65	10.05	6.6	1059	SY21	3ヶ所に磨痕。下面に敲打痕。受熱が観られる。
		12	石皿	安山岩	(9.9)	(11.8)	(10.35)	1689	SY21	表裏面に磨痕。
		13	石皿	安山岩	(19.25)	(12.35)	(5.45)	1812	SY21	全体が欠損している。表面が赤化している。
		14	敲打石	安山岩	(6.5)	(9.5)	(5.9)	358	SY21	裏面に敲打の後の磨痕。
24	23	15	石鏃	黒曜石	(1.85)	(1.55)	0.35	0.70	SK02 ②層	先端部と右脚部欠失。左右非対称で抉りは丸い形状。
		16	石鏃	黒曜石	3.30	(1.90)	0.60	2.60	SK05 ①層	トロトロ石器左脚部欠失。左右対称で抉りは広く浅い。丸みのある頭部をもつ大型の鏃。
		17	二次加工ある剥片	黒曜石	(1.50)	(1.30)	(0.30)	0.50	SK12	一部残存。右側縁と先端に細かい剥離が施される。
		18	二次加工ある剥片	黒曜石	(2.60)	(1.10)	0.30	0.80	SK10 ①層	一部欠失。縦長の剥片。表裏両面とも欠失部をのぞく周縁に細かな調整剥離が施される。
		19	剥片	黒曜石	1.95	2.70	0.85	4.20	SK06 ①層	幅広の不定形剥片。表面上下側縁に剥離か？
		20	剥片	黒曜石	2.20	3.80	2.05	7.20	SK05 ①層	打面転移を行い剥離された不定形の剥片。
		21	石核	黒曜石	1.80	3.50	2.60	12.10	SK08 ①層	角礫を母岩とする。打面は2枚の剥離面からなる。目的剥片は不定形な横広の剥片。裏面及び左側面に調整剥離が観察される。
25	24	22	石皿？	安山岩	(11.35)	(14.2)	(4.65)	1100	SK01 ①層	表裏面、側面に磨痕 一部に敲打痕。
		23	磨・敲打石	安山岩	12.0	9.9	6.2	958	SK05 ③層	左側面に敲打痕。表裏面に磨痕。
		24	石皿	安山岩	(11.7)	(9.05)	(5.8)	2539	SK05	欠損が観られる。表裏面に磨痕。
		25	磨・敲打石	安山岩	10.4	9.0	5.45	587	SK05	表裏面に磨痕。裏面、上端、右側面に敲打痕。
		26	磨石	安山岩	15.25	11.75	6.0	1567	SK10	表裏面に磨痕。
		27	石皿	安山岩	(44.7)	(40.5)	(6.5)	1440	SK08	大きな平らな石材を石皿として使用。表裏面に磨痕。
31	20	28	石鏃	チャート	1.50	(1.30)	0.20	0.30	7-B (3a層)	左脚部欠失。小型の正三角形鏃。抉りは広く浅い。
		29	石鏃	黒曜石	2.10	(1.85)	0.40	1.00	8-B (3a層)	先端部、左脚部欠失。表面に素材剥離面を残す。
		30	石鏃	黒曜石	2.20	(1.25)	0.50	1.10	14-E (3a層)	左脚部欠失。表面中央付近及び裏面先端部付近に素材剥離面を残す。
		31	石鏃	黒曜石	(1.70)	(2.10)	0.45	1.10	14-E (3a層)	先端部欠失。左右対称で抉り浅い。
		32	石鏃	黒曜石	(2.15)	(1.40)	0.20	0.60	9-C (3a層)	両脚欠失。灰色系黒曜石。
		33	石鏃	安山岩	(2.05)	(1.85)	0.55	1.60	11-C (3a層)	先端部と両脚欠失。左右対称。脚は欠失するが抉りは深いと推定される。

表8 石器観察表

挿図 NO	図版 NO	遺物 番号	器種	石材	計測値				層位	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
31	20	34	石鏃	安山岩	(2.50)	2.05	0.45	1.50	10-C (3a層)	先端部ごく一部欠失。左右非対称。抉りは広く深い。
		35	石鏃	安山岩	2.90	(1.80)	0.45	1.70	11-C (3a層)	左脚部欠失するが、左右ほぼ対称な形。抉りは広く浅い。
		36	石鏃	安山岩	(2.35)	(1.75)	0.30	0.80	3a層	右脚部欠失するが左右対称。抉りは広く深い。 裏面は素材剥離面を残す。
		37	石鏃	黒曜石	(1.00)	(0.90)	(0.30)	0.20	13-D (3a層)	右脚部のみ残存。
	23	38	尖頭状石器	チャート	3.90	2.50	1.30	11.20	4-B (3a層)	表裏両面とも、両側縁から粗い調整剥離が施される。 先端部は鈍い。
		39	尖頭状石器	チャート	3.15	2.60	1.20	8.10	5-A (3a層)	表面は左側縁より、裏面は両側縁から粗い調整剥離が施される
	21	40	搔器	黒曜石	2.10	1.80	0.70	2.20	13-D (3a層)	裏面に素材剥離面を残す。周縁に急角度の調整が施される。
		41	二次加工ある剥片	チャート	1.80	2.80	0.55	2.50	13-E (3a層)	横長の不定形剥片。右側縁に調整剥離が施される。
		42	二次加工ある剥片	チャート	4.00	2.95	1.00	11.20	13-E (3a層)	幅広の剥片。左右側縁に細かな調整剥離が施される。
		43	二次加工ある剥片	チャート	2.80	3.55	1.20	10.40	9-B (3a層)	幅広の不定形剥片。上・左・右側縁に調整剥離が施される。
		44	二次加工ある剥片	黒曜石	(2.55)	(1.05)	(0.30)	0.80	10-C (3a層)	1/2 残存。横長の剥片。表裏面に大きく素材剥離面を残す。
		45	使用痕ある剥片	黒曜石	3.55	1.60	0.95	4.10	9-C (3a層)	縦長の剥片。打面は自然面。表面の左側縁下部、下縁、及び右側縁に小剥離痕が観察される。
46		使用痕ある剥片	黒曜石	3.60	2.70	0.75	3.30	11-C (3a層)	縦長の不定形剥片。左側の一部と先端の一部を除き小剥離痕が観察される。	
47		使用痕ある剥片	黒曜石	3.20	2.30	0.80	4.10	11-C (3a層)	不定形剥片。右側縁に小剥離痕が観察される。	
32	22	48	剥片	黒曜石	2.70	1.80	0.75	2.10	11-C (3a層)	頻繁に打面転移を行い剥離された不定形剥片。
		49	剥片	黒曜石	1.95	1.90	0.50	1.40	9-C (3a層)	頻繁に打面転移を行い剥離された不定形剥片。
		50	剥片	チャート	2.40	1.20	0.40	0.60	14-E (3a層)	横長の不定形剥片。
		51	使用痕ある剥片	黒曜石	3.30	1.65	0.85	2.20	12-D (3a層)	両極打法によって剥離された縦長の不定形剥片。 左側縁に小剥離痕が観察される。
		52	剥片	黒曜石	2.05	1.70	0.75	2.30	11-D (3a層)	頻繁に打面転移を行い剥離された不定形剥片。
		53	剥片	黒曜石	1.45	1.10	0.30	0.30	8-B (3a層)	表面に自然面を残す。裏面の右側縁中位に小剥離痕が観察される。
		54	石核	黒曜石	2.00	2.30	1.95	5.10	11-D (3a層)	角礫を母岩とする。上面と裏面に自然面を残す。 自然面を打面とする。目的剥片は縦長の剥片。 裏面には調整剥離が観察される。
		55	石核	黒曜石	4.05	1.60	1.65	10.80	9-B (3a層)	角礫を母岩とする。目的剥片は横長の剥片。 表面と右側面及び下面に自然面を残す。 表面の下部及び裏面に調整剥離が観察される。
33	24	56	磨石	安山岩	7.75	7.00	3.00	149.20	12-D (3a層)	正円に近い楕円形の磨石。表裏及び左側面に敲打痕が観察される。摩耗しているが、表裏面と下面に磨痕があると思われる。
		57	磨・敲石	安山岩	(6.4)	(7.15)	(3.3)	220 g	4-A (3a層)	表裏面に磨痕。敲打痕有。1/2 残存。
		58	磨石	安山岩	10.20	8.80	3.60	555.00	4-A (3a層)	表裏面に磨面があり縁辺に稜をなす。表面両縁辺に敲打痕が観察される。側面は敲打による整形と思われ整った楕円形を呈する。
		59	磨石	安山岩	(4.95)	(6.80)	3.70	195.40	8-B (3a層)	1/2 残存。表裏面に磨面。下面に敲打痕。縦断面は中央部。
37	20	60	石鏃	黒曜石	(1.25)	(1.35)	0.45	0.50	13-D (3b層)	両脚欠失、先端部のみ残存。裏面に自然面を残す。
		61	石鏃	黒曜石	1.80	(1.40)	0.40	0.60	11-B (3b層)	左脚部欠失するが、左右対称で抉りは浅い。
		62	石鏃	黒曜石	2.20	1.65	0.40	1.00	10-C (3b層)	表面中央付近及び、裏面中央付近と左脚部に素材剥離面を残す。抉りは深い。

表9 石器観察表

挿図 NO	図版 NO	遺物 NO	器種	石材	計測値				層位	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
37	20	63	石鏃	黒曜石	2.70	(1.40)	0.40	0.60	12-D (3b層)	左脚部欠失。調整は丁寧。
		64	石鏃	黒曜石	(2.45)	(1.40)	0.45	0.70	10-C (3b層)	両脚欠失。表面に素材剥離面を一部残す。調整は丁寧。
		65	石鏃	チャート	(2.35)	(1.40)	0.45	1.20	9-B (3b層)	両脚欠失するが、左右対称を呈す。挟りは深い。
		66	石鏃	黒曜石	1.30	(1.15)	0.40	0.60	10-C (3b層)	左脚部欠失するが左右対称。挟りは狭く深い。左右側縁は中央部からやや先端側に浅い窪みをもつ。
		67	石鏃	黒曜石	2.25	(1.35)	0.35	0.50	12-C (3b層)	左脚部欠失。1/2を欠失するが鏃長に対して幅広と考えられる。挟りも広い。
		68	石鏃	安山岩	3.55	2.40	0.80	3.90	9-C (3b層)	先端部はやや先鋭さに欠ける。調整やや粗雑。左右非対称で挟りは深い。
		69	石鏃	黒曜石	(1.60)	(1.25)	(0.35)	0.60	8-B (3b層)	右脚部のみ残存。表面には自然面が、裏面には素材剥離面を残す。
	23	70	楔形石器	チャート	2.20	1.45	0.65	1.70	8-B (3b層)	連続する階段状剥離痕が上下両端に観察される。
	20	71	石鏃	黒曜石	(2.20)	(1.40)	(0.50)	1.00	10-C (3b層)	先端部及び左脚部欠失。
23	72	尖頭状石器	チャート	(3.40)	2.40	1.00	6.10	11-C (3b層)	先端部欠失。幅広の剥片素材。両側縁に調整剥離が施される。	
	73	尖頭状石器	チャート	3.25	2.45	1.10	6.90	8-B (3b層)	両側縁に調整剥離が施される。	
38	21	74	二次加工ある剥片	黒曜石	1.25	1.85	0.40	0.50	12-D (3b層)	横広の剥片。裏面に素材剥離面を残す。剥片の上部から右側縁にかけて欠失。表面側左側縁の上縁から下縁にかけて裏面側上縁及び下縁に二次加工が施される。裏面側上縁の二次加工は剥片の上部を欠失後に施されたと思われる。石鏃未成品の可能性有。
		75	二次加工ある剥片	黒曜石	0.95	2.70	0.35	1.00	9-B (3b層)	末端がヒンジフラクチャーとなる剥片。打面側の切断面に二次加工が施される。
		76	二次加工ある剥片	黒曜石	2.00	(1.65)	0.50	1.10	10-B (3b層)	右側縁の一部欠失。石鏃の未成品？裏面に素材剥離面を残す。
		77	二次加工ある剥片	黒曜石	1.95	2.25	0.45	1.30	11-C (3b層)	不定形の剥片。上面に裏・表から調整が施される。左側下縁辺には裏面からの調整が施される。
		78	二次加工ある剥片	黒曜石	3.45	1.90	0.80	3.50	10-C (3b層)	石鏃の未成品？縦長の剥片。下縁部に表裏面からノッチ状の調整が施される。左右両側縁に小剥離痕が観察される。
		79	二次加工ある剥片	黒曜石	2.95	2.00	0.50	1.50	10-B (3b層)	縦長の剥片。両側縁に調整剥離が施される。
		80	二次加工ある剥片	チャート	2.75	1.80	0.45	1.20	9-B (3b層)	縦長の不定形剥片。右側下縁に調整剥離が施される。
		81	二次加工ある剥片	黒曜石	3.55	2.85	1.25	4.40	8-B (3b層)	縦長の剥片。表面下部及び裏面の両側縁下部に二次加工が観察され、また、両側縁の中央～上部にかけて小剥離痕が観察される。
	82	二次加工ある剥片	チャート	2.75	2.60	1.15	8.40	10-C (3b層)	裏面の上、下縁に調整剥離が施される。	
39	22	83	使用痕ある剥片	黒曜石	2.65	1.85	0.80	2.00	9-B (3b層)	打面は自然面。下縁及び右側縁に小剥離痕が観察される。
		84	使用痕ある剥片	黒曜石	1.90	2.50	0.45	1.10	9-B (3b層)	打面がわずかに残る、横広の剥片。両側縁に小剥離痕が観察される。
		85	使用痕ある剥片	黒曜石	1.65	2.40	0.30	1.05	9-C (3b層)	幅広の縦長剥片。左右両側縁に小剥離痕が観察される。
		86	使用痕ある剥片	黒曜石	3.25	1.70	0.95	3.00	9-B (3b層)	不定形の剥片。左右両側縁に小剥離痕が観察される。灰色系黒曜石
		87	使用痕ある剥片	黒曜石	2.95	2.00	0.95	2.40	11-C (3b層)	幅広の剥片。表面と打面の一部及び右側面に自然面を残す。自然面と一枚の剥離からなる打面を残す。表面側左側縁中部から下部にかけてと表面と右側面を分ける稜上に使用痕と思われる小剥離痕が観察される。
		88	使用痕ある剥片	黒曜石	2.75	1.25	0.60	1.10	9-B (3b層)	縦長の剥片。打面は剥離面。右側縁に小剥離痕が観察される。表面下縁に自然面を残す。
		89	剥片	黒曜石	2.95	1.00	0.80	0.80	10-B (3b層)	縦長の剥片。打面は一部残存。表面に自然面を残す。
		90	剥片	黒曜石	5.05	1.85	1.00	3.50	12-D (3b層)	縦長の剥片。表面に自然面を残す。打面を欠失。
		91	剥片	黒曜石	3.20	1.95	0.50	2.60	9-B (3b層)	打点部側を大きく欠失。表面に自然面を残す。
24	92	磨・敲石	砂岩	8.2	6.8	5.3	398	13-D (3b層)	表裏面、右側面に敲打痕。裏面、下端に磨痕。受熱が観られる。	

表 10 石器観察表

挿図 NO	図版 NO	遺物 番号	器種	石材	計測値				層位	備考	
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
47	20	93	石鏃	黒曜石	1.75	1.40	0.30	0.50	11-C (4a層)	裏面に素材剥離面を残す。未製品か。左右非対称。	
	-	94	石鏃	黒曜石	(1.50)	(1.25)	0.35	0.60	10-B (4a層)	左脚部欠失。やや小型の鏃。	
	20	95	石鏃	黒曜石	(1.75)	(1.60)	0.35	0.60	8-B (4a層)	両脚欠失。裏面に素材剥離面を残す。調整は丁寧。	
		96	石鏃	黒曜石	2.10	(1.65)	0.50	1.00	11-B (4a層)	右脚部欠失。裏面に素材剥離面を残す。抉りは深い。	
		97	石鏃	黒曜石	2.40	1.70	0.70	1.80	10-C (4a層)	左右非対称で抉りは丸い形状。未製品か。	
		98	石鏃	黒曜石	2.10	(1.65)	0.40	0.80	11-C (4a層)	右脚部欠失。片側を欠失するが左右対称で抉りは深い。	
		99	石鏃	黒曜石	2.05	(1.60)	0.35	0.60	10-C (4a層)	右脚部欠失。抉りは広く深い。裏面に素材剥離面を残す。	
		100	石鏃	安山岩	(2.15)	(1.60)	0.45	1.00	8-B (4a層)	先端部、右脚先端部欠失。左右非対称。	
		101	石鏃	黒曜石	2.15	1.95	0.45	1.10	9-B (4a層)	左右非対称。調整は丁寧。	
		-	102	石鏃	チャート	2.15	1.60	0.50	0.90	9-B (4a層)	先端一部欠失。左右非対称。
		20	103	石鏃	チャート	2.30	(1.85)	0.50	1.30	10-B (4a層)	左脚部欠失。左右非対称か？
	104		石鏃	黒曜石	2.35	(1.40)	0.35	0.60	9-B (4a層)	左脚部欠失。抉りは深い。表裏面に素材剥離面を残す。	
	105		石鏃	チャート	(2.40)	(1.65)	0.35	1.10	10-C (4a層)	左脚部欠失するが、ほぼ左右対称。抉りは深い。	
	106		石鏃	黒曜石	2.40	1.40	0.40	0.90	13-D (4a層)	表面に節理面、裏面に素材剥離面を残す。左右非対称。	
	107		石鏃	黒曜石	2.40	(1.50)	0.45	0.90	10-B (4a層)	左脚部欠失。抉りは浅い。調整は丁寧。	
	108		石鏃	黒曜石	2.50	(1.40)	0.50	1.10	11-D (4a層)	両足端部欠失。ほぼ左右対称で抉りは浅い。	
	109		石鏃	安山岩	(2.65)	(1.60)	0.40	1.20	11-C (4a層)	左脚部欠失するが、ほぼ左右対称。抉りは深い。	
	110		石鏃	黒曜石	(2.35)	(1.60)	0.45	0.90	10-C (4a層)	先端部、左脚部欠失。抉りは深い。	
	48		111	石鏃	チャート	2.70	(1.75)	0.45	1.20	10-C (4a層)	左脚部欠失。左右対称で抉りは深い。
			112	石鏃	黒曜石	2.75	(1.45)	0.50	1.10	9-B (4a層)	トロトロ石器左脚部欠失。先端部は先鋭さに欠ける。調整は丁寧。
113		石鏃	黒曜石	2.30	1.60	0.55	1.50	9-B (4a層)	トロトロ石器裏面に自然面を残す。先端は先鋭さに欠ける。調整はやや粗雑。		
114		石鏃	黒曜石	(2.55)	(1.70)	0.45	1.40	10-B (4a層)	左脚部と右脚の一部欠失。左右対称で抉りは深いと思われる。		
115		石鏃	安山岩	3.25	1.95	0.50	1.70	13-D (4a層)	やや大型の二等辺三角鏃。抉りは狭く深い。		
116		石鏃	黒曜石	(1.85)	0.75	0.30	0.40	10-C (4a層)	片脚部欠失。右側縁は細かな調整剥離が施される。		
117		石鏃	黒曜石	(4.00)	2.25	0.55	2.90	9-B (4a層)	先端部欠失。二等辺三角鏃。ほぼ左右対称でU字状の抉りは深い。		
118		石鏃	黒曜石	(3.45)	(2.10)	0.45	2.30	13-D (4a層)	左脚部と僅かに先端部欠失。二等辺三角鏃。抉りは狭く深い。		
-		119	石鏃	黒曜石	(1.40)	(0.80)	0.30	0.20	12-E (4a層)	左脚部欠失。表裏両面とも細かな調整剥離が施される。	
23		120	尖頭状石器	黒曜石	3.00	2.45	0.75	3.30	9-C (4a層)	横広の剥片素材。表面に自然面、裏面に素材剥離面を残す。	
	121	尖頭状石器	チャート	3.30	2.30	1.00	6.80	13-D (4a層)	先端部欠失？両側縁に調整剥離が施される。		
	122	台形石器	黒曜石	3.65	2.35	0.70	3.80	10-B (4a層)	幅広の縦長剥片素材。打面及び打痕は欠失。表面両側縁に裏面からの刃潰し加工が観察される。裏面上縁に微細な剥離痕が観察される。		
	123	台形石器	チャート	2.55	2.25	0.80	2.90	12-C (4a層)	不整形の剥片を素材とする。打点部を除去するように左右両側から調整剥離が施される。		
	124	楔形石器	チャート	2.40	2.35	0.85	5.00	8-B (4a層)	左右側縁に調整剥離が施される。連続する階段状剥離痕が上下両端と左側縁に観察される。		
49	21	125	二次加工ある剥片	黒曜石	1.25	2.65	0.75	1.30	8-B (4a層)	表面に自然面、裏面に素材剥離面を残す。右側部に表裏からノッチ状の調整が施される。下部を大きく欠失。	
		126	二次加工ある剥片	チャート	(1.75)	(2.10)	0.60	1.90	10-C (4a層)	一部残存。石匙か石鏃。左右非対称。抉りは浅い。	

表 11 石器観察表

挿図 NO	図版 NO	実測 NO	器種	石材	計測値				層位	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
49	21	127	二次加工ある剥片	黒曜石	2.30	1.10	0.30	0.70	11-C (4a層)	縦長の剥片。裏面に素材剥離面を残す。表面の全周縁と裏面の上下縁に二次加工と思われる小剥離痕が観察される。両側縁に使用痕と思われる小剥離痕が観察される。
		128	二次加工ある剥片	黒曜石	2.60	1.00	0.40	0.90	9-B (4a層)	不定形剥片。裏面左側縁に細かな調整剥離が施される。
		129	二次加工ある剥片	黒曜石	(1.45)	(1.25)	(0.40)	0.50	13-D (4a層)	一部の残存であるが、表裏両面共に周縁に細かな調整剥離が施される。
		130	二次加工ある剥片	黒曜石	(1.55)	(1.40)	(0.30)	0.70	12-D (4a層)	一部の残存であるが、縦に長い剥片と思われる。左右両側縁に細かい剥離が施される。
		131	二次加工ある剥片	黒曜石	2.65	2.05	0.40	1.50	10-C (4a層)	縦長の剥片。両側縁に小剥離痕が観察される。
		132	二次加工ある剥片	チャート	3.10	2.10	0.85	5.40	12-D (4a層)	不定形の剥片。ほぼ周縁に調整剥離が施されるが、やや粗雑。
		133	二次加工ある剥片	チャート	3.30	2.35	0.90	6.30	14-E (4a層)	両側縁に調整剥離が施される。裏面に素材剥離面を残す。
		134	二次加工ある剥片	黒曜石	2.70	2.85	1.25	8.30	9-B (4a層)	裏面に素材剥離面を残す。表裏面の右側及び表面下縁に二次加工が観察される。
		135	二次加工ある剥片	チャート	3.20	2.80	1.05	7.90	9-B (4a層)	表面に自然面を残す。周縁に調整剥離が施される。
		136	二次加工ある剥片	チャート	2.40	2.55	0.75	5.50	11-D (4a層)	横広の剥片。表面に自然面を残す。左側縁に調整剥離が施される。
50	22	137	使用痕ある剥片	黒曜石	2.45	1.35	0.30	0.70	11-C (4a層)	上面を打面にして剥離された縦長の剥片。表面に自然面を残す。表面左側縁と裏面右側縁に小剥離痕が観察される。
		138	使用痕ある剥片	黒曜石	1.80	2.05	0.55	1.30	12-D (4a層)	不定形剥片。右側縁と先端の一部に小剥離痕が観察される。
		139	使用痕ある剥片	黒曜石	2.55	2.05	0.50	1.50	10-B (4a層)	上部に打点のある不定形の剥片。表面右側縁に小剥離痕が観察される。
		140	使用痕ある剥片	黒曜石	(2.80)	(1.05)	(0.45)	0.50	9-B (4-a層)	左側欠失。上面を打面にして剥離された縦長の不定形剥片。右側縁に小剥離痕が観察される。
		141	使用痕ある剥片	黒曜石	3.55	1.55	0.75	2.30	9-B (4a層)	幅広の縦長剥片。左側縁、上縁及び下縁に小剥離痕が観察される。右側縁に切断面が観察される。
		142	使用痕ある剥片	黒曜石	3.10	1.90	0.70	1.90	10-B (4a層)	不定形剥片。両側縁に小剥離痕が観察される。
		143	使用痕ある剥片	黒曜石	1.80	1.40	0.25	0.40	10-C (4a層)	不定形剥片。左右側縁に小剥離痕が観察される。
		144	剥片	チャート	2.65	1.50	0.60	2.10	12-D (4a層)	縦長の剥片。裏面に素材剥離面を残す。
		145	剥片	黒曜石	3.00	1.50	0.55	1.50	8-B (4a層)	縦長の剥片。素材剥離面上部に打点を残す。表面左側縁部に自然面を残す。
		146	使用痕ある剥片	黒曜石	2.35	2.15	0.45	1.10	9-B (4a層)	横広の剥片。左右側縁及び下縁に小剥離痕が観察される。
51		147	使用痕ある剥片	黒曜石	2.05	3.45	1.10	4.40	9-C (4a層)	横長の剥片。表面の左側、上縁、右側縁、及び下縁に小剥離痕が観察される。
		148	使用痕ある剥片	黒曜石	3.00	2.85	0.50	4.20	12-D (4a層)	幅広の不定形剥片。裏面の右側縁と先端の一部に小剥離痕が観察される。
		149	使用痕ある剥片	黒曜石	3.00	1.70	0.60	1.70	9-C (4a層)	幅広の縦長剥片。左側縁に小剥離痕が観察される。
		150	剥片	黒曜石	2.65	0.65	0.35	0.50	9-B (4a層)	縦長の剥片
		151	剥片	黒曜石	3.60	1.45	0.65	2.60	10-B (4a層)	上面を打面として剥離された縦長の不定形剥片。打面部に細かな調整剥離が施される。
152	剥片	黒曜石	4.20	2.25	0.70	3.10	10-B (4a層)	頻りに打面転移を行い剥離された縦長の不定形剥片。		
153	剥片	黒曜石	3.75	1.75	1.00	5.80	10-B (4a層)	打面転移を行い剥離された不定形剥片。		
154	剥片	黒曜石	3.20	1.60	0.50	1.00	8-B (4a層)	縦長の剥片。打面は欠失。		

表 12 石器観察表

挿図 NO	図版 NO	実測 NO	器種	石材	計測値				層位	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
51	22	155	剥片	黒曜石	4.55	1.65	1.05	5.70	12-D (4a層)	縦長の剥片。打面を残す。表面右側縁上位及び左側縁下位、裏面右側縁上位及び左側縁下位に小剥離痕が観察される。
	23	156	石核	黒曜石	1.80	2.65	1.20	4.00	9-B (4a層)	角礫を母岩とする。打面は一枚の剥離面からなる。目的剥片は不定形な横広の剥片。裏面及び下面に自然面を残す。左側縁に調整剥離が観察される。上面及び裏面上部左位に小剥離痕が観察される。
52		157	磨石	安山岩	(7.2)	(6.25)	(4.5)	294	9-B (4a層)	表裏面に磨痕。左側面に敲打痕。
		158	磨石	安山岩	11.0	10.4	6.2	997	14-E (4a層)	裏面、側面の磨痕が全体にうすく赤色顔料が残っている。
		159	磨石	玄武岩	9.15	9.15	5.2	616	10-C (4a層)	表裏面にはっきりした磨痕。
		160	磨石	安山岩	10.7	9.85	4.5	779	12-D (4a層)	表裏面に磨痕。裏面、側面に被熱箇所。上面に敲打痕。
		161	磨石	安山岩	12.9	9.4	5.75	1236	9-B (4a層)	一部欠損。表裏面、側面に磨痕。敲打痕有。表面に受熱が観られる。
		162	磨石	安山岩	(11.7)	(9.4)	(4.45)	627	12-D (4a層)	表裏面に磨痕。欠損有。
		163	磨石	安山岩	17.55	10.0	5.6	1613	10-B (4a層)	表裏面に磨痕。上面に敲打痕。
		164	磨石	安山岩	(9.2)	(6.7)	(5.1)	449	10-B (4a層)	1/2程欠損している。表裏面に磨痕。
53	25	165	磨石	安山岩	(5.45)	(7.5)	(5.0)	266	9-B (4a層)	表裏面に磨痕。表面、側面に敲打痕。上端部欠損。
		166	磨石	安山岩	(6.3)	(8.4)	(5.15)	368	9-B (4a層)	表裏面の磨り面は稜がはっきりしている。1/2程欠損している。下端、側面に敲打痕。
		167	磨石	安山岩	(9.5)	(6.2)	(4.5)	257	11-C (4a層)	表裏面に磨痕。側面に敲打痕。1/3程残存
		168	磨・敲石	安山岩	(8.45)	(7.5)	(6.8)	586	14-E (4a層)	はがれのような欠損。裏面に磨痕。敲打痕有。受熱が観られる。
		169	磨・敲石	安山岩	7.4	6.5	3.2	203	11-B (4a層)	表裏面に磨痕。上下端部に敲打痕。
		170	磨・敲石	凝灰岩	9.6	8.8	5.45	578	10-B (4a層)	表裏面に磨痕。表裏面、両側面に敲打痕。
		171	磨・敲石	凝灰岩	7.4	6.6	3.9	276	10-C (4a層)	表面、側面に敲打痕。裏面に磨痕。
		172	磨・敲石	安山岩	11.2	9.6	4.65	660	12-D (4a層)	表裏面に磨痕。表面、両側面に敲打痕。
		173	磨・敲石	安山岩	11.5	9.5	3.8	620	11-C (4a層)	表面、下端に磨痕。右側面、下端に敲打痕。
		174	磨・敲石	安山岩	8.2	7.4	5.6	385	14-E (4a層)	表裏面とも凹み有。表面の中央部分に赤色顔料が多く付着し、裏面の磨痕にも赤色顔料が付着している。敲打痕有。
54		175	磨・敲石	安山岩	10.8	8.15	5.95	646	11-D (4a層)	表裏面、側面に磨痕。上下端に敲打痕。
		176	磨・敲石	安山岩	8.8	8.35	4.25	462	11-C (4a層)	表面、側面に敲打痕。表裏面に磨痕。受熱が観られる。
		177	磨・敲石	安山岩	(14.65)	(11.0)	(7.55)	1480	9-B (4a層)	一部に欠損有。表裏面に磨痕。
		178	磨・敲石	安山岩	11.4	8.8	4.45	650	12-D (4a層)	表裏面に磨痕。右側面に敲打痕。表面に受熱が観られる。
		179	磨・敲石	凝灰岩	11.4	11.5	6.35	1007	12-D (4a層)	側面に敲打痕。裏面に磨痕。
		180	磨石	安山岩	12.65	11.75	6.1	1420	10-C (4a層)	表面に磨痕。両側面に敲打痕。
55		181	磨・敲石	安山岩	13.0	10.4	6.35	1098	13-D (4a層)	裏面、側面に敲打痕あり。全体にヒビあり。ほぼ裏面全体に赤色顔料が付着している。表面にも上と下に赤色顔料が多く付着している。

表 13 石器観察表

挿図 NO	図版 NO	実測 NO	器種	石材	計測値				層位	備考	
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
55		182	磨・敲石	安山岩	12.1	6.7	4.2	590	14-E (4a層)	表裏面に磨痕。上下端に敲打痕。一部に受熱が観られる	
		183	磨石	安山岩	(7.3)	8.2	5.7	497	9-B (4a層)	上端部欠損。表裏面、両側面磨痕。	
		184	磨・敲石	安山岩	(11.1)	(12.4)	(6.4)	1296	12-D (4a層)	表裏面、稜側面に磨痕。敲打痕有。受熱が観られる。	
		185	磨・敲石	安山岩	12.8	9.05	5.65	1149	12-D (4a層)	表裏面に磨痕。両側面に敲打痕。	
56	25	186	磨・敲石	安山岩	11.75	14.0	4.5	1194	10-C (4a層)	磨痕。右側面に敲打痕。	
		187	石皿・台石	安山岩	14.05	11.35	4.2	817	5-A (4a層)	表裏面、上端、側面に磨痕。下端、側面に敲打痕。	
		188	石皿	安山岩	(9.6)	(16.4)	(4.0)	(874)	12-D (4a層)	ほぼ欠損しているが、表裏面に磨痕。	
		189	石皿	安山岩	(18.2)	(12.1)	(5.2)	1626	12-D (4a層)	表面に磨痕、剥離が観られる。	
57		190	石皿	安山岩	(14.35)	(14.9)	(7.2)	1869	13-D (4a層)	表面、側面に欠損有。	
		191	石皿	安山岩	(18.9)	(14.5)	(5.8)	1988	9-B (4a層)	表面に磨痕。欠損している。	
		192	石皿	安山岩	(22.4)	(16.6)	(9.2)	5357	12-D (4a層)	ほぼ全体に欠損。	
		193	石皿	安山岩	(20.9)	(20.7)	(8.2)	3738	8-B (4a層)	上端部に欠損。表面に磨痕。	
59		-	194	石鏃	黒曜石	(2.15)	(1.60)	0.35	0.80	13-E	左脚部欠失するが、ほぼ左右対称で抉りは深い。
		-	195	使用痕ある剥片	黒曜石	2.50	0.80	0.20	0.40	12-D	縦長剥片の左側縁に剥離痕が観察される。
		-	196	石鏃	安山岩	(3.85)	(1.85)	0.55	2.20	表土	左脚部欠失。左右対称の二等辺三角鏃。抉りは狭く深い。
		20	197	石鏃	安山岩	(1.55)	(1.40)	0.35	0.50	排土	両脚欠失。先端部欠失。左右対称で抉りは深いと思われる。
		-	198	石鏃	黒曜石	(2.30)	(1.25)	0.55	0.80	表土	両脚欠失。左右対称の縦長の鏃。鏃身は厚みをもつ。
		21	199	二次加工ある剥片	チャート	3.35	2.65	1.15	9.70	9-B・C	やや幅広の不定形剥片。周縁部に細かい剥離が施される。
		22	200	剥片	チャート	2.30	2.90	1.25	7.20	8-B	頻繁に打面転移を行い剥離された不定形剥片。
		23	201	石核	黒曜石	2.45	2.55	1.10	5.10	8-B	剥片を素材とする。打面は一枚の剥離面からなる。目的剥離は不定形な横広の剥片。上面及び裏面に調整剥離が観察される。左側面を打面、裏面を作業面とし剥片を削出した後、打面を転移し、上面と打面、表面を作業面とし使用している。
			202	石核	黒曜石	2.20	3.10	2.00	9.40	8-B	角礫を母岩とする。打面は1枚の剥離面から成る。目的剥片は不定形な横広の剥片。表面に自然面を残す。裏面には調整剥離が観察される。下縁は切断面。
		24	203	磨石	安山岩	(8.7)	(7.0)	(4.0)	323	排土	表裏面、両側面に磨痕。下端部欠損。
			204	磨製石斧	砂岩	(8.00)	(5.30)	(3.85)	196.40	南北 Tr (1層)	基部残存。刃部欠失。全体を敲打整形後、表面両側面丁寧な研磨が施される。リダクション過程で基部先端に刃を作りだそうとしていたか？

第IV章 総括

1 遺構について

発掘調査の結果、7枚の基本土層とその中の2枚の層位に包含されていた土坑と、いくつかの礫群、土器・石器類が確認された。包含層は3a～4a層で、3a層（アカホヤ火山灰2次堆積層）は縄文時代早期の遺物と上層の遺物との混在が認められ、3b～4a層では縄文時代早期の遺物のみが出土している。

検出された遺構は、土坑18基と集石22基と礫群である。土坑には、埋土中にアカホヤ火山灰を含むもの（SK02、SK03）と、含まないものが16基確認された。前者は、遺構が埋まっていく過程の中でアカホヤ火山灰2次堆積層が入り込んでいることから、他の土坑と比べて新しいと考えられる。SK02は、落とし穴である可能性もあるが、削平を受け掘り込み面が不明であり判然としない。

3a層（アカホヤ火山灰2次堆積層）下で、礫群が検出された。しかし、A-7, 8, B-7, 8グリッド付近では、SK05とSK07を結ぶ線より北西側で礫や遺物の密度は薄くなる。現在の地形では、調査区の西側に幅5m程の切り通しの道路があり、その西側は試掘データからも分かるように一段高い地形である。このことから、礫の集中や遺物の出土量が少ない箇所については、後世に削平を受けている可能性が高いと考えられる。これらのことから旧地形は、北から西側にかけて高く、東から南にかけて低くなっていると理解できる。遺跡は、その傾斜の途中にある平坦面に位置していることになる。

SK02、SK03については、落とし穴の可能性を指摘したが、その立地は傾斜地から平坦面への変化点に位置している。

礫群の中には、石皿や磨・敲石なども認められる。礫群の機能については不明であるが、石皿（1, 13, 24）、磨・敲石（6, 8, 11, 92）には受熱が認められるため、集石などに二次的に利用されたものと考えられる。

4a、4b層では、集石や石組炉は検出されなかった。検出された土坑のうちSK05～07, 09～13, 16～18は炉穴である。これらの炉穴は、SK05、07とSK06、09～13の大きく2箇所のまとまりに区分できる。この2箇所が同時期に機能していたかどうかについては判然としない。

2 縄文時代早期の土器について

九州東部及び西北部における早期の土器変遷の概略は、無文土器→押型文土器であり、大半の時期を押型文土器が占める。草創期とは尖底土器の登場で区別される。九州東部では、川原田式→稲荷山式→早水台式→下菅生B式→田村式→ヤトコロ式→手向山式に細分編年される。また、南九州では貝殻文系の円筒形で平底の土器が展開する。大まかには、前平式→吉田式→石坂式…平椀式→塞ノ神式と編年され理解されるが、この土器型式のうち、後半の平椀式や塞ノ神式などは施文様式に撚糸文や縄文といった外来の手法が融合しており土器編年は単純ではない。

当該遺跡で出土した押型文土器は、全体形が復元できる資料はない。そのため口縁部や底部の形態と文様構成や施文手法を概観する。

4a層では、口縁部が直口し山形文や格子目文を施文するものが見られる。施文の方向をみると44, 45, 48, 50では、外面はほぼ横方向の山形文を施文し、内面は無文である。46は、外面に斜め方向の山形文を施文し、内面は無文である。47, 51, 53は内外面ともほぼ横方向の山形文を施文し、そのうち51は口唇部に山形文が施文される。49は、外面に斜め方向の格子目文が施文され、内面は無文である。52は、外面に横方向の山形文を施文し、内面は無文である。55～58は、外面にほぼ横方向の格子目文が施文され、内面は無文である。底部の資料はさほど多くないが、60, 61は尖底で横方向の楕円文を施文する。押型文

土器には完形に復元できるものがないため、各部位の断片的な特徴から全体像を類推するほかなく、施文方向のあり方や口縁部内面直下に原体条痕による短沈線が施されないことから、稲荷山式土器併行期に位置付けられると考えられる。

3b層では口縁部が直線的に広がるものや、しゃくれぎみに外反するもの、内傾するものが見られる。口縁部が直線的に広がるものには楕円文・山形文、内傾するものには山形文が認められる。25はしゃくれぎみに外反する口縁部形態で、外面の胴部に横方向の楕円文が施文され、口縁部は無文、内面には横方向の楕円文が施文される。28は、外面に横方向の楕円文が施文され、内面は無文である。30、31は、外面に横方向の山形文が施文され、内面は無文である。34は、外面にほぼ横方向の格子目文が施文され、内面は無文である。内傾する32では、外面は口縁部直下が無文で胴部に横方向の山形文が施文され、内面は口縁部に横方向の山形文を施す。3b層出土の押型文土器には口縁部がしゃくれぎみに外反するものや、内傾する壺形土器が含まれており、施文方向は横方向であるが、早水台式以降に位置付けられ瀬田裏遺跡や中後迫遺跡の事例から下菅生B式土器並行段階と考えるのが妥当であろう。

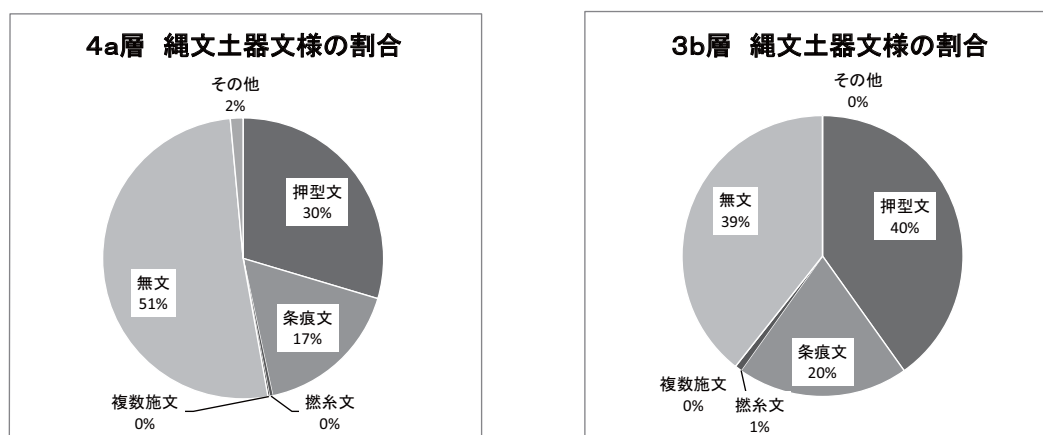
条痕文土器も全体形が復元できる資料がないため、口縁部と底部の形態と文様構成や施文手法を概観する。

4a層では口縁部が直口するもの、外反するものが混在する。直口するもので67、75、77、88は、外面は縦横2方向の条痕が入り内面は無文である。75、88は胴部まで残り底部形は不明であるが円筒形を呈する。条痕は胴部下部には施されない。76、79は、外面に横方向の条痕文が施文され、内面は無文である。76は胴部まで残り、底部形態は不明であるが円筒形を呈する。外反するものには、66、68がある。66は、外面に縦横2方向の条痕文が施され、内面は無文である。68は、外面に横方向の条痕文が施され、内面は条痕文施文後にナデ調整が施される。底部では62は平底で外面に横方向の条痕文が施文される。3b層には口縁部、底部の資料は認められないが、胴部の破片が出土している。これらの円筒形条痕文土器は、南九州の貝殻文系円筒土器群の影響が類推される。

無文土器は4a層では完形の深鉢が出土した(89)。尖底である。口縁部では内傾する82、直口する84の資料が出土している。82は口縁部に瘤状の突起が貼付されている。まとめて述べたように稲荷山式土器併行期に伴うものであろう。底部は85、86、87で、全て平底である。

撚糸文土器は3b層で深鉢の口縁部資料が出土した(35)。外面には、横方向の撚糸文が施文され、内面は無文である。

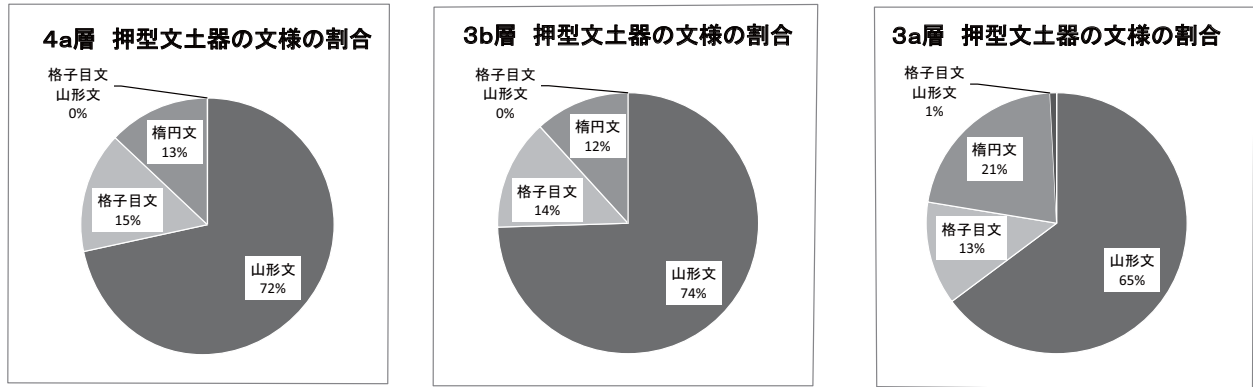
瀬田狐塚遺跡で出土した層位ごとの縄文土器の破片を外面の文様ごとに分類を行った。破片による個数集計であるため傾向を見る程度であるが、4a層と3b層での無文土器の割合を比較すると、4a層では高く、



第 60 図 縄文土器文様の割合

3b層では低くなる傾向が窺える。逆に押型文土器の割合では、4a層よりも3b層が高くなるようである。このことから、瀬田狐塚遺跡でも無文土器が徐々に減少し、押型文土器が増えている傾向が看取されよう。

出土した押型文土器の文様の割合については、4a層と3b層を比較すると両層とも山形文の割合が高く、格子目文、楕円文の順となるが、文様ごとの割合はほぼ変わりが無い。プライマリーな状態ではないが、



第 61 図 押型文土器の文様の割合

3a層では楕円文の割合が増えて、格子目文はほぼ変わらないが山形文は減っている。また、同一個体で上部に格子目文、下部に山形文が施文されているものも出土している。

4a～3b層への様相の変化は、九州東部における稲荷山式以降の変遷過程でみられる特徴と符合しており、3a層にみられる文様の变化傾向はその後の時間的変遷を暗示するものであろう。

表 14 瀬田狐塚遺跡縄文土器文様分類表

文様		土 層			計
		3a	3b	4a	
押型文	山形文	81	38	115	234
	格子目文	16	7	26	49
	楕円文	27	6	21	54
	格子目文山形文	1	0	0	1
	押型文計	125	51	162	338
条痕文	貝殻	28	13	62	103
	その他	16	12	31	59
	条痕文計	44	25	93	162
撚糸文	0	1	2	3	
複数施文	0	0	1	1	
無文	140	50	281	471	
その他	28	0	8	36	
計		337	127	547	1,011

3 石器類について

まとめにも述べているとおり、狩猟道具である石鏃が52と、約500㎡の調査面積に対して多く出土している。磨石、敲石等は、礫群に二次使用されているため、ここで使われたものではなく、外から運ばれたものと仮定すると、瀬田狐塚遺跡で縄文時代早期を過ごしてきた人々の食物獲得活動は、植物食よりも動物食の獲得活動が勝っていたことが推定される。住居などは検出できなかったことから、この地が定住の場ではなく、狩りの場であったり、一時的な休憩、宿泊の場であったりした可能性も考えられる。

また、黒曜石の細かい破片が多く出土したことから、この地での狩猟道具製作も考えられる。しかし、石核等の比較的大きなものが出土しなかったため、その可能性はゼロではないが低いであろう。

このように、瀬田狐塚遺跡は、縄文早期のみの遺跡として、調査区一面に広がる礫群、多くの石器、層位ごとに比較的特徴が出ている土器類、炉穴など、多くの遺構、遺物が出土した。しかしながら、疑問点も多く残った遺跡でもある。今後は、他地域の縄文時代の遺跡との類似点、相違点を旧地形、その当時の気候を考慮に入れてピックアップし、縄文時代早期の人々のくらしを明らかにしていかなければならない。

【引用・参考文献】

- 大川 清・鈴木 公雄・工楽 善通編 1997 「日本土器辞典」 雄山閣
- 今村 結記 1999 「平底円筒形押型文土器に関する一考察」『研究紀要・年報 縄文の森から第5号』
鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 池田 朋生 1999 『石の本遺跡Ⅰ』 熊本県文化財調査報告第177集 熊本県教育委員会
- 稲葉 一文 2010 『瀬田池ノ原遺跡』 熊本県文化財調査報告第252集 熊本県教育委員会
- 岡本 真也 2003 『河陽F遺跡』 熊本県文化財調査報告第209集 熊本県教育委員会
- 緒方 勉 1991 『瀬田裏遺跡調査報告Ⅰ』 熊本県大津町教育委員会瀬田裏遺跡調査団
- 緒方 勉 1993 『瀬田裏遺跡調査報告Ⅱ』 熊本県大津町教育委員会瀬田裏遺跡調査団
- 乙益 重隆 1965 「縄文文化の発展と地域性—九州西北部—」『日本の考古学』Ⅱ 河出書房新社
- 賀川 光夫 1967 「大分県川原田洞穴」『日本の洞穴遺跡』 日本考古学協会洞穴遺跡調査特別委員会
- 賀川 光夫 1970 『稲荷山遺跡緊急発掘調査』 大分県教育委員会
- 賀川 光夫 1970 「縄文式文化の起源と押捺文土器の発達」『史学論叢』5 別府大学史学研究会
- 賀川 光夫 1977 「九州の円筒土器」『考古学論叢』4 別府大学考古学研究室
- 賀川 光夫 1977 「九州の円筒土器とその編年の問題」『考古学論叢』4 別府大学考古学研究会
- 賀川 光夫 1965 「縄文文化の発展と地域性—九州東南部—」『日本の考古学』Ⅱ 河出書房新社
- 片岡 肇 1982 「押型文土器」『縄文文化の研究』3 雄山閣
- 木崎 康弘 1996 『無田原遺跡』 熊本県文化財調査報告第148集 熊本県教育委員会
- 木崎 康弘 1998 「中九州西部押型文土器の編年」『九州の押型文土器』九州縄文研究会
熊本大学考古学研究室 1979 『桑鶴土橋遺跡』 熊本大学考古学研究室活動報告5
- 栗田 勝弘 1982 『平草遺跡』 大分県天瀬町教育委員会
- 後藤 一重 1981 「下菅生B遺跡」『菅生台地と周辺の遺跡Ⅵ』 竹田市教育委員会
- 坂本 嘉弘 1998 「東九州の押型文土器研究の現状と課題」『九州の押型文土器』九州縄文研究会
- 高木 正文 1977 「熊本県の円筒形土器」『考古学論叢』4 別府大学考古学研究室
- 高野 晋司 1983 『弘法原遺跡』 長崎県吾妻町教育委員会
- 高橋 徹・後藤一重 1986 『下菅生B遺跡・上菅生B遺跡 菅生台地の遺跡XⅠ』 大分県竹田市教育委員会
- 橘 昌信 1969 「九州の押型文土器について—分類と編年—」『史学論叢』4 別府大学史学研究会
- 橘 昌信 1980 『大分県二日市洞穴』 別府大学付属博物館
- 橘 昌信 1982 「無文土器」『縄文文化の研究』3 雄山閣
- 鶴島 俊彦 1988 『村山閘谷遺跡』 熊本県人吉市教育委員会
- 松永 幸男 1984 「押型文土器にみられる様相の変化について」『古文化談叢』13 九州古文化研究会
- 松村道博・勢田広行・瀬丸敬二 1978 『中後迫遺跡』 中後迫遺跡調査団
- 水ノ江和同 1998 「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器』九州縄文研究会
- 村崎 孝宏 1997 『打碎遺跡・古池さん遺跡・古池さん北遺跡』 熊本県文化財調査報告第162集 熊本県教育委員会
- 村崎 孝宏 1999 『耳切遺跡』 熊本県文化財調査報告第180集 熊本県教育委員会
- 山崎 純男 1982 「押型文土器の施文法と原体—福岡市柏原遺跡F区出土土器の観察を中心として—」『森貞次郎博士古稀記念 古文化論集』

写 真 图 版



南区 礫群出土状況 北西より



南区 礫群出土状況 西より



北区 3a 層遺物出土状況 北より



北区 3a 層遺物出土状況 南より



南区 礫群出土状況 北西より



南区 A-8・B-8グリッド遺物出土状況 東より



南区 B, C-10, 11グリッド礫群出土状況 北東より



北区 3a層遺物出土状況 南より



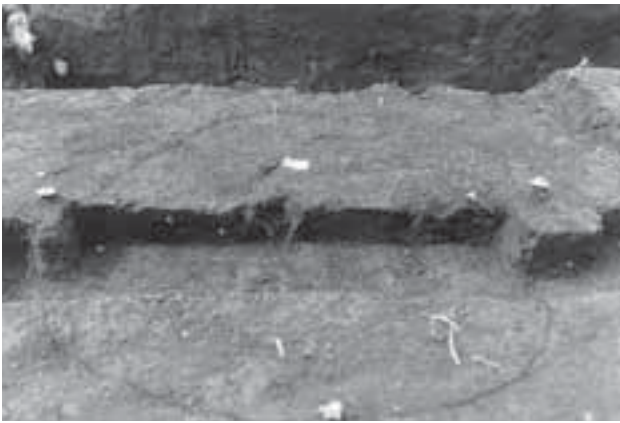
南区 遺物出土状況 北より



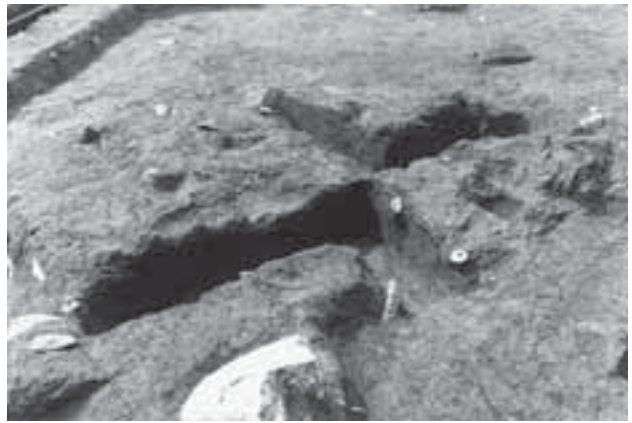
北区 3a層遺物出土状況 北より



SY01 土層断面 北より



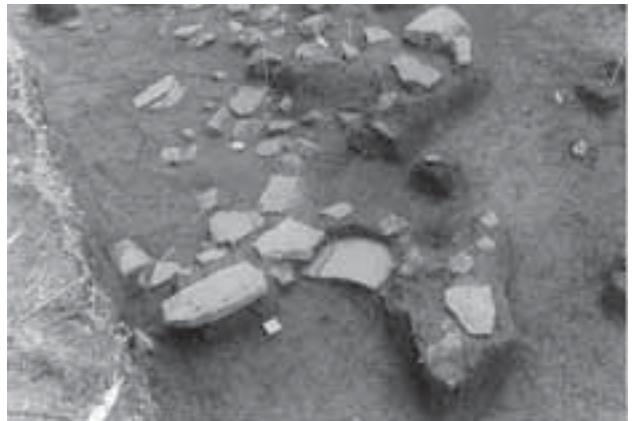
SY02 土層断面 東より



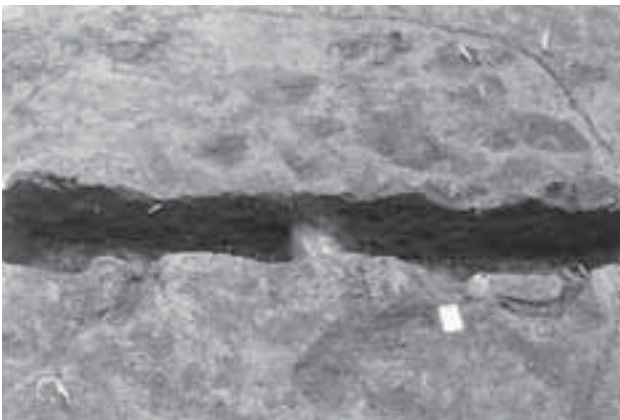
SY03 土層断面 北東より



SY05 土層断面 南より



SY06・07・11 検出状況 北東より



SY08 土層断面 東より



SY09・10 検出状況 東より



SY12 板石外した状況



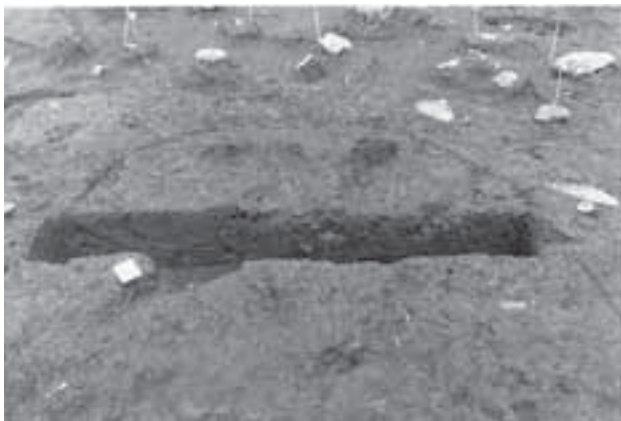
SY12 板石出土状況 南東より



SY12 土層断面 北より



SY13 土層断面 北西より



SY14 土層断面 南西より



SY15 土層断面 北東より



SY16 出土状況 東より



SY17 炭化物出土状況 東より



SY17 検出状況 北より



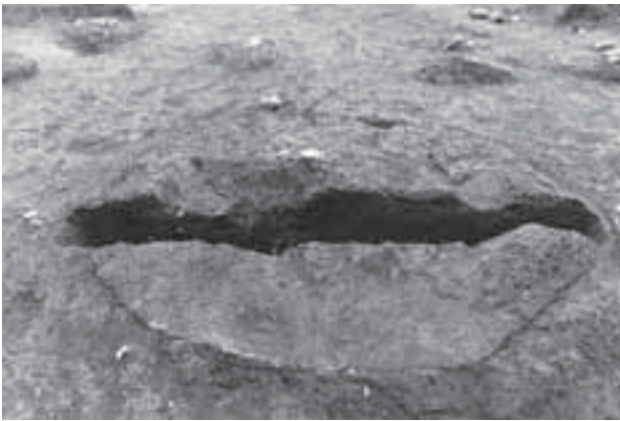
SY17・18 土層断面 北東より



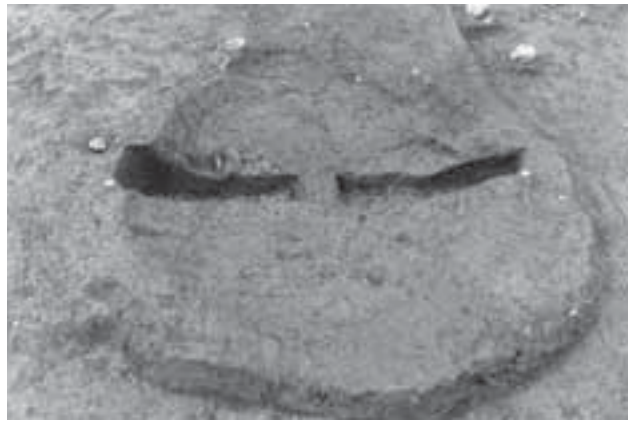
SY18 検出状況 北東より



SY19 検出状況 西より



SY20 土層断面 東より



SY20 完掘状況 西より



SY21 土層断面 北より



SY21 出土状況 東より



SY22 土層断面 北より



SK01 完掘状況 東より



SK01 半裁状況 北より



SK02 杭跡検出状況 北東より



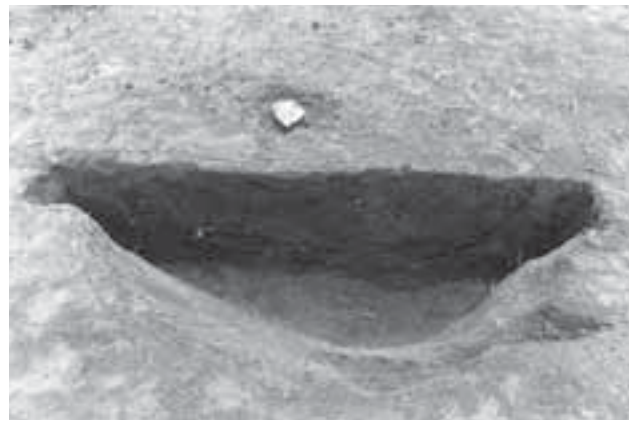
SK02 完掘状況 東より



SK03 土層断面 北西より



SK03 杭跡検出状況 北東より



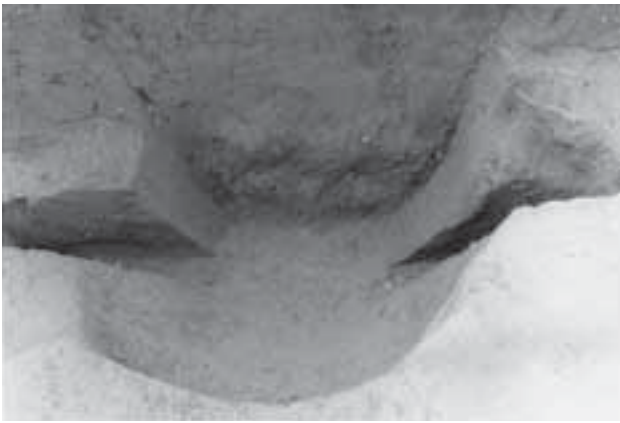
SK04 土層断面 北西より



SK05 土層断面 東より



SK05 土層断面 北より



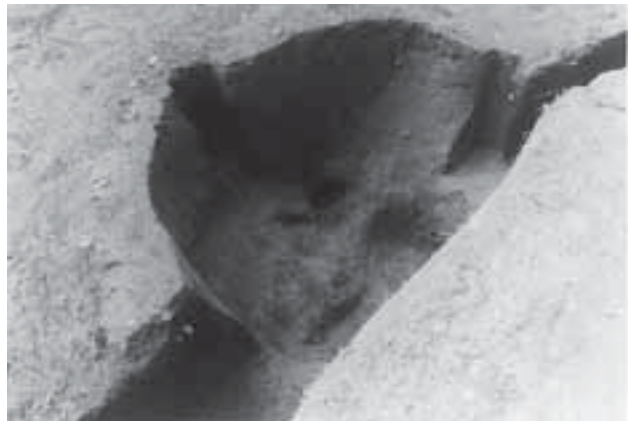
SK05 焼土範囲 東より



SK05 燃焼部 東より



SK05 炭化物出土状況 西より



SK05 完掘状況 東より



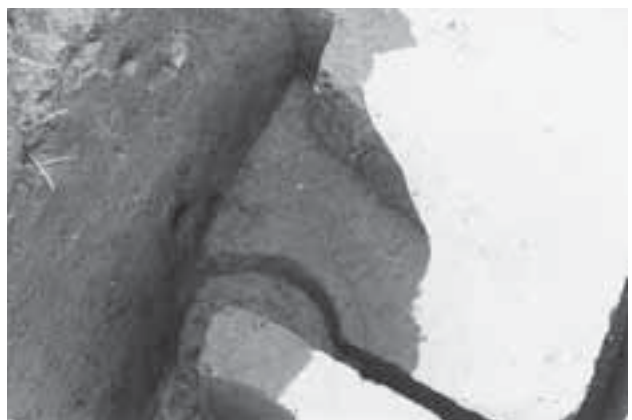
SK06 燃焼部出土状況 東より



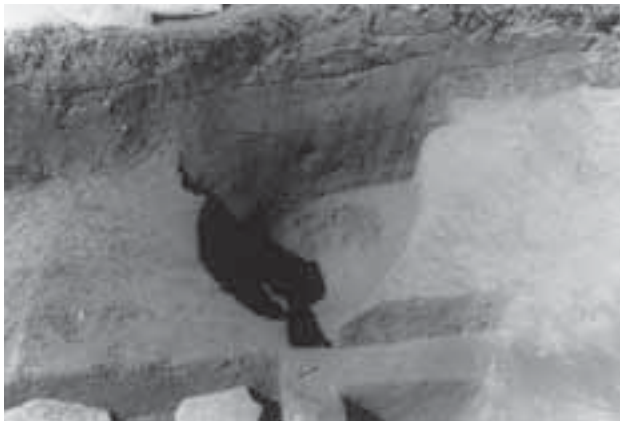
SK06 完掘状況 東より



SK07 石器出土状況 北より



SK07 焼土出土状況 南より



SK07 完掘状況 東より



SK07・08 土層断面 北より



SK08 土層断面 南東より



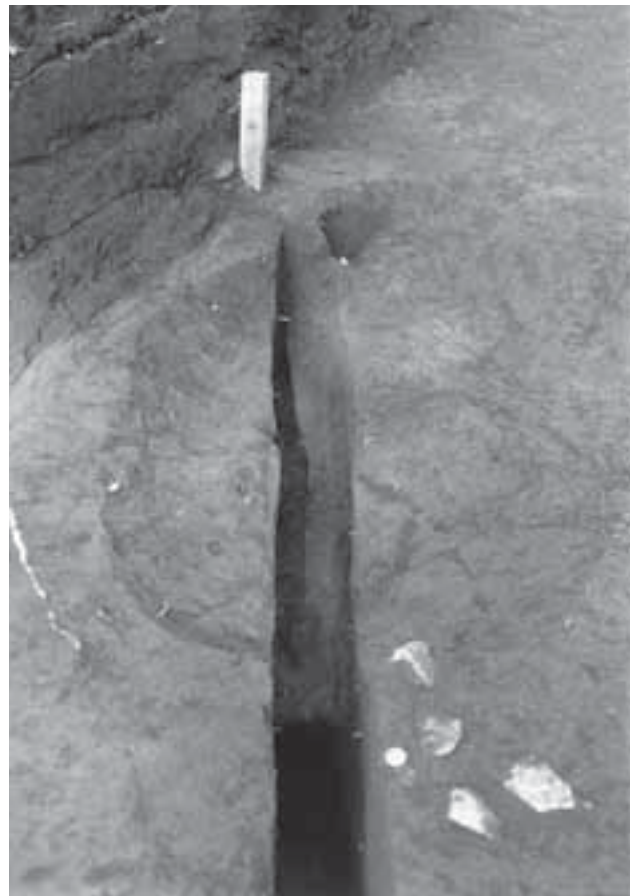
SK08 板石出土状況 北より



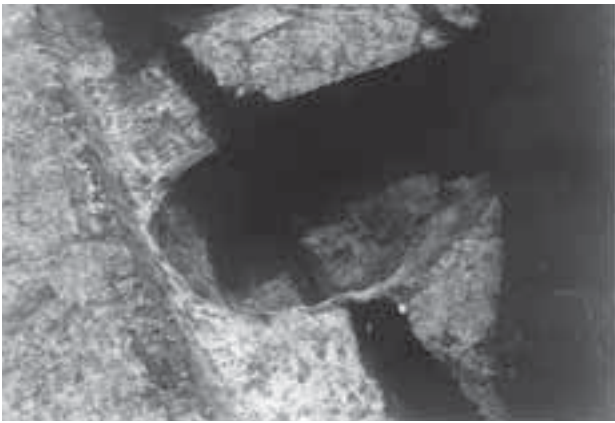
SK08 完掘状況 北より



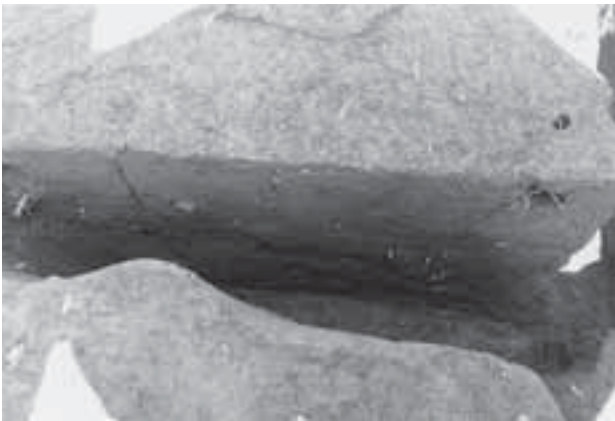
SK09 土層断面 南より



SK09 焼土範囲 南東より



SK10 燃烧部出土状況 北西より



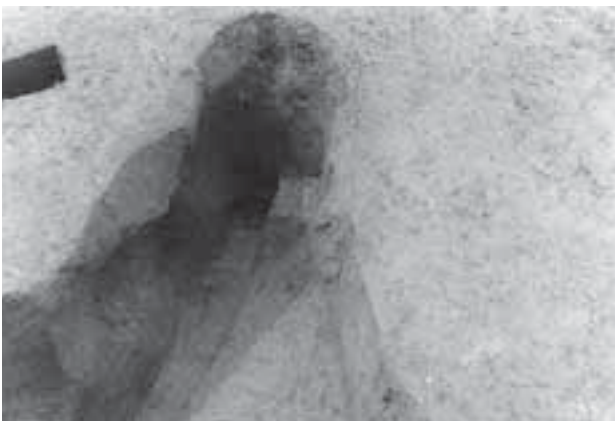
SK11 土層断面 南より



SK10 土層断面 北より



SK11 焼土貫入状況 北より



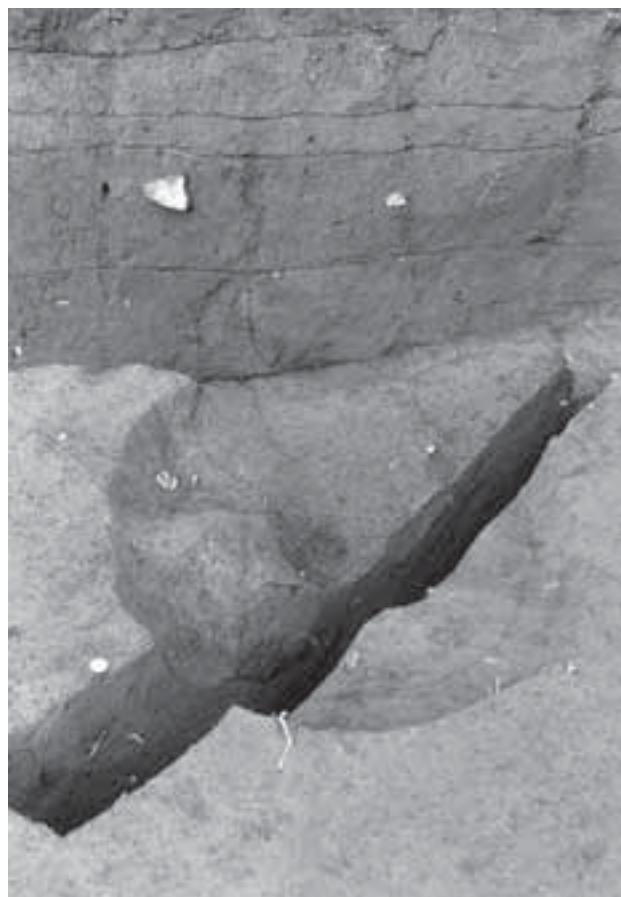
SK11 完掘状況 北東より



SK11 焼土出土状況 西より



SK12 土層断面 南西より



SK12 焼土出土状況 西より



SK12 完掘状況 西より



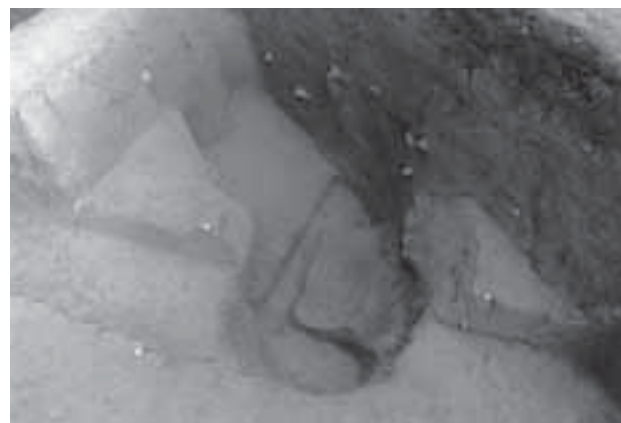
SK13 土層断面 東より



SK13 完掘状況 南より



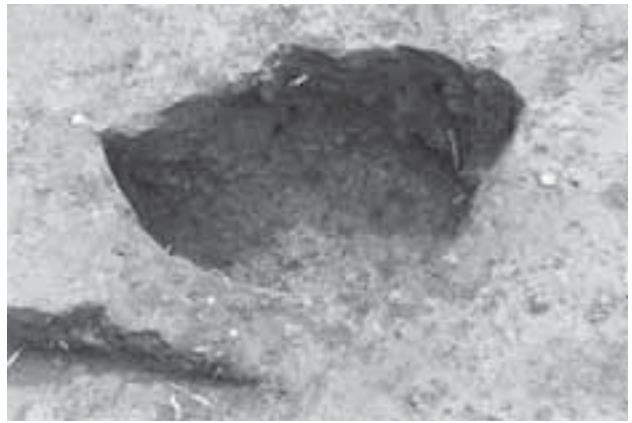
SK13・16 土層断面 北より



SK10・13・16 完掘状況 北より



SK14 土層断面 北より



SK14 完掘状況 北より



SK15 土層断面 西より



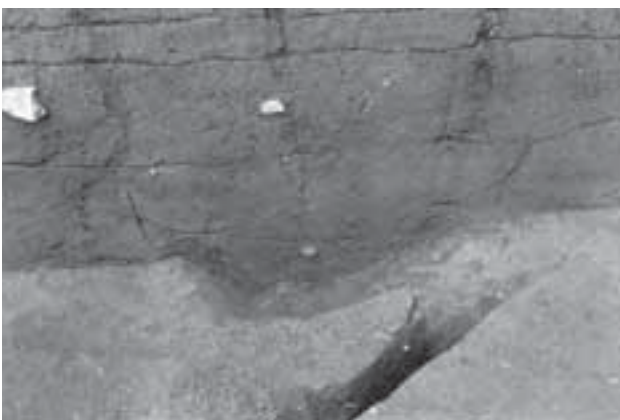
SK15 完掘状況 東より



SK17 完掘状況 西より



SK18 焼土範囲 西より



SK18 完掘状況 西より



SK22 出土状況 南西より



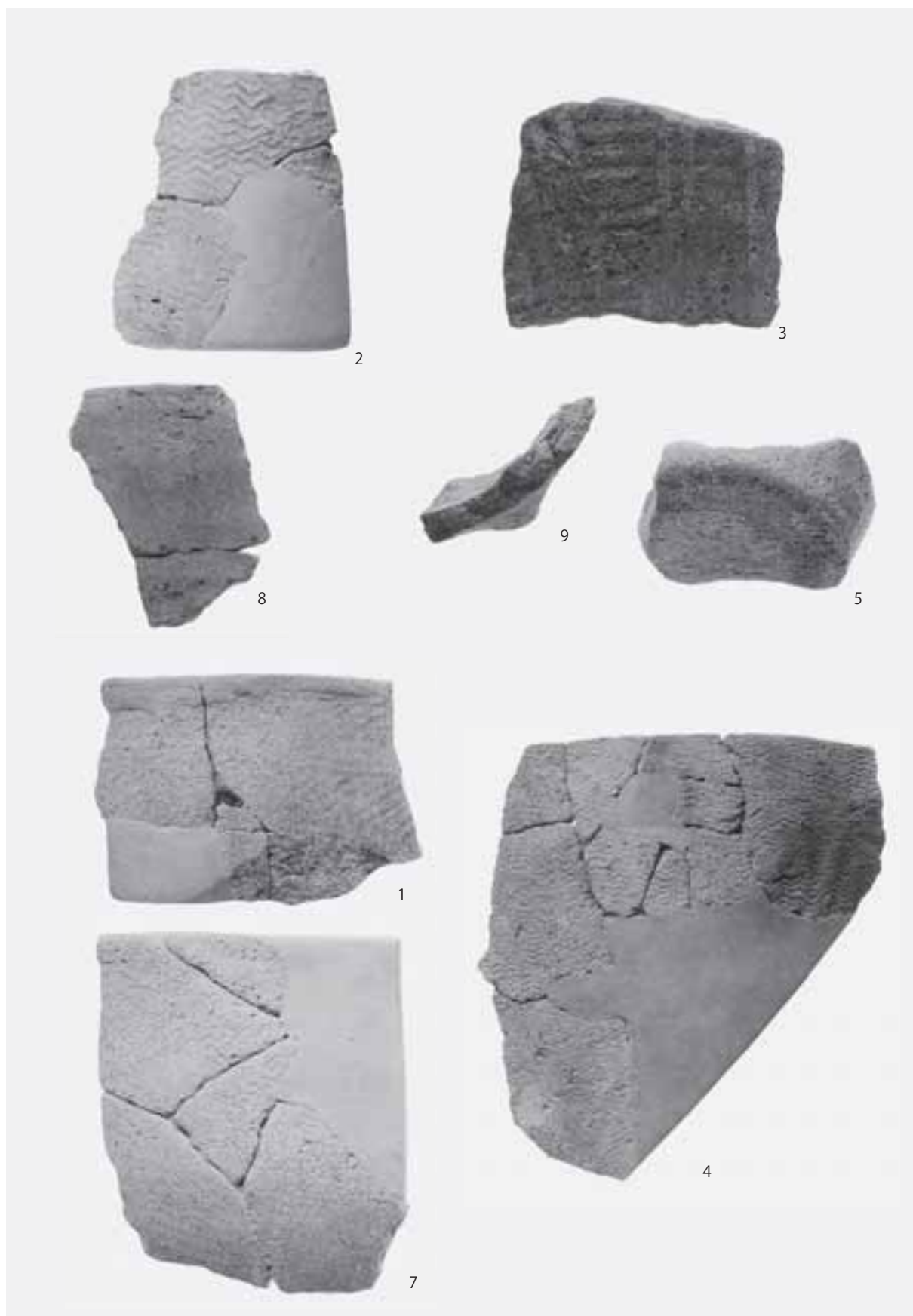
縄文時代早期土器 (SK05)



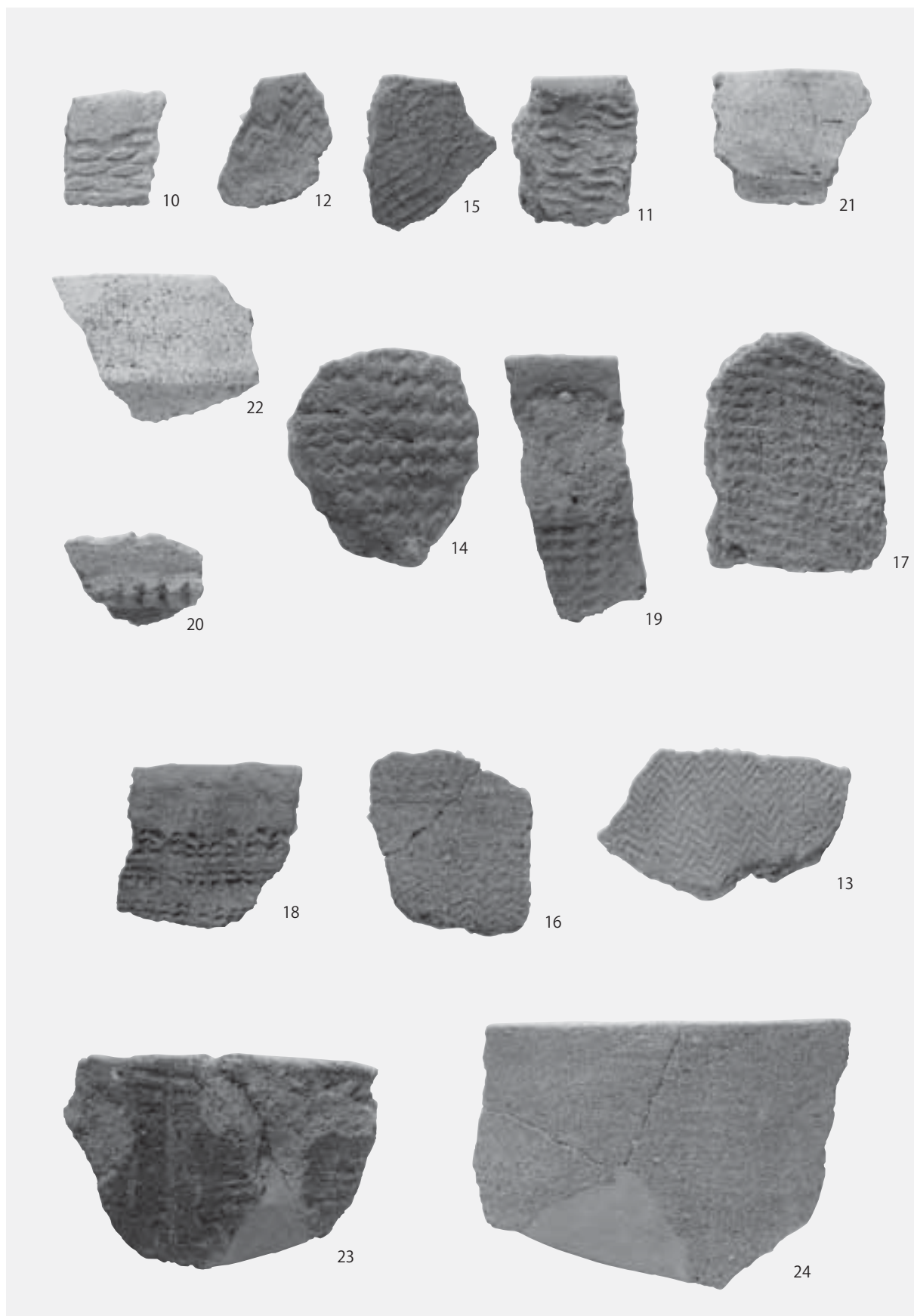
縄文時代早期土器 (4a 層)



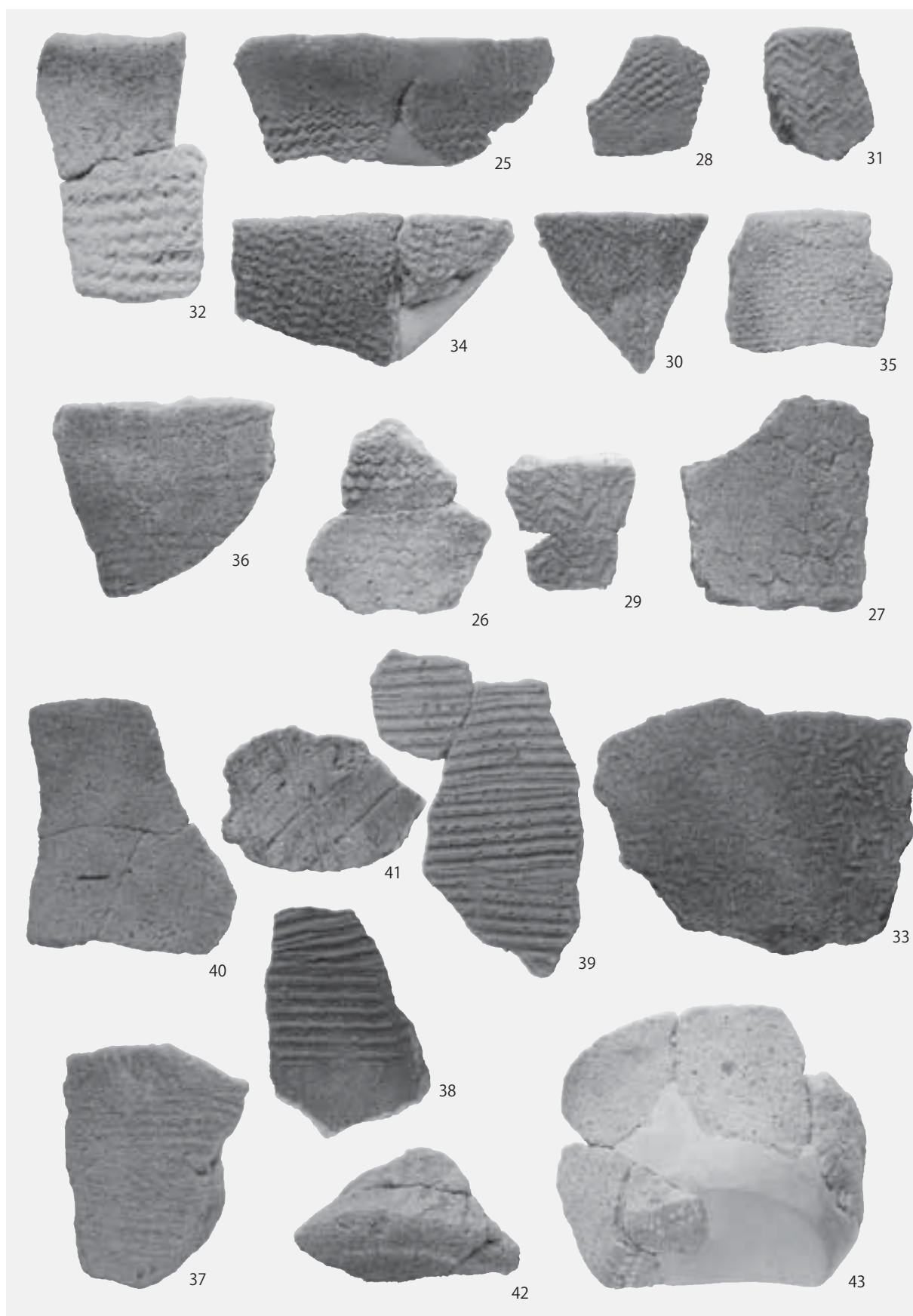
縄文時代の早期土器 (4a 層)



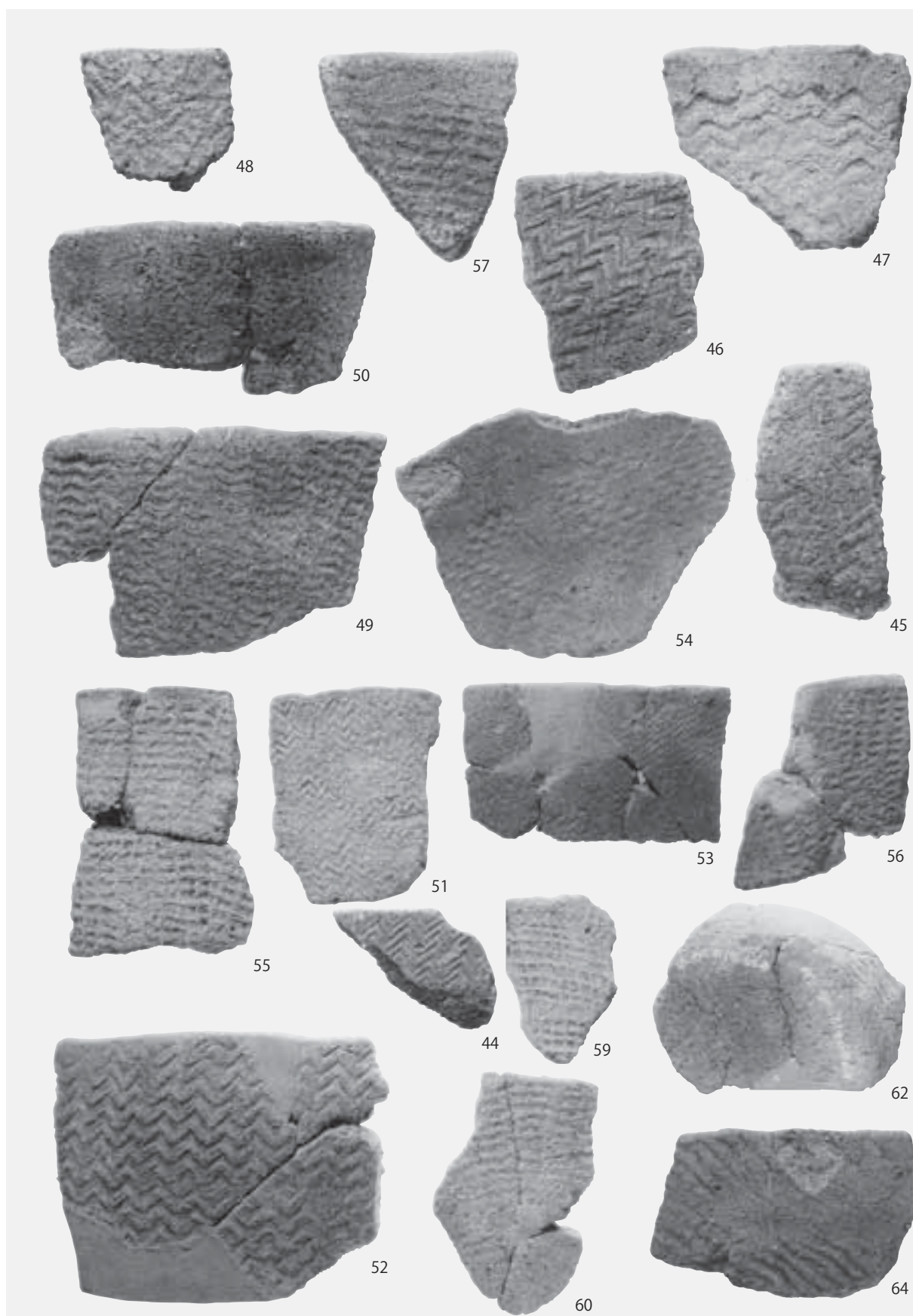
縄文時代早期土器 SK01(No.1, 2) SK02(No.3,4) SK03(No.7) SK05(No.5) SP02(No.8,9)



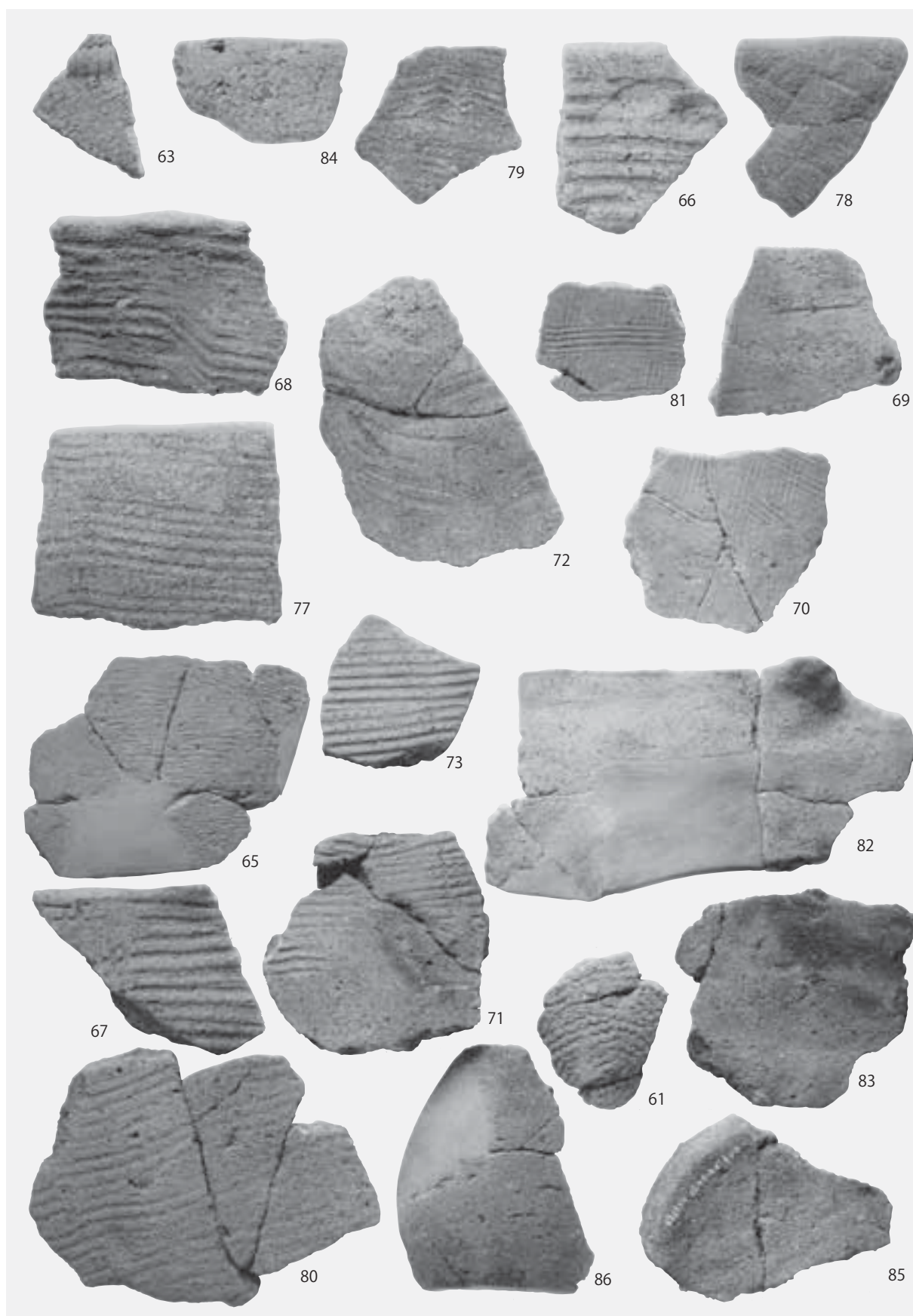
縄文時代早期土器 (3a層)



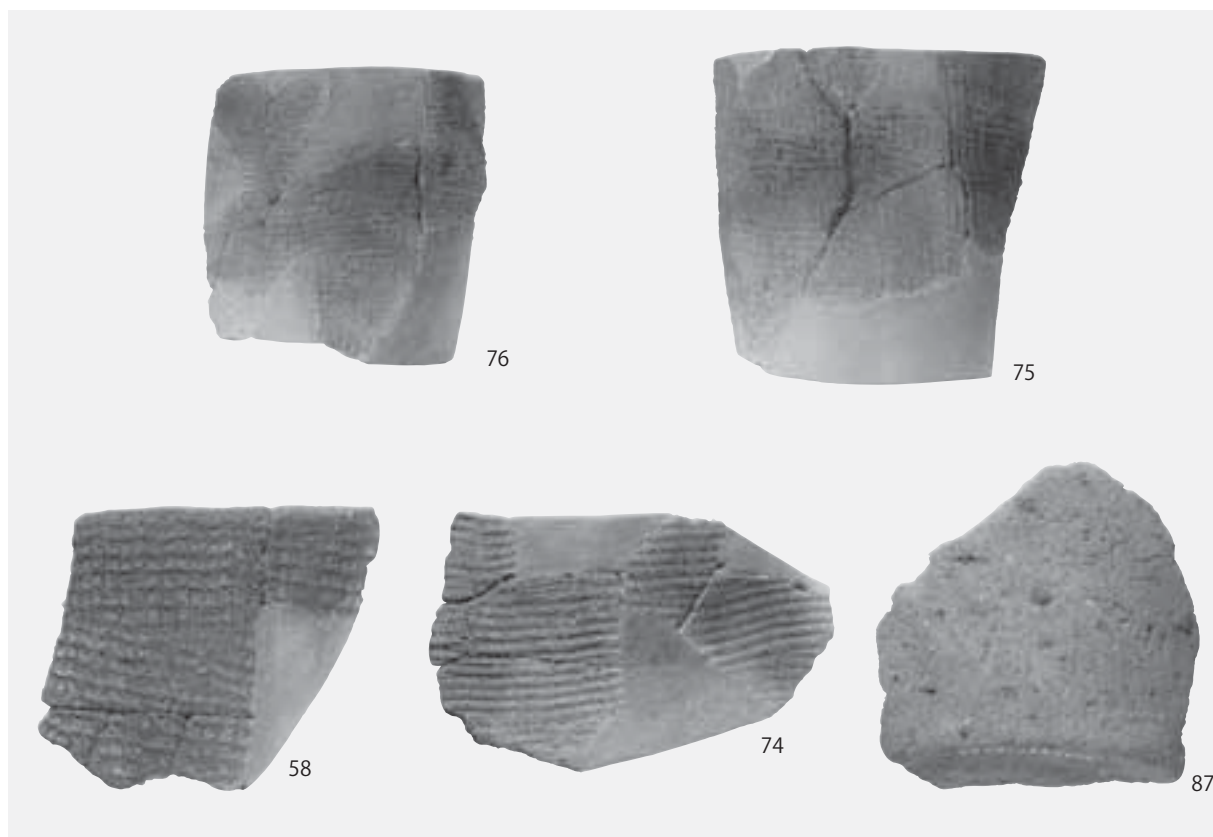
縄文時代早期土器 (3b層)



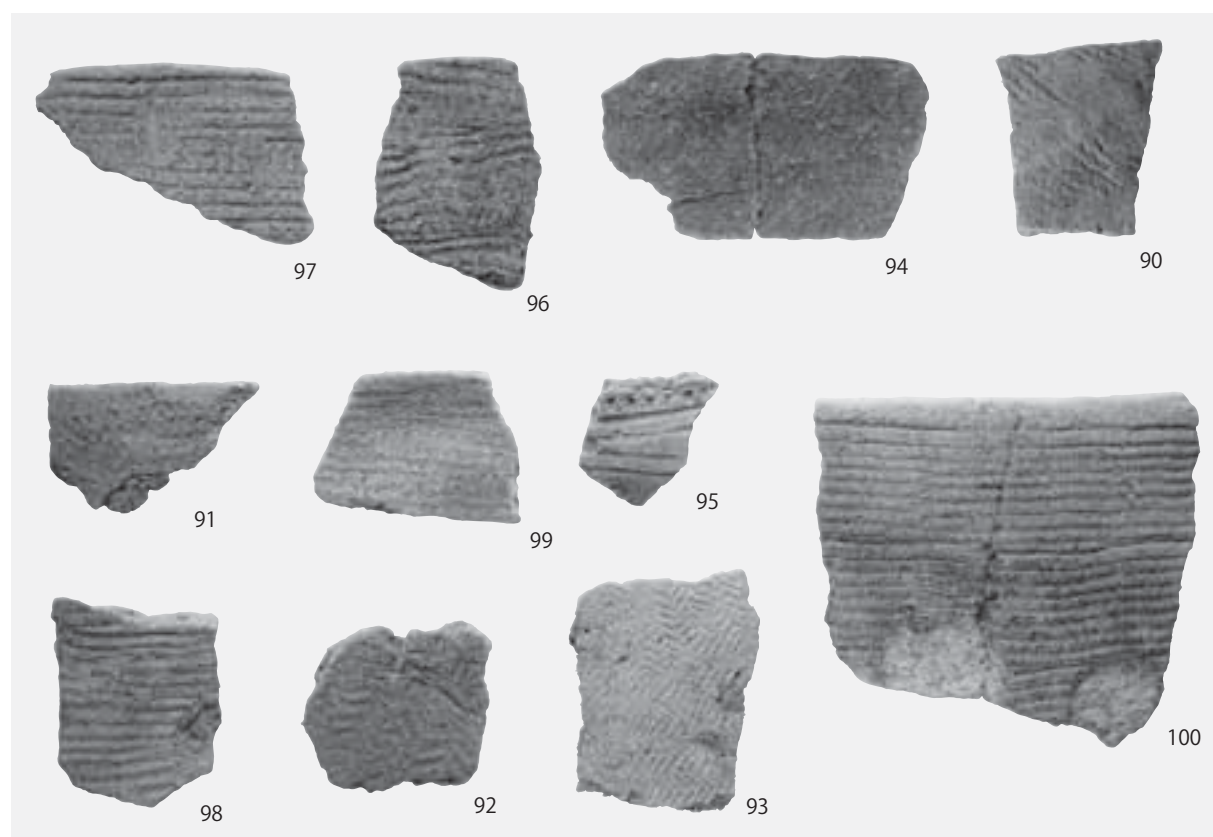
縄文時代早期土器 (4a 層)



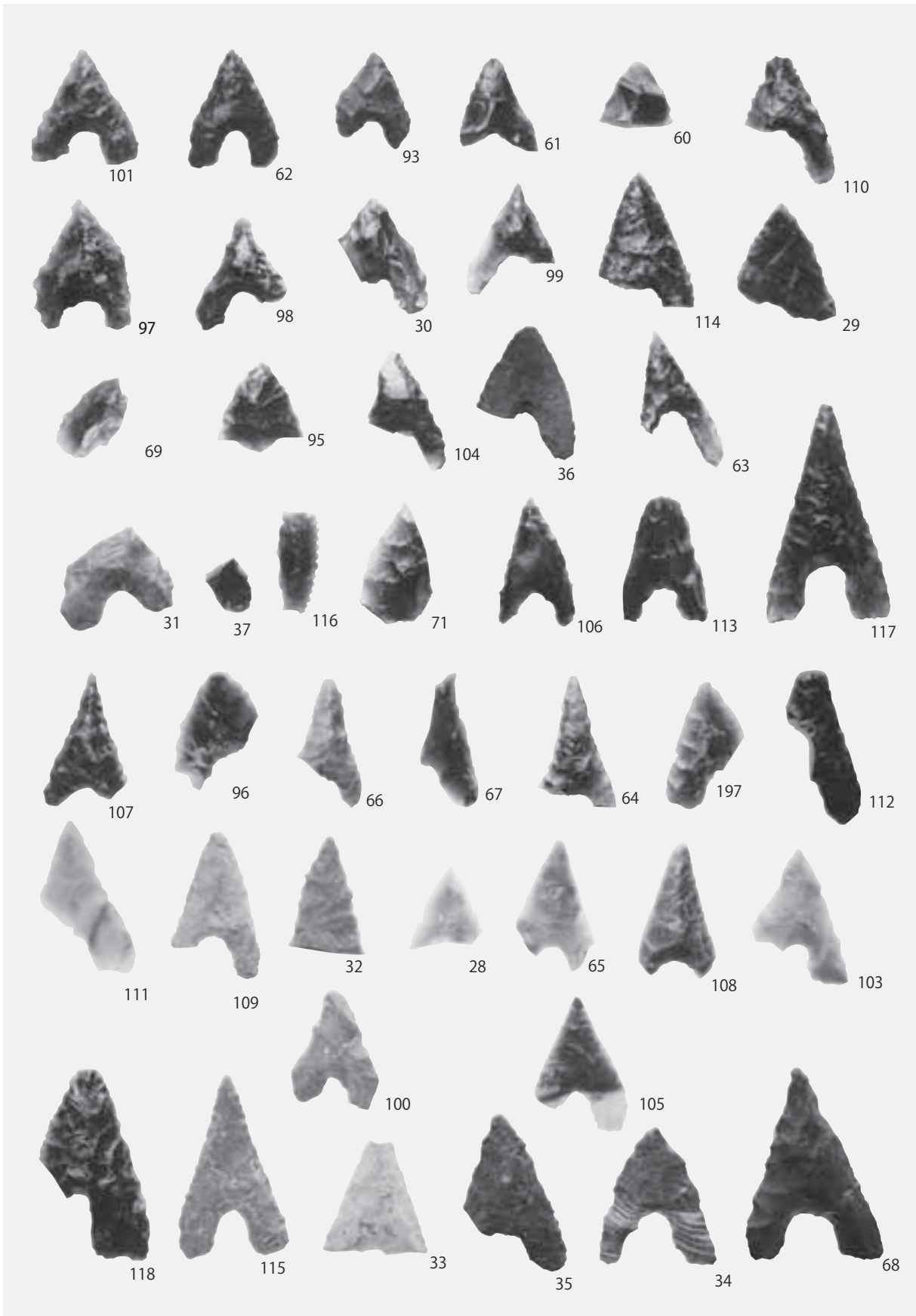
縄文時代早期土器 (4a 層)



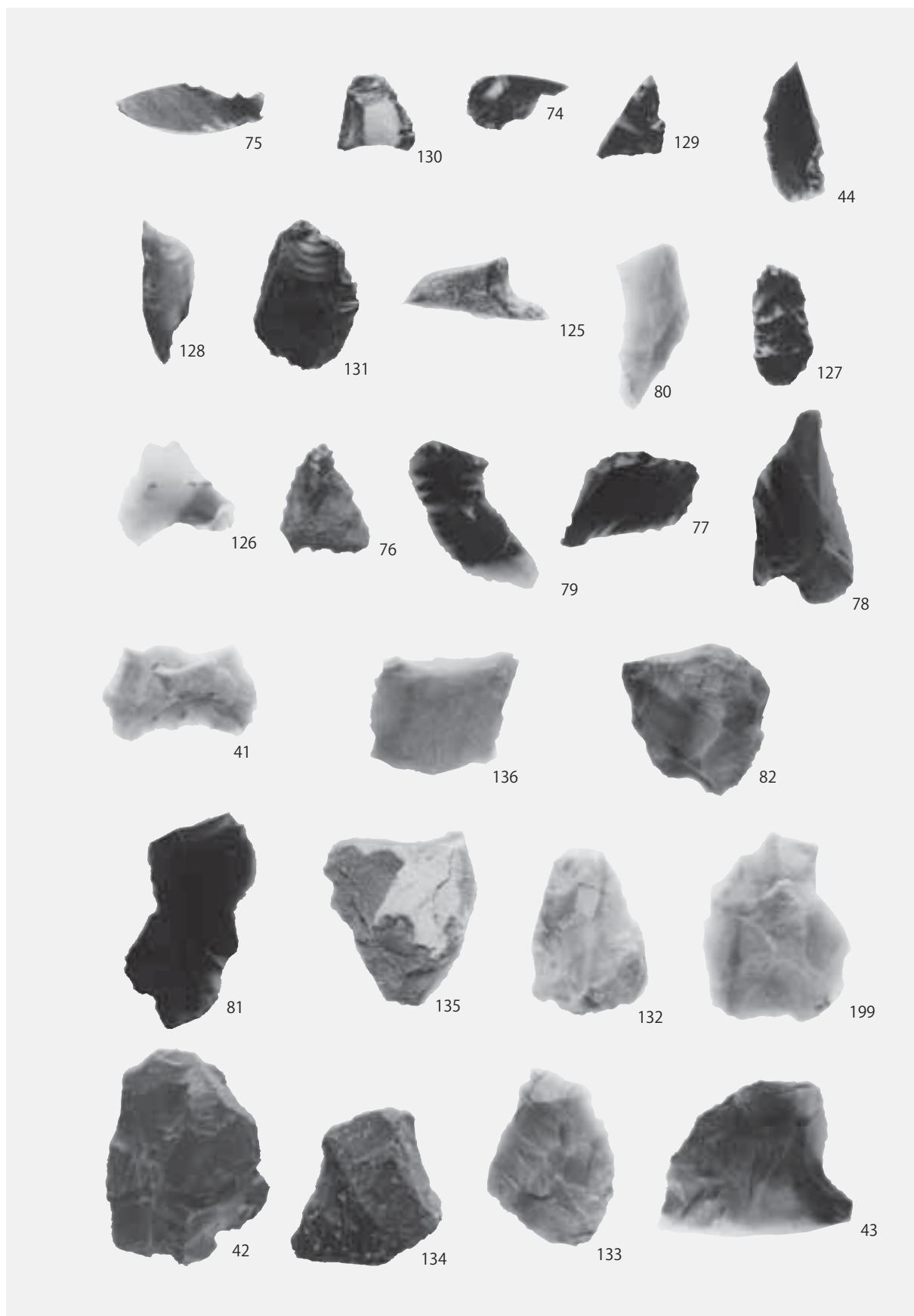
縄文時代早期土器 (4a 層)



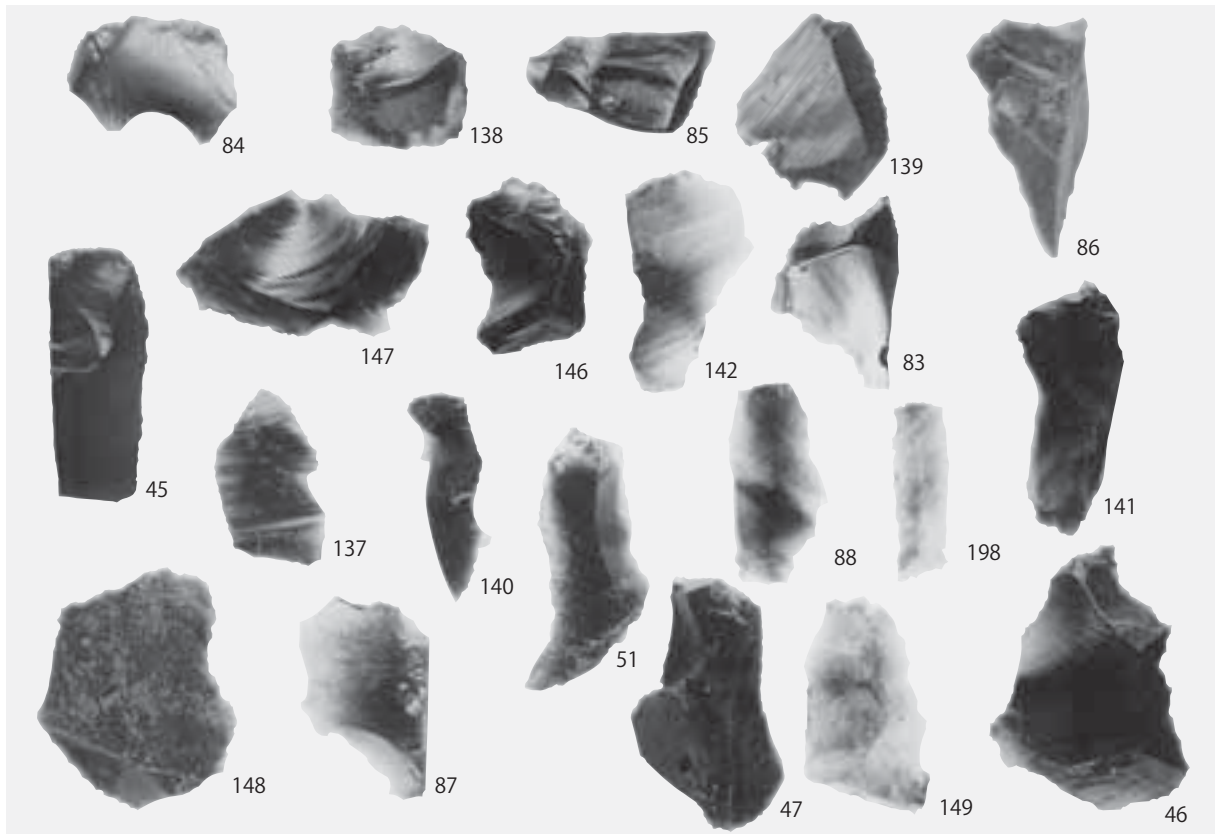
調査区内出土遺物



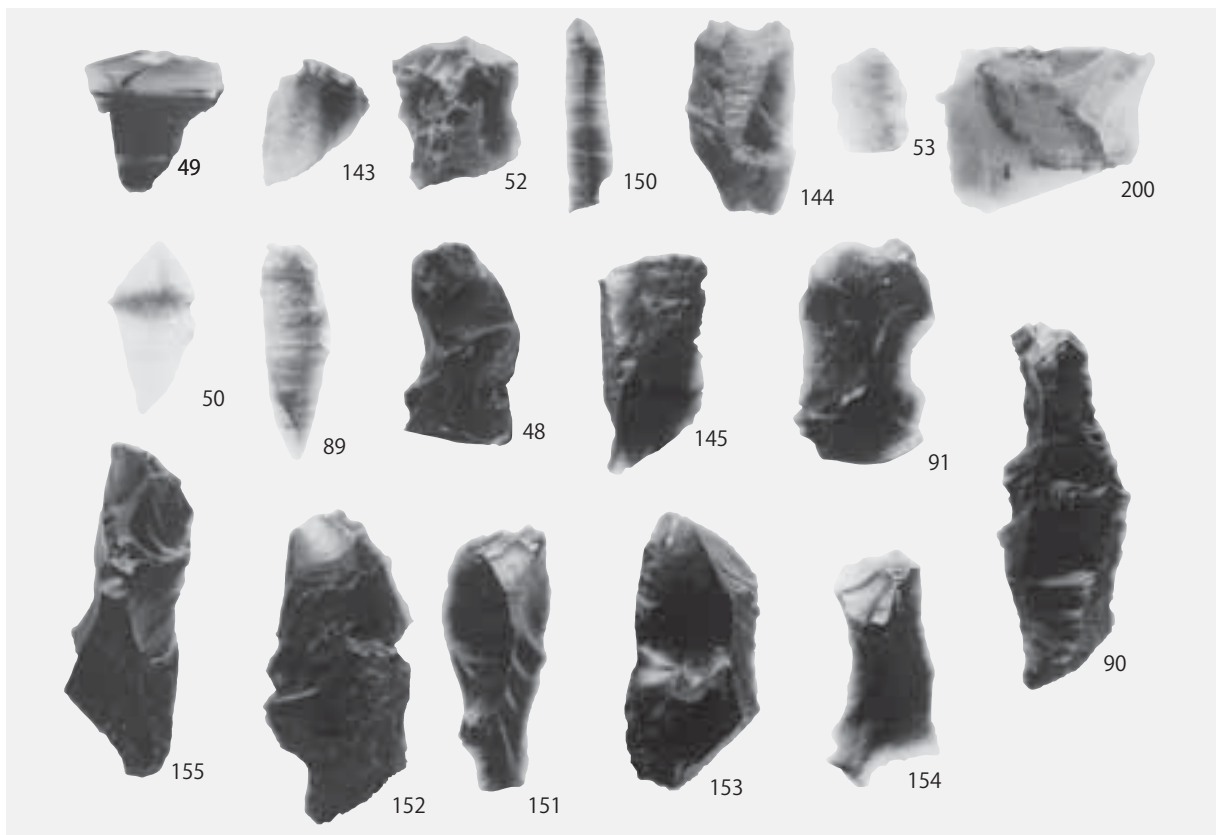
石 鏃



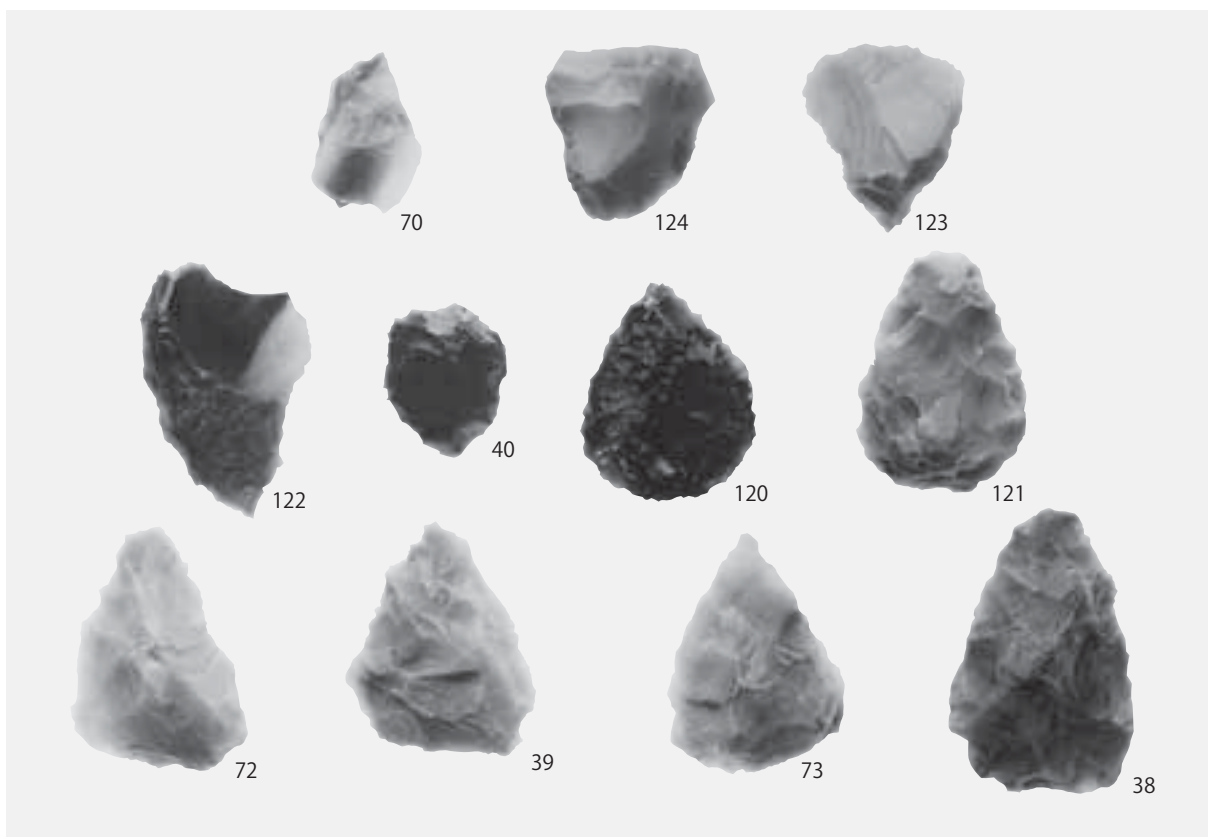
二次加工ある剥片



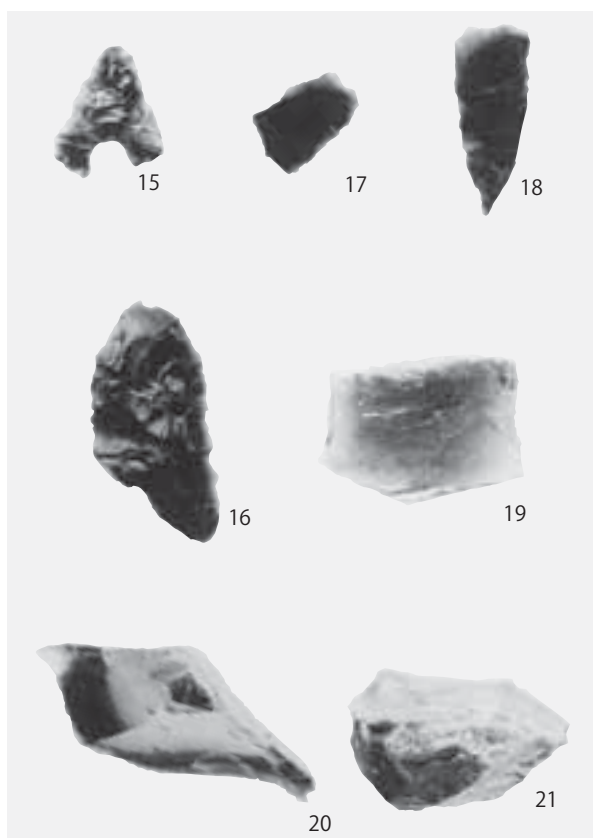
使用痕ある剥片



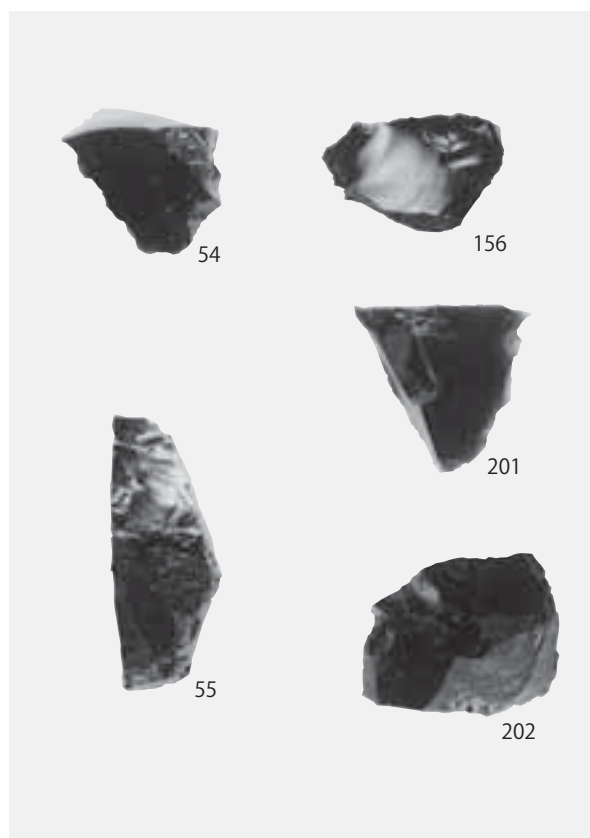
剥片



楔形石器 · 台形石器 · 搔器 · 尖頭状石器



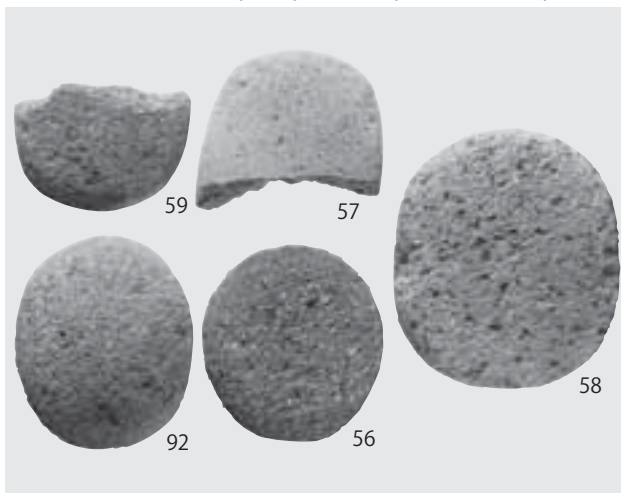
SK02 (No.15) SK05 (No.16,20) SK06 (No.19)
SK08 (No.21) SK10 (No.18) SK12 (No.17)



石核



SK01 (No.22) SK05 (No.23,24,25) SK08 (No.27) SK10 (No.26)
 SY04 (No.1) SY16 (No.2,3,4,5,6,7) SY20 (No.8,9) SY21 (No.10,11,12,13,14)



3a層 (No.56,57,58,59) 3b層 (No.92)



調査区内出土石器



石器 (4a層)

報告書抄録

ふりがな	せたきつねづかいせき							
書名	瀬田狐塚遺跡							
副書名	立野ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	熊本県文化財調査報告							
シリーズ番号	第 296 集							
編著者	村崎孝宏							
編集機関	熊本県教育委員会							
所在地	〒 862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18-1							
発行年月日	2014 年 3 月 31 日							
フリガナ	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名		市町村	遺跡番号					
セタキツネヅカイセキ 瀬田狐塚遺跡	熊本県菊池郡 大津町瀬田	434035	097	32 度 52 分 25 秒	130 度 55 分 37 秒	2010.11.29 ～ 2011. 3 .28	2100㎡	立野ダム 建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
瀬田狐塚遺跡	集落	縄文時代	集石遺構 配石土坑 焼成土坑 礫群	土器類 ・押型文土器 ・円筒形条痕文土器 ・無文土器 石器類 ・石鏃、石匙 ・スクレイパー ・磨石、敲石、石皿 ・二次加工ある石器 ・使用痕ある剥片	

熊本県文化財調査報告第 296 集

瀬田狐塚遺跡

発行年月日 平成 26 年 3 月 31 日

編集
発行

熊本県教育委員会

862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

印刷
製本

株式会社 啓文社

861-3102 熊本県上益城郡嘉島町下六嘉 1765

発行者 : 熊本県教育委員会
所 属 : 教育総務局文化課
発行年度 : 平成 25 年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 296 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 瀬田狐塚遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL： <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL： <http://www.kumamoto-bunho.jp/>